

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
	1年				
	家族を問う 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
	1年				
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	3
	1年				
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	4
	1年				
	教養としての平和学 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	5
	2年				
	家族の再生 閉講	2学期	2	2	
	2年				
	文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	6
	2年				
	言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	7
2年					
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	8	
2年					
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	9	
2年					
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	10	
1年					
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	11	
2年					
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	12
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 坂本 毅啓	2学期	1	2	13
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	14
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	15
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	16
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	19
		1年			
	自己管理論 山本 浩二	2学期	1	2	20
		1年			
	キャリア・デザイン 眞鍋 和博	1学期	1	2	21
		1年			
	キャリア・デザイン 永田 公彦	1学期	1	2	22
		1年			
キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	23	
	1年				
キャリア・デザイン 石川 敬之	1学期	1	2	24	
	1年				
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	25	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	26	
	2年				
大学論・学問論 閉講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	法律の読み方	2学期	1	2	27
	小野 憲昭	1年			
	社会調査	2学期	1	2	28
	稲月 正	1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール)	1学期	1	1	29
	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー)	1学期	1	1	30
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス)	1学期	1	1	31
	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	32
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	33
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	34
	山本 浩二	1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)	1学期	1	1	35
	加倉井 美智子	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	36
	磯貝 浩久	1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	37	
黒田 次郎	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)	2学期	1	1	38	
黒田 次郎	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール)	2学期	1	1	39	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	40	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	41	
磯貝 浩久	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 鯨 吉夫	2学期	1	1	42
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (サッカー) 鯨 吉夫	2学期	1	1	43
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	44
		1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I 神原 ゆうこ	1学期	1	2	45
		1年			
	教養基礎演習I 徳永 政夫	1学期	1	2	46
		1年			
	教養基礎演習I 廣川 祐司	1学期	1	2	47
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	48
		1年			
	教養基礎演習II 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	49
		1年			
	教養基礎演習II 神原 ゆうこ	2学期	1	2	50
		1年			
	教養基礎演習II 徳永 政夫	2学期	1	2	51
		1年			
	教養基礎演習II 廣川 祐司	2学期	1	2	52
		1年			
教養基礎演習II (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	集中	1	2	53	
	1年				
教養演習AI 神原 ゆうこ	1学期	2	2	54	
	2年				
教養演習AI (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	55	
	2年				
教養演習AII 神原 ゆうこ	2学期	2	2	56	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AII (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	集中	2	2	57
		2年			
	教養演習BI 神原 ゆうこ	1学期	3	2	58
		3年			
	教養演習BI (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	59
		3年			
	教養演習BII 神原 ゆうこ	2学期	3	2	60
		3年			
	教養演習BII (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	集中	3	2	61
		3年			
プロジェクト演習I 見館 好隆	1学期	2	2	62	
	2年				
プロジェクト演習II 見館 好隆	2学期	3	2	63	
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし 岩松 文代 他	1学期	1	2	64
		1年			
	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	65
		1年			
	現代人のこころ 税田 慶昭 他	1学期	1	2	66
		1年			
	私たちと宗教 佐藤 真人	2学期	1	2	67
		1年			
	思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	68
		1年			
ものがたりと人間 閉講	1学期	1	2		
	1年				
文化と表象 真鍋 昌賢	2学期	1	2	69	
	1年				
言語とコミュニケーション 漆原 朗子 他	2学期	1	2	70	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	文学を読む	2学期	1	2	
	休講	1年			
	戦争と人間	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	71
	重松 博之	1年			
	民主主義とは何か	1学期	1	2	72
	大澤 津 他	1年			
	人権論	1学期	1	2	73
	柳井 美枝	1年			
	ジェンダー論	1学期	1	2	74
	力武 由美	1年			
	障がい学	2学期	1	2	75
	伊野 憲治 他	1年			
	共生の作法	1学期	1	2	76
	今泉 恵子 他	1年			
	北九州学	2学期	1	2	77
	日高 京子 他	1年			
	企業と社会	1学期	1	2	78
	山岡 敏秀	1年			
つながりの人間学	1学期	1	2	79	
石川 敬之	1年				
現代社会と倫理	1学期	1	2	80	
伊原木 大祐	1年				
現代社会の諸問題	1学期	1	2	81	
西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1年				
現代の国際情勢	1学期	1	2	82	
山本 直 他	1年				
国際社会論	1学期	1	2	83	
稲月 正	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際紛争と国連 二宮 正人	1学期	1	2	84
		1年			
	民族・エスニシティ問題 北 美幸 他	1学期	1	2	85
		1年			
	開発と統治 三宅 博之 他	2学期	1	2	86
		1年			
	グローバル化する経済 田中 淳平 他	1学期	1	2	87
		1年			
	テロリズム論 戸蔭 仁司	2学期	1	2	88
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文 他	2学期	1	2	89
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	90
		1年			
歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	91	
	1年				
そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	92	
	1年				
戦後の日本経済 土井 徹平	2学期	1	2	93	
	1年				
都市と農村の生活文化史 閉講	1学期	1	2		
	1年				
ものと人間の歴史 中野 博文 他	1学期	1	2	94	
	1年				
人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	95	
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	96
		1年			
	データ処理 廣渡 栄寿	1学期	1	2	97
		群			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	データ処理 浅羽 修丈	2学期	1	2	98
		1学期未修得者再履			
	情報表現 中尾 泰士	2学期	2	2	99
		2年			
	情報表現 棚次 奎介	2学期	2	2	100
		2年			
情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	101	
	2年				
プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	102	
	2年				
■外国語教育科目	英語I (群1-A) 下條 かおり	1学期	1	1	103
		群1-A			
	英語I (群1-B) 葛西 宏信	1学期	1	1	104
		群1-B			
	英語I (群1-C) 永末 康介	1学期	1	1	105
		群1-C			
	英語I (群1-D) 吉田 禎子	1学期	1	1	106
		群1-D			
	英語I (群1-E) 安丸 雅子	1学期	1	1	107
		群1-E			
	英語I (群1-F) 野上 良子	1学期	1	1	108
		群1-F			
	英語I (律政群1-G) 酒井 秀子	1学期	1	1	109
		律政群1-G			
英語I (律政群1-I) 木梨 安子	1学期	1	1	110	
	律政群1-I				
英語II (群1-A) ホセ・クルーズ	2学期	1	1	111	
	群1-A				
英語II (群1-B) 永末 康介	2学期	1	1	112	
	群1-B				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語II (群 1-C) 葛西 宏信	2学期	1	1	113
		群 1 - C			
	英語II (群 1-D) 吉田 禎子	2学期	1	1	114
		群 1 - D			
	英語II (群 1-E) 安丸 雅子	2学期	1	1	115
		群 1 - E			
	英語II (群 1-F) 下條 かおり	2学期	1	1	116
		群 1 - F			
	英語II (律政群 1-G) 酒井 秀子	2学期	1	1	117
		律政群 1 - G			
	英語II (律政群 1-I) 木梨 安子	2学期	1	1	118
		律政群 1 - I			
	英語III (群 1-A) アレクサンダー・ボードナー	1学期	1	1	119
		群 1 - A			
	英語III (群 1-B) デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	120
		群 1 - B			
	英語III (群 1-C) ロバート・マーフィ	1学期	1	1	121
	群 1 - C				
英語III (群 1-D) ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	122	
	群 1 - D				
英語III (群 1-E) クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	123	
	群 1 - E				
英語III (群 1-F) ホセ・クルーズ	1学期	1	1	124	
	群 1 - F				
英語III (律政群 1-G) マイケル・バーグ	1学期	1	1	125	
	律政群 1 - G				
英語III (律政群 1-I) 伊藤 晃	1学期	1	1	126	
	律政群 1 - I				
英語IV (群 1-A) アレクサンダー・ボードナー	2学期	1	1	127	
	群 1 - A				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語IV (群 1-B)	2学期	1	1	128
	ジェイムズ・ヒックス	群 1 - B			
	英語IV (群 1-C)	2学期	1	1	129
	ロバート・マーフィ	群 1 - C			
	英語IV (群 1-D)	2学期	1	1	130
	ダンカン・ウォトリイ	群 1 - D			
	英語IV (群 1-E)	2学期	1	1	131
	クリストファー・オサリバン	群 1 - E			
	英語IV (群 1-F)	2学期	1	1	132
	ホセ・クルーズ	群 1 - F			
	英語IV (律政群 1-G)	2学期	1	1	133
	デビット・ニール・マクレラン	律政群 1 - G			
	英語IV (律政群 1-I)	2学期	1	1	134
	伊藤 晃	律政群 1 - I			
	英語V (群 2-A)	1学期	2	1	135
	船方 浩子	群 2 - A			
	英語V (群 2-B)	1学期	2	1	136
	村田 希巳子	群 2 - B			
	英語V (群 2-C)	1学期	2	1	137
	酒井 秀子	群 2 - C			
英語V (群 2-D)	1学期	2	1	138	
吉田 禎子	群 2 - D				
英語V (群 2-E)	1学期	2	1	139	
十時 康	群 2 - E				
英語V (群 2-F)	1学期	2	1	140	
安丸 雅子	群 2 - F				
英語V (律政群 2-G)	1学期	2	1	141	
木梨 安子	律政群 2 - G				
英語V (律政群 2-I)	1学期	2	1	142	
大塚 由美子	律政群 2 - I				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語VI (群 2 - A) ジャマール・ミラー	2学期	2	1	143
		群 2 - A			
	英語VI (群 2 - B) 村田 希巳子	2学期	2	1	144
		群 2 - B			
	英語VI (群 2 - C) 酒井 秀子	2学期	2	1	145
		群 2 - C			
	英語VI (群 2 - D) 吉田 禎子	2学期	2	1	146
		群 2 - D			
	英語VI (群 2 - E) 十時 康	2学期	2	1	147
		群 2 - E			
	英語VI (群 2 - F) 安丸 雅子	2学期	2	1	148
		群 2 - F			
	英語VI (律政群 2 - G) 木梨 安子	2学期	2	1	149
		律政群 2 - G			
	英語VI (律政群 2 - I) 大塚 由美子	2学期	2	1	150
		律政群 2 - I			
	英語VII (群 2 - A) シェーン・ドイル	1学期	2	1	151
	群 2 - A				
英語VII (群 2 - B) ホセ・クルーズ	1学期	2	1	152	
	群 2 - B				
英語VII (群 2 - C) アレクサンダー・ボードナー	1学期	2	1	153	
	群 2 - C				
英語VII (群 2 - D) ジャマール・ミラー	1学期	2	1	154	
	群 2 - D				
英語VII (群 2 - E) ケネス・ギブソン	1学期	2	1	155	
	群 2 - E				
英語VII (群 2 - F) アルバート・オスカー・モウ	1学期	2	1	156	
	群 2 - F				
英語VII (律政群 2 - G) マーニー・セイティ	1学期	2	1	157	
	律政群 2 - G				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語VII (律政群 2 - I) 木梨 安子	1学期	2	1	158
		律政群 2 - I			
	英語VIII (群 2 - A) シェーン・ドイル	2学期	2	1	159
		群 2 - A			
	英語VIII (群 2 - B) ホセ・クルーズ	2学期	2	1	160
		群 2 - B			
	英語VIII (群 2 - C) アレクサンダー・ボードナー	2学期	2	1	161
		群 2 - C			
	英語VIII (群 2 - D) ジャマール・ミラー	2学期	2	1	162
		群 2 - D			
	英語VIII (群 2 - E) ケネス・ギブソン	2学期	2	1	163
		群 2 - E			
	英語VIII (群 2 - F) アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	164
		群 2 - F			
	英語VIII (律政群 2 - G) マーニー・セイティ	2学期	2	1	165
		律政群 2 - G			
	英語VIII (律政群 2 - I) 薬師寺 元子	2学期	2	1	166
		律政群 2 - I			
中国語I 有働 彰子	1学期	1	1	167	
	律政群 1 年				
中国語II 有働 彰子	2学期	1	1	168	
	律政群 1 年				
中国語III 王 占華	1学期	1	1	169	
	律政群 1 年				
中国語IV 王 占華	2学期	1	1	170	
	律政群 1 年				
中国語V 有働 彰子	1学期	2	1	171	
	済営人律政群 2 年				
中国語VI 有働 彰子	2学期	2	1	172	
	済営人律政群 2 年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	中国語VII	1学期	2	1	173
	蘇 君業	済営人律政群 2年			
	中国語VIII	2学期	2	1	174
	蘇 君業	済営人律政群 2年			
	朝鮮語I	1学期	1	1	175
	金 貞淑	済営群 1年			
	朝鮮語II	2学期	1	1	176
	金 貞淑	済営群 1年			
	朝鮮語III	1学期	1	1	177
	金 京姫	済営群 1年			
	朝鮮語IV	2学期	1	1	178
	金 京姫	済営群 1年			
	朝鮮語V	1学期	2	1	179
	金 光子	済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VI	2学期	2	1	180
	金 光子	済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VII	1学期	2	1	181
	金 京姫	済営比人律政群 2年			
朝鮮語VIII	2学期	2	1	182	
金 京姫	済営比人律政群 2年				
■専門基幹科目	地域学入門	1学期	1	2	
	夜のみ開講科目	1年			
	コミュニティ論	1学期	1	2	
	休講 昼夜交互開講科目	1年			
	市民活動概論	2学期	1	2	183
	西田心平/地域創生学群	1年			
キャリア学概論	2学期	1	2	184	
見館好隆/地域創生学群	1年				
市民活動実践論	1学期	2	2		
夜のみ開講科目	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	北九州社会論	2学期	2	2	
	休講 昼夜交互開講科目	2年			
	地域文化論	1学期	2	2	185
	廣川祐司/地域創生学群	2年			
	危機管理論	2学期	2	2	186
	戸蒔 仁司	2年			
	キャリア形成論	1学期	2	2	
	休講 昼夜交互開講科目	2年			
	システム活用	1学期	2	2	187
	廣渡栄寿/地域創生学群	2年			
	まちづくり計画	2学期	2	2	188
	片岡寛之/地域創生学群	2年			
	地域創生実習I	1・2学期(ペア)	2	2	189
	坂本毅啓 他/地域創生学群 地域創生実習I(新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I	1・2学期(ペア)	2	2	190
	坂本毅啓 他/地域創生学群 地域創生実習II(新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I(学び支援)	1・2学期(ペア)	2	2	191
	廣渡栄寿/地域創生学群 地域創生実習I(学び支援)(新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I(広報)	1・2学期(ペア)	2	2	192
	佐藤貴之/地域創生学群 地域創生実習I(広報)(新カリリ読替科目名)	2年			
地域創生実習I(小倉)	1・2学期(ペア)	2	2	193	
片岡寛之/地域創生学群 地域創生実習I(小倉)(新カリリ読替科目名)	2年				
地域創生実習I(門司)	1・2学期(ペア)	2	2	194	
眞鍋和博/地域創生学群 地域創生実習I(門司)(新カリリ読替科目名)	2年				
地域創生実習I(猪倉)	1・2学期(ペア)	2	2	195	
廣川祐司/地域創生学群 地域創生実習I(猪倉)(新カリリ読替科目名)	2年				
地域創生実習I(ESD)	1・2学期(ペア)	2	2	196	
眞鍋和博/地域創生学群 地域創生実習I(ESD)(新カリリ読替科目名)	2年				
地域創生実習I(震災)	1・2学期(ペア)	2	2	197	
眞鍋和博/地域創生学群 地域創生実習I(震災)(新カリリ読替科目名)	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門基幹科目	地域創生実習I (421Lab.) 石川敬之/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	2	2	198
	地域創生実習I (421Lab.) (新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I (学び支援) 廣渡栄寿/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	2	2	199
	地域創生実習II (学び支援) (新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I (広報) 佐藤貴之/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	2	2	200
	地域創生実習II (広報) (新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I (小倉) 片岡寛之/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	2	2	201
	地域創生実習II (小倉) (新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I (門司) 眞鍋和博/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	2	2	202
	地域創生実習II (門司) (新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I (猪倉) 廣川祐司/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	2	2	203
	地域創生実習II (猪倉) (新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I (ESD) 眞鍋和博/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	2	2	204
	地域創生実習II (ESD) (新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I (震災) 眞鍋和博/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	2	2	205
	地域創生実習II (震災) (新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習I (421Lab.) 石川敬之/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	2	2	206
	地域創生実習II (421Lab.) (新カリリ読替科目名)	2年			
	地域創生実習II 坂本毅啓 他/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	3	2	207
	地域創生実習III(新カリリ読替科目名)	3年			
地域創生実習II 坂本毅啓 他/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	3	2	208	
地域創生実習IV(新カリリ読替科目名)	3年				
地域創生実習II (学び支援) 廣渡栄寿/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	3	2	209	
地域創生実習III (学び支援) (新カリリ読替科目名)	3年				
地域創生実習II (広報) 佐藤貴之/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	3	2	210	
地域創生実習III (広報) (新カリリ読替科目名)	3年				
地域創生実習II (小倉) 片岡寛之/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	3	2	211	
地域創生実習III (小倉) (新カリリ読替科目名)	3年				
地域創生実習II (門司) 眞鍋和博/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	3	2	212	
地域創生実習III (門司) (新カリリ読替科目名)	3年				

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		担当者			
	備考			クラス	
■専門基幹科目	地域創生実習II (猪倉)	1・2学期 (ペア)	3	2	213
	廣川祐司/地域創生学群 地域創生実習III (猪倉) (新カリ読替科目名)	3年			
	地域創生実習II (ESD)	1・2学期 (ペア)	3	2	214
	眞鍋和博/地域創生学群 地域創生実習III (ESD) (新カリ読替科目名)	3年			
	地域創生実習II (震災)	1・2学期 (ペア)	3	2	215
	眞鍋和博/地域創生学群 地域創生実習III (震災) (新カリ読替科目名)	3年			
	地域創生実習II (421Lab.)	1・2学期 (ペア)	3	2	216
	石川敬之/地域創生学群 地域創生実習III (421Lab.) (新カリ読替科目名)	3年			
	地域創生実習II (学び支援)	1・2学期 (ペア)	3	2	217
	廣渡栄寿/地域創生学群 地域創生実習IV (学び支援) (新カリ読替科目名)	3年			
	地域創生実習II (広報)	1・2学期 (ペア)	3	2	218
	佐藤貴之/地域創生学群 地域創生実習IV (広報) (新カリ読替科目名)	3年			
	地域創生実習II (小倉)	1・2学期 (ペア)	3	2	219
	片岡寛之/地域創生学群 地域創生実習IV (小倉) (新カリ読替科目名)	3年			
	地域創生実習II (門司)	1・2学期 (ペア)	3	2	220
	眞鍋和博/地域創生学群 地域創生実習IV (門司) (新カリ読替科目名)	3年			
	地域創生実習II (猪倉)	1・2学期 (ペア)	3	2	221
	廣川祐司/地域創生学群 地域創生実習IV (猪倉) (新カリ読替科目名)	3年			
	地域創生実習II (ESD)	1・2学期 (ペア)	3	2	222
	眞鍋和博/地域創生学群 地域創生実習IV (ESD) (新カリ読替科目名)	3年			
地域創生実習II (震災)	1・2学期 (ペア)	3	2	223	
眞鍋和博/地域創生学群 地域創生実習IV (震災) (新カリ読替科目名)	3年				
地域創生実習II (421Lab.)	1・2学期 (ペア)	3	2	224	
石川敬之/地域創生学群 地域創生実習IV (421Lab.) (新カリ読替科目名)	3年				
スポーツボランティア実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	225	
徳永政夫/地域創生学群 スポーツボランティア実習I(新カリ読替科目名)	2年				
スポーツボランティア実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	226	
徳永政夫/地域創生学群 スポーツ・ボランティア実習II(新カリ読替科目名)	2年				
スポーツボランティア実習II	1・2学期 (ペア)	3	2	227	
徳永政夫/地域創生学群 スポーツ・ボランティア実習III(新カリ読替科目名)	3年				

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	スポーツボランティア実習II 徳永政夫/地域創生学群 スポーツ・ボランティア実習IV(新カリ読替科目名)	1・2学期(ペア)	3	2	228
	3年				
	障害者スポーツ実習I 山本浩二/地域創生学群 障害者スポーツ実習I(新カリ読替科目名)	1・2学期(ペア)	2	2	229
	2年				
	障害者スポーツ実習I 山本浩二/地域創生学群 障害者スポーツ実習II(新カリ読替科目名)	1・2学期(ペア)	2	2	230
	2年				
	障害者スポーツ実習II 山本浩二/地域創生学群 障害者スポーツ実習III(新カリ読替科目名)	1・2学期(ペア)	3	2	231
	3年				
	障害者スポーツ実習II 山本浩二/地域創生学群 障害者スポーツ実習IV(新カリ読替科目名)	1・2学期(ペア)	3	2	232
	3年				
	地域創生基礎演習A 真鍋和博 他/地域創生学群	1学期	1	2	233
	1年				
	地域創生基礎演習B 坂本毅啓 他/地域創生学群	2学期	1	2	234
	1年				
	地域創生基礎演習B 徳永政夫・山本浩二/地域創生学群	2学期	1	2	235
	1年				
	地域創生基礎演習B(学び支援) 廣渡栄寿/地域創生学群	2学期	1	2	236
	1年				
	地域創生基礎演習B(広報) 佐藤貴之/地域創生学群	2学期	1	2	237
	1年				
地域創生基礎演習B(小倉) 片岡寛之/地域創生学群	2学期	1	2	238	
1年					
地域創生基礎演習B(門司) 西田心平/地域創生学群	2学期	1	2	239	
1年					
地域創生基礎演習B(猪倉) 廣川祐司/地域創生学群	2学期	1	2	240	
1年					
地域創生基礎演習B(ESD) 真鍋和博/地域創生学群	2学期	1	2	241	
1年					
地域創生基礎演習B(震災) 真鍋和博/地域創生学群	2学期	1	2	242	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生基礎演習 B (421Lab.) 石川敬之/地域創生学群	2学期	1	2	243
		1年			
	地域創生基礎演習 C 廣渡栄寿/地域創生学群	1学期	2	2	244
		2年			
	地域創生基礎演習 C 佐藤貴之/地域創生学群	1学期	2	2	245
		2年			
	地域創生基礎演習 C 片岡寛之/地域創生学群	1学期	2	2	246
		2年			
	地域創生基礎演習 C 西田心平/地域創生学群	2学期	2	2	247
		2年			
	地域創生基礎演習 C 廣川祐司/地域創生学群	1学期	2	2	248
		2年			
	地域創生基礎演習 C 徳永政夫/地域創生学群	1学期	2	2	249
		2年			
	地域創生基礎演習 C 山本浩二/地域創生学群	1学期	2	2	250
		2年			
	地域創生基礎演習 D 廣渡栄寿/地域創生学群	2学期	2	2	251
		2年			
地域創生基礎演習 D 佐藤貴之/地域創生学群	2学期	2	2	252	
	2年				
地域創生基礎演習 D 片岡寛之/地域創生学群	2学期	2	2	253	
	2年				
地域創生基礎演習 D 西田心平/地域創生学群	2学期	2	2	254	
	2年				
地域創生基礎演習 D 廣川祐司/地域創生学群	2学期	2	2	255	
	2年				
地域創生基礎演習 D 徳永政夫/地域創生学群	2学期	2	2	256	
	2年				
地域創生基礎演習 D 山本浩二/地域創生学群	2学期	2	2	257	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	相談援助演習 1	1学期	2	2	
	夜のみ開講科目	2年			
	相談援助演習 2	2学期	2	2	
	夜のみ開講科目	2年			
	相談援助演習 3	1学期	3	2	
	夜のみ開講科目	3年			
	相談援助演習 4	2学期	3	2	
	夜のみ開講科目	3年			
	相談援助演習 5	1学期	4	2	
	夜のみ開講科目	4年			
	相談援助実習	集中	3	6	258
	坂本毅啓 深谷裕/地域創生学群	3年			
	相談援助実習指導 1	1学期 (ベア)	3	2	
	夜のみ開講科目	3年			
	相談援助実習指導 2	2学期	3	1	
	夜のみ開講科目	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	259
	廣渡栄寿/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	260
	佐藤貴之/地域創生学群	3年			
地域創生演習 A	1学期	3	2	261	
徳永政夫/地域創生学群	3年				
地域創生演習 A	1学期	3	2	262	
山本浩二/地域創生学群	3年				
地域創生演習 A (通常枠)	1学期	3	2	263	
神山和久/地域創生学群	3年				
地域創生演習 B	2学期	3	2	264	
廣渡栄寿/地域創生学群	3年				
地域創生演習 B	2学期	3	2	265	
佐藤貴之/地域創生学群	3年				

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門基幹科目	地域創生演習 B	2学期	3	2	266
	徳永政夫/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 B	2学期	3	2	267
	山本浩二/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 B (通常枠)	2学期	3	2	268
	神山和久/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 C	1学期	4	2	269
	廣渡栄寿/地域創生学群	4年			
	地域創生演習 C	1学期	4	2	270
	佐藤貴之/地域創生学群	4年			
	地域創生演習 C	1学期	4	2	271
	徳永政夫/地域創生学群	4年			
	地域創生演習 C	1学期	4	2	272
	山本浩二/地域創生学群	4年			
	地域創生演習 D	2学期	4	2	273
	廣渡栄寿/地域創生学群	4年			
	地域創生演習 D	2学期	4	2	274
	佐藤貴之/地域創生学群	4年			
	地域創生演習 D	2学期	4	2	275
	徳永政夫/地域創生学群	4年			
地域創生演習 D	2学期	4	2	276	
山本浩二/地域創生学群	4年				
卒業論文・卒業実践報告		1・2学期 (ヘア)	4	4	277
廣渡栄寿/地域創生学群	4年				
卒業論文・卒業実践報告		1・2学期 (ヘア)	4	4	278
佐藤貴之/地域創生学群	4年				
卒業論文・卒業実践報告		1・2学期 (ヘア)	4	4	279
徳永政夫/地域創生学群	4年				
卒業論文・卒業実践報告		1・2学期 (ヘア)	4	4	280
山本浩二/地域創生学群	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	地域コーディネート論	2学期	1	2	
	休講 昼夜交互開講科目	1年			
	地域調査論	1学期	2	2	
	夜のみ開講科目	2年			
	NPO論	1学期	1	2	281
	権原 真二 他	1年			
	政治過程論	2学期	1	2	282
	濱本 真輔	1年			
	公共政策論	1学期	2	2	283
	権原 真二	2年			
	地方自治論	1学期	2	2	284
	森 裕亮	2年			
	政策過程論	1学期	2	2	285
	申 東愛	2年			
	公共経営論	2学期	2	2	286
	狭間 直樹	2年			
	都市経営論	2学期	2	2	287
	田代 洋久	2年			
	都市経済論	1学期	2	2	288
	田代 洋久	2年			
福祉政策論	1学期	2	2	289	
狭間 直樹	2年				
都市環境論	1学期	2	2	290	
三宅 博之	2年				
景観まちづくり論	2学期	2	2		
休講 昼夜交互開講科目	2年				
福祉環境デザイン論	2学期	2	2	291	
内田 晃	2年				
まちづくり実践論	1学期	3	2		
休講 昼夜交互開講科目	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	ものづくりマネジメント論	2学期	2	2	
	休講 昼夜交互開講科目	2年			
	法学総論	1学期	1	2	292
	山口 亮介	1年			
	日本国憲法原論	1学期	1	2	293
	中村 英樹	1年			
	憲法人権論	2学期	1	2	294
	植木 淳	1年			
	民法総則	1学期 (ペア)	1	4	295
	矢澤 久純	1年			
	民法概論I	1学期	2	2	
	夜のみ開講科目	2年			
	民法概論II	2学期	2	2	
	夜のみ開講科目	2年			
	社会法総論	2学期	2	2	296
	石田 信平	2年			
	刑法犯罪論	2学期 (ペア)	2	4	297
	土井 和重	2年			
	刑法犯罪各論I	1学期	3	2	298
	大杉 一之	3年			
刑法犯罪各論II	2学期	3	2	299	
大杉 一之	3年				
法と犯罪I	1学期	3	2		
夜のみ開講科目	3年				
法と犯罪II	2学期	3	2		
夜のみ開講科目	3年				
憲法機構論	1学期	2	2	300	
植木 淳	2年				
行政法総論	1学期 (ペア)	2	4	301	
福重 さと子	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	行政争訟法	2学期	3	2	302
	張 栄紅	3年			
	物権法	2学期	2	2	303
	清水 裕一郎	2年			
	家族法	1学期	2	2	304
	小野 憲昭	2年			
	会社法I	1学期	3	2	
	夜のみ開講科目	3年			
	会社法II	2学期	3	2	
	夜のみ開講科目	3年			
	企業取引法I	2学期	3	2	305
	今泉 恵子	3年			
	企業取引法II	2学期	3	2	306
	前越 俊之	3年			
	知的財産法	1学期	3	2	307
	木村 友久	3年			
	情報公開・個人情報保護法	2学期	3	2	308
	岡本 博志	3年			
	現代日本経済入門A	1学期	1	2	309
	杉浦 勝章	1年			
現代日本経済入門B	2学期	1	2	310	
松尾 美紀	1年				
経済学入門A	1学期	1	2	311	
後藤 宇生	1年				
経済学入門A	1学期	1	2	312	
魏 芳	1年				
経済学入門B	1学期	1	2	313	
後藤 尚久	1年				
経済学入門B	1学期	1	2	314	
前林 紀孝	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	マネジメント論基礎	2学期	1	2	315
	浦野 恭平	1年			
	企業論基礎	2学期	1	2	316
	松本 守	1年			
	簿記論I	1学期	1	2	317
	白石 和孝	1年			
	簿記論I	1学期	1	2	318
	岡部 勝成	1年			
	簿記論II	2学期	1	2	319
	白石 和孝	1年			
	簿記論II	2学期	1	2	320
	岡部 勝成	1年			
	統計学I	2学期	1	2	321
	林田 実	1年			
	統計学II	1学期	1	2	322
	林田 実	1年			
	数学	1学期	1	2	323
	吉田 祐治	1年			
	経営統計	2学期	1	2	324
	吉田 祐治	1年			
地域経済I	1学期	2	2	325	
田村 大樹	2年				
地域経済II	2学期	2	2	326	
杉浦 勝章	2年				
金融論I	1学期	2	2		
休講	2年				
金融論II	2学期	2	2		
休講	2年				
国際経済論I	1学期	2	2		
休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門科目	国際経済論II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	経営戦略	2学期	2	2	327
	浦野 恭平	2年			
	産業組織論I	1学期	2	2	328
	後藤 宇生	2年			
	産業組織論II	2学期	2	2	329
	後藤 宇生	2年			
	財政学I	1学期	3	2	330
	前林 紀孝	3年			
	財政学II	2学期	3	2	331
	前林 紀孝	3年			
	人事管理論	1学期	2	2	332
	福井 直人	2年			
	生産マネジメントA	1学期	3	2	333
	鳥取部 真己	3年			
	生産マネジメントB	2学期	3	2	334
	棚次 奎介	3年			
	情報マネジメントA	1学期	3	2	335
	越出 均	3年			
情報マネジメントB	2学期	3	2	336	
越出 均	3年				
中小企業論	1学期	3	2	337	
別府 俊行	3年				
環境経済学	2学期	3	2		
休講	3年				
コンピュータシステム	1学期	1	2	338	
武藤 直彦	1年				
財務会計論I	1学期	2	2	339	
西澤 健次	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	財務会計論II 西澤 健次	2学期	2	2	340
		2年			
	プログラミングI 隈本 覚	2学期	1	2	341
		1年			
	プログラミングII (新JAVA) 平山 克己	1学期	2	2	342
		2年			
	データ構造 隈本 覚	2学期	2	2	343
		2年			
	データ解析 齋藤 朗宏	1学期	2	2	344
		2年			
	データベース 池田 欽一	2学期	2	2	345
		2年			
	システムデザイン 佐藤貴之/地域創生学群	2学期	2	2	346
		2年			
	情報管理 池田 欽一	2学期	3	2	347
		3年			
システム設計I 平山 克己	1学期	3	2	348	
	3年				
システム設計II 平山 克己	2学期	3	2	349	
	3年				
情報ネットワーク 隈本 覚	1学期	3	2	350	
	3年				
オペレーションズ・リサーチ 齋藤 朗宏	1学期	3	2	351	
	3年				
現代社会と福祉 1 河嶋 静代	1学期	1	2	352	
	1年				
現代社会と福祉 2 小賀 久	2学期	1	2	353	
	1年				
福祉国家論 狭間 直樹	2学期	1	2	354	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	地域福祉の理論と方法 1 深谷裕/地域創生学群	1学期	2	2	355
		2年			
	地域福祉の理論と方法 2 渡辺良司、宇都宮慎吾	1学期	2	2	356
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1 石塚 優	1学期	2	2	357
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2 石塚 優	2学期	2	2	358
		2年			
	児童福祉論 河嶋 静代	1学期	2	2	359
		2年			
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 河嶋 静代	1学期	2	2	360
		2年			
	障害者福祉論 休講	2学期	2	2	
		2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 小賀 久	1学期	2	2	361
		2年			
	相談援助の基盤と専門職 1 坂本毅啓/地域創生学群	1学期	1	2	362
		1年			
	相談援助の基盤と専門職 2 坂本毅啓/地域創生学群	2学期	1	2	363
		1年			
介護概論 1 閉講	1学期	3	2		
	3年				
介護概論 2 閉講	2学期	3	2		
	3年				
低所得者に対する支援と生活保護制度 藤藪 貴治	2学期	2	2	364	
	2年				
保健医療サービス 大塚 文	1学期	2	2	365	
	2年				
権利擁護と成年後見制度 小賀 久	1学期	2	2	366	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	心理学概論 田中 信利 他	2学期	1	2	367
		1年			
	観光社会学 須藤 廣	集中	1	2	368
		1年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	369
		2年			
	老年心理学 石塚 優	2学期	2	2	370
		2年			
	教育心理学 五十嵐 亮	2学期	2	2	371
		2年			
	スポーツ心理学 磯貝 浩久	1学期	2	2	372
		2年			
	対人心理学 田島 司	1学期	3	2	373
		3年			
	カウンセリング論 中島 俊介	2学期	3	2	374
		3年			
	コミュニケーション論 森永 今日子	1学期	3	2	375
		3年			
	臨床心理学 中島 俊介	1学期	3	2	376
	3年				
心理療法論 中島 俊介	2学期	3	2	377	
	3年				
リハビリテーション論 夜のみ開講科目	1学期	3	2	378	
	3年				
人体の構造と機能及び疾病 小野 二六一	1学期	2	2	378	
	2年				
医学一般2 閉講	2学期	3	2	379	
	3年				
ボランティア活動論 蓼原 典明	1学期	1	2	379	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	ボランティア活動実践論	1学期	2	2	
	休講	2年			
	ボランティア活動運営論	1学期	3	2	
	休講	3年			
	スポーツ指導論	1学期	1	2	380
	徳永政夫/地域創生学群	1年			
	障害者スポーツ指導論	1学期	1	2	381
	小手川 郁人	1年			
	スポーツ・ボランティア指導論	2学期	1	2	382
	徳永政夫/地域創生学群	1年			
	スポーツ・ボランティア各論	1学期	2	2	383
	上村 英樹	2年			
	コミュニティスポーツ論	2学期	2	2	
	休講 昼夜交互開講科目	2年			
	障害者スポーツ各論	1学期	2	2	384
	小手川 郁人	2年			
	身体適応論	1学期	3	2	385
	高西 敏正	3年			
	身体スポーツ論	2学期	3	2	386
	加倉井 美智子	3年			
トレーニング論	1学期	3	2	387	
徳永 政夫	3年				
健康科学	2学期	3	2	388	
高西 敏正	3年				
社会調査の基礎	1学期	2	2	389	
阪井 俊文	2年				
相談援助の理論と方法 1	1学期	2	2	390	
藤藪 貴治	2年				
相談援助の理論と方法 2	2学期	2	2	391	
工藤 歩	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門科目	相談援助の理論と方法 3	1学期	2	2	392
	藤田 博久	2年			
	福祉行財政と福祉計画	1学期	2	2	393
	難波 利光	2年			
	福祉サービスの組織と経営	2学期	2	2	394
	中園 紀明	2年			
	社会保障	1学期	2	2	395
	坂本毅啓/地域創生学群	2年			

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	2学期	1	2	396
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	397
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	398
		1年			
国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	399	
	1年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	400	
	1年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	401
		1年			
	メンタル・ヘルスII 休講	2学期	1	2	
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 休講	1学期	1	2	
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 山本 浩二	2学期	1	2	402
		1年			
	社会調査 稲月 正	2学期	1	2	403
		1年			
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 徳永 政夫	1学期	1	1	404	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 休講	2学期	1	1		
	1年				
■テーマ科目	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	405
		1年			
	現代人のこころ 休講	1学期	1	2	
	1年				
思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	406	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	文学を読む	2学期	1	2	
	休講	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民主主義とは何か	1学期	1	2	407
	大澤 津 他	1年			
	人権論	1学期	1	2	408
	柳井 美枝	1年			
	ジェンダー論	1学期	1	2	409
	力武 由美	1年			
	障がい学	2学期	1	2	410
	伊野 憲治	1年			
	企業と社会	1学期	1	2	411
	山岡 敏秀	1年			
	現代社会と倫理	1学期	1	2	
	休講	1年			
	現代の国際情勢	1学期	1	2	412
	山本 直 他	1年			
	国際社会論	1学期	1	2	
	休講	1年			
国際紛争と国連	2学期	1	2	413	
二宮 正人	1年				
開発と統治	2学期	1	2	414	
三宅 博之 他	1年				
グローバル化する経済	1学期	1	2		
休講	1年				
国際社会と日本	2学期	1	2		
休講	1年				
歴史の読み方I	1学期	1	2	415	
小林 道彦	1年				

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	歴史の読み方II	2学期	1	2	416
	休講	1年			
	人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	
		1年			
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング	2学期	1	2	417
	中尾 泰士	1年			
	データ処理	1学期	1	2	418
	廣渡 栄寿	群			
	データ処理	2学期	1	2	419
	中尾 泰士	1学期未修得者再履・夜間主コース			
情報表現	2学期	2	2	420	
浅羽 修丈	2年				
■外国語教育科目	ビジネス英語I (群 1年)	1学期	1	1	421
	デビッド・アダム・ストット	群 1年			
	ビジネス英語II (群 1年)	2学期	1	1	422
	ジェイムズ・ヒックス	群 1年			
	ビジネス英語III (群 2年)	1学期	2	1	423
	ホセ・クルーズ	群 2年			
	ビジネス英語IV (群 2年)	2学期	2	1	424
	ホセ・クルーズ	群 2年			
■専門基幹科目	地域学入門	1学期	1	2	425
	真銅和博 他/地域創生学群	1年			
	コミュニティ論	1学期	1	2	426
	石塚 優	1年			
	市民活動概論	2学期	1	2	
	休講 昼夜交互開講科目	1年			
	キャリア学概論	2学期	1	2	
休講 昼夜交互開講科目	1年				
市民活動実践論	1学期	2	2		
休講	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	北九州社会論 神山和久/地域創生学群	2学期	2	2	427
		2年			
	地域文化論 休講 昼夜交互開講科目	1学期	2	2	
		2年			
	危機管理論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2	
		2年			
	キャリア形成論 眞鍋和博/地域創生学群	1学期	2	2	428
		2年			
	システム活用 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2	
		2年			
	まちづくり計画 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2	
		2年			
	地域創生実習I 昼のみ開講科目 地域創生実習I(新カリ読替科目名)	1・2学期(ペア)	2	2	
		2年			
	地域創生実習II 昼のみ開講科目	1・2学期(ペア)	3	2	
		3年			
	スポーツボランティア実習I 昼のみ開講科目	1・2学期(ペア)	2	2	
		2年			
	スポーツボランティア実習II 昼のみ開講科目	1・2学期(ペア)	3	2	
		3年			
	障害者スポーツ実習I 昼のみ開講科目	1・2学期(ペア)	2	2	
		2年			
	障害者スポーツ実習II 昼のみ開講科目	1・2学期(ペア)	3	2	
		3年			
	地域創生基礎演習A 昼のみ開講科目	1学期	1	2	
		1年			
	地域創生基礎演習B 昼のみ開講科目	2学期	1	2	
		1年			
	地域創生基礎演習C 昼のみ開講科目	1学期	2	2	
		2年			

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生基礎演習D	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	相談援助演習1	1学期	2	2	
	閉講	2年			
	相談援助演習2	2学期	2	2	429
	深谷裕/地域創生学群	2年			
	相談援助演習3	1学期	3	2	430
	深谷裕/地域創生学群	3年			
	相談援助演習4	2学期	3	2	431
	深谷裕/地域創生学群	3年			
	相談援助演習5	1学期	4	2	432
	深谷裕/地域創生学群	4年			
	相談援助実習指導1	1学期(ヘア)	3	2	433
	坂本毅啓/地域創生学群	3年			
	相談援助実習指導2	2学期	3	1	434
	坂本毅啓/地域創生学群	3年			
	地域創生演習A	1学期	3	2	435
	中島 俊介	3年			
	地域創生演習A(夜間特別枠)	1学期	3	2	436
	神山和久/地域創生学群	3年			
地域創生演習A	1学期	3	2	437	
片岡寛之/地域創生学群	3年				
地域創生演習A	2学期	3	2	438	
西田心平/地域創生学群	3年				
地域創生演習A	1学期	3	2	439	
廣川祐司/地域創生学群	3年				
地域創生演習B	2学期	3	2	440	
中島 俊介	3年				
地域創生演習B(夜間特別枠)	2学期	3	2	441	
神山和久/地域創生学群	3年				

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門基幹科目	地域創生演習 B 片岡寛之/地域創生学群	2学期	3	2	442
		3年			
	地域創生演習 B 西田心平/地域創生学群	2学期	3	2	443
		3年			
	地域創生演習 B 廣川祐司/地域創生学群	2学期	3	2	444
		3年			
	地域創生演習 C 中島 俊介	1学期	4	2	445
		4年			
	地域創生演習 C 神山和久/地域創生学群	1学期	4	2	446
		4年			
	地域創生演習 C 片岡寛之/地域創生学群	1学期	4	2	447
		4年			
	地域創生演習 C 西田心平/地域創生学群	2学期	4	2	448
		4年			
	地域創生演習 C 休講/廣川祐司	1学期	4	2	
		4年			
	地域創生演習 D 中島 俊介	2学期	4	2	449
		4年			
	地域創生演習 D 神山和久/地域創生学群	2学期	4	2	450
		4年			
地域創生演習 D 片岡寛之/地域創生学群	2学期	4	2	451	
	4年				
地域創生演習 D 西田心平/地域創生学群	2学期	4	2	452	
	4年				
地域創生演習 D 休講/廣川祐司	2学期	4	2		
	4年				
地域創生演習 D 深谷裕/地域創生学群	2学期	4	2	453	
	4年				
卒業論文・卒業実践報告 中島 俊介	1・2学期 (ペア)	4	4	454	
	4年				

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	卒業論文・卒業実践報告 神山和久/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	4	4	455
		4年			
	卒業論文・卒業実践報告 片岡寛之/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	4	4	456
		4年			
	卒業論文・卒業実践報告 西田心平/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	4	4	457
	4年				
卒業論文・卒業実践報告 休講/廣川祐司	1・2学期 (ペア)	4	4		
	4年				
卒業論文・卒業実践報告 深谷裕/地域創生学群	1・2学期 (ペア)	4	4	458	
	4年				
■専門科目	地域コーディネート論 西田心平/地域創生学群	2学期	1	2	459
		1年			
	地域調査論 神山和久/地域創生学群	1学期	2	2	460
		2年			
	NPO論 榎原 真二 他	1学期	1	2	461
		1年			
	政治過程論 昼のみ開講科目	2学期	1	2	
		1年			
	公共政策論 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地方自治論 森 裕亮	1学期	2	2	462
		2年			
	政策過程論 昼のみ開講科目	1学期	2	2	
	2年				
公共経営論 昼のみ開講科目	2学期	2	2		
	2年				
都市経営論 昼のみ開講科目	2学期	2	2		
	2年				
都市経済論 昼のみ開講科目	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	福祉政策論 狭間 直樹	1学期	2	2	463
		2年			
	都市環境論 休講	1学期	2	2	
		2年			
	景観まちづくり論 片岡寛之/地域創生学群	2学期	2	2	464
		2年			
	福祉環境デザイン論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2	
		2年			
	まちづくり実践論 南 博	1学期	3	2	465
		3年			
	ものづくりマネジメント論 吉村 英俊	2学期	2	2	466
		2年			
	法学総論 梁田 史郎	1学期	1	2	467
		1年			
	日本国憲法原論 休講	1学期	1	2	
		1年			
	憲法人権論 植木 淳	2学期	1	2	468
		1年			
	民法総則 昼のみ開講科目	1学期 (ペア)	1	4	
		1年			
民法概論I 休講	1学期	2	2		
	2年				
民法概論II 休講	2学期	2	2		
	2年				
社会法総論 津田 小百合	2学期	2	2	469	
	2年				
刑法犯罪論 昼のみ開講科目	2学期 (ペア)	2	4		
	2年				
刑法犯罪各論I 昼のみ開講科目	1学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門科目	刑法犯罪各論II	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	法と犯罪I	1学期	3	2	470
	大杉 一之	3年			
	法と犯罪II	2学期	3	2	471
	大杉 一之	3年			
	憲法機構論	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	行政法総論	1学期(ペア)	2	4	472
	近藤 卓也	2年			
	行政争訟法	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	物権法	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	家族法	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	会社法I	1学期	3	2	473
	高橋 衛	3年			
	会社法II	2学期	3	2	474
	高橋 衛	3年			
企業取引法I	2学期	3	2		
昼のみ開講科目	3年				
企業取引法II	1学期	3	2		
昼のみ開講科目	3年				
知的財産法	1学期	3	2		
昼のみ開講科目	3年				
情報公開・個人情報保護法	2学期	3	2		
昼のみ開講科目	3年				
現代日本経済入門A	1学期	1	2		
休講	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	現代日本経済入門B	2学期	1	2	
	休講	1年			
	経済学入門A	1学期	1	2	475
	藤井 敦	1年			
	経済学入門B	1学期	1	2	476
	畔津 憲司	1年			
	マネジメント論基礎	2学期	1	2	477
	遠藤 雄二	1年			
	企業論基礎	2学期	1	2	478
	中間 信博	1年			
	簿記論I	1学期	1	2	479
	池口 慶一	1年			
	簿記論II	2学期	1	2	
	昼のみ開講科目	1年			
	統計学I	1学期	1	2	480
	林田 実	1年			
	統計学II	2学期	1	2	
	昼のみ開講科目	1年			
	数学	1学期	1	2	
	昼のみ開講科目	1年			
経営統計	2学期	1	2		
昼のみ開講科目	1年				
地域経済I	1学期	2	2	481	
田村 大樹	2年				
地域経済II	2学期	2	2		
昼のみ開講科目	2年				
金融論I	1学期	2	2	482	
後藤 尚久	2年				
金融論II	2学期	2	2		
昼のみ開講科目	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	国際経済論I 末永 勝昭	1学期	2	2	483
		2年			
	国際経済論II 昼のみ開講科目	2学期	2	2	
		2年			
	経営戦略 休講	2学期	2	2	
		2年			
	産業組織論I 休講	1学期	2	2	
		2年			
	産業組織論II 昼のみ開講科目	2学期	2	2	
		2年			
	財政学I 休講	1学期	3	2	
		3年			
	財政学II 昼のみ開講科目	2学期	3	2	
		3年			
	人事管理論 山下 剛	1学期	2	2	484
		2年			
	生産マネジメントA 昼のみ開講科目	1学期	3	2	
		3年			
	生産マネジメントB 昼のみ開講科目	2学期	3	2	
		3年			
情報マネジメントA 昼のみ開講科目	1学期	3	2		
	3年				
情報マネジメントB 昼のみ開講科目	2学期	3	2		
	3年				
中小企業論 別府 俊行	1学期	3	2	485	
	3年				
環境経済学 牛房 義明	2学期	3	2	486	
	3年				
コンピュータシステム 泉 英明	1学期	1	2	487	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	財務会計論I	1学期	2	2	
	休講	2年			
	財務会計論II	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	プログラミングI	2学期	1	2	
	昼のみ開講科目	1年			
	プログラミングII (新JAVA)	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	データ構造	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	データ解析	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	データベース	2学期	2	2	
	休講	2年			
	システムデザイン	2学期	2	2	
	休講 昼夜交互開講科目	2年			
	情報管理	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	システム設計I	1学期	3	2	488
	平山 克己	3年			
システム設計II	2学期	3	2		
昼のみ開講科目	3年				
情報ネットワーク	1学期	3	2		
休講	3年				
オペレーションズ・リサーチ	1学期	3	2		
昼のみ開講科目	3年				
現代社会と福祉 1	1学期	1	2	489	
河嶋 静代	1年				
現代社会と福祉 2	2学期	1	2	490	
坂本毅啓/地域創生学群	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	福祉国家論	2学期	1	2	
	昼のみ開講科目	1年			
	地域福祉の理論と方法 1	1学期	2	2	
	休講	2年			
	地域福祉の理論と方法 2	2学期	2	2	
	休講	2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1	1学期	2	2	
	休講	2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2	2学期	2	2	
	休講	2年			
	児童福祉論	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2学期	2	2	
	休講	2年			
	障害者福祉論	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	1学期	2	2	491
	高崎 陽子	2年			
	相談援助の基盤と専門職 1	1学期	1	2	492
	坂本毅啓/地域創生学群	1年			
相談援助の基盤と専門職 2	2学期	1	2	493	
坂本毅啓/地域創生学群	1年				
介護概論 1	1学期	3	2		
閉講	3年				
介護概論 2	2学期	3	2		
閉講	3年				
低所得者に対する支援と生活保護制度	2学期	2	2	494	
柴田 滋	2年				
保健医療サービス	1学期	2	2		
休講	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	権利擁護と成年後見制度 小鉢 由美	1学期	2	2	495
		2年			
	心理学概論 田中 信利 他	2学期	1	2	496
		1年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	497
		2年			
	老年心理学 休講	2学期	2	2	
		2年			
	教育心理学 昼のみ開講科目	2学期	2	2	
		2年			
	スポーツ心理学 昼のみ開講科目	1学期	2	2	
		2年			
	対人心理学 休講	1学期	3	2	
		3年			
	カウンセリング論 中島 俊介	2学期	3	2	498
		3年			
	コミュニケーション論 休講	1学期	3	2	
		3年			
	臨床心理学 中島 俊介	1学期	3	2	499
	3年				
心理療法論 中島 俊介	2学期	3	2	500	
	3年				
リハビリテーション論 山本浩二/地域創生学群	1学期	3	2	501	
	3年				
人体の構造と機能及び疾病 島 京子	1学期	2	2	502	
	2年				
医学一般2 閉講	2学期	3	2		
	3年				
ボランティア活動論 昼のみ開講科目	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	ボランティア活動実践論	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	ボランティア活動運営論	1学期	3	2	
	昼のみ開講科目	3年			
	スポーツ指導論	1学期	1	2	
	昼のみ開講科目	1年			
	障害者スポーツ指導論	2学期	1	2	
	昼のみ開講科目	1年			
	スポーツ・ボランティア指導論	2学期	1	2	
	昼のみ開講科目	1年			
	スポーツ・ボランティア各論	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	コミュニティスポーツ論	2学期	2	2	503
	山本浩二/地域創生学群	2年			
	障害者スポーツ各論	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目	2年			
	身体適応論	1学期	3	2	504
	高西 敏正	3年			
	身体スポーツ論	2学期	3	2	
	休講	3年			
トレーニング論	1学期	3	2	505	
徳永 政夫	3年				
健康科学	2学期	3	2		
休講	3年				
社会調査の基礎	1学期	2	2	506	
阪井 俊文	2年				
相談援助の理論と方法 1	1学期	2	2	507	
藤藪 貴治	2年				
相談援助の理論と方法 2	2学期	2	2	508	
工藤 歩	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	相談援助の理論と方法 3 休講	1学期	2	2	
		2年			
	福祉行財政と福祉計画 難波 利光	1学期	2	2	509
		2年			
	福祉サービスの組織と経営 中園 紀明	2学期	2	2	510
		2年			
	社会保障 坂本毅啓/地域創生学群	2学期	2	2	511
		2年			

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまられたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。毎回最後の10-15分は指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

- 第I部 文化の基礎としての家族
- 第2回 家族は普遍的な概念か？
- 第3回 生殖医療の時代に至るまでの家族・親族関係の変容
- 第4回 伝統的社会における親族関係
- 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第6回 ジェンダーと伝統文化
- 第7回 伝統文化について：構築主義と本質主義
- 第8回 文化相対主義の考え方
- 第9回 中間テスト

- 第II部 文化と世界観
- 第10回 儀礼にもとづく時間・空間認識
- 第11回 宗教紛争と日常の中の宗教
- 第12回 不幸への対処としての呪術
- 第13回 中間テストの解説
- 第14回 現代社会のなかの呪術
- 第15回 政教分離と世俗化

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストまたはレポート 40%、期末レポート 60% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。
※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 評価方法などは第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目にも余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化(新カリのみ)」とビジョンII「現代社会と文化(旧カリ:文化と政治)」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点(人間関係)【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていたらだろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 「15年戦争」史
- 3回 「中国革命」と日本の対応【山東出兵】【張作霖】
- 4回 満州事変【石原莞爾】【満蒙領有論】【関東軍】
- 5回 第一次上海事変と政党内閣の崩壊【朝鮮独立問題】【「満州国」】
- 6回 2・26事件と日中戦争への道【高橋是清】
- 7回 日中戦争【第二次上海事変】【ドイツ】【近衛文麿】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【ナチス・ドイツ】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【対米宣戦】【「最終的解決」】
- 10回 第二次世界大戦と三国同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】
- 12回 太平洋戦争1【真珠湾攻撃】【ミッドウエイ海戦】【東条英機】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】【サイパン島陥落】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。メモはこまめにとるように心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半は私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行い、文化を理解することについて考察を深める。文化に関する外国の問題は解説をうのみにしてしまいがちであるが、前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

以下の参考文献を各人の興味にあわせて読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂2010『看護人類学入門』文化書房博文社
- 浮ヶ谷幸代2010『身体と境界の人類学』春風社
- 太田好信編2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

- 第I部 現代社会において異文化を理解すること
- 第2回 文化を「知る」とはどういうことか？
- 第3回 ナショナリズムと文化
- 第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第5回 植民地主義と文化
- 第6回 先住民・少数民族の文化の保護と多文化主義
- 第7回 多文化主義の可能性と限界
- 第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種
- 第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々 / 第1部 まとめ
- 第10回 中間テスト

- 第II部 他者の内側
- 第11回 近代・ポスト近代という時代の認識
- 第12回 身体の近代化
- 第13回 中間テストの解説
- 第14回 普遍的な医療と普遍的でない身体
- 第15回 癒しの多様性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト30%、期末テスト70%
そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 評価方法などは第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目「異文化理解の基礎（旧カリ：人間と文化）」を受講済みの学生は、授業の理解度が高まります。
- ・ 履修上の注意では、厳しいことを書いていますが、記憶することは何ともありません。講義で自分が学んだと思うことを用いて現代の文化に関する問題を自分なりに理解することが大切です。意欲的な学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師)
- 第10回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第12回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第15回 まとめ: 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% × 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。
集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘記すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴(医療モデル的作品)【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴(文化モデル的作品)【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし。ただし、「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておくこと、さらに深く理解できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- E・フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イエルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の変容(1)【高度産業社会】
- 5回 生活世界の変容(2)【テクネーの美】
- 6回 生活世界の変容(3)【複製技術と政治】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界の変容(4)【全体主義と思考能力・前半】
- 9回 生活世界の変容(5)【全体主義と思考能力・後半】
- 10回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説・前半】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャ概説・後半】
- 13回 公私の区別とその起源(3)【古代ギリシャの公と私】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(1)【寛容の概念】
- 15回 宗教の私事性と公的領域(2)【衝突と共生】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと(例年2~3割の受講者が不合格となっている)。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。板書した内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱えている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャの身体観 1【プラトン】
- 3回 古代ギリシャの身体観 2【ソポクレス】
- 4回 古代ギリシャの身体観 3【通時的概観】
- 5回 近代哲学における心身二元論の成立【デカルト】
- 6回 身体の変容と限界 1【夢と現実のあいだ】
- 7回 身体の変容と限界 2【身体表現の可能性】
- 8回 身体の変容と限界 3【排除される身体】
- 9回 身体・家族・社会 1【精神分析的アプローチ】
- 10回 身体・家族・社会 2【脳科学的アプローチ】
- 11回 身体・家族・社会 3【差別される身体】
- 12回 身体・家族・社会 4【シミュレーバー症例】
- 13回 身体のポリテイクス 1【全体主義】
- 14回 身体のポリテイクス 2【統制される身体】
- 15回 身体のポリテイクス 3【処罰される身体】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

期末テストは授業範囲すべてに関わるものであり、比較的密度の濃い内容となる。そのため、当たり前のことだが、休めば休むほど成績上不利になる。単位取得のためには、かなりの努力と忍耐力が求められるだろう。卒業予定の4年生に対しても、同じく厳しい採点態度で臨むので、受講にあたってはこの点を十分に熟考しておくこと。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 精神病理 規律と監視

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1. 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2. 現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3. 卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）

- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
- 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
- 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
- 4回 児童期の心の健康を知る 【勤労性と劣等感】
- 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
- 6回 ライフスタイルの心理学【ライフスタイル】
- 7回 青年前期の心理【葛藤と感情】
- 8回 青年後期の同一性（アイデンティティ）の確立【こころの病】
- 9回 適応と社会参加の心理学【組織的メンタルヘルス】【こころの健康管理】
- 10回 こころと健康1【うつ病・神経症など】
- 11回 こころと健康2【自己受容・自己開示・あるがまま】
- 12回 成人期の心理【生きがい】【職場の人間関係】
- 13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガ -】
- 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
- 15回 まとめと今後の課題について【環境と心の健康】

メンタル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)について、精神病理や心理学、そして社会福祉学の観点から考えていく科目です。まずは自己分析を通して、自らの可能性を感じ、自己肯定感を高めるための方法について考えていただきます。さらに、実際の事例などを紹介しながら、生きづらさを感じ、メンタルヘルスが壊れるとはどういう事なのかを考えていきます。そして、何よりも「助けて」と言えることの大切さや、「お互い様」の中での支え合いで社会が作られているということを少しでも理解していただきたいです。

教科書 /Textbooks

なし。
適宜、紹介をします。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

大平 健 (1995) 『やさしさの精神病理』岩波書店
春日 武彦 (2004) 『援助者必携 はじめての精神科』医学書院
他、適宜紹介をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、受講上の注意など。
- 2回 心理テキストに挑戦【自己分析】
- 3回 あるもの探し【ポジティブシンキング、ストレンガス・パースペクティブ】
- 4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 7回 自己覚知②【ライフヒストリー】
- 8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 10回 事例検討①【非行】
- 11回 事例検討②【虐待】
- 12回 事例検討③【ホームレス】
- 13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 14回 事例検討⑤【障害】
- 15回 助けてと言える力【受援力、援助力】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題の提出状況.....50%
定期試験.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中島俊介先生の後を受けて、2015(平成27)年度より担当することになりました。私の専門は社会福祉学ですが、できるだけ受講生にとって、癒しの場であったり、笑いの場であったり、あるいはこれから生きていく上で、少しでも楽になるヒントをお伝えすることができれば幸いです。

キーワード /Keywords

精神保健、心理学、社会福祉学、

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の手配を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習) ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義) ストレッチの理論
- 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義) ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義) レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習) レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の手配を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。
 実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか、被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
3. 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
4. 体の健康【運動生理学】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
5. ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
6. コミュニケーション【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
7. 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のための薬について学ぶ
8. 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
9. 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
10. 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
11. 喫煙・飲酒・薬物【関係専門職】：煙草やお酒、薬物の正しい知識を学ぶ
12. 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ
13. 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
14. 自己管理論まとめ：ポイントの復習などで総合的に理解を深める
15. 小試験（選択，記述）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のミニレポート・70% 小試験・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①1回目のオリエンテーションで「自己管理論」のプログラムを配布する。
- ②外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室を禁止する。私語厳禁。
- ③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- ④最終回では、小試験をするため必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師の都合により、授業計画の順番が変更することがあります。また、「履修上の注意」にも記載していますが、外部講師による講義が主となるため、通常の大学講義とは異なる点が多くあります。その点に関しては、第一回のオリエンテーションでプリントを配布し、説明しますので、第一回目から必ず出席してください。

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いてもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするとということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いてもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学士力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするとということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

●授業の概要 (ねらい・テーマなど)

本授業の目的は、みなさんが持つことが想定される、将来の進路に対する不安や迷いを解消し、有意義な大学生活を営むために何をすればいいのかを学ぶことです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。労働政策研究・研修機構の調査(2013年)によると、若年者を採用する時に重視する資質として、「働くことへの熱意」(73.6%)、「積極性、チャレンジ精神、行動力」(62.0%)、「チームワーク」(52.5%)、「コミュニケーション能力」(51.7%)の順で高くなっており、特に「働くことへの熱意」「積極性、チャレンジ精神、行動力」「コミュニケーション能力」の割合が大きく増加しています。よってこれらの資質を就職活動を行うまでに高めておく必要があります。

もちろん、大学生の本分は学習であり、今から就職活動の準備をする必要はありません。しかし、これらの力は、一朝一夕で身につくものではありません。ではどうすればいいのか? それは大学生活全体、つまり、学習および課外活動、そして日常生活において、社会が求める資質を獲得することを意識して過ごすことが大切になるのです。その方法(キャリアをデザインする方法)を本授業で学びます。

自らのキャリアをデザインするために必要な4つの行動とは、以下の4つです。

1. いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける
2. 長いスパンで考えて、今しかできないことをする
3. 外へ出て視野を広げる
4. 失敗を恐れず挑戦して、振り返る

以上を理解するために、本授業は全てグループワークを通して実践をします。よって講義はほとんどありません。また、たくさんの先輩や社会人のゲストが登壇します。目標となるかもしれない先輩や社会人(ロールモデル)との対話を通して、理解を深めてほしいからです。

まとめると、授業で実際に行動してみることで、そしてロールモデルとの対話を通して、自らのキャリアをデザインするために必要な4つの行動を理解し、他の授業や課外活動、そして日常生活において実践して頂くことが目標です。最終授業では、以上の4つの行動を実践し、将来の見通しを具体的にし、叶えるために、どんな学生生活を過ごせばいいのかをプランしていただきます。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料を学習支援フォルダにアップしますので、印刷して持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。以下書籍はその参考例です。

キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社

○金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

大久保幸夫『キャリアデザイン入門1 基礎力編』日本経済新聞社

○渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版

○モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社

○エドガー H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房

○平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房

○中原淳・長岡健『ダイアローグ 対話する組織』ダイヤモンド社

○香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社

○金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社

J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社

○見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

キャリア・デザイン 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※獲得目標の4つの行動：【1】いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける、【2】長いスパンで考えて、今しかできないことをする、【3】外へ出て視野を広げる、【4】失敗を恐れず挑戦して、振り返る

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 アイデンティティ（大学生だからできること）【1】【2】【3】【4】
- 3回 地域活動に挑戦する（先輩登壇）【2】【3】【4】
- 4回 アクティブ・リスニング（傾聴）【1】
- 5回 働くということ（社会人登壇）【2】【3】【4】
- 6回 アイデンティティ（自分の長所を活かす）【1】
- 7回 ロールモデルインタビュー（社会人を取材する）【1】【2】【3】【4】
- 8回 アサーション・トレーニング（爽やかな自己表現）【1】
- 9回 将来の見通しを立てる（企業団体研究）【2】
- 10回 ダイアログ（対話）とワールドカフェ【1】
- 11回 リーダーシップ【1】
- 12回 ロールモデルインタビュー（先輩を取材する）【1】【2】【3】【4】
- 13回 就職活動を知る（先輩登壇）【2】【3】【4】
- 14回 計画された偶発性とセレンディピティ【1】【2】【3】【4】
- 15回 まとめ&発表（将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業でのグループワークの相互評価および、小テストもしくは実践レポート、グループ発表の相互評価：75%
課題レポート（2回）：15%
最終レポート（相互評価）：10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】

※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。

※真鍋先生の「キャリアデザイン」（木曜・金曜）もほとんど同じ内容です。

※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは真鍋先生の「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。

※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】

※1年生が優先的に受講できます。ただし、教室のキャパシティに余裕がある場合には、2、3、4年生も受講可能です。また、優先的に受講できる1年生であっても受講希望者が多数であれば、受講者数調整の対象になります。

※真鍋先生の「キャリアデザイン」（木曜・金曜）と合わせて全8コマあります。グループワークの運営上、可能な限り各コマ均等な数に調整するため、第1回の授業で希望するコマを確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます（グループを固定する回もあり）。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いてもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学士力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするとということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話や動画を聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①
【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ
【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

コミュニケーションと思考法【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。

また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実 ③将来の進路の手掛かりやヒント ④大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1. 企業団体の概要 (現在および今後の方向性について)
2. 仕事の概要 (大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい)
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ (学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス)

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します (用意できない時もあります)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
 第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です。

<2014年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / 株式会社ジェイアイエヌ / 株式会社東急ハンズ / ハウステンボス株式会社 / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社日本アクセス / 東京海上日動火災保険株式会社 / 株式会社JTB九州 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 伊藤忠工ネクス株式会社 / 株式会社山口フィナンシャルグループ (山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行) / 株式会社再春館製薬所 / 全日本空輸株式会社

<2013年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / フリーアナウンサー長崎真友子氏 / TOTO株式会社 / 株式会社再春館製薬所 / ショーワグループ株式会社 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 株式会社スターフライヤー / コストコ ホールセール ジャパン株式会社 / 株式会社ベネッセコーポレーション / 株式会社ジェイアイエヌ / 山崎製パン株式会社 / RKB毎日放送株式会社 / ハウステンボス株式会社

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習とレポート...90% 最終レポート...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。

※1年次に「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。

※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生生活、アイデンティティ

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 憲法の役割と基本原則を知る① 【最高法規】 【個人の尊厳】 【基本的人権】 【国民主権】
- 3回 憲法の役割と基本原則を知る② 【平和主義】 【権力分立】 【違憲法令審査制】 【個人と国家】
- 4回 民法の役割と基本原則を知る① 【私的自治】 【所有権の絶対】 【過失責任】 【家族法の特質】
- 5回 民法の役割と基本原則を知る② 【公共の福祉】 【信義誠実の原則】 【権利濫用】 【取引の安全】
- 6回 刑法の役割と基本原則を知る① 【罪刑法定主義】 【犯罪の要件】 【刑罰】
- 7回 刑法の役割と基本原則を知る② 【刑事手続】 【裁判員制度】 【刑事責任と民事責任】
- 8回 法の特性と構造、機能を知る① 【社会規範】 【法規範の特性】 【社会統制】 【活動促進】
- 9回 法の特性と構造、機能を知る② 【紛争解決】 【行為規範】 【裁判規範】 【法源】
- 10回 法の適用と解釈の仕方を知る 【裁判所】 【裁判の役割】 【法解釈の方法】 【文理解釈】 【類推解釈】
- 11回 判例の読み方を知る 【判例集】 【判例の調べ方】 【事実の概要】 【判旨】 【参照条文】
- 12回 判例を読む① 【判例部分の抽出】 【判例研究の意義】 【判例研究の仕方】
- 13回 判例を読む② 【判例評価の方法】 【判例と学説】 【特別受益】 【生命保険金】
- 14回 法律の視点から社会を読む 【相続】 【親子関係】 【婚姻】 【離婚】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'15』信山社(1,000円)をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
 社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。
 なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
 - 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（１）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（２）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（３）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施
- 第10回 データファイルの作成（実習）1
- 第11回 データファイルの作成（実習）2
- 第12回 分布と統計量
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末レポート... 60%
 （総合的に判断する。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題をきちんと提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール(スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング(ウインドミル)
- 4回 バッティング(トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(受講上の注意)
- 2回 バレーボール(1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン(1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール(1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス(2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目(1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目(2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目(3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：
本演習では、1年生を対象に大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的な目標は、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。テキストは現代社会をあつかったテーマで、近年話題となった文庫を選ぶことが多いです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジュメの作りかた、論点のを見つけ方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、自分で関連する文献をさらに探し、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指します。

教科書 /Textbooks

松田美佐2014『うわさとは何か』中公新書

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編)2006『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編)2009『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 レジュメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポートの書きかた
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第15回 文章のブラッシュアップ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第14回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・第1回の授業は必ず出席してください。
- ・教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましいです。
- ・問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
- ・レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見

教養基礎演習I【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入れ、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 グループディスカッション(1)
- 2回 グループディスカッション(2)
- 3回 グループディスカッション(3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1)
- 10回 キャンプ実習についての講義(2)
- 11回 キャンプ実習についての講義(3)
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

キャンプ実習は別途実習費(約4000円)がかかりますので注意してください。
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当: 高西) と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2001）『環境問題とは何か』PHP新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジュメを精読してのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジュメ・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名
 /Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修(バス)予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途教養基礎演習「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけではなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定回にスーツを着用しての受講となります。
クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。

「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思っております。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練：

教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行います。レポートが書けることと、内容の濃い (=評価される) レポートが書けることは違います。本演習では、教養基礎演習Iの受講者の問題関心に近いテキストを輪読し、ディスカッションを通して、各自のテーマをさらに掘り下げることを通して課題発見能力を養います。その成果を活かし、学期末にはまとまった分量の程度度のレポートを書くことを目指します。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習に候補の本をいくつか持っていき、出席者と相談して決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか (編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会 (編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマを決めて文章を書くとはどういう事か？今学期のテキストについて
- 第2回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評と反省
- 第3回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第4回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポート構想報告
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 報告会と演習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言、その他の提出物など)50%
※レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。
※報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とします。ですが、レポートはとりあえず書けるけれど、いい(評価される)レポートとはどんなものか意欲的に考えてみたい方は教養基礎演習IIのみ受講しても構いません。自分がどのようにものに興味関心があるかをまとめて第1回目の授業に来てください。
- ・レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、それまでの準備に時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期は基本的な書き方を学ぶのに対し、2学期はより完成度の高いレポートを書くために、自分の意見を説得力をもって話し、議論することも重視します。積極的な発言を心がけてください。

キーワード /Keywords

議論、多角的視野、説得力のあるレポート

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解すること(1)
- 3回 自分自身を理解すること(2)
- 4回 自分自身を人に理解させること(1)
- 5回 自分自身を人に理解させること(2)
- 6回 人を理解すること(1)
- 7回 人を理解すること(2)
- 8回 スキー実習についての講義(1)(場所の選定)
- 9回 スキー実習についての講義(2)(スキーの安全性)
- 10回 スキー実習についての講義(3)(スキー技術)
- 11回 スキー実習についての講義(4)(スキー実習について)
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加ができない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

スキー実習は別途実習費が必要です。
スキー実習は、教養基礎演習II(担当・高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。
「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

教科書 /Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書） ￥840 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
- 第3回：テキストの輪読①
- 第4回：テキストの輪読②
- 第5回：テキストの輪読③
- 第6回：テキストの輪読④
- 第7回：テキストの輪読⑤
- 第8回：テキストの輪読⑥
- 第9回：テキストの輪読⑦
- 第10回：テキストの輪読⑧
- 第11回：テキストの輪読⑨
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会 + まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来） 20%
専門的基礎知識の理解度 30%
期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。
さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

キーワード /Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

教養基礎演習Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬~9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
 バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分) + 現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
 現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
 バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分) + 現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50% + レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A1 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

民族問題・多文化との共生について考える：

本演習では、民族問題や多文化の共生に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて民族問題や多文化の共生に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、民族問題や多文化の共生に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備しておくこと。
 (候補：塩川伸明『民族とネイション』、塩原良和『共に生きる』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当者の講義で学生の関心が高い「民族」に関する問題をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、民族、共生

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修(バス)予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

宗教と文化について考える：

本演習では、現代世界の宗教と文化に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて現代世界の宗教と文化に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストについて各自批判的によみ、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代世界の宗教と文化に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備しておくこと。

(候補：山中弘編『宗教とツーリズム』、吉田匡興ほか編『宗教の人類学』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョン科目「異文化理解の基礎(人間と文化)」で、ここ数年学生の関心が高い宗教に関わる文化をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、宗教性

教養演習AII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

教養演習AIIの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI (教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI) を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中 (8月中下旬～9月上旬) にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する (500円程度 + αのみがかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする (90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修 (3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学 (7時間30分)
 バス内での講義・ビデオ鑑賞 (2時間30分) + 現地での研修 (5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学 (5時間)
 現地での研修 (5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学 (7時間30分)
 バス内での講義・ビデオ鑑賞 (2時間30分) + 現地での研修 (5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50% + レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

民族問題・多文化との共生について考える：

本演習では、民族問題や多文化の共生に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて民族問題や多文化の共生に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、民族問題や多文化の共生に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。

(候補：塩川伸明『民族とネイション』、塩原良和『共に生きる』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当者の講義で学生の関心が高い「民族」に関する問題をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、受講してなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、民族、共生

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修(夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う)を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

準備などは特に必要ない。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

宗教と文化について考える：

本演習では、現代世界の宗教と文化に興味がある学生を対象とします。受講者の関心に応じて現代世界の宗教と文化に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします。したがって、演習参加者には、輪読のテキストについて各自批判的によみ、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学ぶのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、現代世界の宗教と文化に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。

(候補：山中弘編『宗教とツーリズム』、吉田匡興ほか編『宗教の人類学』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 映像からわかること、文章からわかること(講義)
- 第3回 映像からわかること、文章からわかること(議論)
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について(講義)
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョン科目「異文化理解の基礎(人間と文化)」で、ここ数年学生の関心が高い宗教に関わる文化をテーマに演習を行います。担当者の授業を履修済みの受講者が来てくれると嬉しいですが、受講していなくても、このようなテーマに興味があれば歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、宗教性

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

教養演習BIIの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬~9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
 バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分) + 現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
 現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
 バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分) + 現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50% + レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養演習BII(防衛セミナー)【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2015年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は原則2年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名
/Instructor

見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
					○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2015年1月現在の、プロジェクト演習IIの対象プロジェクト：JOBプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は原則2年次です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認して、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科, 木下 靖子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる

教科書 /Textbooks

とくになし。適宜、参考文献を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 木下
 - 第1講 自然学で学ぶこと
 - 第2講 今西錦司という人がいた
 - 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
 - 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
 - 第5講 自然学における日常実践
 - 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
 - 第7講 人類学のフィールドから
 - 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
 - 第9講 近世の旅と自然
 - 第10講 山村暮らしと故郷
 - 第11講 山と森の自然観
 - 第12講 竹の産業史
 - 第13講 竹の文化
 - 第14講 木の文化
 - 第15講 山と自然学

成績評価の方法 /Assessment Method

- (木下)
 - 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
 - レポート...25% 日常の授業への取り組み...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自然学のまなざし【昼】

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。

講義は教室の中だけでは終わりません。
そんなつもりで受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学のもっとも大学らしい自由な講義を心がけています。
教えられるのではなく覚えるのでもなく、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
田近英一著『地球環境46億年の大変動史』(化学同人), 1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と地球環境】
- 15回目: まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 90%, ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ, 地球史, 生命と地球の共進化

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師, 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかになってきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
心理学に対する誤解
- 第2回 心理学の研究法
心理学は科学である。【実験】【観察】【調査】
- 第3回 著名な心理学研究
人は命じられれば人を殺すのか?【ミルグラム実験】【スタンフォード監獄実験】【スモールワールド実験】
- 第4回 他分野との繋がり
心理学者はノーベル賞を取れるのか?【行動経済学】【人間工学】【プロファイリング】
- 第5回 やればできる?成長する考え方と成長できない考え方はどう違うのか?
【動機づけ】【マインドセット】
- 第6回 その気にさせる心理学
【動機づけ】【動因】【誘因】【フィードバック】
- 第7回 コミュニケーションとは?
【認知】【スキーマ】【メンタルモデル】
- 第8回 わかりやすい文章作成,勝てるプレゼンテーション
【影響力】【説得】【社会的認知】
- 第9回 人づき合いの技術
【社会的スキル】【アサーション】【報告コミュニケーション】
- 第10回 三人寄れば文殊の知恵?船頭多くして船山に登る?
【集団討議】【集団思考】【創造性】
- 第11回 組織を動かす心理学
【リーダーシップ】【リスクマネジメント】【レジリエンス】
- 第12回 ストレスは人生のスパイス
【ストレス理論】【ストレスマネジメント】【ソーシャルサポート】
- 第13回 人間の発達の心理学
人間の心理的な発達について学ぶ。主な発達理論の紹介と概念の説明。特に生涯発達の視点から人生を俯瞰する。【生涯発達】【エリクソンの発達論】
- 第14回 感情はコントロールできるか?
精神の働き、「知・情・意」のなかの「情」を取り上げる。日常問題となる感情のさまざまを上手にマネジメントできるかなどを考えたい。
【感情の法則】【3大陰性感情】
- 第15回 幸せの人間関係を求めて
私たちの悩みの多くは人間関係の悩みである。良好な人間関係を構築するためには何が大切か。どのようなスキルが求められるかなどを学ぶ。
【積極的傾聴法】【私メッセージ】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・75% (範囲:第2~12回)
課題(レポート)・・・25% (範囲:第13~15回)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代人のこころ【昼】

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
- 橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 日本人の宗教観
- 3回 宗教の諸類型
- 4回 宗教の構成要素
- 5回 一神教について1（ユダヤ教）
- 6回 一神教について2（キリスト教とイスラム教）
- 7回 一神教について2（一神教の論理）
- 8回 仏教について1（インド仏教と日本仏教）
- 9回 仏教について2（中国の宗教と中国仏教）
- 10回 仏教について3（日本仏教の諸宗派）
- 11回 仏教について4（日本仏教の祖先崇拜・本覚思想）
- 12回 神道について1（日本の神と祭り）
- 13回 神道について2（神道の成立）
- 14回 神道について3（神仏習合）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50% 平常の学習状況... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布した資料については下読みしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを認識し、日本の宗教風土の特色を理解してもらおう授業です。

キーワード /Keywords

宗教、ユダヤ教、キリスト教、仏教、神道

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

今年度は、サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に着けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、精神分析・音楽・文学・映画・倫理等のジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通してユダヤ性の広がりや豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
 - 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点(1)【概説】
- 3回 ユダヤ人の原点(2)【トーラー信仰】
- 4回 ユダヤ人の歴史(1)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(2)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(3)【近代から現代へ】
- 7回 中間総括(確認テストの実施)
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 音楽の思想【シェーンベルク】
- 11回 文学の思想【カフカ】
- 12回 倫理の思想【ヨナス】
- 13回 映画の思想【ハリウッドの亡命ユダヤ人・前半】
- 14回 映画の思想【ハリウッドの亡命ユダヤ人・後半】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 40% 期末テスト... 60%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第7回に確認テスト(第3回~第6回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「いろいろ忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに来る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。同じ原則は卒業予定の4年生に対しても等しく適用される。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【CM】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【オリンピック】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦まとめ
- 10回 【特別講義】
- 11回 【表象分析事始め】 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 12回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 13回 映画を事例として③【作り手の複数性】
- 14回 映画を事例として④まとめ
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 25% 期末レポート ... 75%
平常点は課題、コメントカードなどによって評価される。小テストをおこなう場合あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなののでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第5回 機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第6回 外部講師による特別講義(予定)
- 第7回 語用論(山崎)
- 第8回 ことばと文化(山崎)
- 第9回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第10回 会話の規則(平野)
- 第11回 日本語の方言(平野)
- 第12回 ことばのバリエーション(平野)
- 第13回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第14回 グローバル化とコミュニケーション(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
 4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジユメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』（法律文化社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で配布したレジユメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名
/Instructor

大澤 津 / 政策科学科, 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
					○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

20世紀は「民主主義の世紀」と呼ばれたように、私たちに民主主義が当たり前のルールになっているかもしれません。しかし、民主主義に対する評価は分かれ、人々はより良い統治のあり方をめぐって、古来より様々な思索、実験を重ねてきました。

このように、民主主義という概念はその歴史も長く、様々な概念から構成されます。そのため、本講義では民主主義を構成する思想、制度を理解するとともに、民主主義の型と作動様式を学びます。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜、紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション

第2回 古代ギリシアの民主制

第3回 近代デモクラシーの基礎① 【秩序か権利か：ホブズとロック】

第4回 近代デモクラシーの基礎② 【一般意志と同調圧力：ルソーとトクヴィル】

第5回 近代デモクラシーの基礎③ 【日本への輸入：福澤諭吉と中江兆民】

第6回 現代の民主主義理論 【討議デモクラシー】 【ラディカル・デモクラシー】

第7回 現代日本の民主主義理論① 【集合行為問題・境界線の政治学】

第8回 現代日本の民主主義理論② 【〈私〉時代のデモクラシー】

第9回 民主政治の形成と崩壊① 【自由民主主義体制】 【権威主義体制】 【全体主義体制】

第10回 民主政治の形成と崩壊② 【共存理論】 【対立理論】 【ポピュリストモデル】

第11回 民主政治の形成と崩壊③ 【調和理論】 【民主化支援】

第12回 民主主義と有権者① 【政治参加】 【エリート民主主義】 【参加民主主義】

第13回 民主主義と有権者② 【政治的有効性感覚】

第14回 民主主義と有権者③ 【シティズンシップ教育】

第15回 民主主義と議会【代表・立法・審議・行政監視機能】 【二院制】 【ねじれ国会】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 (80%)、講義への参加態度 (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみ人権課題を知る。
- 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50%
期末テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

私語は厳禁

出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振られるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身につけておく。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定ている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 今泉 恵子 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科, 高橋 衛 / 法律学科
 植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科, 中村 英樹 / 法律学科
 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(高橋)
- 第2回 法と道徳について(重松)
- 第3回 障害のある人の権利—日本国憲法から(植木)
- 第4回 生命の「自己決定」権?(中村)
- 第5回 行政活動と法治主義(福重)
- 第6回 犯罪とは何か(大杉)
- 第7回 刑事裁判とはなんだろう?(水野)
- 第8回 家族とは何か(小野)
- 第9回 契約とは何か(民法入門:契約の意義,種類,成立から終了まで)(福本)
- 第10回 商事(ビジネス)に関する法の特徴は何か(今泉)
- 第11回 民事訴訟とは何か(小池)
- 第12回 社会保障の必要性和社会保険について考えよう(津田)
- 第13回 雇用とは何か(雇用関係の成立,雇用関係の展開,雇用関係の終了)(石田)
- 第14回 国際社会と日本(二宮)
- 第15回 日本人の法・権利意識と歴史的基層(山口)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる(100%,④に注意)。

- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群のなかから、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。
- ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
- ③ レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
- ④ 授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回のテーマについて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

共生の作法【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点(自然・経済・市民)から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設(環境ミュージアム、エコタウンなど)見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 2014年 900円+税
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然・生態系(外部講師)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 6・7回 施設見学①～環境ミュージアム
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 9回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 10回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 11回 環境首都検定に向けて・小テスト(日高)
- 12回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 13回 社会が求める環境人材とは(外部講師)
- 14回 学生による環境問題への取り組み
- 15回 施設見学②～各自で実施

成績評価の方法 /Assessment Method

10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。環境首都検定受検および2回の施設見学参加は原則必須とする。
環境首都検定の成績(30%)、小テスト(30%)、期末レポート(20%)、授業への参加・授業中の課題など(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・環境首都検定は12月13日(日)の予定。
- ・施設見学①は11月15日(日)に北九州市環境ミュージアムを見学する予定。
- ・施設見学②は各自で都合の良い日を選んで関連施設を見学すること。尚、9月30日(水)にエコタウンバスツアーを予定しているが、こちらへの参加を以て施設見学②に当てることができる。事前に申込が必要なので掲示物に注意すること。
- ・スケジュールは変更の可能性もある。授業スケジュールについては第1回目ガイダンス時に配布する予定。
- ・環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を作るため、環境について一緒に勉強しましょう。
本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワンとも賞賛された。こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク＝破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年さらには20年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（lifetime commitmentの日本語訳、広義には職場共同体という意識）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波（マーケット中心主義）にさらされている。日く、ワーキングプア（働いていても生活がいよいよ苦しい）・ネットカフェ難民（帰るべく家がない）・格差から貧困（経済的格差・貧困から意欲の格差が目される）・99%対1%、そしてついにはブラック企業の台頭、等々である。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義路線。すなわち「市場＝マーケット」万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである（例えば、退場をしたサッカー選手には、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない。さらには、待ち構えている企業そのものがブラック企業でもある）。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される（社会統合機能）。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである（社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機）。

そうすると行き着くところ、社会（資本制経済あるいは資本家的生産社会）というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としながらいかに振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。
また、レジュメも配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書等の最新の文献、②『私たちは“99%”だ』(岩波書店、2012)』(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義の経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。ブラック企業関連の最新の文献。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002、その他、この論争を紹介している最近の資料を紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品に表された労働の二重性(現代社会の二重性)～「誠の恋は、何故、みのらない」?
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語 【資本主義】【市民社会】【ブルジョア社会】
- 3回 市場とは～[私達]の振る舞いである「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」
- 4回 市場とは～[資本家]の振る舞いたる「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」
- 5回 商品流通の次元と平等～何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか 【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出～本源的蓄積過程 【本源的蓄積過程】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生・英国のケース 【本源的蓄積過程】【ゼントルマン資本主義】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉 【剰余価値】【利潤】【公表利益】(【公開】【開示】)
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生そしてブラック企業 【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】【労働組合】
- 10回 ブラック企業の台頭～日本という社会そのものの脆弱性 【衰退する既存の労働組合】【台頭する新たな労働組合】
- 11回 資本主義と危機＝福祉国家(混合経済)の登場 【恐慌と危機】【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機＝赤字財政というシステム統合危機・市場回帰の新自由主義の台頭 【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食・システム統合危機から社会統合危機へ 【危機】【社会統合】
- 14回 システム統合と社会統合・マーケットとその外側(生活世界) 【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ～このかけがえのない個体としての私

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業と社会【昼】

履修上の注意 /Remarks

①、テキストを用意すること。②、レジユメだけにしがみつかない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻繁に聞きます(ホワイト企業という言葉もあります。それはともかく、白と黒という二重性にまず注目しましょう)。ブラック企業の台頭は就活にとって無視できません。私たちは、次々とした魔物(私達の社会的産物)にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも同時に、観察対象そのものであることを常に意識してもらいたい。それというのも、私達の社会的産物そのものが、私達自身に刃向かってくるのだから。

キーワード /Keywords

【商品流通】 【資本家】 【労働者】 【市民社会】 【資本制経済】 【市民法】 【本源的蓄積過程】 【剰余価値】 【賃労働関係】 【ブラック企業】
【福祉国家】 【ケインズ政策】 【新自由主義】 【システム統合】 【社会統合】 【生活世界】

つながりの人間学【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、主に以下の点をねらいとします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた、受講生の地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動への参加通じた学びの実践

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①
- 第3回目 サービスラーニング概論②
- 第4回目 地域活動概論① 地域活動の紹介
- 第5回目 地域活動概論② コミュニティワークの紹介と応用
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①(予定)
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②(予定)
- 第8回目 ボランティア活動の紹介
- 第9回目 ボランティア参加に向けて①
- 第10回目 ボランティア参加に向けて②
- 第11回目 事前報告①
- 第12回目 事前報告②
- 第13回目 事前研修①
- 第14回目 事前研修②
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

事前レポート(30点) + 講義中の課題(70点) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本科目は、サービスラーニングへの実際の参加を前提としています。
従って、自ら参加したいボランティア活動を探し、実際に参加してもらうことになります。
当然、単位もボランティアに参加する学生に対して与えられますので、この点、十分にご留意ください。
詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。
また、この講義は、基本的に第2学期開講の「サービスラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)、昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値(4)【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値(5)【自己意識】
- 8回 現代における人命の価値(6)【FLO】
- 9回 現代における差別の問題(1)【種差別の問題】
- 10回 現代における差別の問題(2)【種差別の諸相】
- 11回 現代における差別の問題(3)【工業化と経済格差】
- 12回 現代における公平性の意義(1)【人口問題】
- 13回 現代における公平性の意義(2)【食糧問題】
- 14回 現代における公平性の意義(3)【公平主義】
- 15回 現代における公平性の意義(4)【援助義務論】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

現代社会の諸問題 【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

この講義は西日本新聞社による寄付講座である。毎回、新聞ジャーナリズムの第一線で活動している記者やデスクなどの講義を聞き、現代社会と人間の関係について総合的な理解を深めることを目的とする。受講者各自には、新聞を通して、現代社会が直面する課題を発見し、解決のために自ら学ぶ姿勢を持つことが求められる。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出す予定なので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状 (編集企画委員長)
- 第2回 追跡・振り込め詐欺 / 深刻化する高齢者への犯罪 (社会部記者)
- 第3回 九州経済をどう見るか / 経済記者の視点 (経済部長)
- 第4回 人口減少社会を追う / 超高齢者社会の先にあるもの (社会部記者)
- 第5回 デジタル時代の新聞 / 電子メディアへの挑戦 (q B i x 編集長)
- 第6回 ニュースの価値付け / 見出しはこう決まる (編集センターデスク)
- 第7回 アジアと九州を考える / 国際報道の現場から (前中国総局長)
- 第8回 地域文化を見つめて / 文化部記者の仕事とは (文化部デスク)
- 第9回 新聞をデザインする / ビジュアルな紙面とは (デザイン部デスク)
- 第10回 スポーツ報道の世界 / 運動記者が伝えるもの (運動部デスク)
- 第11回 分かりやすさの追求 / こども向け紙面 (もの知りタイムズ編集長)
- 第12回 報道写真のカ/カメラマンの心得とは (写真部記者)
- 第13回 働く現場とは / 企画「働く 生きる」を取材して (生活特報部記者)
- 第14回 戦後70年を迎えて / 国の安全保障を考える (社会部記者)
- 第15回 北九州の現場から / 半世紀を経た都市づくり (北九州本社記者)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート (3回)・・・100%
ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可 (D) とする。詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日々の新聞をよく読み、世の中の動きに敏感になること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通じて社会とあなたがどうつながっているか、考えるきっかけにしてください。また、ネットなど多メディア時代における新聞の役割、価値について、少しでも理解を深めてくれればうれしいです。

キーワード /Keywords

メディアリテラシー (メディアを読み解く力)

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 久木 尚志 / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 堀地 明 / 中国学科
尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、複数の教員および招聘講師が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

- 第1回 山本 オリエンテーション
- 第2回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国の海洋進出、南シナ海・東シナ海、シーレーン、アジア・リバランシング戦略
- 第3回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 開発協力大綱、防衛装備移転三原則
- 第4回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(1) 概論
- 第5回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(2) ミュージカル
- 第6回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(3) 演劇
- 第7回 三浦 国境を越える放送文化
- 第8回 下野 中国と民主化
- 第9回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第10回 久木 2010年代のイギリス(1) 2010年総選挙
- 第11回 久木 2010年代のイギリス(2) 2015年総選挙
- 第12回 堀地 北京探索 - 悠久の歴史と再開発の現在 -
- 第13回 尹 東アジアの経済事情(1) 東アジアとは何か、日本との経済関係
- 第14回 尹 東アジアの経済事情(2) 東アジアの地域統合、九州との経済交流
- 第15回 山本 ヨーロッパの多国間主義と国際情勢

都合により、講義の順番を変えることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(8回) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それとともに、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、第2次世界大戦後の国際人口移動(労働移民、難民、非合法移民、高度技能移民など)について概説する。その上で、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて、実証研究に基づいて、考察していきたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの説明 / 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 グローバル化と国際人口移動
- 第4回 さまざまな国際人口移動 - 労働移民、難民、非合法移民、高度技能移民、ディアスポラ
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1) - エスニシティと階級
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2) - 移民と教育、移民と政治
- 第7回 日本社会と移民(1) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会1
- 第8回 日本社会と移民(2) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会2
- 第9回 日本社会と移民(3) - 在日韓国・朝鮮人と日本社会3
- 第10回 日本社会と移民(4) - 日系ブラジル人と日本社会1
- 第11回 日本社会と移民(5) - 日系ブラジル人と日本社会2
- 第12回 排外主義・排外意識(1) - 排外意識の状況
- 第13回 排外主義・排外意識(2) - 排外意識形成のメカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

国際紛争と国連【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類 (Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界(改訂版)』(三修社・2007)○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る 【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 紛争を知る 【難民】【発生日】【受入国】
- 第5回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第6回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第7回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第8回 国連による平和の創出③：司法的解決 【国際司法裁判所 (ICJ)】【法の支配】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動 (PKO) の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動 (PKO) の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名
/Instructor

北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODククション
- 2回 東南アジアの多文化社会とエスニシティ
- 3回 「本物・本質」探し：「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
- 4回 「独立か否か」：インドネシア・アチエの事例
- 5回 文明の「本場」と「周縁」：東南アジアの華人
- 6回 「想像の共同体」の読み方
- 7回 共存のための区切り
- 8回 前半のまとめ
- 9回 アメリカ合衆国におけるエスニシティと社会
- 10回 同化・統合の諸概念：るつぽとサラダ・ポウル
- 11回 黒人史と公民権運動
- 12回 マイノリティをめぐる政策：アフターマティブ・アクション
- 13回 自らを知る：日系アメリカ人
- 14回 今日のエスニシティ状況：ヒスパニックと不法移民
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(協治)」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「開発と統治」をはじめるとあたって		担当：三宅
第2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回 理論と現実～開発の陰でのガバナンスの変化		担当：伊野
第6回 韓国セウォル号沈没事件に見る韓国のガバナンス		担当：ソンミンホ・三宅
第7回 セウォル号 問題の解決はどのようになされたのか? 危機管理とガバナンス	担当：ソンミンホ・三宅	
第8回 韓国版水俣病の発現の実態		担当：ソンミンホ・三宅
第9回 健康被害を出さないための取組みはどこまで実施されているか? バナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第10回 韓国の民主化とガバナンス		担当：ソンミンホ・三宅
第11回 アメリカにおけるガバナンスと環境	【米国】	担当：申
第12回 エネルギー問題にみるガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第13回 食品ロス削減運動に見るガバナンス	【食品ロス削減運動】	担当：三宅
第14回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第15回 まとめ～ガバナンスに関してのグループワーク	【グループワーク】	担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
永田 公彦 / グローバル人材育成推進室, 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易保護】
- 3回 地域貿易協定【FTA】【TPP】
- 4回 企業の海外進出と立地【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地【人件費】【為替レート】
- 6回 企業の国際展開(1)【グローバル企業の類型】【グローバル統合】【ローカル適応】
- 7回 企業の国際展開(2)【イノベーション】【ブランド】
- 8回 グローバル化と人材①【トヨタ生産方式】【熟練】
- 9回 グローバル化と人材②【マザー工場】【人材育成】
- 10回 グローバル化と途上国の成長・発展【開発経済】【労働移動】
- 11回 グローバル化と先進国の経済【格差】【ジニ係数】
- 12回 人と情報のボーダレス化【多国籍組織】【ダイバーシティ】【世界同時情報共有】【ネットワーキング】
- 13回 グローバル文化と異文化マネジメント【グローバルノマド】【グローバル人事】
- 14回 バブルと国際金融危機【バブル】【不良債権】
- 15回 バブルと国際金融危機【リーマンショック】【証券化】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
定義が困難な理由について
①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
テロリズムの定義
①911の特殊性と国土安全保障の考え方
②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
「大量」殺戮テロの始まり
化学テロと生物テロ
化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
地下鉄サリン事件の概要
サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
911の特異性
911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
ビンラディンのプロファイル
アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構想・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

ガイダンスの時にあらためて紹介する。
第8回～第15回については、五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。
前半部分の朝鮮半島にかんする記述では、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』(慶応義塾大学出版会 2013)が役立つ。その他、前半で使う参考書として、図書館所蔵のものをあらかじめ示すと、
日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史 東アジア3国の近現代史』(高文研、2005)
日中韓3国共通歴史教材委員会編『新しい東アジア近現代史』上・下(日本評論社、2012)がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国、日本、朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【自由貿易】【朝鮮問題】
- 3回 日清・日露戦争 【日英同盟】【日露交渉】
- 4回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【韓国併合】
- 5回 日本の朝鮮統治、大陸経営と国際関係 【三・一運動】【五・四運動】
- 6回 国際情勢の緊迫 【満州事変】【日中戦争】
- 7回 第二次世界大戦開戦から日本の敗戦へ【太平洋戦争】【朝鮮問題】
- 8回 冷戦のはじまり 【日本占領】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 9回 帝国支配の解体 【脱植民地化】【日米安全保障条約】
- 10回 革命の時代 【中国革命】【中ソ同盟】【朝鮮戦争】
- 11回 ヴェトナム戦争と戦後秩序の変容 【高度経済成長】【ヴェトナム戦争】【ニクソン政権】
- 12回 デタントから新冷戦へ 【デタント戦略】【米中接近】【石油危機】
- 13回 冷戦の終結 【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 21世紀の世界 【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習と復習を行い、関連文献を自主的によむこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがちな細な事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

1. この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
2. この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実の一つに限られてはいません。
3. この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『想像の共同体』(NTT出版)
- 小熊英二『単一民族神話の起源』(新曜社)
- 新渡戸稲造『武士道』(岩波文庫)
- ルース・ベネディクト『菊と刀』(社会思想社)
- 野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
- 佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
- 網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
- 門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
- 鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 明治維新と国民国家
- 3回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 4回 新渡戸稲造の『武士道』
- 5回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 6回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 7回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 8回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 9回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 10回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す」
- 11回 「国語」とは何か
- 12回 網野善彦と日本史の多様性
- 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
- 14回 「桃太郎」と吉備王国
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

歴史の読み方I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された見玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『見玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 見玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

見玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1980年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、東南アジア、ドイツ、中国、アメリカ（順序不同）、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN (小林)
 - 第2・3・4回 日本 (小林) 【バブル経済】、【昭和の終焉】
 - 第5・6・7回 東南アジア (伊野) 【ビルマの民主化運動】
 - 第8・9回 ドイツ (岩本) 【ベルリンの壁崩壊】 【ドイツ統一】
 - 第10・11回 アメリカ (寺田) 【レーガン政権】
 - 第12・13回 中国 (下野) 【天安門事件】
 - 第14・15回 ポーランド (スピルマン) 【「連帯」運動】 【ソ連崩壊】
- 以上、順序不同。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%小テスト...40%レポート...40%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「小テスト」を課します。一回でも未受験があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます（課題は別途指示。1,200字×2本）。コピーは不正行為と見なします。3、適宜出欠を取ります。4、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※講義の順番や担当者（地域）は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

皆さんは、「Japanas No 1」と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No 1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。したがって、「Japanas No 1」と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。このことをふまえた本講義では、主に1950年代から60年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義
- 第2回 I 現代社会の理想と現実
 - 1. とある研究者の履歴を事例として
- 第3回 2. 家族モデルを巡る理想と現実
- 第4回 3. 戦後家族モデルのルーツ
- 第5回 II 「高度経済成長」への道程 - 主に人口論的観点から -
 - 1. 日本の敗戦と人口問題
- 第6回 2. 「高度経済成長」の目的 - 「所得倍増計画」とその背景 -
- 第7回 3. 「高度経済成長」の要因 - 「人口ボーナス」 -
- 第8回 4. 「裏日本」の誕生 - 「高度経済成長」と人口流動 -
- 第9回 III 「エコノミックアニマル」の誕生
 - 1. 上昇志向の時代
- 第10回 2. 「勤勉」の背景 - 何が日本人を「勤勉」にしたのか -
- 第11回 3. 「豊かさ」の象徴 - 「大衆消費社会」と家族 -
- 第12回 IV 現代社会と「豊かさ」
 - 1. 「バブル崩壊」
- 第13回 2. 新たな時代の人口問題
- 第14回 3. 「失われた20年」における「豊かさ」
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について「考える」社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代 人口問題

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり?【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーディズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 デザイン、広告、クレジット【情報化社会】【大量消費システム】
- 第12回 自動車の社会的費用【宇沢弘文】、【社会的費用】
- 第13回 原発事故を考える【原子力産業】、【地域振興】
- 第14回 原子力発電所と社会【NPT】、【反原発運動】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介いたしますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名
/Instructor

山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
					○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

二人の教員が、イギリス・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。

まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

次に山崎は、スコットランドを紹介したのち、日本の近代化に貢献したスコットランド人のトーマス・グラバーと雇われ外国人の果たした役割について述べる。次にスコットランドが生んだ偉大な経済学者であるアダム・スミスの『国富論』について述べる。市場原理と自由競争を唱えたアダム・スミスの考えはグローバル化時代の今日でも十分有効であると考えられるからである。

第2に私が二年間在籍したことのあるケンブリッジ大学を案内する。その後「ケインズ革命」で有名なメーヤード・ケインズその人物と理論を紹介する。世界恐慌に苦しんだイギリス経済を救済するために考え出したケインズ政策について解説し、安倍首相までもがアベノミクスで活用している実態を明らかにする。

第3にロンドンの大英博物館を紹介した後、『資本論』 (1869年) を大英博物館で書き上げカール・マルクスを紹介する。グローバル化の結果世界中で格差問題が起こっているが、140年前にすでに資本主義の発達と窮乏化に取り組んだマルクスの眼には狂いがなかったと言える。今日の資本主義のアキレス腱をマルクス理論で解明する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義 (山崎)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)

○藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)

○中村彰彦『保科正之』(中公新書)

山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』(ミネルヴァ書房、2008年)

人物と時代の歴史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、イギリスの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。

(新村)

第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】

第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と 儒教的経営

第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之

第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】(1)

第5回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】(2)

第6回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】(1)

第7回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】(2)

(山崎)

第8回 イギリスとはどんな国か

第9回 薩長の討幕運動を後ろから支援したトーマス・グラバー

第10回 明治維新後のトーマスグラバーと岩崎弥太郎

第11回 なぜスコットランド民謡が「蛍の光」になったのかー雇われ外国人たちを中心に

第12回 経済学の父、アダム・スミス『と国富論』とはどんな本か

第13回 ケンブリッジ大学とメーヤードケインズの『一般理論』

第14回 大英博物館とカール・マルクスの『資本論』

第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明ー

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ

データ処理【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、全て誰かが作成したプログラムによってできている。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指す。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになる。

プログラムは、コンピュータが理解できる言葉（プログラミング言語）で書く必要がある。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ているといえる。この授業で使用するプログラミング言語は、VBA（Visual Basic for Application）である。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっている。

この授業は、パソコンを利用して授業を行う。具体的には、以下のような項目を身につける：

- コンピュータが行っている情報処理の流れ
- 論理的な思考方法の基礎
- VBAを用いたプログラム作成の基礎

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラムとは何か【VBA】
- 2回 VBAによるプログラミングの方法と簡単なプログラムの作成【Range】【フォント指定】
- 3回 プログラミングの計画について【フローチャート】
- 4回 基礎的なプログラムの作成【Select】【With】【デバッグ】
- 5回 VBAを用いた表作成【Borders】【幅と高さ設定】【線種設定】【色設定】
- 6回 メッセージボックスとワークシート操作【MsgBox】【Worksheets】
- 7回 変数と条件分岐構文【変数の宣言】【変数のデータ型】【If文】
- 8回 条件分岐構文と乱数を利用したプログラム【ランダム関数】
- 9回 多重の条件分岐構文【If文のネスト】
- 10回 繰り返し構文1【For文】
- 11回 繰り返し構文2【変数の四則演算】【「=」の意味】
- 12回 繰り返し構文3【永久ループ】【変数のシミュレーション】
- 13回 多方向条件分岐構文【Select Case文】
- 14回 複数の構文を組み合わせたプログラムの実践【条件分岐構文】【繰り返し構文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、自主的に取り組むレポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなる。また、コンピュータの操作（タイピング等）をある程度経験しておくとう受講しやすくなる。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的な内容から解説する。

キーワード /Keywords

プログラミング、VBA、フローチャート

英語I (群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, and writing skills. The class is designed to meet the needs of law and regional development majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Student must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Chris Valvona and Ayano Valvona, Lessons from Leaders, Cengage Learning, 2014 (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction, 3 minute conversations 日にち・順番決め
- 第2回 Friendship
- 第3回 The Future of Gaming
- 第4回 Inner Scorecard
- 第5回 The Definition of Success
- 第6回 Think Week
- 第7回 Better Yourself
- 第8回 The Fast Lane
- 第9回 The Newspaper Test
- 第10回 Make a Difference
- 第11回 Dynastic Fortunes
- 第12回 Expert Opinion
- 第13回 Learn from Your Mistakes
- 第14回 Tax and Responsibility
- 第15回 Lucky Ticket

成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%
Class work and assignments : 70%
Final examination : 20%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 Chapter 14

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト(3回)... 30% 日常の授業への取り組み... 15%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群 1 - C
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況（小テストを含む）...60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (群 1 - D) 【昼】

担当者名 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群 1 - D
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

テキストは①SEIZE THE CORE OF THE TOEIC TESTと、②Cultural Portraits: Japan and the USを使用します。
①近年、企業の採用と昇進、大学の成績評価、大学院の進学等に於いて、英語力を測る目安としてTOEICスコアが利用されています。より高いスコアを目指すには、地道な努力はもとより、TOEICのテスト形式に慣れることが重要です。授業で全体の構成・分量・時間配分などを把握し、特にビジネス関連の語彙や表現を会得していきます。
②のテキストでは、日米文化を比較しその特徴を理解して、日本文化について改めて考察し、英語読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

① SEIZE THE CORE OF THE TOEIC TEST	Masako Yasumaru	KINSEIDO	1,900円
② Cultural Portraits: Japan and the US	Justin Charlebois	KINSEIDO	1,800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、参考資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① SEIZE THE CORE OF THE TOEIC TEST
- 第 1回 Introduction p.10 ~19 <ガイダンス> テキスト、成績評価の方法、自宅学習の方法等の説明
 - 第 2回 Unit 1 Daily Life [基本 5 文型]
 - 第 3回 Unit 2 Eating Out & Leisure Activities [品詞]
 - 第 4回 Unit 3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致]
 - 第 5回 Unit 4 Traffic & Travel [形容詞・副詞]
 - 第 6回 Unit 5 Advertising & ICT [時制]
 - 第 7回 Unit 6 Production & Logistics [接続詞・前置詞]
 - 第 8回 Review Test
- ②Cultural Portraits: Japan and the US
- 第 9回 Unit 1 College Life
 - 第 10回 Unit 2 Family Life
 - 第 11回 Unit 3 Food Culture
 - 第 12回 Unit 4 Holidays
 - 第 13回 Unit 5 Individualism
 - 第 14回 Unit 6 Socializing at Parties
 - 第 15回 Unit 7 Dating and Romance

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出) 30% 学期末考査 70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業時は辞書必携です。必ず予習をして授業に臨みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通じて、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test 「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」 安丸雅子・砂川典子 他著 金星堂 ¥1900(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [基本5文型]
- 3回 Unit1 Daily Life [基本5文型]
- 4回 Unit2 Eating Out & Leisure Activities [品詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Leisure Activities [品詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [形容詞・副詞]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [形容詞・副詞]
- 10回 Unit5 Advertising & ICT [時制]
- 11回 Unit5 Advertising & ICT [時制]
- 12回 Unit6 Production & Logistics [接続詞・前置詞]
- 13回 Unit6 Production & Logistics [接続詞・前置詞]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、TOEICテストのスコアを加味して総合的に評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。
- ・ 学期中にTOEICテストを必ず受験してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

1979年に英語のコミュニケーション能力を測定する世界標準テストとして開発されたTOEIC (Test of English for International Communication) は特にビジネスの世界を中心に英語力を測るものさしとして使われています。日本においても、企業・団体・学校で採用され、各種英語検定試験の中でも社会的二一ツの高試験となっています。授業では、TOEICテストに即したテキストを用い、英語の聴解力・文法力・読解力を高めていくことを目標とします。

教科書 /Textbooks

More Step-up Skills for the TOEIC Test
編著者：北尾泰幸他
出版社：朝日出版社
定価：¥1,800 + 税
ISBN: 978-4-255-15553-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは全14ユニットから構成されています。TOEICテストに準拠したPart1-7の問題とともに、語彙増強問題、文法および英語表現の解説も設けてあります。各ユニットで取り上げるテーマと文法事項は次のようになっています。

- 〈第1回〉 Unit 1: Eating Out (動詞1)
- 〈第2回〉 Unit 2: Travel (動詞2)
- 〈第3回〉 Unit 3: Amusement (品詞)
- 〈第4回〉 Unit 4: Meetings (分詞)
- 〈第5回〉 Unit 5: Personnel (不定詞と動名詞1)
- 〈第6回〉 Unit 6: Shopping (不定詞と動名詞2)
- 〈第7回〉 Unit 7: Advertisement (仮定法)
- 〈第8回〉 Unit 8: Daily Life (受動態)
- 〈第9回〉 Unit 9: office Work (代名詞)
- 〈第10回〉 Unit 10: Business (数量詞)
- 〈第11回〉 Unit 11: Traffic (接続詞)
- 〈第12回〉 Unit 12: Finance and Banking (前置詞)
- 〈第13回〉 Unit 13: Media (語彙)
- 〈第14回〉 Unit 14: Health and Welfare
- 〈第15回〉 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、授業期間中に行う語彙を中心とした小テスト(30%)、定期試験(70%)を基準とし、授業中の態度などを加味し総合的に判断して決定します。出席することは前提であるため、出席点はありませんが、正当な理由なく欠席を5回した者には単位は与えません。また、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習は必ずしておくこと。付属CDも利用しながら、本テキストを隅々まで活用されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本授業では、TOEICテストを使って、その出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を学習するとともに、TOEICテストで必要とされる英語のリスニング力・リーディング力の養成を図る。特にTOEICテストで出題されやすい文法事項及び語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図り、実用的な英語力を身につける。リスニング力・リーディング力の養成はTOEICテスト向けであるだけでなく、英語によるコミュニケーション能力の涵養を見据えて行うものとする。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』 国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト新公式問題集 vo. 5』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vo. 4』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vo. 3』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vo. 2』 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 リスニング問題の概要
- 3回 リーディング問題の概要
- 4回 写真問題の学習
- 5回 応答問題の学習
- 6回 会話問題の学習
- 7回 説明文問題の学習
- 8回 復習
- 9回 短文穴埋め問題の学習
- 10回 長文穴埋め問題の学習
- 11回 長文読解問題の学習：ビジネスレター等を中心に
- 12回 長文読解問題の学習：広告文等を中心に
- 13回 長文読解問題：2文問題を中心に
- 14回 復習
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 60% 授業への参加状況 (小テスト・課題を含む) 30% 単語テスト 10%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、英語運用力のうち、特に「聴く・読む」力をTOEIC テスト 問題に取りくむ学習を通して向上させることにある。TOEICでは、リスニング100、リーディング100の計200題という多くの問題が出題されるが、その問題には、円滑なコミュニケーションを目的とした国際英語に必要な不可欠の「文法・語法・語彙・表現・発音」それぞれの習得レベルを総合的に測る内容が網羅されている。従って、多くのTOEIC問題に取り組むことは、英語運用力を身につける上で最も必要な知識を効率よく習得し、意識的な学習から無意識レベルではたらく英語実用能力養成への大きな手助けとなる。授業で使用するテキストは、リスニングそれぞれのパートに対応したTOEIC対策問題をドリル形式で日常的に取り組めるように配慮されている。また、テキスト終了後の英語習熟度における到達レベルは(990点中)350~400である。当授業では、リスニングを中心としたテキストを使用し、英語を母語とする英・米・豪・加の発音の違いを聞き分ける聴解力の養成に重点を置いて学習を進めていく。リーディングに関しては、随時プリントを配布し、上記にあげた必要学習項目の理解を促す指導を行っていく。

教科書 /Textbooks

David E. Bramley 他著 『New Steps to Success in the TOEIC Test Listening WORKBOOK 1』 ￥1100

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽、マーク・ピーターセン共著 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 1800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&英語力確認テスト(必ず出席のこと)
- 第2回 (L)レベル1
- 第3回 (L)レベル1
- 第4回 (L)レベル1
- 第5回 レベル1の復習テスト
- 第6回 (L)レベル2
- 第7回 (L)レベル2
- 第8回 (L)レベル2
- 第9回 レベル2の復習テスト
- 第10回 (L)レベル3
- 第11回 (L)レベル3
- 第12回 (L)レベル3
- 第13回 レベル3の復習テスト
- 第14回 総合問題
- 第15回 まとめ

※各授業で単語の小テストを実施

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 復習テスト・・・30% 小テスト・・・20% 授業への取り組み・・・10%
欠席は2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (群 1-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力 (リーディング力) や聴く力 (リスニング力) の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況 (小テストを含む)...60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 Chapter 14

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト(3回)... 30% 日常の授業への取り組み... 15%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

テキストは①SEIZE THE CORE OF THE TOEIC TESTと、②Cultural Portraits: Japan and the USを使用します。
 ①近年、企業の採用と昇進、大学の成績評価、大学院の進学等に於いて、英語力を測る目安としてTOEICスコアが利用されています。より高いスコアを目指すには、地道な努力はもとより、TOEICのテスト形式に慣れることが重要です。授業で全体の構成・分量・時間配分などを把握し、特にビジネス関連の語彙や表現を会得していきます。
 ②のテキストでは、日米文化を比較しその特徴を理解して、日本文化について改めて考察し、英語読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

① SEIZE THE CORE OF THE TOEIC TEST	Masako Yasumaru	KINSEIDO	1,900円
② Cultural Portraits: Japan and the US	Justin Charlebois	KINSEIDO	1,800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、参考資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① SEIZE THE CORE OF THE TOEIC TEST
- 第 1 回 Unit 7 Business & Economics 助動詞
 - 第 2 回 Unit 8 Employment & Personnel 受動態
 - 第 3 回 Unit 9 Office Work & Correspondence 分詞・分詞構文
 - 第 4 回 Unit10 Health & Environment 不定詞・動名詞
 - 第 5 回 Unit11 Finance & Banking 代名詞
 - 第 6 回 Unit12 Law & Adminstraion 比較構文
 - 第 7 回 Review Test 2
- ② Cultural Portraits: Japan and the US
- 第 8 回 Unit 8 Pluralistic Society
 - 第 9 回 Unit 9 Degree of Formality
 - 第 10 回 Unit10 Volunteerism
 - 第 11 回 Unit11 Context and Communication
 - 第 12 回 Unit12 Non-Verbal Communication
 - 第 13 回 Unit13 Debate
 - 第 14 回 Unit14 Religion
 - 第 15 回 Unit15 Computers and Communication

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出) 30% 学期末考査 70%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業時は辞書必携です。必ず予習をして授業に臨みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な箇所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通じて、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test 「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」 安丸雅子・砂川典子 他著 金星堂 ¥1900(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Business & Economics [助動詞]
- 3回 Unit7 Business & Economics [助動詞]
- 4回 Unit8 Employment & Personnel [受動態]
- 5回 Unit8 Employment & Personnel [受動態]
- 6回 Unit9 Office Work & Correspondence [分詞・分詞構文]
- 7回 Unit9 Office Work & Correspondence [分詞・分詞構文]
- 8回 Unit10 Health & the Environment [不定詞・動名詞]
- 9回 Unit10 Health & the Environment [不定詞・動名詞]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [代名詞・関係詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [代名詞・関係詞]
- 12回 Unit12 Law & Administration [比較構文]
- 13回 Unit12 Law & Administration [比較構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、TOEICテストのスコアを加味して総合的に評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。
- ・ 学期中にTOEICテストを必ず受験してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is designed to meet the needs of law and regional development majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Pamela Hartmann, Nancy Douglas, and Andrew Boon, Inspire 2, Cengage Learning, 2014 (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction, 3 minute conversations 日にち・ 順番決め
- 第2回 Food
- 第3回 Festivals
- 第4回 Review 1 The Big Picture 1
- 第5回 Cities
- 第6回 Jobs
- 第7回 Review 2 The Big Picture 2
- 第8回 Music
- 第9回 Journeys
- 第10回 Review 3 The Big Picture 3
- 第11回 Family
- 第12回 Nature
- 第13回 Review 4 The Big Picture 4
- 第14回 Happiness
- 第15回 Conservation

成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%
Class work and assignments : 70%
Final examination : 20%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本授業では、ITが目覚ましく発展しemailやSNSを使って世界各地の情報を簡単に入手することができるようになった社会で働くことを想定し、ビジネスの世界でのemail使用状況の基本的なところを学習しさらに英語を使って電話でコミュニケーションをとることができるようになるといった実用的な英語の基礎力の養成を図る。またビジネス英語の更なる向上を目指して、TOEICテストのリスニング問題やリーディング問題も学習していく。

教科書 /Textbooks

『Working Abroad: Learning to Communicate via Emails & Telephone Conversations Eメール&英会話コミュニケーション：就職編』 松柏社 1,900円 (税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 5』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 4』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 3』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 2』 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方。
- 2回 Unit 1 Takuya's Job Hunt
- 3回 Unit 2 Asking a Favor
- 4回 Unit 3 Decision Time
- 5回 Unit 4 A Lucky Break
- 6回 Unit 5 Fun in the Sun
- 7回 Unit 6 Welcome to the Land of the Rising Sun!
- 8回 Unit 7 Bottoms Up!
- 9回 Unit 8 The World's Most Comfortable City
- 10回 Unit 9 Touching Base
- 11回 Unit 10 The Lion City
- 12回 Unit 11 Heading Down Under
- 13回 Unit 12 Deams Come True
- 14回 Unit 13 A Unexpected Invitation
- 15回 Unit 14 The Sweet, Spicy, and Sour Wonderland

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験50% 授業への参加状況 (小テスト・課題等を含む) 40% 単語テスト10%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この授業では、前学期同様、TOEIC対策テキストを用いて特にリスニングの基礎力をつける学習を行う。

教科書 /Textbooks

David E. Bramley 他著 『New Steps to Success in the TOEIC Test Listening WORKBOOK 2』 “ ¥1100

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽、マーク・ピーターセン共著 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 1800 円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション & 英語力確認テスト (必ず出席のこと)
- 第2回 (L)レベル 1
- 第3回 (L)レベル 1
- 第4回 (L)レベル 1
- 第5回 レベル 1 の復習テスト
- 第6回 (L)レベル 2
- 第7回 (L)レベル 2
- 第8回 (L)レベル 2
- 第9回 レベル 2 の復習テスト
- 第10回 (L)レベル 3
- 第11回 (L)レベル 3
- 第12回 (L)レベル 3
- 第13回 レベル 3 の復習テスト
- 第14回 総合問題
- 第15回 まとめ

※各授業で単語の小テストを実施

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 復習テスト・・・30% 小テスト・・・20% 授業への取り組み・・・10%

欠席は2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

This course aims to give students practice discussing contemporary issues in English. Students will learn strategies for initiating and actively participating in a conversation using topics in the news as well as timeless topics. There will be plenty of pair and group work.

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this course. Handouts will be provided by the teacher based on current events.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

goldfish365.com

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1. Introduction to the course.
Week 2. Topic 1. Pair conversation.
Week 3. Asking open and closed questions.
Week 4. Topic 2. Group discussion.
Week 5. Communication Strategy. Repeating.
Week 6. Topic 3. Pair conversation.
Week 7. Giving long answers.
Week 8. Topic 4. Group discussion.
Week 9. Confirmation. Understanding the speaker.
Week 10. Topic 5. Pair conversation.
Week 11. Agreeing and disagreeing.
Week 12. Topic 6. Discussion.
Week 13. Interrupting. Getting a word in.
Week 14. Topic 7. Pair conversation.
Week 15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation: pair conversation and group discussion. 70%. Exam 30%.
Students who are absent four or more times will not receive a credit.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Feel free to make mistakes. The more mistakes you make, the more you learn and improve.

キーワード /Keywords

英語III (群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class Service 1, Cengage, ISBN: 9814319430

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Asking for personal information.
- 3 回 Talking about dislikes
- 4 回 Talking about travel jobs
- 5 回 Explaining facilities
- 6 回 Describing locations
- 7 回 Opening times
- 8 回 Talking about schedules
- 9 回 Reservation problems
- 1 0 回 Confirming reservations
- 1 1 回 Changing reservations
- 1 2 回 Asking about preferences
- 1 3 回 Checking in
- 1 4 回 Checking out
- 1 5 回 Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

トラベル英会話

英語III (群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Humanity-Introduction
- 第11回 Humanity-Building Skills
- 第12回 Humanity-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題用として大いに活用しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語III (群 1-D) 【昼】

キーワード /Keywords

英語III (群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

World English Level 1 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

English - Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 : Course introduction, expectations, study skills, preparation advise, and grading procedure.
- 第 2 回 : Unit 1: People. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 3 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 4 回 : Unit 2: Work, rest, play. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 5 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 6 回 : Unit 3: Going places. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 7 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 8 回 : Unit 4: Food. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 9 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 1 0 回 : Unit 5: Sports. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 1 1 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 1 2 回 : Unit 6: Destinations. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 1 3 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 1 4 回 : All outstanding work to be completed.
- 第 1 5 回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 50%, class participation 50%. More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- Read the textbook ahead of the lesson.
- Get a good night's sleep.
- Please do NOT use mobile phones in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語III (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。
TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

New Steps to Success in the TOEIC Test Listening WORKBOOK 1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～5回 Part I Picture Questions Part II Question-Response
6回～10回 Part III Short Conversations
11回～15回 Part IV Short Talks

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 日常の授業への取り組み...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

This course aims to give students practice discussing contemporary issues in English. Students will learn strategies for initiating and actively participating in a conversation using topics in the news as well as timeless topics. There will be plenty of pair and group work.

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this course. Handouts will be provided by the teacher based on current events.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

goldfish365.com

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1. Introduction to the course.
Week 2. Topic 1. Pair conversation.
Week 3. Organizing Ideas.
Week 4. Topic 2. Group discussion.
Week 5. Criteria Evaluation.
Week 6. Topic 3. Pair conversation.
Week 7. Signposting and signal words.
Week 8. Topic 4. Group discussion.
Week 9. Comparing and contrasting.
Week 10. Topic 5. Pair conversation.
Week 11. In depth details.
Week 12. Topic 6. Discussion.
Week 13. Summarizing arguments.
Week 14. Topic 7. Pair conversation.
Week 15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation: pair conversation and group discussion. 70%. Exam 30%.
Students who are absent four or more times will not receive a credit.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Feel free to make mistakes. The more mistakes you make, the more you learn and improve.

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Social issues in the world
- Week 3 Start to research social issues
- Week 4 Expansion of social issues
- Week 5 Consolidation of social issues
- Week 6 First Group: Presentation and Discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and Discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Political issues in the world
- Week 10 Research of political issues
- Week 11 Expansion of political issues
- Week 12 Consolidation of political issues
- Week 13 Third Group: Presentation and Discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and Discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。後期は加えて5段落エッセイを構成よくまとめる能力を養う。

教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2
Optimal Levels! Project Book 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Happiness-Introductions
- 第3回 Happiness-Building Skills
- 第4回 Happiness-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Religion-Introduction
- 第7回 Religion-Building Skills
- 第8回 Religion-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 War-Introduction
- 第11回 War-Building Skills
- 第12回 War-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4-6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題用として大いに活用しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor
ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	群 1 - D					
対象入学年度 /Year of School Entrance			2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
								○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

The course aims to develop skills in communicating in a foreign language using English. As the students already have a detailed knowledge of many useful grammatical and lexical features of English, the course aims to create situations where students can put that knowledge to use in creative ways using their own lives, opinions, research ideas as well as the contexts provided through the text and other core materials. Activities include keeping a weekly English journal, conversational pair-work, discussion and debate, small written responses as well as those activities provided in the course text-book, which also uses a mixed approach. Monthly Reviews will also be used as well as two elective activities where students can choose tasks that suit their learning styles and needs.

教科書 /Textbooks

Let's Talk 2 2nd edition Leo Jones
Cambridge

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 9
Week 3 Unit 10
Week 4 Unit 11
Week 5 Unit 12
Week 6 Unit 9-12 Expansion
Week 7 Discussion Planning
Week 8 Mid-Semester Review
Week 9 Unit 13 and Discussion 1
Week 10 Unit 14 and Discussion 2
Week 11 Unit 15 and Discussion 3
Week 12 Unit 16 and Discussion 4
Week 13 Units 13-16 Expansion
Week 14 Review
Week 15 Diary Interviews

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 20%
Diary Interview 10%
Class Discussion Presentation 20%
Mid Semester Review 20%
Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Write Diary and prepare to discuss contents
Assigned tasks from course textbook
Discussion and Review Preparation
Other assigned tasks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語IV (群 1-D) 【昼】

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

The main focus of this course is speaking and listening. Students will have the freedom to express themselves about a variety of topics. As well as reviewing previously learnt material, students will be able to challenge themselves in this dynamic lesson.

教科書 /Textbooks

World English Series 1 (Heinle Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese - English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 : Unit 7: Communication. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 2 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 3 回 : Unit 8: Moving forward. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 4 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 5 回 : Unit 9: Types of clothing. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 6 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 7 回 : Unit 10: Lifestyles. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 8 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 9 回 : Unit 11: Achievements. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 1 0 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 1 1 回 : Christmas quiz.
- 第 1 2 回 : Unit 12: Consequences. Grammar, vocabulary, listening, and speaking.
- 第 1 3 回 : Speaking and pronunciation, reading, writing, and video journal.
- 第 1 4 回 : All outstanding work to be completed.
- 第 1 5 回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 50%, class participation 50%. More information concerning assessment will be given in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- Read the textbook ahead of the lesson.
- Get a good night's sleep.
- Please do NOT use mobile phones in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

This course is designed to help you strengthen your speaking, and self-presentation skills through active participation in communicative activities. Working in pairs and small groups, you will be given the chance to develop your English ability to both research and discuss current world-events and lifestyle-related topics. Development of academic presentation and writing skills will also be stressed throughout the course.

教科書 /Textbooks

Smart Choice (level 1): Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Please bring an electronic dictionary (or smartphone).

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Course orientation
- 第 2 回: Timed speaking and Q&A - Self introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (Different Countries)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (Jobs and Careers)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Sports and Exercise)
- 第 6 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 7 回: Unit 4 and discussion in English (Daily Routines)
- 第 8 回: Unit 5 and discussion in English (Problems)
- 第 9 回: Unit 6 and discussion in English (Fashion)
- 第 10 回: Unit 7 and discussion in English (Personality)
- 第 11 回: Class presentations (Original Topics)
- 第 12 回: Unit 8 and discussion in English (Local Attractions)
- 第 13 回: Unit 9 and discussion in English (Around Town)
- 第 14 回: Unit 10 and discussion in English (Vacations)
- 第 15 回: Class presentations (Original Topics)

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment will be through a single end of semester examination and homework assignments.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

This course is non-elective and attendance is important.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please tell me what you think by speaking in English.

キーワード /Keywords

Communicate, have fun, make friends.

英語Ⅳ (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。
TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

New Steps to Success in the TOEIC Listening WORKBOOK 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～5回 Part I Picture Questions Part II Question-Response
6回～10回 Part III Short Conversations
11回～15回 Part IV Short Talks

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 日常の授業への取り組み...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (群 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト (10分) を実施。教科書及び新公式問題集より出題
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Listening Section、Grammar Section、Reading Section の練習問題をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

『Perfect Shot for the TOEIC Test』 著者：上條 武、Braven Smillie ¥1,900
出版社：金星堂 2013年 1月 発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集 Vol.5 (発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Dining out [外食]
- 3回 Unit 2 Entertainment [娯楽]
- 4回 Unit 3 Housing and Property [住宅・不動産]
- 5回 Unit 4 Traveling [旅行]
- 6回 Unit 5 General Business [一般業務]
- 7回 Unit 6 Manufacturing [製造・生産]
- 8回 Unit 7 Purchasing [購買]
- 9回 Unit 8 Meeting and Office Procedures [会議・事務手続き]
- 10回 Unit 9 Personnel [人事]
- 11回 Unit 10 Finance [経済]
- 12回 Unit 11 Technical Areas [技術]
- 13回 Unit 12 News Reporting [ニュースレポート]
- 14回 Unit 13 Press Release [プレスリリース]
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する)(20%)
- ③ 期末考査(60%) + TOEIC受験結果
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)

発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ作ること。
少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

英語V (群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞くの3技能を総合的に鍛える必要がある。この授業では、T o e i cにおける、高得点の獲得を目標に実践的な訓練を行う。後半は、短編小説(プリント)を読んで、内容を深く味わう。

教科書 /Textbooks

Fast Pass for the ToEIC Test by Ritsuko Uenaka, Seiko Korechika センゲージラーニング

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. L i s t e n i n gの問題のディクテーションの答え合わせ。
3. 読解文も訳の答え合わせ。
4. 読みを流暢になるまで練習する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Entertainment
- 4回 Unit 3 Socializing & Food
- 5回 Unit 4 Sports & health
- 6回 Unit 5 Purchasing
- 7回 Unit 6 Housing and Accomodations
- 8回 Unit 7 Office Work
- 9回 Unit 8 Office Work (2)
- 10回 Unit 9 Employment
- 11回 Unit 10 Lectures& Presentations
- 12回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"
- 13回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"
- 14回 Wicked and Shuddering Tales "The Canterville Ghost"
- 15回 Wicked and Shuddering Tales"The Canterville Ghost"

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト 25% 宿題 10% 試験65%
4回以上の欠席は、受験資格を失う。
最終評価にT O E I Cスコアが反映される。
反映方法は、オリエンテーションの時に文書を配布し説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備。CDを聞いてディクテーションをしてくる。長文は単語を調べておく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オリエンテーションの時に指定席を決めます。必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語V (群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本授業では、TOEICテストを使って、その出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を学習するとともに、TOEICテストで必要とされる英語のリスニング力・リーディング力の養成を図る。特にTOEICテストで出題されやすい文法事項及び語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図り、実用的な英語力を身に着ける。リスニング力・リーディング力の養成はTOEICテスト向けであるだけでなく英語によるコミュニケーション能力の涵養を見据えて行うものとする。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』 国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト新公式問題集 vol. 5』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 4』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 3』 国際コミュニケーション協会
 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 2』 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 リスニング問題の概要
- 3回 リーディング問題の概要
- 4回 写真問題の学習
- 5回 応答問題の学習
- 6回 会話問題の学習
- 7回 説明文問題の学習
- 8回 復習
- 9回 短文穴埋め問題の学習
- 10回 長文穴埋め問題の学習
- 11回 長文読解問題の学習：ビジネスレター等を中心に
- 12回 長文読解問題の学習：広告文等を中心に
- 13回 長文読解問題の学習：2文問題を中心に
- 14回 復習
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 60% 授業への参加状況 (小テスト・課題等を含む) 30% 単語テスト 10%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書で配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (群 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

テキストは①SEIZE THE CORE OF THE TOEIC TESTと、②Cultural Portraits: Japan and the USを使用します。
 ①近年、企業の採用と昇進、大学の成績評価、大学院の進学等に於いて、英語力を測る目安としてTOEICスコアが利用されています。より高いスコアを目指すには、地道な努力はもとより、TOEICのテスト形式に慣れることが重要です。授業で全体の構成・分量・時間配分などを把握し、特にビジネス関連の語彙や表現を会得していきます。
 ②のテキストでは、日米文化を比較しその特徴を理解して、日本文化について改めて考察し、英語読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

① SEIZE THE CORE OF THE TOEIC TEST	Masako Yasumaru	KINSEIDO	1,900円
② Cultural Portraits: Japan and the US	Justin Charlebois	KINSEIDO	1,800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、参考資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① SEIZE THE CORE OF THE TOEIC TEST
- 第 1回 Introduction p.10 ~19 〈ガイダンス〉 テキスト、成績評価の方法、自宅学習の方法等の説明
 - 第 2回 Unit 1 Daily Life [基本 5 文型]
 - 第 3回 Unit 2 Eating Out & Leisure Activities [品詞]
 - 第 4回 Unit 3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致]
 - 第 5回 Unit 4 Traffic & Travel [形容詞・副詞]
 - 第 6回 Unit 5 Advertising & ICT [時制]
 - 第 7回 Unit 6 Production & Logistics [接続詞・前置詞]
 - 第 8回 Review Test
- ②Cultural Portraits: Japan and the US
- 第 9回 Unit 1 College Life
 - 第 10回 Unit 2 Family Life
 - 第 11回 Unit 3 Food Culture
 - 第 12回 Unit 4 Holidays
 - 第 13回 Unit 5 Individualism
 - 第 14回 Unit 6 Socializing at Parties
 - 第 15回 Unit 7 Dating and Romance

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出) 30% 学期末考査 70%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業時は辞書必携です。必ず予習をして授業に臨みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

このコースではTOEIC Test対策をします。テキストは2冊使用します。テキスト①で、TOEICの形式を知り、それぞれに対してどのようなアプローチで解答すればよいかを実践的にトレーニングしていきます。TOEICの対策は解法を知り、その解法を用いて数多くの問題を解いていかなければなりません。そこでテキスト②の公式問題集を使って、数多くの問題にあたり、TOEIC解答のためのテクニックを定着させていきます。

数多くの英語に触れることで、必然的に大量の英語をインプットすることになるでしょう。「解いて終わり」ではなく、テキストや問題集の英語を使って、ディクテーションや音読などのトレーニングを通して、語彙、文法事項の定着を目指します。

また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

法学部生である受講生皆さんの関心領域に応じた英文の記事（新聞、ウェブ上の記事、雑誌記事など）を読んでいきます。

教科書 /Textbooks

- ①Seize the Core of the TOEIC Test 「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」 安丸雅子・砂川典子 他著 金星堂
- ②TOEICテスト新公式問題集<Vol. 5> 国際ビジネスコミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『一億人の英文法—すべての日本人に贈る「話すため」の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ著、東進ブックス
- 『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 1~4, 6>』国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [基本5文型]
- 3回 Unit1 Daily Life [基本5文型]
- 4回 Unit2 Eating Out & Leisure Activities [品詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Leisure Activities [品詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [形容詞・副詞]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [形容詞・副詞]
- 10回 Unit5 Advertising & ICT [時制]
- 11回 Unit5 Advertising & ICT [時制]
- 12回 Unit6 Production & Logistics [接続詞・前置詞]
- 13回 Unit6 Production & Logistics [接続詞・前置詞]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

以上のUnitタイトルはテキスト①のもので。テキスト②はドリル的に使用しますので、常時持参してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 平常点(発言回数、家庭学習状況等):20%
- 毎回の小テスト:30%
- 期末試験:50%

最終の成績にはTOEIC Testの結果が反映されます。詳細は初回の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

辞書を必ず持参すること。辞書なしでの英語学習など不可能です。

英語V (群 2 - E) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語を「勉強する」という意識、また「勉強させられている」という意識を捨て、「英語学習者である」というアイデンティティを持つようにしましょう。

キーワード /Keywords

英語V (群2-F) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群2-F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通じて、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test 「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」 安丸雅子・砂川典子 他著 金星堂 ¥1900(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [基本5文型]
- 3回 Unit1 Daily Life [基本5文型]
- 4回 Unit2 Eating Out & Leisure Activities [品詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Leisure Activities [品詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [名詞・主語と動詞の一致]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [形容詞・副詞]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [形容詞・副詞]
- 10回 Unit5 Advertising & ICT [時制]
- 11回 Unit5 Advertising & ICT [時制]
- 12回 Unit6 Production & Logistics [接続詞・前置詞]
- 13回 Unit6 Production & Logistics [接続詞・前置詞]
- 14回 Review Test 1 (Unit1~6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、TOEICテストのスコアを加味して総合的に評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。
- ・ 学期中にTOEICテストを必ず受験してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、英語運用力のうち特に「聴く・読む」力をTOEICテスト問題に取りくむ学習を通して向上させることにある。TOEICでは、リスニング100、リーディング100の計200題という多くの問題が出題されるが、その問題には、円滑なコミュニケーションを目的とした国際英語に必要な不可欠な「文法・語法・語彙・表現・発音」等の各項目の習熟度を総合的に測る内容が網羅されている。従って、多くのTOEIC問題に取り組みすることは、英語運用力を身につける上で最も必要な知識を効率よく習得し、意識的に習得した知識が無意識にはたらく英語運用力養成への大きな手助けとなる。授業で使用するテキストは、リーディング・リスニングそれぞれのパートに対応したTOEIC対策問題をドリル形式で日常的に取り組めるように配慮されている。また、テキスト終了後の英語習熟度到達レベルは(990点中)350~400に設定されている。当授業では、このリーディング・リスニングの2冊のテキストを中心に、リーディングにおいては、特に文法・語法を押さえたと上で英文を文頭から読み取っていく読解力、リスニングにおいては、英語を母語とする英・米・豪・加の発音の違いを聞き分ける聴解力の養成に重点を置いて学習を進めていく。尚、受講者には、指導の参考資料として個人個人の弱点を把握するために初回の授業において英語の熟達度レベルを測るテストを実施する。

教科書 /Textbooks

David E. Bramley 他著 『New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 350』 松柏社 ￥1100
 “ 『New Steps to Success in the TOEIC Test Listening WORKBOOK 1』 “ ￥1100

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽、マーク・ピーターセン共著 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 1800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション & 英語力確認テスト (必ず出席のこと)
- 第2回 (L)(R) レベル 1
- 第3回 (L)(R) レベル 1
- 第4回 (L)(R) レベル 1
- 第5回 レベル 1 の復習テスト
- 第6回 (L)(R) レベル 2
- 第7回 (L)(R) レベル 2
- 第8回 (L)(R) レベル 2
- 第9回 レベル 2 の復習テスト
- 第10回 (L)(R) レベル 3
- 第11回 (L)(R) レベル 3
- 第12回 (L)(R) レベル 3
- 第13回 レベル 3 の復習テスト
- 第14回 総合問題
- 第15回 まとめ

※各授業で単語の小テストを実施

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 復習テスト・・・30% 小テスト・・・20% 授業への取り組み・・・10%
 欠席は2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

TOEICの形式・語彙・文法について、Part 1からPart 7までの各パートの練習問題に取り組みます。TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な個所や課題を発見するなど、勉強法を工夫して計画を立て、努力を行うことを通じて、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test 「Toeic Test コアをつかんで完全攻略」
安丸雅子、十時康、Andrew Zitzmann 他著
金星堂 1900円 (税別) 2015年 ISBN978-4-7647-40004-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
- 2回 Unit 1 基本 5 文型
- 3回 Unit 2 品詞
- 4回 Unit 3 名詞・主語と動詞の一致
- 5回 Unit 4 形容詞・副詞
- 6回 Unit 5 時制
- 7回 Unit 6 接続詞・前置詞
- 8回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 9回 Unit 7 助動詞
- 10回 Unit 8 受動態
- 11回 Unit 9 分詞・分詞構文
- 12回 Unit 10 不定詞・動名詞
- 13回 Unit 11 代名詞・関係詞
- 14回 Unit 12 比較構文
- 15回 Review Test (Unit 7 ~ 12) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習・復習状況、学習態度、自主的な発表などから算出した平常点 (20%) と筆記試験 (80%) から総合的に評価します。尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

テキストを忘れないようにしてください。辞書は必ず持参しましょう。

キーワード /Keywords

英語VI (群 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

This course will focus on the four main language skills, but mainly on writing and speaking. In addition to the text pages listed below, students will be required to do outlines and compositions, and to give speeches from the outlines they have made.

教科書 /Textbooks

Check it out Book 3 by Milada Broukai Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Getting acquainted and filling out student information cards.
- 2 回 Unit 1 Text 1~12
- 3 回 Unit 2 Text 13~24
- 4 回 Unit 3 Text 25~36
- 5 回 Grammar Review Test Units 1~3 & Conversation test
- 6 回 Introduction to outlining & making outline about student "Home Prefecture"
- 7 回 Using last weeks outline to create a composition
- 8 回 Unit 4 Text 39~50
- 9 回 Unit 5 Text 51~62
- 10 回 Unit 6 Text 63~74
- 11 回 Grammar Review Test Units 4~6 & Conversation test
- 12 回 Outlining about student's personal preferences
- 13 回 Writing story about last week's outline
- 14 回 Introduction to public speaking from outlines
- 15 回 Speeches from last Week's outlines

成績評価の方法 /Assessment Method

70 % assignments 30% Final Examination
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Class preparation will vary according to the current assignment. Instruction about how to prepare will be given by the teacher on a weekly basis. Absence is not an excuse for not doing required classwork or homework. Every student is required to do all of the assignments.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Cooperation with the teacher and other students will make studying fun for everyone. It is also helpful if you feel free to ask questions about anything you don't understand. It is best to ask the teacher, because the student you ask may not understand either.

キーワード /Keywords

英語VI (群 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞く、3技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。後半は小説(プリント)を読んで深く味わう。

教科書 /Textbooks

"Score-Makeovers for the ToEIC Test" by 小林英雄、近藤高史、Alex M. Hayashi 関文社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. Listening のディクテーションの答え合わせ。
3. 長文読解の答え合わせ。本文の読みを流暢になるまで練習する。

1回 オリエンテーション

- 2回 Unit 1 Bank & Finance
- 3回 Unit 2 Dining & Restaurant
- 4回 Unit 3 Patent & Technology
- 5回 Unit 4 Health & Medicine
- 6回 Unit 5 Travel & Hotel
- 7回 Unit 6 Outdoor Event
- 8回 Unit 7 Personnel Management
- 9回 Unit 8 Legal Matter & Police
- 10回 Unit 9 Advertisement
- 11回 Unit 10 Entertainment
- 12回 Wicked and Shuddering Tales "Canterville Ghost"
- 13回 Wicked and Shuddering Tales "Canterville Ghost"
- 14回 Wicked and Shuddering Tales "Canterville Ghost"
- 15回 Wicked and Shuddering Tales "Canterville Ghost"

成績評価の方法 /Assessment Method

単語テスト 25% 宿題 10% 試験 65%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価には、TOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備、リスニングのところをディクテーションしてくる。長文を訳してくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 群 2 - C
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本授業では、アメリカの陪審員制度を描いた劇作「Twelve Angry Men」を通して英語を学習する。法律の専門用語を学ぶだけでなく、陪審員制度について理解を深め、さらに、自然な英語を理解し適切な日本語に直していくという作業を通じて、英語と日本語間の言語の距離を縮めるだけでなく、言語の文化的背景なども知り、相互理解を深めることを目的とする。また実用的な英語力の向上を目指し、TOEICテストのリスニング問題やリーディング問題も学習していく。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』 国際コミュニケーション協会
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 5』 国際コミュニケーション協会
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 4』 国際コミュニケーション協会
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 3』 国際コミュニケーション協会
- 『TOEICテスト新公式問題集 vol. 2』 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 『Twelve Angry Men』の概要
- 3回 複雑な審理
- 4回 メインタイトル / 一番暑い日
- 5回 予備投票
- 6回 有罪の根拠
- 7回 珍しいナイフ
- 8回 復習
- 9回 11人の無記名投票
- 10回 老人の聞いた音
- 11回 矛盾に対する質問
- 12回 ドアまでの距離
- 13回 6対6
- 14回 記憶の検証
- 15回 下向きの刺し傷

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験50% 授業への参加状況(小テスト・課題等を含む)40% 単語テスト10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (群 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

テキストは①SEIZE THE CORE OF THE TOEIC TESTと、②Cultural Portraits: Japan and the USを使用します。
 ①近年、企業の採用と昇進、大学の成績評価、大学院の進学等に於いて、英語力を測る目安としてTOEICスコアが利用されています。より高いスコアを目指すには、地道な努力はもとより、TOEICのテスト形式に慣れることが重要です。授業で全体の構成・分量・時間配分などを把握し、特にビジネス関連の語彙や表現を会得していきます。
 ②のテキストでは、日米文化を比較しその特徴を理解して、日本文化について改めて考察し、英語読解力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

① SEIZE THE CORE OF THE TOEIC TEST	Masako Yasumaru	KINSEIDO	1,900円
② Cultural Portraits: Japan and the US	Justin Charlebois	KINSEIDO	1,800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、参考資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① SEIZE THE CORE OF THE TOEIC TEST
- 第 1 回 Unit 7 Business & Economics 助動詞
 - 第 2 回 Unit 8 Employment & Personnel 受動態
 - 第 3 回 Unit 9 Office Work & Correspondence 分詞・分詞構文
 - 第 4 回 Unit10 Health & Environment 不定詞・動名詞
 - 第 5 回 Unit11 Finance & Banking 代名詞
 - 第 6 回 Unit12 Law & Administration 比較構文
 - 第 7 回 Review Test 2
- ② Cultural Portraits: Japan and the US
- 第 8 回 Unit 8 Pluralistic Society
 - 第 9 回 Unit 9 Degree of Formality
 - 第 10 回 Unit10 Volunteerism
 - 第 11 回 Unit11 Context and Communication
 - 第 12 回 Unit12 Non-Verbal Communication
 - 第 13 回 Unit13 Debate
 - 第 14 回 Unit14 Religion
 - 第 15 回 Unit15 Computers and Communication

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストや課題提出) 30% 学期末考査 70%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業時は辞書必携です。必ず予習をして授業に臨みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

このコースではTOEIC Test対策をします。テキストは2冊使用します。テキスト①で、TOEICの形式を知り、それぞれに対してどのようなアプローチで解答すればよいかを実践的にトレーニングしていきます。TOEICの対策は解法を知り、その解法を用いて数多くの問題を解いていかなければなりません。そこでテキスト②の公式問題集を使って、数多くの問題にあたり、TOEIC解答のためのテクニックを定着させていきます。

数多くの英語に触れることで、必然的に大量の英語をインプットすることになるでしょう。「解いて終わり」ではなく、テキストや問題集の英語を使って、ディクテーションや音読などのトレーニングを通して、語彙、文法事項の定着を目指します。

また、自分の苦手な箇所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

法学部生である受講生皆さんの関心領域に応じた英文の記事(新聞、ウェブ上の記事、雑誌記事など)を読んでいきます。

教科書 /Textbooks

- ① Seize the Core of the TOEIC Test 「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」 安丸雅子・砂川典子 他著 金星堂
- ② 『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 5>』 国際ビジネスコミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『一億人の英文法—すべての日本人に贈る「話すため」の英文法』大西泰斗、ポール・マクベイ著、東進ブックス
- 『TOEICテスト新公式問題集<Vol. 1~4, 6>』 国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 ①Unit7 Business & Economics [助動詞]
- 3回 ①Unit7 Business & Economics [助動詞]
- 4回 ①Unit8 Employment & Personnel [受動態]
- 5回 ①Unit8 Employment & Personnel [受動態]
- 6回 ①Unit9 Office Work & Correspondence [分詞・分詞構文]
- 7回 ①Unit9 Office Work & Correspondence [分詞・分詞構文]
- 8回 ①Unit10 Health & the Environment [不定詞・動名詞]
- 9回 ①Unit10 Health & the Environment [不定詞・動名詞]
- 10回 ①Unit11 Finance & Banking [代名詞・関係詞]
- 11回 ①Unit11 Finance & Banking [代名詞・関係詞]
- 12回 ①Unit12 Law & Administration [比較構文]
- 13回 ①Unit12 Law & Administration [比較構文]
- 14回 ①Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

上記Unitタイトルはテキスト①のもので。テキスト②はドリル的に使用しますので、常時持参してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 平常点(発言回数、家庭学習状況等):20%
- 毎回の小テスト:30%
- 期末試験:50%

最終の成績にはTOEIC Testの結果が反映されません。詳細は初回の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

辞書を必ず持参すること。辞書なしでの英語学習など不可能です。

英語VI (群 2 - E) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語を「勉強する」という意識、また「勉強させられている」という意識を捨て、「英語学習者である」というアイデンティティを持つようにしましょう。

キーワード /Keywords

英語VI (群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指します。TOEICの学習を通じて、リスニング力・リーディング力・語彙力・文法力といった総合的な英語力を培い、国際化・グローバル化に対応できるレベルの実践的な英語表現を学びます。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通じて、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

Seize the Core of the TOEIC Test 「TOEICテスト コアをつかんで完全攻略」 安丸雅子・砂川典子 他著 金星堂 ¥1900(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Business & Economics [助動詞]
- 3回 Unit7 Business & Economics [助動詞]
- 4回 Unit8 Employment & Personnel [受動態]
- 5回 Unit8 Employment & Personnel [受動態]
- 6回 Unit9 Office Work & Correspondence [分詞・分詞構文]
- 7回 Unit9 Office Work & Correspondence [分詞・分詞構文]
- 8回 Unit10 Health & the Environment [不定詞・動名詞]
- 9回 Unit10 Health & the Environment [不定詞・動名詞]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [代名詞・関係詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [代名詞・関係詞]
- 12回 Unit12 Law & Administration [比較構文]
- 13回 Unit12 Law & Administration [比較構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、TOEICテストのスコアを加味して総合的に評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。
- ・ 学期中にTOEICテストを必ず受験してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期の学習に引き続き、同じシリーズのTOEIC到達目標スコアを450点に据えたテキストを使用し学習を進める。

教科書 /Textbooks

David E. Bramley 他著 『New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 450』 松柏社 ￥1100
 “ 『New Steps to Success in the TOEIC Test Listening WORKBOOK 2』 “ ￥1100

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽、マーク・ピーターセン共著 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 1800 円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&英語力確認テスト(必ず出席のこと)
- 第2回 (L)(R)レベル1
- 第3回 (L)(R)レベル1
- 第4回 (L)(R)レベル1
- 第5回 レベル1の復習テスト
- 第6回 (L)(R)レベル2
- 第7回 (L)(R)レベル2
- 第8回 (L)(R)レベル2
- 第9回 レベル2の復習テスト
- 第10回 (L)(R)レベル3
- 第11回 (L)(R)レベル3
- 第12回 (L)(R)レベル3
- 第13回 レベル3の復習テスト
- 第14回 総合問題
- 第15回 まとめ

※各授業で単語の小テストを実施

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 復習テスト・・・30% 小テスト・・・20% 授業への取り組み・・・10%
 欠席は2回まで。遅刻回数2回で欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

毎日新聞のニュースサイト The Mainichi から、社会問題、国際など、問題、化学技術、健康、環境、娯楽、異文化、スポーツなど、様々な内容の英文記事を読み、英語の運用能力を高めると同時に、現代社会を捉える知見を得ることを目的とします。

教科書 /Textbooks

News Gallery 2015
Yoshisada Kinoshita, Adam Hailes他編著
開文社 2015年 ISBN978-4-87571-160-5

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
Unit 1 Astronaut Wakata, 1st Japanese ISS commander, returns to Earth
- 2回 Unit 2 U.S. Ambassador Caroline Kennedy visits Nagasaki
- 3回 Unit 3 Obama warns Russia over military moves in Crimea
- 4回 Unit 4 Reported food allergies on rise among students in Japan.
- 5回 Unit 5 U.N. study: Electrical waste up by third by 2017
- 6回 Unit 6 More university students looking for post-graduation employment overseas
- 7回 Unit 7 12 Years a Slave wins best picture at Oscars
- 8回 Unit 8 Car-sharing business booming in Japan
- 9回 Unit 9 Rising number of elderly with dementia taken into protective custody far from home
- 10回 Unit 10 Olympics: Hanyu gives Japan 1st Sochi gold on Olympic debut
- 11回 Unit 11 Cyclists need more education, insurance
- 12回 Unit 12 U.S. women publish illustrated book on Shikoku pilgrimage
- 13回 Unit 13 Jazz study shows link between music and language
- 14回 Unit 14 Korea's trade fire; island residents in shelters
- 15回 Unit 15 Expert recommends well-balanced mix of oils for healthy diet

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・30% 期末試験・・・70%

尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ①ダウンロードした音声を活用し、必ず予習をして授業に臨むこと。
- ②辞書必携。

キーワード /Keywords

英語VII (群 2 - A) 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群 2 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

Students in this course will learn how to express their ideas in English about a number of contemporary issues in today's society. Students will have the opportunity each week of increasing their communication skills through discussions in small groups and individual presentations and group presentations. At the end of the course student should be able to express their ideas in English with confidence.

教科書 /Textbooks

Communication Strategies 2 by David Paul

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Attitudes
Week 2: Money
Week 3: Health
Week 4: Education
Week 5: Crime
Week 6: The Environment
Week 7: Aliens
Week 8: History
Week 9: Women in Society
Week 10: The Developing World
Week 11: Violence
Week 12: Politics
Week 13: Economics
Week 14: Happiness
Week 15: Globalisation

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%
Homework 20%
Presentations and Discussion 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (群 2 - B) 【昼】

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 群 2 - B
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
					○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

This course aims to give students practice discussing contemporary issues in English. Students will learn strategies for initiating and actively participating in a conversation using topics in the news as well as timeless topics. There will be plenty of pair and group work.

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this course. Handouts will be provided by the teacher based on current events.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

goldfish365.com

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1. Introduction to the course.
- Week 2. Topic 1. Pair conversation.
- Week 3. Asking open and closed questions.
- Week 4. Topic 2. Group discussion.
- Week 5. Communication Strategy. Repeating.
- Week 6. Topic 3. Pair conversation.
- Week 7. Giving long answers.
- Week 8. Topic 4. Group discussion.
- Week 9. Confirmation. Understanding the speaker.
- Week 10. Topic 5. Pair conversation.
- Week 11. Agreeing and disagreeing.
- Week 12. Topic 6. Discussion.
- Week 13. Interrupting. Getting a word in.
- Week 14. Topic 7. Pair conversation.
- Week 15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation: pair conversation and group discussion. 70%. Exam 30%.
Students who are absent four or more times will not receive a credit.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Feel free to make mistakes. The more mistakes you make, the more you learn and improve.

キーワード /Keywords

英語VII (群 2 - D) 【昼】

担当者名
/Instructor

ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 群 2 - D
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
					○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Advancing your English Text book 5 by Jay M Myler. Lulu Press. ISBN #: 978-0-557-99920-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Marriage / Grammar Focus : Past Participles
3. Topic: The New Eco Protocols / Grammar Focus ; Comparing with Adjectives and Nouns
4. Topic: Local wildlife threatened / Grammar Focus ; Present tense
5. Topic: Global warming / Grammar Focus ; Future tense
6. Topic: Water in China / Grammar Focus ; Prepositions
7. Topic: Climate change and fish populations / Grammar Focus ; Adverbs
8. Topic: Alexander The Great / Grammar Focus ; Conjunctions
9. Topic: The Taj Mahal / Grammar Focus ; Contractions
10. Topic: The king and his wives
11. Topic: Bill Gates
12. Topic: Kate Moss a fashion icon
13. Presentations Group A
14. Presentations Group B
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 15% Participation 40% Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

EVERYONE MUST HAVE THEIR OWN TEXTBOOK

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード /Keywords

英語VII (群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 "Weekends"
- 3 回 Text Unit 2 "Excuses"
- 4 回 Text Unit 3 "Life Events"
- 5 回 Text Unit 4 "Travel"
- 6 回 Text Unit 5 "Culture Shock"
- 7 回 Text Unit 6 "Party Time"
- 8 回 Text Unit 7 "Describing People"
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 "Movies"
- 1 1 回 Text Unit 10 "Big Issues"
- 1 2 回 Text Unit 13 "Keepsakes"
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class and being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework must be completed every week before class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded every class on how much you speak and how active you are.

キーワード /Keywords

英語VII (群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World Link (Developing English Fluency) Intro – Susan Stempleski –Heinle Cengage (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The student will need a Japanese/English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 1: Greetings and Intros: Lesson A: Getting to know you
- 2 回 Unit 1: Greetings and Intros: Lesson B: People and things we like
- 3 回 Unit 2: Countries and Nationalities: Lesson A: Countries of the world
- 4 回 Unit 2: Countries and Nationalities: Lesson B: What is your city like?
- 5 回 Unit 3: Personal Items: Lesson A: Gift giving
- 6 回 Unit 3: Personal Items: Lesson B: Keepsakes
- 7 回 Unit 4: Activities and Interests: Lesson A: Everyday activities
- 8 回 Unit 4: Activities and Interests: Lesson B: At school
- 9 回 Unit 5: Food: Lesson A: Food and eating habits
- 10 回 Unit 5: Food: Lesson B: Food and health
- 11 回 Unit 6: My Family: Lesson A: This is my family!
- 12 回 Unit 6: My Family: Lesson B: Family relationships
- 13 回 Unit 7: Time: Lesson A: Time and schedules
- 14 回 Unit 7: Time: Lesson B: Free time
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Final Examination 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名
/Instructor

マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律政群 2 - G
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
					○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skill using basic English for business and communication.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 SYLLABUS REVIEW / CATCHING UP WITH SCHOOL FRIENDS
- 2 回 ANSWERING PERSONAL QUESTIONS / EXPANDING INFORMATION
- 3 回 UNDERSTANDING NEW NAMES /ASKING FOLLOW UP QUESTIONS
- 4 回 LESSON 1~3 EXPANSION ACTIVITY
- 5 回 OCCUPATIONS – JOBS IN THE GLOBAL COMMUNITY
- 6 回 DESCRIBING JOB RESPONSIBILITIES
- 7 回 DESCRIBING WORKPLACES
- 8 回 LESSON 5~7 EXPANSION ACTIVITY
- 9 回 ADDRESSING PEOPLE IN BUSINESS/SOCIAL SITUATIONS
- 1 0 回 ASKING ABOUT PERSONAL EXPERIENCES
- 1 1 回 ASKING & ANSWERING ABOUT COMPLETION OF TASKS
- 1 2 回 MONEY MATTERS: LARGE NUMBERS & PRICES
- 1 3 回 MONEY MATTERS: DOLLARS AND CENTS
- 1 4 回 SPECIAL PROJECT PREPARATION
- 1 5 回 SPECIAL PROJECT PRESENTATION

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Japanese/English Dictionary required

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

まず最初にWords and Phrasesで記事に記載されている単語と熟語を確認し、Summaryで記事の内容を予想する。次に記事を読解し、Multiple ChoiceとTrue or Falseで理解度をチェックする。最後にVocabularyで記事に関連した語法を学ぶ。

[授業のねらい]

- (1)The New York Times, International Herald Tribune, The Associated press等の英字新聞から社会、文化、政治経済、言語、教育等のあらゆる分野を網羅した、身近な世界のニュースに触れ、楽しみながら、多角的且つ複眼的に英語力を培う。
- (2)多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- (3)特に英語のReading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

The Half-Edition of English through the News Media 『15章版 ニュースメディアの英語』 ￥1,200
編著者：高橋優身、伊藤典子、Richard Powell
出版社：Asahi Press
発行：2015年1月

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 In Taking Jobs, Women Take On A Saudi Taboo
- 第3回 Unit 2 Fortune-seeking Migrants turn to Mexico
- 第4回 Unit 3 Japanese Team Dominates Competition to Create Generation of Rescue Robots
- 第5回 Unit 4 A Borderline Where Women Bear the Weight
- 第6回 Unit 5 E-Cigarettes, By Other Names, Lure Young and Worry Experts
- 第7回 Unit 6 NYC fans of Kyary Pamyu Pamyu share 'zest for life'
- 第8回 Unit 7 Pakistanis ambivalent about Malala
- 第9回 Unit 8 Chinese Schooling wins praise — but not from nation's parents or educators
- 第10回 Unit 9 Ethnic strife unsettles a lawless frontier
- 第11回 Unit 10 Learning to speak Brazinglish
- 第12回 Unit 11 'How are you?' Don't ask!
- 第13回 Unit 12 New generation of innovators emerges in Japan
- 第14回 Unit 13 Striding toward a national image
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業参加、授業貢献度、発表 (20%)
- ② レポート、小テスト (20%)
- ③ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

英和辞典、英英辞典、和英辞典は必ず持参のこと。(電子辞書可)
発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ作ること。
少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

英語VII (律政群 2 - 1) 【昼】

キーワード /Keywords

英語VIII (群 2 - A) 【昼】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 群 2 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

This course focuses on developing discussion and listening skills. Students will listen to short listenings on different topics each week. Students will discuss these topics in relation to their own experiences. Students will become familiar with the vocabulary and expressions associated with the individual topics.

教科書 /Textbooks

The instructor will provide the material.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction to the course
Week 2: Topic 1
Week 3: Topic 2
Week 4: Discussion test #1
Week 5: Topic 3
Week 6: Topic 4
Week 7: Discussion test #2
Week 8: Topic 5
Week 9: Topic 6
Week 10: Discussion test#3
Week 11: Presentation Preparation#1
Week 12: Presentation Preparation#2
Week 13: Presentation#1
Week 14: Presentation#2
Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Listening tests 30%
discussion tests 30%
Homework 20%
Final Presentation 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (群 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

This course aims to give students practice discussing contemporary issues in English. Students will learn strategies for initiating and actively participating in a conversation using topics in the news as well as timeless topics. There will be plenty of pair and group work.

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this course. Handouts will be provided by the teacher based on current events.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

goldfish365.com

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1. Introduction to the course.
Week 2. Topic 1. Pair conversation.
Week 3. Organizing Ideas.
Week 4. Topic 2. Group discussion.
Week 5. Criteria Evaluation.
Week 6. Topic 3. Pair conversation.
Week 7. Signposting and signal words.
Week 8. Topic 4. Group discussion.
Week 9. Comparing and contrasting.
Week 10. Topic 5. Pair conversation.
Week 11. In depth details.
Week 12. Topic 6. Discussion.
Week 13. Summarizing arguments.
Week 14. Topic 7. Pair conversation.
Week 15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation: pair conversation and group discussion. 70%. Exam 30%.
Students who are absent four or more times will not receive a credit.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Feel free to make mistakes. The more mistakes you make, the more you learn and improve.

キーワード /Keywords

英語VIII (群 2 - D) 【昼】

担当者名
/Instructor

ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 群 2 - D
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
					○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Advancing your English Textbook 6 by Mark Mylson. Rising Sun Press. ISBN #: 978-0-557-88920-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Love / Grammar Focus : Past Participles
3. Topic: The Enviroment / Grammar Focus ; Comparing with Adjectives and Nouns
4. Topic: Wildlife / Grammar Focus ; Present tense
5. Topic: Green House Effect / Grammar Focus ; Future tense
6. Presentations Group A
7. Presentations Group B
8. Topic: Writing Practice 1 / Grammar Focus ; Conjunctions
9. Topic: Writing Practice 2 / Grammar Focus ; Contractions
10. Topic: The Great Kings
11. Topic: Tech Giants
12. Topic: Fashion and Fame
13. Topic: At the Movies
14. Topic: Pop
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 15% Participation 40% Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

EVERYONE MUST HAVE THEIR OWN TEXTBOOK

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード /Keywords

英語VIII (群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Quiz
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Homework assignments will be required for each class.
Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than three times will result in you failing the course.
No late homework will be accepted.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 2 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English.

教科書 /Textbooks

World Link (Developing English Fluency) Intro – Susan Stempleski –Heinle Cengage (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The student will need a Japanese/English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Class opening: Getting ready
- 2 回 Unit 7: Time:Lesson A: Time and Schedules
- 4 回 Unit 7: Time:Lesson B: Free time
- 3 回 Unit 8: Special Occasions:Lesson A: Holidays and celebrations
- 5 回 Unit 8: Special Occasions:Lesson B: Festivals!
- 6 回 Unit 9: Person to Person:Lesson A: Living with others
- 7 回 Unit 9: Person to Person:Lesson B: Modern dating
- 8 回 Midterm Exam
- 9 回 Unit 10: Home Sweet Home:Lesson A: Housing
- 10 回 Unit 10: Home Sweet Home:Lesson B: Decorate a room
- 11 回 Unit 11: Clothing:Lesson A: Shopping for clothes
- 12 回 Unit 11: Clothing:Lesson B: Clothing dos and don'ts
- 13 回 Unit 12: Jobs and Ambitions:Lesson A: Jobs
- 14 回 Unit 12: Jobs and Ambitions:Lesson B: Getting a job
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 60% Midterm and Final Examinations 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week for use in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名
/Instructor

マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 律政群 2 - G
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
					○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for discussion and debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will then be applied to the discussion of socially relevant topics.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 HOW WAS YOUR SUMMER? – SIMPLE PAST TENSE, FOLLOW UP QUESTION & ANSWER PRACTICE
- 2 回 CRITICAL THINKING – LISTENING FOR KEY WORDS AND ANALYZING IDEAS
- 3 回 CRITICAL THINKING – AGREEING, DISAGREEING AND PROVIDING REASONS
- 4 回 CRITICAL THINKING – POINT/COUNTERPOINT PRACTICE
- 5 回 DEBATE TOPIC 1 – MATCHING PRO AND CON ARGUMENTS/NUANCED DISAGREEING
- 6 回 DEBATE TOPIC 1 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 1
- 7 回 DEBATE TOPIC 2 – MATCHING IDEAS AND PERSUADING
- 8 回 DEBATE TOPIC 2 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 2
- 9 回 DEBATE TOPIC 3 – STARTING A DISCUSSION / ENDING A DISAGREEMENT
- 1 0 回 DEBATE TOPIC 3 – WRITING AN ORIGINAL DEBATE
- 1 1 回 DEBATE TOPIC 3 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE 1
- 1 2 回 DEBATE TOPIC 4 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE 2
- 1 3 回 REVIEW
- 1 4 回 FINAL TEST PREPARATION I
- 1 5 回 FINAL TEST PREPARATION II

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Japanese / English Dictionary required

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律政群 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

まず最初にListening と Readingにより本文の内容を把握する。次に、Let's Skimで重要な情報を大まかに得る。更に、Dialogでエッセイに関連した会話を聞きとることによって、本文の理解をより深める。最後に、Vocabulary Review で日常使える用語の練習をし、発信型英語の基礎作りを図る。

[授業のねらい]

- (1)日本文化に対する理解を深めると同時に、読解力を向上させ、英文の基本的な論述の形式を身に付ける。
- (2)多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- (3)英語の Reading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

Let's Introduce Japanese Culture! 『日本文化を世界に!』 ￥1,800
編著者：肥川絹代、薬師寺元子、David Farnell
出版社：栄宝社
発行：2014年1月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に説明する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 The Spirit of Japanese Hospitality
- 第3回 Unit 2 Superb! Tokyo Skytree
- 第4回 Unit 3 Japanese Seasonal Charms: The Bewitching Beauty of Kimono
- 第5回 Unit 4 Japanese High-Quality technology
- 第6回 Unit 5 Healthy and Colorful Japanese Cuisine
- 第7回 Unit 6 Destruction and Creation: Japanese Stage Art
- 第8回 Unit 7 Hospitality and Peace in Japanese Robots
- 第9回 Unit 8 Samurai Spirit
- 第10回 Unit 9 Anime: A Japanese Soft Power
- 第11回 Unit 10 Hot Springs: Let's Become Healthy and Beautiful!
- 第12回 Unit 11 Video Games for Everyone
- 第13回 Unit 12 Tranquility and Dynamism in Competitive Calligraphy
- 第14回 Unit 13 Kawaii Going Global
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業参加、授業貢献度、発表 (20%)
- ② レポート、小テスト (20%)
- ③ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ① 英和辞典、英英辞典、和英辞典を必ず持参のこと。(電子辞書も可)
- ② 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ作ること。
- ② 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

英語VIII (律政群 2 - 1) 【昼】

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
 毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
 毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 編）[コピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音1と複母音1
3. 子音2と複母音2・基本挨拶
4. 鼻母音・音節と音便・教室用語
5. 発音の復習とまとめ
6. 「自己紹介」（判断文・疑問文1・人称代名詞）
7. 復習と実用練習
8. 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文2）
9. 復習と実用練習
10. 「両替」（願望表現・数字・場所）
11. 復習と実用練習
12. 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
13. 復習と実用練習
14. 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 編）[コピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 蘇 君業 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営人律政群 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 蘇 君業 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営人律政群 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語VIII 【昼】

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

厳基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社(2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音 【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音 【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音 【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音 【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音 【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音 【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 12回 辞書を引いてみよう 【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 14回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な文章が書けるようになること、また同程度の読解力ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

嚴基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社 (2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上げますか【意志・推量形】
- 14回 何を召し上げますか【意志・推量形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

韓国語の文字である「ハングル」を習得し、基礎韓国語及び韓国文化への理解を高めることを目標とする。

〈到達目標〉

- (1) ハングル文字を習得する。
- (2) 簡単な自己紹介ができる。
- (3) 日常生活で使われる身近な挨拶表現ができる。
- (4) 韓国の日常生活文化への理解ができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千律子著、『新チャレンジ！ 韓国語』、白水社、2014年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 熊谷明泰編集、『パスポート朝鮮語小辞典(朝和+和朝)』、白帝社、2012年
- ・ 小学館・韓国金星出版社 共同編集、『朝鮮語辞典』、小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義案内及び第1課基本母音字母と合成母音字母
- 第2回 第2課基本子音字母(平音・激音)
- 第3回 第2課: 双子音字母(濃音)
- 第4回 第3課: 合成母音字及び日本語のハングル表記
- 第5回 復習
- 第6回 第4課: 一文字パッチム
- 第7回 発音上手になるためのコツ
- 第8回 第4課: 二文字パッチム
- 第9回 第5課: 「私は～です」
- 第10回 第5課: 「私は～です」
- 第11回 第6課: 「時間ありますか」
- 第12回 第6課: 「時間ありますか」
- 第13回 第7課: 「それは何ですか」
- 第14回 第7課: 「それは何ですか」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業参加度(日常授業への取り組み・小テスト・課題) 50%
- ・ 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 毎回ペア練習後、口頭発表をする予定なので、授業に積極的に取り組んでもらいたいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営群1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

〈教育目標〉
韓国語の文字である「ハングル」を習得し、基礎韓国語及び韓国文化への理解を高めることを目標とする。

〈到達目標〉
(1) ハングル文字の読み・書きを習得する。
(2) 簡単な自己紹介や自己PRができる。
(3) 日常生活で使われる身近な会話表現ができる。
(4) 韓国の日常生活文化への理解度をより深める。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千律子著、『新チャレンジ! 韓国語』、白水社、2014年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・熊谷明泰編集、『パスポート朝鮮語小辞典(朝和+和朝)』、白帝社、2012年
- ・小学館・韓国金星出版社 共同編集、『朝鮮語辞典』、小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義案内及前期の復習
- 第2回 第8課「日曜日に何をしますか？」
- 第3回 第8課「日曜日に何をしますか？」
- 第4回 第8課「日曜日に何をしますか？」
- 第5回 第9課「何が好きですか？」
- 第6回 第9課「何が好きですか？」
- 第7回 第9課「何が好きですか？」
- 第8回 第10課「週末は何をしましたか？」
- 第9回 第10課「週末は何をしましたか？」
- 第10回 第10課「週末は何をしましたか？」
- 第11回 第11課「明日は何をするつもりですか？」
- 第12回 第11課「明日は何をするつもりですか？」
- 第13回 第11課「明日は何をするつもりですか？」
- 第14回 第12課「スープが冷たくておいしいです」
- 第15回 第12課「スープが冷たくておいしいです」

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・授業参加度(日常授業への取り組み・課題への取り組み・小テスト): 50%
- ・定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回ペア練習後、口頭発表を行う予定なので、授業に積極的に取り組んでもらいたいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）初級での学習事項（基礎文法）に加え中級文法を学ぶ。
文法の知識を踏まえて読み書きの力を養う。音読練習の徹底や会話練習も取り入れながら学習内容の理解を深めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新装版できる韓国語初級II』（新大久保語学院、李志瑛・金鎮姫）アスク出版 定価2,000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス
- 2 . 初級のまとめ
- 3 . 【動詞の現在連体形】
- 4 . 【先行動作の用法】
- 5 . 【動詞の過去連体形】
- 6 . 【動詞の未来連体形】【～するつもりです】
- 7 . 【形容詞の現在連体形】
- 8 . 【名詞文の現在連体形】
- 9 . 【～なのに】【～のですが】【語彙の補足】
- 10 . 1課～5課のまとめ
- 11 . 【不規則活用①】【理由】
- 12 . 【不規則活用②】【～しなければなりません】
- 13 . 【不規則活用③】【ために、ので】
- 14 . 【不規則活用④】【～じゃないですか】
- 15 . 6課～9課のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）前期での学習事項に加え中級文法を学ぶ。
文法の知識を踏まえて読み書きの力を養う。音読練習の徹底や会話練習も取り入れながら学習内容の理解を深めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新装版できる韓国語初級II』（新大久保語学院、李志瑛・金鎮姫）アスク出版 定価2,000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 前期のまとめ
2. 【不規則活用⑥】【～みてください】
3. 【話者の意志・約束】
4. 【完了状態の継続】
5. 【～しないでください】
6. 【過去 / 現在 / 未来の推量】
7. 【～する前に】【～する後】
8. 【～するほうだ】【～になる】
9. まとめ10課～15課
10. 【時間の経過】【～しようと思っています】
11. 【名詞化】
12. 【推測・予測】
13. 【するとき・したとき】
14. 【～てあげる / ～てくれる】
15. まとめ16課～19課

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

講義概要：朝鮮語の言語能力及び朝鮮文化への理解を通して、国際化に対応できるコミュニケーション能力の育成を目的とする。
到達目標：朝鮮語Ⅶでは、朝鮮語Ⅲ・Ⅳ前期・後期で学習した基礎韓国語を基にして、初級上レベルのコミュニケーション能力の向上を目標としています。前期は、「自己紹介」「約束」「道案内」など、身の回りのトピックについて学習します。

教科書 /Textbooks

「ちょこっとチャレンジ！韓国語」金順玉・阪堂千津子・崔栄美 著 白水社、2013年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『パスポート朝鮮語小辞典』（朝和+和朝）、塚本勲監修、白水社
- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』、油谷幸利他編集、小学館
- 『朝鮮語辞典』、油谷幸利他編集、小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回講義案内及び第1課「名前はなんとおっしゃいますか？」
- 第2回第1課「名前はなんとおっしゃいますか？」
- 第3回第1課「名前はなんとおっしゃいますか？」
- 第4回第2課「朝子といいますが、日本から来ました。」
- 第5回第2課「朝子といいますが、日本から来ました。」
- 第6回第2課「朝子といいますが、日本から来ました。」
- 第7回第3課「魚は焼かないでください。」
- 第8回第3課「魚は焼かないでください。」
- 第9回第3課「魚は焼かないでください。」
- 第10回第4課「ファンの集いに行くことにしました。」
- 第11回第4課「ファンの集いに行くことにしました。」
- 第12回第4課「ファンの集いに行くことにしました。」
- 第13回第5課「道を渡って左にずっと行ってください。」
- 第14回第5課「道を渡って左にずっと行ってください。」
- 第15回第5課「道を渡って左にずっと行ってください。」

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト（音読・会話・語彙・文型）及び課題への取り組み度（30%）
- 授業への参加意欲及び発言度（20%）
- 学期末試験（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 朝鮮語Ⅲ（前期）・朝鮮語Ⅳ（後期）の単位取得済みが望ましい。
- ペア授業を行うので会話演習へ取り組みと講義での積極的な発言意欲をもつこと。
- 音読・会話テストに向けた自習を十分に行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

講義概要：朝鮮語の言語能力及び朝鮮文化への理解を通して、国際化に対応できるコミュニケーション能力の育成を目的とする。

到達目標：朝鮮語VIIIでは、朝鮮語III、IV（前期・後期）で学習した基礎韓国語を基にして、中級上レベルのコミュニケーション能力の向上を目標としています。後期は、「買い物」「体の具合」「思い出」など身の回りのトピックについて学習します。

教科書 /Textbooks

「ちょこっとチャレンジ！韓国語」金順玉・阪堂千津子・崔栄美 著、白水社、2013年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『パスポート朝鮮語小辞典』（朝和+和朝）、塚本勲監修、白水社
- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』、油谷幸利他編集、小学館
- 『朝鮮語辞典』、油谷幸利他編集、小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回講義案内及び第6課「ファンの集いに行ってみたんですけど・・・」
- 第2回第6課「ファンの集いに行ってみたんですけど・・・」
- 第3回第6課「ファンの集いに行ってみたんですけど・・・」
- 第4回第7課「少し安くしてください。」
- 第5回第7課「少し安くしてください。」
- 第6回第7課「少し安くしてください。」
- 第7回第8課「私の気持ちですから受け取ってください。」
- 第8回第8課「私の気持ちですから受け取ってください。」
- 第9回第8課「私の気持ちですから受け取ってください。」
- 第10回第9課「咳がひどくて眠れませんでした。」
- 第11回第9課「咳がひどくて眠れませんでした。」
- 第12回第9課「咳がひどくて眠れませんでした。」
- 第13回第10課「字幕を見ながら勉強します。」
- 第14回第10課「字幕を見ながら勉強します。」
- 第15回第10課「字幕を見ながら勉強します。」

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト（音読・会話・語彙・文型）及び課題への取り組み度（30%）
- 授業への参加意欲及び発言度（20%）
- 学期末試験（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 朝鮮語VII(前期)の単位修得済みが望ましい。
- ペア授業を行うので会話演習へ取り組みと講義での積極的な発言意欲をもつこと。
- 音読・会話テストに向けた自習を十分に行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動概論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田心平/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析①
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析②
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア学概論【昼】

担当者名 見館好隆/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

<目的> 代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、地域創生学群の活動を、自らのキャリア形成に繋げます。

なお、自らのキャリアをデザインするために必要な4つの行動とは、以下の4つです。

1. いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける
2. 長いスパンで考えて、今しかできないことをする
3. 外へ出て視野を広げる
4. 失敗を恐れず挑戦して、振り返る

<進め方> グループ単位で授業を進めます。課題は【シナリオA】【シナリオB】【シナリオC】の3つがあります。

【シナリオA】 授業内にシナリオ(課題)が与えられ、授業内でその課題をグループで解きます。

【シナリオB】 あらかじめ与えられたシナリオ(課題)に対し、授業時間外(約2週間)に議論し、授業でプレゼンします。

【シナリオC】 最終プレゼンテーションの課題です。授業時間外(約3カ月)に議論し、取材し、最終授業でプレゼンします。

<目標> 自らのキャリアをデザインするために必要な4つの行動を理解し、そして具体的に自らの実習や演習に組み込んで、実践することです。

<2014年度のフィールドワーク先> ※学生自らが決定

安川電機、井筒屋、スワロー、カフェカクタス、楽しい、Fコープ、スペースワールド、シダー、三木屋カフェ

<2013年度のフィールドワーク先> ※学生自らが決定

TOTO、福岡テンジン大学、一生もんshop「緑々(あおお)」、若者ワークプラザ北九州、北九州フィルムコミッション、ライブハウス WOW、ゼンリン、ナフコ、ヴィーナズワン、EPO、トトスイリーゼ北九州、タウンモービルネットワーク北九州

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』 草思社

○金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 PHP研究所

○金井寿宏 『リーダーシップ入門』 日本経済新聞社

○渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』 ナカニシヤ出版

○エドガー H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』 白桃書房

○中原淳ほか 『企業内人材育成入門』 ダイアモンド社

○中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』 ダイアモンド社

○高尾隆・中原淳 『Learning×Performance インプロする組織 予定調和を超え、日常をゆさぶる』 三省堂

○モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』 プレジデント社

○見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』 プレジデント社

○香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』 日本経済新聞出版社

○松尾睦 『「経験学習」入門』 ダイアモンド社

見美川孝一郎 『キャリア教育のウソ』 筑摩書房

○デイヴィッド A.プライス 『メイキング・オブ・ピクサー 創造力をつくった人々』 早川書房

○本田由紀 『教育の職業的意義-若者、学校、社会をつなぐ』 筑摩書房

J.D.克蘭ボルツ・A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』 ダイアモンド社

○赤尾勝己 『生涯学習理論を学ぶ人のために-欧米の成人教育理論、生涯学習の理論と方法』 世界思想社

○嶋浩一郎 『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』 ディスカヴァー・トゥエンティワン

○田尾雅夫 『モチベーション入門』 日本経済新聞社

○山崎亮 『コミュニティデザイン:人がつながるしくみをつくる』 学芸出版社

キャリア学概論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス(キャリアとは?):この授業を履修すべきか?
 - 2回 ダイアログ/ワールド・カフェ:雑談と議論と対話の違いは?
 - 3回 キャリア・デベロップメント:今何をすべきか
 - 4回 働く個性/仕事へのこだわり:自分の軸は何か?
 - 5回 成人教育学(大人の学び):学生と社会人との学びの違いは?
 - 6回 インプロビゼーション:創造力を培うには?
 - 7回 働く理由/ワークモチベーション:なぜ働くのか?
 - 8回 パフォーマンスエスノグラフィー:わかりやすいプレゼンテーションとは?
 - 9回 企業内人材育成:新人がすぐに辞めないようにするには?
 - 10回 21世紀型スキル:後から必要に応じて活用できるスキルとは?
 - 11回 計画された偶発性/セレンディピティ:幸運に出会う確率を上げるには?
 - 12回 キャリア・アダプタリティ:自分に合う仕事を探すのは間違い?
 - 13回 大学生のキャリア(大学生活・就職活動):内定を取るにはどうすればいいのか?
 - 14回 Connected Learning(接続された学習):大学での学びを将来につなぐには?
 - 15回 最終プレゼンテーション:フィールドワークで何を学んだのか?
- ※期間中、フィールドリサーチを実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業のプレゼンテーション...75% 最終プレゼンテーション...20% 最終レポート...5%
 ※プレゼンテーションと最終レポートは必須です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ※第1回目の授業で履修者調整する可能性がありますので、第1回目は必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員(mitate@kitakyu-u.ac.jp)までメールで連絡してください。
- ※1年次に1学期の『キャリア・デザイン』を受講していることが望ましい。
- ※授業および、授業時間以外でのグループワークの参加が必須となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生学群の1年生の皆さんは、地域活動でいろいろ悩んでいると思います。本授業ではその悩みを払拭し、地域活動への参加意欲を高め、その経験を将来に繋げることを目的としています。奮ってご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、地域活動、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習

地域文化論 【昼】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

地域創生学群では多くの場面で、地域活性化やまちづくりといった活動を行う機会が多い。その際、衰退しつつある地域社会において、他の地域に多く存在する財やサービスを提供しても意味がない。つまり、地域社会特有の「地域らしさ」をアピールする必要がある。その際、着目されるのが「地域文化」である。地域文化をいかに活用することによって、地域社会が良い方向に発展するのが、地域文化のあり方について再考するのが、本授業の1つも目的である。

もう一つは、地域社会に対する多様性の問題についての検討である。近年、社会が均質化していくことによって、特定の考え方や行動が一般的と思われ、異質な行動をとる者、異なる価値観を有する者等を地域社会から排除しようとするところがある。かつて、日本における伝統的社会においては、地域それぞれに根差した地域文化が存在し、多様性を確保していたが、価値観や考え方が近年均質化してきている。本授業では、地域文化という視点から、多様な価値観を有する社会についての考察を行うこととする。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 なぜ地域文化を学ばなければならないのか？
- 第3回 地域づくり・まちづくりにおける2つの手法 - 地域文化は必要か-
- 第4回 新たな地域文化の創造 - 新たな「まち」を作る手法-
- 第5回 地域文化を「演出する」地域づくり - 大分県湯布院の事例から-
- 第6回 観光の失敗
- 第7回 地域文化の変容
- 第8回 中間試験 (※中間試験の日程は前後する可能性があります。)
- 第9回 地域社会の多様性を保つための地域文化
- 第10回 均質化した社会に生じる環境問題と福祉問題 - ESDの観点から-
- 第11回 避難地としての川 - アジュール空間の必要性-
- 第12回 「市民」の意識と攻撃性 - ホームレスを地域社会で受容できるのか-
- 第13回 すべての人を包摂する社会へ - 社会の多様性を担保するための地域文化-
- 第14回 レポート試験 (※レポート試験の日程は前後する可能性があります。)
- 第15回 総括と復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的参加姿勢：20%
不定期に行う試験(レポート試験も含む)：80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は「文化」という名称がついているが、芸術や宗教、芸能、民話等には言及しないため、気を付けていただきたい。
また、本授業では地域文化とは何か？という本質的な「文化論」ではなく、「なぜ地域文化が必要なのか？」という点に重きを置いている。
つまり、地域文化を活用すること、または地域文化を生かすことで社会がどのように変化していくのかについて、詳細な解説を行うものである。

キーワード /Keywords

危機管理論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

地域の「危機管理」についての初歩的理解を目的とする。「危機管理」の概念に始まり、特に北部九州地域における危機の事例として、自然災害や国民保護を取り扱い、地域に発生しうる「危機」の実態を理解したい。

なお、授業全般にわたり、以下の項目を特に重視する。

- ①地域の危機管理に関する知識の提供や理解にとどまらず、
- ②必要な情報を解説する技能を習得し、
- ③実践的な側面からそれらの知識や技能を活用できるようにし、
- ④それにより、生涯にわたり最低限度の危機管理能力を身に付けられるようにする。

教科書 /Textbooks

使用しない。レジュメおよび資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 危機管理総論(危機管理の定義と範囲、概念の整理、地域防災計画について)
- 第3-6回 自然災害と地域I(洪水と土砂災害)
 - ①福岡県(北九州市)の自然条件と気象条件の特徴、紫川の特徴
 - ②台風・集中豪雨のメカニズム
 - ③各種災害のメカニズム(洪水、土石流、表層崩壊、深層崩壊、地滑り、高潮等)
 - ④過去の災害事例研究
 - ⑤平成21年、22年の集中豪雨について
- 第7-8回 自然災害と地域II(地震災害)
 - ①地震のタイプとメカニズム、マグニチュードと震度
 - ②福岡県の地質条件の特徴
 - ③地震災害について(倒壊、火災、液状化、津波等)
 - ④福岡西方沖地震について
- 第9回 自然災害と地域III(異常気象と都市災害)
 - ヒートアイランド現象、「ゲリラ豪雨」、竜巻、ダウンバースト等
- 第10回 自然災害をめぐる諸制度
 - ①災害対策基本法
 - ②激甚災害法等の関連諸制度
 - ③防災計画について
- 第11-12回 有事における対応と国民保護法
 - ①国民保護法の概説
 - ②災害対策基本法との違い
 - ③国民保護計画
 - ④武力攻撃事態と緊急対処事態
 - ⑤シミュレーション(弾道ミサイル、列車爆破、or原発災害)
- 第13-14回 大学・学生の危機管理
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度30% + 試験(もしくはレポート)70%(詳細は開講時に説明する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

危機管理論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

システム活用 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本授業では、システム活用の基礎知識について学習する。システムに関する知識が業務上の問題解決に適用できることを理解し、システム利用者としての必要な考え方や行動の仕方について学ぶ。また、グループディスカッションや個人ワークなどを通じて、システムを活用していく際の問題点を共有し、利用者としての正しい判断について議論する。

教科書 /Textbooks

『情報処理教科書 ITパスポート』（選定中、オリエンテーション時に指示する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ディスカッションと発表【企業と法務】
- 3回 ディスカッションと発表【経営戦略】
- 4回 ディスカッションと発表【システム戦略】
- 5回 ディスカッションと発表【開発技術】
- 6回 ディスカッションと発表【プロジェクトマネジメント】
- 7回 ディスカッションと発表【サービスマネジメント】
- 8回 ディスカッションと発表【基礎理論】
- 9回 ディスカッションと発表【コンピュータシステム】
- 10回 ディスカッションと発表【マルチメディア】
- 11回 ディスカッションと発表【ヒューマンインターフェース】
- 12回 ディスカッションと発表【データベース】
- 13回 ディスカッションと発表【ネットワーク】
- 14回 ディスカッションと発表【セキュリティ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題 ... 40%
積極的な授業への参加 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、授業内容に関する宿題レポートを提出してもらう。その内容について、グループディスカッションや質疑応答を繰り返しながら、授業を展開する。受講生の興味関心や理解度に応じて、授業計画や授業内容を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

ストラテジ マネジメント テクノロジ

まちづくり計画【昼】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この講義の基本的なテーマは、都市計画やまちづくりに関する基本的な事項や様々な手法を知ることです。講義では、都市計画に関する重要事項について比較的広範囲に取り上げ、その基本的事項について具体的な事例を交えながら概説します。これまでの社会状況とは根本から異なる今後の社会において、現在の都市計画の体系やまちづくりの手法とはどうあるべきか、皆でディスカッションを交えながら考えることが、この講義の目的です。

教科書 /Textbooks

使用しません。(適宜、資料を配付します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 萩島哲編『新建築学シリーズ10 都市計画』朝倉書店
- 都市計画教育研究会編『都市計画教科書第3版』彰国社
- まちづくりキーワード事典
- 都市計画法を読みこなすコツ
- 初学者のための都市工学入門
- 都市計画【第3版】
- その他、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【都市について考える】
- 2回 都市計画とは【都市計画の概念】
- 3回 近代都市計画の歴史【都市計画史】
- 4回 土地利用の概念【土地利用】
- 5回 土地利用計画の実現【土地利用】
- 6回 都市計画を実現する様々な手法【都市施設】【土地区画整理事業】【市街地再開発事業】
- 7回 都市計画の支援ツール【調査】【解析】
- 8回 ディスカッション
- 9回 リノベーションまちづくり【リノベーション】
- 10回 まちづくりの失敗事例【都市経営】
- 11回 ディスカッション【交通】
- 12回 特別講師による講義【戦略】
- 13回 ディスカッション
- 14回 特別講師による講義【戦略】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 坂本毅啓 他/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。
主とした実習内容は、市内の小中学校での学習支援活動、療育センター・施設等におけるボランティア活動など。

教科書 /Textbooks
特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～3回 実習前指導
- 4～6回 実習
- 7回 実習の振り返り
- 8～14回 実習
- 15回 実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method
主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓 他/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。
 主とした実習内容は、市内の小中学校での学習支援活動、療育センター・施設等におけるボランティア活動など。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 オリエンテーション
 2～4回 実習前指導
 5～11回 実習(実習期間中に中間振り返りを含む)
 12～15回 実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
 その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I (学び支援) 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本実習では、「子どもの学び」支援プロジェクトにチームで取り組む。新しいメンバーを迎えたチームの中心的な立場として、チームを運営していくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に子どもを対象とした地域活動に参加し、その活動の実態を把握する。そして、その活動における問題点を発見し、チームでその問題解決に取り組むための手法論について議論する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況(振り返りレポートを含む) ... 70%
積極的な実習や地域活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらう。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その際には、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や地域活動にも積極的に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

子ども 地域 プロジェクト

地域創生実習I (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤貴之/地域創生学群

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本実習では、地域創生学群広報活動にチームで取り組む。新しいメンバーを迎えたチームの中心的な立場として、チームを運営していくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に広報を対象とした活動に参加し、その活動の実態を把握する。そして、その活動における問題点を発見し、チームでその問題解決に取り組むための手法論について議論する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 (振り返りレポートを含む) ... 70%
積極的な実習や活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外 (土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む) に、チームで活動や課題などに取り組んでもらう。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その際には、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていく場合があるため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や活動にも積極的に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

広報 地域 プロジェクトマネジメント

地域創生実習I (小倉) 【昼】

担当者名 片岡寛之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

小倉活性化プロジェクトです。
このプロジェクトでは、小倉のまちに若者が集まっていない、外部からのイメージが悪いという問題意識に対して、小倉のまちに若者が集まる仕組みをつくり、小倉のまちの楽しさや良さを発信することを意識した活動を行っています。具体的には、小倉のまちのPRと来街者へのおもてなしを行う「まちなかコンシェルジュ」や若者を集めて魚町界限のごみ拾いを行う「グリーンバード小倉」をはじめ、様々な活動を展開しています。

実習では、基礎(1年次)→継続(2年次)→創造(3年次)とステップアップしていくことをイメージしてください。
2年生のみなさんは「継続」を意識しつつ、実践活動の継続、実践理論の習得、チームマネジメントに努めて下さい。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、各自が積極的に必要な書籍を読んで活動の参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス(目的、概要説明)
- 第02回～第14回 実習活動
- 第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業中の課題に対する成果・・・50%
- 授業に取り組む姿勢・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ルーチン活動をこなしつつ、新たな挑戦をして欲しいと願っています。そのために、とにかく足繁くまちにかようことで、まちの変化をつぶさに感じ取れる「感度」を身につけて欲しいと思います。

キーワード /Keywords

地域創生実習I (門司) 【昼】

担当者名 眞鍋和博/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (Ⅱ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本実習では、門司商店街活性化プロジェクトにチームで取り組む。新しいメンバーを迎えたチームの中心的な立場として、チームを運営していくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に商店街を対象とした地域活動に参加し、その活動の実態を把握する。そして、その活動における問題点を発見し、チームでその問題解決に取り組むための手法論について議論する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 (振り返りレポートを含む) ... 70%
積極的な実習や地域活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外 (土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む) に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうことがある。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その際には、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や地域活動にも積極的に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

門司港 観光開発 回遊性

地域創生実習I (猪倉) 【昼】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

地域創生力 (社会人基礎力・ジェネリックスキル) を身に着けるために、地域社会に実際に出て、地域活動を行う。
本実習 (猪倉) では、北九州市八幡東区の猪倉町に「猪倉サテライト」という活動拠点を設け、休耕田を借り農業をツールとしたまちづくり活動を展開している。

地域の大人の方々、高齢者、そして子供たちとの交流の中で、多世代との対話力 (コミュニケーション能力) や社会性を身に着けると同時に、本実習の柱となる「農業の基礎的知識」の充足を目指す。実習活動の初歩であり、この授業では、まず地域に出る際のふるまい方、礼儀・礼節などの基本的なマナーを実践を通して理解するとともに、実習プログラムを経験することによって、社会性を身に着けることを目標とする。

また、チーム全体の現状を深く分析し、プロジェクトをマネジメントするためのリーダーシップを各自醸成することも大きな目的である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第14回：北九州市八幡東区高槻地域において地域活動の実践
- 第15回：総括

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的意欲・実習への貢献度：50%
- 目標設定達成度・課題解決力 (振り返り等によって評価)：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I (ESD) 【昼】

担当者名 眞鍋和博/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

ESD(education for sustainable development)は「持続可能な開発のための教育」の意味です。
 少子高齢化、地域の衰退、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティなど、社会に存在する様々な課題に対して学び、解決に向けて実践する実習です。
 特に2年次には、担当するプロジェクトに関連する知識を学習しつつ、課題解決に向けたチームマネジメントを意識して活動をリードしていただきます。単なるイベント実施に留まることなく、何のために行うのか、ターゲットは誰か、どのようなプログラムが最適なのかについて常に考えながら実践していただきます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回～第14回 学びと実践
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 実践活動やミーティングへの参加状況...60%
- 授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

環境ESD副専攻プログラムや教養特講(まなびと講座)の履修を推奨します。
 北九州まなびとESDステーションが主な活動場所となり、特任教員の指導も受けることになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I (震災) 【昼】

担当者名 真鍋和博/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、地域社会の在り方を根本から考え直させる機会となったと言えます。この実習は、地域社会の再生に対して自分たちが何ができるかを考え、実践するだけではなく、東日本大震災で学んだ教訓が風化しないように、北九州地域への啓発活動を目的としています。年に数度の現地派遣だけではなく、通年で北九州でも活動していきます。特に2年次には、担当するプロジェクトに関連する知識を学習しつつ、課題解決に向けたチームマネジメントを意識して活動をリードしていただきます。単なるイベント実施に留まることなく、何のために行うのか、ターゲットは誰か、どのようなプログラムが最適なのかについて常に考えながら実践していただきます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回～第14回 学びと実践
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)についての成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川敬之/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期 (ベ ア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

少子高齢化、地域の衰退、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティなど、社会に存在する様々な課題に対して学び、解決に向けて実践する実習です。
 担当するプロジェクトに関連する知識を学習しつつ、課題解決に向けたチームマネジメントを意識して活動をリードしていただきます。単なるイベント実施に留まることなく、何のために行うのか、ターゲットは誰か、どのようなプログラムが最適なのかについて常に考えながら実践していただきます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回～第14回 学びと実践
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 実践活動やミーティングへの参加状況...60%
- 授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

環境ESD副専攻プログラムや教養特講(まなびと講座)の履修を推奨します。
 北九州まなびとESDステーションが主な活動場所となり、特任教員の指導も受けることになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I (学び支援) 【昼】

担当者名 /Instructor 廣渡栄寿/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期 (Ⅱ) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本実習では、「子どもの学び」支援プロジェクトにチームで取り組む。1学期から続くチームの中心的な立場として、チームを運営していくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に子どもを対象とした地域活動に参加し、その活動の実態を把握する。そして、その活動における問題点を発見し、チームでその問題解決に取り組むための手法論について議論する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 (振り返りレポートを含む) ... 70%
積極的な実習や地域活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外 (土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む) に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらう。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その際には、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や地域活動にも積極的に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

子ども 地域 プロジェクト

地域創生実習I (広報) 【昼】

担当者名 佐藤貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本実習では、地域創生学群広報活動にチームで取り組む。1学期から続くチームの中心的な立場として、チームを運営していくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に広報を対象とした活動に参加し、その活動の実態を把握する。そして、その活動における問題点を発見し、チームでその問題解決に取り組むための手法論について議論する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況(振り返りレポートを含む) ... 70%
積極的な実習や活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外(土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む) に、チームで活動や課題などに取り組んでもらう。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その際には、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていく場合があるため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や活動にも積極的に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

広報 地域 プロジェクトマネジメント

地域創生実習I (小倉) 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

小倉活性化プロジェクトです。
 このプロジェクトでは、小倉のまちに若者が集まっていない、外部からのイメージが悪いという問題意識に対して、小倉のまちに若者が集まる仕組みをつくり、小倉のまちの楽しさや良さを発信することを意識した活動を行っています。具体的には、小倉のまちのPRと来街者へのおもてなしを行う「まちなかコンシェルジュ」や若者を集めて魚町界限のごみ拾いを行う「グリーンバード小倉」をはじめ、様々な活動を展開しています。
 実習では、基礎(1年次)→継続(2年次)→創造(3年次)とステップアップしていくことをイメージしてください。
 2年生のみなさんは「継続」を意識しつつ、実践活動の継続、実践理論の習得、チームマネジメントに努めて下さい。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、各自が積極的に必要な書籍を読んで活動の参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス(目的、概要説明)
 第02回～第14回 実習活動
 第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題に対する成果・・・50%
 授業に取り組む姿勢・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ルーチン活動をこなしつつ、新たな挑戦をして欲しいと願っています。そのために、とにかく足繁くまちにかようことで、まちの変化をつぶさに感じ取れる「感度」を身につけて欲しいと思います。

キーワード /Keywords

地域創生実習I (門司) 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋和博/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1・2学期 (ベア)
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 本実習では、門司商店街活性化プロジェクトにチームで取り組む。1学期から続くチームの中心的な立場として、チームを運営していくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に商店街を対象とした地域活動に参加し、その活動の実態を把握する。そして、その活動における問題点を発見し、チームでその問題解決に取り組むための手法論について議論する。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 : オリエンテーション、目的確認
 2回～14回 : 実習
 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 (振り返りレポートを含む) ... 70%
 積極的な実習や地域活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 本実習では、正規の実習時間外 (土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む) に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうことがある。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その際には、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や地域活動にも積極的に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords
 門司港 観光開発 回遊性

地域創生実習I (猪倉) 【昼】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

地域創生力(社会人基礎力・ジェネリックスキル)を身に着けるために、地域社会に実際に出て、地域活動を行う。
本実習(猪倉)では、北九州市八幡東区の猪倉町に「猪倉サテライト」という活動拠点を設け、休耕田を借り農業をツールとしたまちづくり活動を展開している。

地域の大人の方々、高齢者、そして子供たちとの交流の中で、多世代との対話力(コミュニケーション能力)や社会性を身に着けると同時に、本実習の柱となる「農業の基礎的知識」の充足を目指す。実習活動の初歩であり、この授業では、まず地域に出る際のふるまい方、礼儀・礼節などの基本的なマナーを実践を通して理解するとともに、実習プログラムを経験することによって、社会性を身に着けることを目標とする。

また、チーム全体の現状を深く分析し、プロジェクトをマネジメントするためのリーダーシップを各自醸成することも大きな目的である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第14回：北九州市八幡東区高槻地域において地域活動の実践
- 第15回：総括

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的意欲・実習への貢献度：50%
- 目標設定達成度・課題解決力(振り返り等によって評価)：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I (ESD) 【昼】

担当者名 眞鍋和博/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

ESD(education for sustainable development)は「持続可能な開発のための教育」の意味です。
 少子高齢化、地域の衰退、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティなど、社会に存在する様々な課題に対して学び、解決に向けて実践する実習です。
 特に2年次には、担当するプロジェクトに関連する知識を学習しつつ、課題解決に向けたチームマネジメントを意識して活動をリードしていただきます。単なるイベント実施に留まることなく、何のために行うのか、ターゲットは誰か、どのようなプログラムが最適なのかについて常に考えながら実践していただきます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
 第02回～第14回 学びと実践
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
 授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

環境ESD副専攻プログラムや教養特講(まなびと講座)の履修を推奨します。
 北九州まなびとESDステーションが主な活動場所となり、特任教員の指導も受けることになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3年次の「チャレンジプログラム」への参加を希望する学生は、事前準備を行いつつ活動するようにしてください。

キーワード /Keywords

地域創生実習I (震災) 【昼】

担当者名 眞鍋和博/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、地域社会の在り方を根本から考え直させる機会となったと言えます。この実習は、地域社会の再生に対して自分たちが何ができるかを考え、実践するだけではなく、東日本大震災で学んだ教訓が風化しないように、北九州地域への啓発活動を目的としています。年に数度の現地派遣だけではなく、通年で北九州でも活動していきます。特に2年次には、担当するプロジェクトに関連する知識を学習しつつ、課題解決に向けたチームマネジメントを意識して活動をリードしていただきます。単なるイベント実施に留まることなく、何のために行うのか、ターゲットは誰か、どのようなプログラムが最適なのかについて常に考えながら実践していただきます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)についての成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I (421Lab.) 【昼】

担当者名 /Instructor 石川敬之/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1・2学期 (ベ ア)
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

少子高齢化、地域の衰退、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティなど、社会に存在する様々な課題に対して学び、解決に向けて実践する実習です。
 担当するプロジェクトに関連する知識を学習しつつ、課題解決に向けたチームマネジメントを意識して活動をリードしていただきます。単なるイベント実施に留まることなく、何のために行うのか、ターゲットは誰か、どのようなプログラムが最適なのかについて常に考えながら実践していただきます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回～第14回 学びと実践
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 実践活動やミーティングへの参加状況...60%
- 授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

環境ESD副専攻プログラムや教養特講(まなびと講座)の履修を推奨します。
 北九州まなびとESDステーションが主な活動場所となり、特任教員の指導も受けることになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II 【昼】

担当者名 坂本毅啓 他/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。
主とした実習内容は、市内の小中学校での学習支援活動、療育センター・施設等におけるボランティア活動など。

教科書 /Textbooks
特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 オリエンテーション
2～3回 実習前指導
4～6回 実習
7回 実習の振り返り
8～14回 実習
15回 実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method
主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓 他/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。
 主とした実習内容は、市内の小中学校での学習支援活動、療育センター・施設等におけるボランティア活動など。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 オリエンテーション
 2～4回 実習前指導
 5～11回 実習(実習期間中に中間振り返りを含む)
 12～15回 実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
 その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II (学び支援) 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本実習では、「子どもの学び」支援プロジェクトにチームで取り組む。新しいメンバーを迎えたチームの指導的な立場として、チームを引っ張っていくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に子どもを対象とした地域活動により主体的に参加し、その活動について深く考える。そして、その活動における問題点を発見し、チームでその問題解決手法について議論する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況(振り返りレポートを含む) ... 70%
積極的な実習や地域活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらう。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その際には、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や地域活動にも積極的に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

子ども 地域 プロジェクト

地域創生実習II (広報) 【昼】

担当者名 佐藤貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本実習では、地域創生学群広報活動にチームで取り組む。新しいメンバーを迎えたチームの指導的な立場として、チームを引っ張っていくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に広報を対象とした活動により主体的に参加し、その活動について深く考える。そして、その活動における問題点を発見し、チームでその問題解決手法について議論する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 (振り返りレポートを含む) ... 70%
積極的な実習や活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外 (土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む) に、チームで活動や課題などに取り組んでもらう。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その際には、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていく場合があるため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や活動にも積極的に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

広報 地域 プロジェクトマネジメント

地域創生実習II (小倉) 【昼】

担当者名 片岡寛之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

小倉活性化プロジェクトです。
このプロジェクトでは、小倉のまちに若者が集まっていない、外部からのイメージが悪いという問題意識に対して、小倉のまちに若者が集まる仕組みをつくり、小倉のまちの楽しさや良さを発信することを意識した活動を行っています。具体的には、小倉のまちのPRと来街者へのおもてなしを行う「まちなかコンシェルジュ」や若者を集めて魚町界限のごみ拾いを行う「グリーンバード小倉」をはじめ、様々な活動を展開しています。

実習では、基礎(1年次)→継続(2年次)→創造(3年次)とステップアップしていくことをイメージしてください。
3年生のみなさんは「創造」を意識して、主体的かつ創造的な活動の展開、課題解決型事業の実施、実践理論に基づく地域マネジメントの実践に取り組んで下さい。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、各自が積極的に必要な書籍を読んで活動の参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス(目的、概要説明)
第02回～第14回 実習活動
第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題に対する成果・・・50%
授業に取り組む姿勢・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

チャレンジプログラムに挑戦していることを願っています。
もし、そうでない場合は、実習活動だけにとどまらず、どんなことでも良いので、新たな創造的活動に挑戦して欲しいと思います。

キーワード /Keywords

地域創生実習II (門司) 【昼】

担当者名 眞鍋和博/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本実習では、門司商店街活性化プロジェクトにチームで取り組む。新しいメンバーを迎えたチームの指導的な立場として、チームを引っ張っていくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に商店街を対象とした地域活動により主体的に参加し、その活動について深く考える。そして、その活動における問題点を発見し、チームでその問題解決手法について議論する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 (振り返りレポートを含む) ... 70%
積極的な実習や地域活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外 (土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む) に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうことがある。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その際には、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や地域活動にも積極的に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

門司港 観光開発 回遊性

地域創生実習II (猪倉) 【昼】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

地域創生力(社会人基礎力・ジェネリックスキル)を身に着けるために、地域社会に実際に出て、地域活動を行う。
本実習(猪倉)では、北九州市八幡東区の猪倉町に「猪倉サテライト」という活動拠点を設け、休耕田を借り農業をツールとしたまちづくり活動を展開している。

地域の大人の方々、高齢者、そして子供たちとの交流の中で、多世代との対話力(コミュニケーション能力)や社会性を身に着けると同時に、本実習の柱となる「農業の基礎的知識」の充足を目指す。実習活動の初歩であり、この授業では、まず地域に出る際のふるまい方、礼儀・礼節などの基本的なマナーを実践を通して理解するとともに、実習プログラムを経験することによって、社会性を身に着けることを目標とする。

また、チーム全体の現状を深く分析し、プロジェクトをマネジメントするためのリーダーシップを各自醸成することも大きな目的である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第14回：北九州市八幡東区高槻地域において地域活動の実践
- 第15回：総括

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的意欲・実習への貢献度：50%
- 目標設定達成度・課題解決力(振り返り等によって評価)：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II (ESD) 【昼】

担当者名 眞鍋和博/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

ESD(education for sustainable development)は「持続可能な開発のための教育」の意味です。
 少子高齢化、地域の衰退、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティなど、社会に存在する様々な課題に対して学び、解決に向けて実践する実習です。
 特に3年次には、担当するプロジェクトに関連する知識を学習しつつ、参加しているプロジェクトが社会課題の解決に向けて適切に活動を行うことができているのかを検証しながら活動を継続していきます。単なるイベント実施に留まることなく、常に問題意識を持ち、何のために行うのか、ターゲットは誰か、どのようなプログラムが最適なのかについて常に考えながら実践していただきます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回～第14回 学びと実践
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 実践活動やミーティングへの参加状況...60%
- 授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

北九州まなびとESDステーションが主な活動場所となり、特任教員の指導も受けることになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II (震災) 【昼】

担当者名 眞鍋和博/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、地域社会の在り方を根本から考え直させる機会となったと言えます。この実習は、地域社会の再生に対して自分たちが何ができるかを考え、実践するだけではなく、東日本大震災で学んだ教訓が風化しないように、北九州地域への啓発活動を目的としています。年に数度の現地派遣だけではなく、通年で北九州でも活動していきます。特に3年次には、担当するプロジェクトに関連する知識を学習しつつ、参加しているプロジェクトが社会課題の解決に向けて適切に活動を行うことができているのかを検証しながら活動を継続していきます。単なるイベント実施に留まることなく、常に問題意識を持ち、何のために行うのか、ターゲットは誰か、どのようなプログラムが最適なのかについて常に考えながら実践していただきます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)についての成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II (421Lab.) 【昼】

担当者名 石川敬之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 少子高齢化、地域の衰退、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティなど、社会に存在する様々な課題に対して学び、解決に向けて実践する実習です。担当するプロジェクトに関連する知識を学習しつつ、参加しているプロジェクトが社会課題の解決に向けて適切に活動を行うことができているのかを検証しながら活動を継続していきます。単なるイベント実施に留まることなく、常に問題意識を持ち、何のために行うのか、ターゲットは誰か、どのようなプログラムが最適なのかについて常に考えながら実践していただきます。

教科書 /Textbooks
 特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第01回 ガイダンス
 第02回～第14回 学びと実践
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 実践活動やミーティングへの参加状況...60%
 授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 北九州まなびとESDステーションが主な活動場所となり、特任教員の指導も受けることになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II (学び支援) 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (Ⅱ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本実習では、「子どもの学び」支援プロジェクトにチームで取り組む。1学期から続くチームの指導的な立場として、チームを支えていくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に子どもを対象とした地域活動により主体的に参加し、その活動について深く考える。そして、3年間の実習総括を行い、地域の問題点とその解決の在り方についてまとめる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 (振り返りレポートを含む) ... 70%
積極的な実習や地域活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外 (土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む) に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらう。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その際には、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や地域活動にも積極的に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

子ども 地域 プロジェクト

地域創生実習II (広報) 【昼】

担当者名 佐藤貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本実習では、地域創生学群広報活動にチームで取り組む。1学期から続くチームの指導的な立場として、チームを支えていくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に広報を対象とした活動により主体的に参加し、その活動について深く考える。そして、3年間の実習総括を行い、地域の問題点とその解決の在り方についてまとめる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション、目的確認
- 2回～14回 : 実習
- 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 (振り返りレポートを含む) ... 70%
積極的な実習や活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本実習では、正規の実習時間外 (土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む) に、チームで活動や課題などに取り組んでもらう。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その際には、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていく場合があるため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や活動にも積極的に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

広報 地域 プロジェクトマネジメント

地域創生実習II (小倉) 【昼】

担当者名 片岡寛之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

小倉活性化プロジェクトです。
このプロジェクトでは、小倉のまちに若者が集まっていない、外部からのイメージが悪いという問題意識に対して、小倉のまちに若者が集まる仕組みをつくり、小倉のまちの楽しさや良さを発信することを意識した活動を行っています。具体的には、小倉のまちのPRと来街者へのおもてなしを行う「まちなかコンシェルジュ」や若者を集めて魚町界限のごみ拾いを行う「グリーンバード小倉」をはじめ、様々な活動を展開しています。

実習では、基礎(1年次)→継続(2年次)→創造(3年次)とステップアップしていくことをイメージしてください。
3年生のみなさんは「創造」を意識して、主体的かつ創造的な活動の展開、課題解決型事業の実施、実践理論に基づく地域マネジメントの実践に取り組んで下さい。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、各自が積極的に必要な書籍を読んで活動の参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス(目的、概要説明)
第02回～第14回 実習活動
第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題に対する成果・・・50%
授業に取り組む姿勢・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最後までやり切って下さい。

キーワード /Keywords

地域創生実習II (門司) 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋和博/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1・2学期 (ベ)
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 本実習では、門司商店街活性化プロジェクトにチームで取り組む。1学期から続くチームの指導的な立場として、チームを支えていくために必要なプロジェクトマネジメント能力を身につける。また、プロジェクトを進めるにあたり、主に商店街を対象とした地域活動により主体的に参加し、その活動について深く考える。そして、3年間の実習総括を行い、地域の問題点とその解決の在り方についてまとめる。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 : オリエンテーション、目的確認
 2回～14回 : 実習
 15回 : 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 (振り返りレポートを含む) ... 70%
 積極的な実習や地域活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 本実習では、正規の実習時間外 (土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む) に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうことがある。受講生の取り組み状況や理解度に応じて、実習計画や実習内容を変更することがある。その際には、実習中に説明する。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、多様な知識や経験を得るために、主たるテーマ以外の実習や地域活動にも積極的に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords
 門司港 観光開発 回遊性

地域創生実習II (猪倉) 【昼】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (Ⅱ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

地域創生力 (社会人基礎力・ジェネリックスキル) を身に着けるために、地域社会に実際に出て、地域活動を行う。
本実習 (猪倉) では、北九州市八幡東区の猪倉町に「猪倉サテライト」という活動拠点を設け、休耕田を借り農業をツールとしたまちづくり活動を展開している。

地域の大人の方々、高齢者、そして子供たちとの交流の中で、多世代との対話力 (コミュニケーション能力) や社会性を身に着けると同時に、本実習の柱となる「農業の基礎的知識」の充足を目指す。実習活動の初歩であり、この授業では、まず地域に出る際のふるまい方、礼儀・礼節などの基本的なマナーを実践を通して理解するとともに、実習プログラムを経験することによって、社会性を身に着けることを目標とする。

また、チーム全体の現状を深く分析し、プロジェクトをマネジメントするためのリーダーシップを各自醸成することも大きな目的である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第14回：北九州市八幡東区高槻地域において地域活動の実践
- 第15回：総括

成績評価の方法 /Assessment Method

- 積極的意欲・実習への貢献度：50%
- 目標設定達成度・課題解決力 (振り返り等によって評価)：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II (ESD) 【昼】

担当者名 眞鍋和博/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(ベ ア) 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

ESD(education for sustainable development)は「持続可能な開発のための教育」の意味です。少子高齢化、地域の衰退、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティなど、社会に存在する様々な課題に対して学び、解決に向けて実践する実習です。特に3年次には、担当するプロジェクトに関連する知識を学習しつつ、参加しているプロジェクトが社会課題の解決に向けて適切に活動を行うことができているのかを検証しながら活動を継続していきます。単なるイベント実施に留まることなく、常に問題意識を持ち、何のために行うのか、ターゲットは誰か、どのようなプログラムが最適なのかについて常に考えながら実践していただきます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回～第14回 学びと実践
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 実践活動やミーティングへの参加状況...60%
- 授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

北九州まなびとESDステーションが主な活動場所となり、特任教員の指導も受けることになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II (震災) 【昼】

担当者名 真鍋和博/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、地域社会の在り方を根本から考え直させる機会となったと言えます。この実習は、地域社会の再生に対して自分たちが何ができるかを考え、実践するだけではなく、東日本大震災で学んだ教訓が風化しないように、北九州地域への啓発活動を目的としています。年に数度の現地派遣だけではなく、通年で北九州でも活動していきます。特に3年次には、担当するプロジェクトに関連する知識を学習しつつ、参加しているプロジェクトが社会課題の解決に向けて適切に活動を行うことができているのかを検証しながら活動を継続していきます。単なるイベント実施に留まることなく、常に問題意識を持ち、何のために行うのか、ターゲットは誰か、どのようなプログラムが最適なのかについて常に考えながら実践していただきます。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
第02回～第14回 学びと実践
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
授業(プロジェクト)についての成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II (421Lab.) 【昼】

担当者名 石川敬之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 少子高齢化、地域の衰退、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティなど、社会に存在する様々な課題に対して学び、解決に向けて実践する実習です。担当するプロジェクトに関連する知識を学習しつつ、参加しているプロジェクトが社会課題の解決に向けて適切に活動を行うことができているのかを検証しながら活動を継続していきます。単なるイベント実施に留まることなく、常に問題意識を持ち、何のために行うのか、ターゲットは誰か、どのようなプログラムが最適なのかについて常に考えながら実践していただきます。

教科書 /Textbooks
 特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第01回 ガイダンス
 第02回～第14回 学びと実践
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 実践活動やミーティングへの参加状況...60%
 授業(プロジェクト)の成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 北九州まなびとESDステーションが主な活動場所となり、特任教員の指導も受けることになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツボランティア実習I【昼】

担当者名 /Instructor 徳永政夫/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 スポーツボランティア実習Iでは性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。また、考案したスポーツ種目のルールなどを小学校低学年の子供たちにグループ単位で実際に指導する。

教科書 /Textbooks
 資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【グループ単位にて】	【個人において】
1 回ガイダンス	1 回ガイダンス
2 回スポーツルールの作成 1	2 回学校のスポーツ指導 1
3 回スポーツルールの作成 2	3 回学校のスポーツ指導 2
4 回スポーツルールの作成 3	4 回学校のスポーツ指導 3
5 回スポーツルールの発表 1	5 回学校のスポーツ指導 4
6 回スポーツルールの発表 2	6 回学校のスポーツ指導 5
7 回スポーツルールの発表 3	7 回指導の反省
8 回発表 1 のチェック・サポート	8 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
9 回発表 2 のチェック・サポート	9 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
10 回発表 3 のチェック・サポート	10 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1	11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 4
12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2	12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 5
13 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3	13 回指導の反省 1
14 回指導の反省	14 回指導の反省 2
15 回まとめ	15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業への取り組み... 40% 指導力... 30% レポート提出... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 インドアの場合、アウトドアの場合、それぞれのシューズや服装など学群生らしい態度で臨むこと。
 また、実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日等を含む)に取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツボランティア実習I【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 スポーツボランティア実習IIはスポーツボランティア実習Iをふまえ幅広い年齢層やスポーツ種目に合わせた形で実際の指導や講習などを積極的に行っていく。スポーツボランティア実習Iのグループ学習から、個人の資質を高めることに重点を置き、地域のスポーツ指導やキッズスポーツ指導などを行う。

教科書 /Textbooks
 資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【グループ単位にて】	【個人において】
1 回ガイダンス	1 回ガイダンス
2 回スポーツルールの作成 1	2 回学校のスポーツ指導 1
3 回スポーツルールの作成 2	3 回学校のスポーツ指導 2
4 回スポーツルールの作成 3	4 回学校のスポーツ指導 3
5 回スポーツルールの発表 1	5 回学校のスポーツ指導 4
6 回スポーツルールの発表 2	6 回学校のスポーツ指導 5
7 回スポーツルールの発表 3	7 回指導の反省
8 回発表 1 のチェック・サポート	8 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
9 回発表 2 のチェック・サポート	9 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
10 回発表 3 のチェック・サポート	10 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1	11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 4
12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2	12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 5
13 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3	13 回指導の反省 1
14 回指導の反省	14 回指導の反省 2
15 回まとめ	15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業への取り組み... 40% 指導力... 30% レポート提出... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 インドアの場合、アウトドアの場合、それぞれのシューズや服装など学群生らしい態度で臨むこと。
 また、実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日等を含む)に取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツボランティア実習II 【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

各自に課せられた実習によって、事前学習、実習計画の作成、実習、中間の反省と振り返り、最終の反省と振り返り、そして報告という型で実践力を磨いていく。主な内容はシニア世代の健康づくりや子供の(幼児から小学生)までの野球教室などの活動を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合は資料を配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【グループ単位にて】

- 1 回ガイダンス
- 2 回スポーツルールの作成 1
- 3 回スポーツルールの作成 2
- 4 回スポーツルールの作成 3
- 5 回スポーツルールの発表 1
- 6 回スポーツルールの発表 2
- 7 回スポーツルールの発表 3
- 8 回発表 1 のチェック・サポート
- 9 回発表 2 のチェック・サポート
- 10 回発表 3 のチェック・サポート
- 1 1 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
- 1 2 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
- 1 3 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
- 1 4 回指導の反省
- 1 5 回まとめ

【個人において】

- 1 回ガイダンス
- 2 回学校のスポーツ指導 1
- 3 回学校のスポーツ指導 2
- 4 回学校のスポーツ指導 3
- 5 回学校のスポーツ指導 4
- 6 回学校のスポーツ指導 5
- 7 回指導の反省
- 8 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
- 9 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
- 10 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
- 1 1 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 4
- 1 2 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 5
- 1 3 回指導の反省 1
- 1 4 回指導の反省 2
- 1 5 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への態度 50%
取り組み方 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツボランティア実習II 【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

1学期間行った実習を継続して行うがさらに中身を充実させた形で実習に取り組みます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合は資料を配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【グループ単位にて】

- 1 回ガイダンス
- 2 回スポーツルールの作成 1
- 3 回スポーツルールの作成 2
- 4 回スポーツルールの作成 3
- 5 回スポーツルールの発表 1
- 6 回スポーツルールの発表 2
- 7 回スポーツルールの発表 3
- 8 回発表 1 のチェック・サポート
- 9 回発表 2 のチェック・サポート
- 10 回発表 3 のチェック・サポート
- 11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
- 12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
- 13 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
- 14 回指導の反省
- 15 回まとめ

【個人において】

- 1 回ガイダンス
- 2 回学校のスポーツ指導 1
- 3 回学校のスポーツ指導 2
- 4 回学校のスポーツ指導 3
- 5 回学校のスポーツ指導 4
- 6 回学校のスポーツ指導 5
- 7 回指導の反省
- 8 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
- 9 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
- 10 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
- 11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 4
- 12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 5
- 13 回指導の反省 1
- 14 回指導の反省 2
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実習への参加態度 50%
目標の達成度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ実習I【昼】

担当者名 山本浩二/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 障害のある方が実施しているスポーツやレクリエーション等を体験し、各種目のルールと競技特性、運動効果を理解する。また、全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則を学習する。

教科書 /Textbooks
 必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス
2回	学外授業への取り組み指導
3～4回	車椅子の基本操作
5～6回	マップの作成と評価
7～8回	車椅子で運動・スポーツ
9～10回	障害者スポーツ大会実施種目の体験
11～12回	学外授業(北九州市障害者スポーツセンター主催教室)
13～14回	障害者アスリート講演・実技体験
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み・・・60% 課題(レポートなど)・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 実習は、正規の授業時間以外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 本講義は「障害者スポーツ指導員(初級・中級)」の資格関連科目です。第一回目のガイダンスで資格に関する説明を行いますので第一回目は必ず出席してください。

キーワード /Keywords

障害者スポーツ実習I【昼】

担当者名 山本浩二/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

障害のある方が実施しているスポーツやレクリエーション等を体験を通じ、障害者スポーツの魅力を感じ取る。さらに、障害の特性と補装具、指導方法について学び、障害のある方のスポーツ活動をサポートする能力を養う。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2～4回 レクリエーションスポーツ
- 5～10回 学外授業(北九州市障害者スポーツセンター主催教室)
- 11～12回 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則(実技)
- 13～14回 障害者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・60% 課題(レポートなど)・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間以外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は「障害者スポーツ指導員(初級・中級)」資格関連科目です。第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目から必ず出席してください。

キーワード /Keywords

障害者スポーツ実習II 【昼】

担当者名 /Instructor 山本浩二/地域創生学群

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ) 授業形態 実習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

近年、障害者スポーツでは「Adapted(適応・応用)」という考えが浸透している。これは対象者に合わせてルールや道具を変え、指導を行うことが基礎となる。本実習では、様々な障害を理解し、対象者に合わせてルールを変更したり、道具を検討したりしながら、最適な運動・スポーツプログラムの立案・実施を行う実践力を養うことを目指す。また、全国障害者スポーツ大会の実施競技についても理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ボッチャ【重度障害者】【脳性麻痺】
- 3回 ベタンク【重度障害者】
- 4回 陸上競技①【車いす競技】【スラローム】
- 5回 陸上競技②【投てき】【伴走】
- 6回 卓球【サウンドテーブルテニス】
- 7回 フライングディスク【視覚障害の体験】【肢体障害の体験】
- 8回 水泳①【障害者に合わせた指導】
- 9回 水泳②【障害者に合わせた指導】
- 10～11回 アダプテッド・スポーツプログラムの作成【個人で立案】
- 12～13回 アダプテッド・スポーツプログラムの実施・評価
- 14回 障害者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学内実習(平常授業)への取り組み・・・50% 課題(レポートなど)・・・20% その他の実習への積極的な参加・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に取り組んでもらいます。実習6時間以上、水泳3時間は必修です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は「障害者スポーツ指導員(中級)」の資格関連科目になります。第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目は必ず出席してください。

キーワード /Keywords

障害者スポーツ実習II 【昼】

担当者名 山本浩二/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ) 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
近年、障害者スポーツでは「Adapted(適応・応用)」という考えが浸透している。これは対象者に合わせてルールや道具を変え、指導を行うことが基礎となる。本実習では、様々な障害を理解し、対象者に合わせてルールを変更したり、道具を検討したりしながら、最適な運動・スポーツプログラムの立案・実施を行う実践力を養うことを目指す。また、学外実習を主として活動する。

教科書 /Textbooks
必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 学外実習に向けたガイダンス
- 2～3回 学外実習に関する講義【企画・立案】
- 4～12回 学外実習(水泳実習、障がい児スポーツ教室、各種障がい者スポーツイベント運営・参加)
- 13～14回 障害者アスリート講演・実技体験
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
学内実習(平常授業)への取り組み・・・30%、課題(レポートなど)・・・20%、その他の実習への積極的な参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に取り組んでもらいます。また、学外実習を主としますので、「障害者スポーツ指導論」「障害者スポーツ各論」「障害者スポーツ実習I～III」などの科目を履修し、障害者スポーツに関して知識を有するものが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
本実習は、「障害者スポーツ指導員(中級)」の資格関連科目です。第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目は必ず出席してください。また、学外実習を主としますので、これまでに障害者スポーツに関する科目の履修がないもの、単に単位取得のために本実習を履修することはやめてください。

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習 A 【昼】

担当者名 真鍋和博 他/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 地域創生学群で実習をすすめていくために必要な考え方やチーム形成を学びます。FMラジオ番組企画制作実習のガイダンスを行い、各チームで自律的主体的にすすめていきます。また、ポートフォリオの書き方をレクチャーしつつ、自己の目標設定やセルフマネジメントの手法を学びます。後半では、各コース、各実習チームに分かれてのチームミーティングや進捗発表などを行います。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第01回オリエンテーション・実習の心構え
 第02回FMラジオ番組企画制作実習ガイダンス
 第03回アセスメント実施
 第04回ポートフォリオ1
 第05回ポートフォリオ2
 第06回情報機器の操作におけるマナー
 第07回調査・実習・校外活動におけるマナー
 第08回ハラスメントについて
 第09回チラシの作り方①
 第10回栄養管理、生活管理
 第11回チラシの作り方②
 第12回レポートの書き方
 第13回会議・MTGの行い方
 第14回グループディスカッションの行い方
 第15回アセスメント解説・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 FMラジオ番組企画制作実習は、各チームごとにミーティング等を行い、やるべきことを期日までに仕上げる必要があります詳しくは、ガイダンスで説明しますので、しっかりと聞いてください。
 遅刻・欠席をしないこと。どうしても遅刻・欠席せざる得ない場合は、事前に、担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 坂本毅啓 他/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 指導的実習プログラムで各自が実践している課題を取り上げ、特にPDCAサイクルのCに当たる振り返りを行い、さらにはA、次を取るべきステップを、グループワーク等をまじえながら、受講者全員で考えてみる。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、指示する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 実践報告1、ディスカッション
 - 3回 実践報告2、ディスカッション
 - 4回 実践報告3、ディスカッション
 - 5回 実践報告4、ディスカッション
 - 6回 実践報告5、ディスカッション
 - 7回 実践報告6、ディスカッション
 - 8回 実践報告7、ディスカッション
 - 9回 実践報告8、ディスカッション
 - 10回 実践報告9、ディスカッション
 - 11回 実践報告10、ディスカッション
 - 12回 実践報告11、ディスカッション
 - 13回 実践報告12、ディスカッション
 - 14回 実践報告13、ディスカッション
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業中に取り組む課題の達成度 ... 50 %
 積極的な演習への参加(指導的実習プログラムへの取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 正規の授業時間外に個別の学習・実習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 徳永政夫・山本浩二/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Bでは地域創生基礎演習Aにおいて各人の学びの方向性の決定を受けて、各指導者教員のゼミに所属します。当ゼミでは今後必要とされる基本的知識やスキルを学ぶほか、各人の課題を設定した上、2年時から始まるスポーツボランティア実習の目的・具体的計画を策定する。ゼミでの議論を通じて、その目的や具体的計画を練り直し、目的を明確にする。あわせて、実習に必要とされる基本的知識とスキルをロールプレイングを体験しながら具体的に学んでいく。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のねらい、進め方
- 2回 実習の計画
- 3回 コミュニケーション 1
- 4回 コミュニケーション 2(他者との関係)
- 5回 コミュニケーション 3(クラスメイトを知る)
- 6回 コミュニケーション 4(自己を知る)
- 7回 コミュニケーション 5(他人を知る)
- 8回 コミュニケーションの事例研究1
- 9回 コミュニケーションの事例研究2
- 10回 コミュニケーションの3Vの法則の理解
- 11回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング(子供の理解)
- 12回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング(地域の理解)
- 13回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング
- 14回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

2年次以降にスポーツボランティア実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習 B (学び支援) 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本演習では、「子どもの学び」支援プロジェクト活動を実施しながら、プロジェクト全体とそのマネジメントについて、1学期から続くチームの一員としての立場から振り返る。また、地域の現状と課題についてチームで議論を行う過程の中で、課題発見の方法論を学習する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～14回 : 地域活動報告とディスカッション
- 15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習の取り組み状況(振り返りレポートを含む) ... 70%
積極的な演習や地域活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返る。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらう。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作してほしい。

キーワード /Keywords

子ども 地域 プロジェクト

地域創生基礎演習B (広報) 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤貴之/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 本演習では、地域創生学群広報活動を実施しながら、プロジェクト全体とそのマネジメントについて、1学期から続くチームの一員としての立場から振り返る。また、広報や地域の現状と課題についてチームで議論を行う過程の中で、課題発見の方法論を学習する。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 : オリエンテーション
 2回~14回 : 活動報告とディスカッション
 15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習の取り組み状況(振り返りレポートを含む) ... 70%
 積極的な演習や地域活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 本演習では、活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返る。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む)に、チームで活動や課題などに取り組んでもらう。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていく場合があるため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。

キーワード /Keywords
 広報 地域 プロジェクトマネジメント

地域創生基礎演習B (小倉) 【昼】

担当者名 片岡寛之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

主に小倉活性化プロジェクトで各自が実践している課題を取り上げ、特にPDCAサイクルのCに当たる振り返りを行い、さらにはA、次を取るべきステップをグループワーク等をまじえながら、受講者全員で考えてみる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 オリエンテーション
第02回～第14回 実践報告、ディスカッション
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度...50%
積極的な演習への参加(指導的実習プログラムへの取り組みを含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間以外に個別の学習・実習テーマが与えられることがあります。
地域においてチームで活動していく際に必要な考え方、技術、スキル等を学ぶ機会を授業中に組み入れていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

やりっ放しではは良くありません。
活動に対して、こまめな振り返りと改善を行うことで、活動の質を高めていくことを意識しましょう。

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B (門司) 【昼】

担当者名 西田心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
本演習では、門司商店街活性化プロジェクトの活動を実施しながら、プロジェクト全体とそのマネジメントについて、1学期から続くチームの一員としての立場から振り返る。また、地域の現状と課題についてチームで議論を行う過程の中で、課題発見の方法論を学習する。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 : オリエンテーション
2回~14回 : 地域活動報告とディスカッション
15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習の取り組み状況(振り返りレポートを含む) ... 70%
積極的な演習や地域活動への参加 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
本演習では、地域活動の状況について報告してもらい、その内容について振り返る。受講生の活動状況や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。また、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間などを含む)に、チームで地域活動や課題などに取り組んでもらうことがある。地域で活動している団体と連携しながら計画を進めていくため、責任ある行動が期待される。このため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。

キーワード /Keywords
門司港 観光開発 回遊性

地域創生基礎演習B (猪倉) 【昼】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

指導的実習プログラムで各自が実践している課題を取り上げ、特にPDCAサイクルのCに当たる振り返りを行い、さらにはA、次を取るべきステップをグループワーク等をまじえながら、受講者全員で考えてみる。

(本授業特有の視点)

- ・ 地域において大学生としてできる事は何かを考え、自分なりの答えを導き出す。
- ・ なぜ、大学が授業科目として単位をだして地域活動をしているのかを考え、理解すること。
- ・ 地域と大学の望ましい関係性はどのようなものかを考える。
- ・ 実習活動とその他の座学の授業との関連性について理解すること。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 実践報告1、ディスカッション
- 3回 実践報告2、ディスカッション
- 4回 実践報告3、ディスカッション
- 5回 実践報告4、ディスカッション
- 6回 実践報告5、ディスカッション
- 7回 実践報告6、ディスカッション
- 8回 実践報告7、ディスカッション
- 9回 実践報告8、ディスカッション
- 10回 実践報告9、ディスカッション
- 11回 実践報告10、ディスカッション
- 12回 実践報告11、ディスカッション
- 13回 実践報告12、ディスカッション
- 14回 実践報告13、ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度...50%
積極的な演習への参加(指導的実習プログラムへの取り組みを含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

正規の授業時間以外に個別の学習・実習テーマが与えられることがあります。
地域においてチームで活動していく際に必要な考え方、技術、スキル等を学ぶ機会を授業中に組み入れていきます。
地域マネジメントコースの学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習 B (ESD) 【昼】

担当者名 眞鍋和博/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

ESD(education for sustainable development)は「持続可能な開発のための教育」の意味です。
 少子高齢化、地域の衰退、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティなど、社会に存在する様々な課題に対して学び、解決に向けて実践する実習です。
 特に1年次には、担当するプロジェクトに関連する知識を徹底して学習します。また実習(実践)の成果や課題をしっかりと振り返り、次の実習(実践)に活かしていきます。
 定期的なもの、不定期なもの、いずれかのミーティングや、担当教員との面談を通じて行います。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
 第02回～第14回 学びと振り返り
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
 授業(プロジェクト)についての振り返りの成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

北九州まなびとESDステーションが主な活動場所となり、特任教員の指導も受けることになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B (震災) 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋和博/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、地域社会の在り方を根本から考え直させる機会となったと言えます。この実習は、地域社会の再生に対して自分たちが何ができるかを考え、実践するだけではなく、東日本大震災で学んだ教訓が風化しないように、北九州地域への啓発活動を目的としています。年に数度の現地派遣だけではなく、通年で北九州でも活動していきます。担当するプロジェクトに関連する知識を徹底して学習しつつ、実習(実践)の成果や課題をしっかりと振り返り、次の実習(実践)に活かしていきます。定期的なもの、不定期なもの、いずれかのミーティングや、担当教員との面談を通じて行います。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありませんが、プロジェクトに関連する書籍、資料を積極的に読んでください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回～第14回 学びと振り返り
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 実践活動やミーティングへの参加状況...60%
- 授業(プロジェクト)についての振り返りの成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習 B (421Lab.) 【昼】

担当者名 石川敬之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

少子高齢化、地域の衰退、生物多様性の担保、CO2削減、ダイバーシティなど、社会に存在する様々な課題に対して学び、解決に向けて実践する実習です。
 担当するプロジェクトに関連する知識を徹底して学習し、また実習(実践)の成果や課題をしっかりと振り返りながら、次の実習(実践)に活かしていきます。
 定期的なもの、不定期なもの、いずれかのミーティングや担当教員との面談を通じて行います。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス
 第02回～第14回 学びと振り返り
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実践活動やミーティングへの参加状況...60%
 授業(プロジェクト)についての振り返りの成果物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

北九州まなびとESDステーションが主な活動場所となり、特任教員の指導も受けることになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 本演習では、ファシリテーションについて学習する。プロジェクトを進めるにあたり、チームの相互理解や情報共有を促し、問題解決や新アイデア創出などを促進するために必要な考え方や行動の仕方について学ぶ。また、ファシリテーションのスキルを用いて、チームで話し合いを行う際の問題点を共有し、その解決に向けて議論する。

教科書 /Textbooks
 『ファシリテーターの工具箱』（森時彦）ダイヤモンド社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○ 『プロジェクトマネジメント 理論編』（浅見淳一著、中嶋秀隆監修）総合法令出版
 ○ 『プロジェクトマネジメント 実践編』（中憲治著、中嶋秀隆監修）総合法令出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回：オリエンテーション
 2回～14回：発表とディスカッション
 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その内容について議論する。受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。また、正規の演習時間外に個別の課題を与えることがある。

キーワード /Keywords
 ファシリテーション プロジェクトマネジメント

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 佐藤貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 本演習では、ストラテジとマネジメントの基礎的な部分を学習します。これにより、様々なプロジェクトでの企画・立案、計画の遂行、評価といった一連のプロセスを効率的に実施できるようになります。最終的には、実習活動において得られた知識を活用できるようにすることを目指します。

教科書 /Textbooks
 演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回～ 6回 マネジメントの基礎
 7回 マネジメント部分のまとめ
 8回～ 13回 ストラテジの基礎
 14回 ストラテジ部分のまとめ
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 この演習の基本的なテーマは、「まちについて調べてみる」「まちに対する理解を深める」ことです。様々な地域におけるまちづくりの事例について学びながら、自らテーマを設定し、まちに関する様々な事項について調べることを通して、まちに対する理解を深め、主体的に取り組む姿勢を養うことが、この演習の目的です。

教科書 /Textbooks
 使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 オリエンテーション【目標の共有】
 2～4回 地元のまちについて調べて発表する【文献・データ収集】
 5～14回 まちづくりの成功事例を調べて発表する【まちづくり】【文献・データ収集】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 西田心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 講師との人間関係づくり、基礎的な資料・文献調べの力を身につけることを目的とする。新聞記事を扱った北九州の過去・現在・未来をテーマにグループワークを積み重ねて各自の研究方法をみがいていく。

教科書 /Textbooks
 特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜必要な資料は配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション
2回～14回	発表とディスカッション
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の達成度や協力する姿勢	50%
積極的な参加	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

E・F・シューマッハー(1986)『スモールイズビューティフル』講談社学術文庫の輪読を行う。

論理的思考力、読解力を鍛えるとともに、現代社会の在り方や見方について考えを深める。「豊かさとは何か」「社会はどうあるべきか」など、現代社会の根本的な問いについて、自身の意見や価値観を構築するとともに、基礎的なアカデミックスキルの獲得を目指す。

各担当章を決め、レジュメを用意し担当者が報告した後にディスカッションを行う。ともに教え合い、学ぶ姿勢が重要視される授業である。

教科書 /Textbooks

E・F・シューマッハー(1986)『スモールイズビューティフル』講談社学術文庫

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中適宜指摘する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：テキストの輪読①
- 第3回：テキストの輪読②
- 第4回：テキストの輪読③
- 第5回：テキストの輪読④
- 第6回：テキストの輪読⑤
- 第7回：テキストの輪読⑥
- 第8回：テキストの輪読⑦
- 第9回：テキストの輪読⑧
- 第10回：テキストの輪読⑨
- 第11回：テキストの輪読⑩
- 第12回：テキストの輪読⑪
- 第13回：テキストの輪読⑫
- 第14回：テキストの輪読⑬
- 第15回：総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度(積極性等)：50%
専門的知識の習得度：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業時間外で課外活動を行うことがあります。
この活動に積極的に参加することが望まれます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
ゼミでチームを組んで進めていくうえでチームの相互理解や情報の共有を保ちながら問題を解決していくことや新たな発想を創造していくために必要な考え方や行動を学ぶ。

教科書 /Textbooks
特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜必要な資料は配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 オリエンテーション
2回～14回 発表とディスカッション
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中の達成度や協力する姿勢 50%
積極的な参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 山本浩二/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 実習で浮上してきたさまざまな問題をゼミの場に提示し、議論を通じながらその解決方法について考えていく。本ゼミでは、チームワークやコミュニケーションを重視し、学習していく。また、各自順番に発表を行い、プレゼンテーション能力の向上も目指す。

教科書 /Textbooks
 特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 オリエンテーション
 2回～14回 発表とディスカッション
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 50%
 積極的な演習への参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
本演習では、リーダーシップについて学習する。プロジェクトを進めるにあたり、チームワークを引き出し、チームの成果が最大となるように支援するために必要な考え方や行動の仕方について学ぶ。また、チームで活動する際の問題点を共有し、その解決に向けて議論する。

教科書 /Textbooks
『リーダーシップ論』（選定中、オリエンテーション時に指示する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 : オリエンテーション
2回～14回 : 発表とディスカッション
15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
なし

履修上の注意 /Remarks
特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その内容について議論する。受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。また、正規の演習時間外に個別の課題を与えることがある。

キーワード /Keywords
リーダーシップ ミッション 行動指針 プロジェクトマネジメント

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 佐藤貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

地域創生実習Iで経験した事柄や問題を持ち帰り、人とのディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。最終的には、今後の研究実践活動を行なう上での有用性の検討が可能になることを目指します。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～ 3回 実践活動の検証とフィードバック
- 4回～ 14回 ストラテジ、マネジメントに関する書籍の輪読とディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 この演習の基本的なテーマは、「色んなまちと比較してみる」「まちに対する理解を深める」ことです。様々なまちとの比較を通して自分のまちを客観視することを学び、まちに対する理解をさらに深めること、3年次以降、本格的に地域の調査を始める上で必要となる基本的な事項について学ぶことが、この演習の目的です。

教科書 /Textbooks
 使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～4回 実習に関する報告【振り返り】
- 5～6回 グループディスカッション【職業】
- 7～12回 調査結果の報告【データ収集】【分析】
- 13～14回 実習に関する報告【振り返り】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 西田心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 講師との人間関係づくり、基礎的な資料・文献調べの力を身につけることを目的とする。新聞記事を扱った北九州の過去・現在・未来をテーマにグループワークを積み重ねて各自の研究方法をみがいていく。

教科書 /Textbooks
 特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜必要な資料は配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 オリエンテーション
 2回～14回 発表とディスカッション
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
 積極的な演習への参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 配布されたプリント等は毎回持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この演習は、「地域創生基礎演習C」において各自の設定した課題やテーマに対し、より深めて学習することを目的とする。各自テーマを設定し、「文章修業」を実施する。つまり、自分で本を一冊選び、その本の内容の解説、それに対する自分の意見（特に批判的思考力の向上を目指す）をまとめる。文章作成能力と専門書の読解力の向上を目指す。受講生が自らテーマを設定し、資料を集め自主的に学習できるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
第2回～第14回：各自の設定したテーマに基づいた報告と議論
第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告準備の丹念さ）：50%
文章修業の出来（文書作成能力・読解力）：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Dでは卒業論文・卒業実践報告の作成にむけ、どのようにテーマを見つけていくのか。また、文献調査や関係者からの聞き取り調査などを行う。

教科書 /Textbooks

資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 関心のある事例をあげてみる
- 2回 スポーツ指導者について
- 3回 スポーツをととした地域貢献について 1
- 4回 スポーツをととした地域貢献について 2
- 5回 スポーツをととした地域貢献について 3
- 6回 スポーツ実施者の問題点について 1
- 7回 スポーツ実施者の問題点について 2
- 8回 スポーツ実施者の問題点について 3
- 9回 データの収集 1
- 10回 データの収集 2
- 11回 データの収集 3
- 12回 データの分析 1
- 13回 データの分析 2
- 14回 データの分析 3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・ 50%
積極的な演習への参加・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布されたプリント等は毎回持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 山本浩二/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 地域創生基礎演習Dでは、卒業論文・卒業実践報告に向け、各自テーマを見つけ、それぞれ調査を実施する。調査したものを発表し、全員で討論を行う。

教科書 /Textbooks
 特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要があれば適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 論文の書き方
- 3回～7回 データの収集・分析
- 8回～9回 発表・討論
- 10回～12回 データの収集・分析
- 13回～14回 発表・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 50%
 演習への積極的な参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助実習 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓 深谷裕/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 6単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育内容に基づいて構成される実習科目である。そのため、社会福祉施設及び機関での現場実習での学びについて、次に掲げる3点を大きなねらいとする。

- ①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。
- ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

連携科目「相談援助実習指導 1・2」において、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間は180時間以上である。
 社会福祉施設・機関において、23日間（1日8時間）以上の実習を行う。
 実習内容は職場実習、職種実習、ソーシャルワーク実習から構成される。
 実習期間中は、実習先での実習指導者及び担当教員による指導、そして大学にて実施する帰校日指導を受ける。
 詳細については、「相談援助実習指導 1」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習先による実習評価・・・50%、教員による実習評価・・・50%
 なお、本科目は「相談援助実習指導 1」及び「相談援助実習指導 2」との連携科目であり、いずれかのみ単位認定は行わない。そのため、本科目の実習評価が合格点に達していても、連携科目のいずれか1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

社会福祉施設や機関での実習となる。当然のことながら、社会人としての基本的マナーなどはできるように自己学習に励んでいただきたい。
 本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。
 ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
 ②同年度に「相談援助実習指導 1」及び「相談援助実習指導 2」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士を取得するための重要な科目です。現場での実習で皆さんが困らないように、全力でサポートします。一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本演習では、マネジメントの基礎と原則について学習する。プロジェクトを進めるにあたり、組織全体をマネジメントするために必要な考え方や行動の仕方について学ぶ。また、地域が抱える課題を共有し、マネジメントの視点から可能なアプローチについて議論する。

教科書 /Textbooks

『マネジメント論』（選定中、オリエンテーション時に指示する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～14回 : 発表とディスカッション
- 15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その内容について議論する。受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。また、正規の演習時間外に個別の課題を与えることがある。

キーワード /Keywords

マネジメント マーケティング イノベーション プロジェクト

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤貴之/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習Iで経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、地域が抱える課題の発見を目指します。最終的には、今後の研究実践活動を行なう上での具体的なテーマや方向性を決定することを目指します。

教科書 /Textbooks
 演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 インTRODクシヨN
 2回～ 14回 地域が持つ課題に関するディスカッションとそれに関するテーマの学習
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

生涯スポーツ社会の実現を目指して国のスポーツ振興基本計画と北九州市スポーツ振興審議会の提言に基づいた本市のスポーツ振興計画概要にある定義や効用あるいは現状を踏まえ学生自身の経験や興味のある種目を選択し基本編、応用編、ゲームまでのカリキュラムを作成する。その年度によって計画が大きく変更されることは大いに予想されます。各年度に特徴をもった年間計画（長期的指導プラン）や数か月単位ごとに行う（短期的指導プラン）・シーズンスポーツも含めて計画していく。

教科書 /Textbooks

資料を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回；参加者全員による年間計画の話し合い・・・ 1
- 2回；参加者全員による年間計画の話し合い・・・ 2
- 3回；個人やグループで行える種目を考える・・・ 1
- 4回；個人やグループで行える種目を考える・・・ 2
- 5回；短期的指導プランについてのディスカッション・・・ 1
- 6回；短期的指導プランについてのディスカッション・・・ 2
- 7回；短期的指導プランについてのディスカッション・・・ 3
- 8回；短期的指導プランについてのディスカッション・・・ 4
- 9回；長期的指導プランについてのディスカッション・・・ 1
- 10回；長期的指導プランについてのディスカッション・・・ 2
- 11回；長期的指導プランについてのディスカッション・・・ 3
- 12回；長期的指導プランについてのディスカッション・・・ 4
- 13回；組織の在り方を議論する
- 14回；組織の在り方を議論する
- 15回；2学期へのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における積極的な取り組みや態度・・・ 60%
達成度・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

常日頃の取り組みを大切に、配布資料やファイルなどは必ず持参し日々の心がけを大切にしてください。スポーツ指導は、配慮や指示を間違えれば大変な事故などにつながりかねません。自らの姿勢を正して取り組みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 山本浩二/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
生涯スポーツ社会の実現を目指し、わが国のスポーツ基本計画や北九州市スポーツ振興審議会の提言に基づいた概要や定義、現状を踏まえ、学生自身で工夫し、議論を重ね、より専門的な知識を身につける。

教科書 /Textbooks
適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 ガイダンス
2～5回 わが国のスポーツ政策動向
6～12回 実習活動を振り返り、地域の課題(問題)を各自発表・ディスカッション
13～15回 卒論の書き方指導

成績評価の方法 /Assessment Method
演習に取り組む姿勢・・・50%
発表およびディスカッション・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A (通常枠) 【昼】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
前年度までの地域創生基礎演習C・Dの内容を深化させ、より実践的な行動経済学の学習に臨む。
テキストの輪読、パワーポイントによる輪番制の発表を特に充実させる。

教科書 /Textbooks
図解雑学 行動経済学
ファスト&スロー(上・下巻)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
行動経済学の教室
行動経済学～経済は「感情」で動いている～

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
(1) インTRODakシヨN
(2) から(1 4)は輪読と討議を全員参加で行う。ゼミ生が率先垂範して運営する
(1 5)まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
理解度・・・50%

日常の授業への取り組み・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
出席重視です。
しっかり予習しましょう。

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本演習では、地域の幸福と失敗について学習する。地域社会をマネジメントするにあたり、リスクとコストを正しく判断するために必要な考え方や行動の仕方について学ぶ。また、地域を取り巻く幅広いテーマを題材に、幸せに暮らすための理想の生き方とは何かについて議論する。

教科書 /Textbooks

選定中、オリエンテーション時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～14回 : 発表とディスカッション
- 15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その内容について議論する。受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。また、正規の演習時間外に個別の課題を与えることがある。

キーワード /Keywords

幸福 失敗 リスク コスト 地域マネジメント

地域創生演習B 【昼】

担当者名 佐藤貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習I、IIで経験した事柄や問題を持ち帰り、ディスカッションを通じて、各学生が取り組んでいる実践や研究の課題発見と具体的な改善案の提示を目指します。最終的には、今後の研究実践活動の具体的なテーマに対する基礎的知識の習得と詳細な実施計画の立案を目指します。

教科書 /Textbooks
 演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 インTRODakション
 2回～14回 学生の研究テーマに対する書籍、論文の輪読とディスカッション
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

生涯スポーツ社会の実現を目指して国のスポーツ振興基本計画と北九州市スポーツ振興審議会の提言に基づいた本市スポーツ振興計画概要にある定義や効用あるいは現状を踏まえ学生自身の経験や興味のある種目を選択し基本編、応用編、ゲームまでのカリキュラムを作成したものをを用いて実際に指導にあたる。
車椅子野球や総合型スポーツクラブACEの取り組みの中で様々な種目の実践や指導をおこなう。

教科書 /Textbooks

資料を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回；幼児期の体を動かす、運動の楽しさを考える
- 2回；幼児期の体を動かす、楽しい指導の留意点を考える
- 3回；幼児期の体を動かす、楽しい指導を考え実践の準備をする
- 4回；小学生の体を動かす、運動の楽しさを考える
- 5回；小学生の体を動かす、楽しい指導の留意点を考える
- 6回；小学生の体を動かす、楽しい指導を考え実践の準備をする
- 7回；中学生の体を動かす、(体育・スポーツ活動) の楽しさを考える
- 8回；中学生の体を動かす、楽しい指導の留意点を考える
- 9回；中学生の体を動かす、楽しい指導を考え実践の準備をする
- 10回；シニアの健康を考える・・・指導の留意点
- 11回；シニアの健康を考える・・・楽しい指導を考え実践の準備をする
- 12回；指導演習(1)
- 13回；指導演習(2)
- 14回；指導演習(3)
- 15回；指導演習(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における積極的な取り組みや態度・・・60%
達成度・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

常日頃の取り組みを大切に、配布資料やファイルなどは必ず持参し日々の心がけを大切にしてください。
スポーツ指導は、配慮や指示を間違えれば大変な事故などにつながりかねません。自らの姿勢を正して取り組みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 山本浩二/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

車椅子ソフトボールをはじめ、さまざまな障害者スポーツの実践を振り返り、さらに専門的な知識を身につける。また、実践で生かせるような計画を立て、再度実践を行う。これらを踏まえ、卒業論文・卒業実践報告書作成に向けた方向性を定める。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2~4回 前期実践活動の振り返り
- 5~6回 実践活動①(車椅子ソフトボール)
- 7~8回 実践活動②(障がい者水泳)
- 9~10回 実践活動③(各種障がい者スポーツ)
- 11~12回 実践活動④(シニアスポーツ)
- 13~14回 卒業論文・卒業実践報告書テーマ決め
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な取り組みや態度・・・60%
達成度・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃の取り組みを大切に、配布資料やファイルなどは必ず毎回持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B (通常枠) 【昼】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

1学期の地域創生演習Aの内容を継続的に学習する。1学期に比べ、より実践的な行動経済学の学習に臨む。テキストの輪読、パワーポイントによる輪番制の発表は前期同様にスタイルは変えないが一層、深化・充実させる。

教科書 /Textbooks

図解雑学 行動経済学
ファスト&スロー(上・下巻)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

行動経済学の教室
行動経済学～経済は「感情」で動いている～

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) イントロダクション
- (2) から(14)は輪読と討議を全員参加で行う。ゼミ生が率先垂範して運営する
- (15)まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

理解度確認レポート・・・50%
日常の授業への取り組み・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 本演習では、今まで議論してきた地域の課題や地域活動の在り方について、総括を行う。各自のテーマについて必要な調査や資料収集などを行う。その進捗状況について随時報告を行い、議論を深める。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 : オリエンテーション
 2回~14回 : 各自のテーマに関する発表とディスカッション
 15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 本演習では、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季休暇期間などを含む)に課題に取り組んでもらう。各自の計画に基づいて進めていくため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【昼】

担当者名 佐藤貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
本演習では、地域創生実習I、IIで経験した事柄や問題に関するディスカッションを通じて、各学生が取り組んでいる実践や研究をより深く考察し、総括するための準備を行います。

教科書 /Textbooks
演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 インTRODクシヨN
2回～14回 学生の研究テーマに対する書籍や論文の輪読とディスカッション
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。
また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

これまでのスポーツ・ボランティアの実践を通して自らの関心に応じた実践テーマを選択し、調査、研究を行っていく。
また、報告、ディスカッション等を随時行いながら研究発表に向けたまとめに取り組む。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 卒論に向けた指導オヨビディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む姿勢 50%
発表 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1年次から4年次までの実習や多くの活動記録を毎回持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【昼】

担当者名 山本浩二/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 これまでの実習活動を通して、自らの関心に応じたテーマを決定し、調査・研究方法を検討する。ゼミの中で報告、議論を繰り返しながら、論文の方向性を定めていく。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 ガイダンス
 2～14回 報告・ディスカッション・修正・添削
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習に取り組む姿勢・・・50%
 発表・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【昼】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
本演習では、各自のテーマについてまとめていく。その進捗状況について随時報告を行い、議論を深める。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 : オリエンテーション
2回～14回 : 各自のテーマに関する発表とディスカッション
15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
本演習では、正規の演習時間外(土曜日や日曜日、夏季や冬季の休業期間などを含む)に課題に取り組んでもらう。各自の計画に基づいて進めていくため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤貴之/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 本演習では、各学生が取り組んでいる実践や研究を知見としてまとめ、総括するためのディスカッションを行います。

教科書 /Textbooks
 演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 イン트로ダクション
 2回～14回 実践や研究に関するディスカッション
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。
 また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

卒論に向けてのディスカッションや個別指導を行う

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1、1年次1学期活動の確認
- 2、1年次2学期活動の確認
- 3、1学年をまとめる
- 4、2年次1学期活動の確認
- 5、2年次2学期活動の確認
- 6、2学年をまとめる
- 7、3年次1学期活動の確認
- 8、3年次2学期活動の確認
- 9、3学年をまとめる
- 10、卒論テーマ決定
- 11、卒論指導1
- 12、卒論指導2
- 13、卒論指導3
- 14、卒論指導4
- 15、卒論指導5

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む姿勢 50%
発表 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1年次から4年次までの実習や多くの活動記録を毎回持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 山本浩二/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

卒業論文・卒業実践報告書完成にむけてのディスカッションや個別指導を行う。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2～10回 卒論指導
- 11～12回 最終報告会
- 13～15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習に取り組む姿勢・・・50%
- 発表・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 /Instructor 廣渡栄寿/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を執筆する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～29回 : 卒業論文・卒業実践報告書の執筆指導
- 30回 : 最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文・卒業実践報告書 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、各自の計画に基づいて進めていくため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 佐藤貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告 1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告 2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告 3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告 4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告 5回目
- 第29回：最終報告会
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

各自テーマに沿って、卒業論文・実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回、 オリエンテーション
- 2・3回、 論文・報告書の書き方指導
- 4～8回、 研究途中経過報告1回目
- 9～13回、 研究途中経過報告2回目
- 14回 中間報告会
- 15～19回、 研究途中経過報告3回目
- 20～24回、 研究途中経過報告4回目
- 25～28回、 研究途中経過報告5回目
- 29回、 最終報告会
- 30回、 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミは、基本的に報告と議論の場であり、事前準備を十分行って望むこと。
また、時間外においても随時、教員と連絡を取りアドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【昼】

担当者名 /Instructor 山本浩二/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次
 単位 /Credits 4単位
 学期 /Semester 1・2学期(バ
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

各自テーマに沿って、卒業論文・実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2～3回 論文・報告書の書き方指導
- 4～8回 研究途中成果報告①
- 9～13回 研究途中成果報告②
- 14～15回 中間報告会
- 16～20回 研究途中成果報告③
- 21～25回 研究途中成果報告④
- 26～27回 最終報告会
- 28～30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義は、基本的に報告と議論の場であり、事前準備を十分に行って望むこと。
 また、時間外においても教員と連絡を取り、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科
 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会(2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

* 本年から『北九州NPOハンドブック』第6版の作成を始めますので、興味のある方はぜひご参加ください。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック [第5版]』(2010年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(1)
- 11回 第5回講演会
- 12回 環境NPO(2)
- 13回 第6回講演会
- 14回 NPOと政治(1)【利益団体】【政治過程と参加】
- 15回 NPOと政治(2)【アドボカシーの意義と課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。
 第1回の講義で授業の進行について説明しますので必ずご参加ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシーNPO、ミッション、寄付

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

政治に関わる人々は、何を考え、どのように行動しているのだろうか。人々の行動を左右する制度や文化にはどのようなものがあるのだろうか。政治システムはどのようなアクターがどのような機能を果たしているのか。本講義では、①政治制度や文化、②政治に参加する人々（有権者、マスメディア、政党、利益集団、官僚制、首相・大統領）、③政治システムへの理解を深めることに重点をおきます。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ（A3で2-3枚）があります

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参照した教科書、関連する内容を含んだ、より詳細な文献の案内を講義中に行います

伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め - 第3版 - 』有斐閣、2009年。
久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛児・真淵勝『政治学』有斐閣、2011年。
伊藤光利・田中愛治・真淵勝『政治過程論』有斐閣、2000年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション 【政治システム】 【権力】
- 第2回 民主政治の諸制度(1) 【デュベルジェの法則】 【機械的效果】 【心理的效果】
- 第3回 民主政治の諸制度(2) 【議会の機能】 【変換型議会】 【アリーナ型議会】
- 第4回 政治文化 【政治的社会化】 【脱物質的価値観】 【ソーシャルキャピタル】
- 第5回 マスメディア 【疑似環境】 【議題設定効果】 【プライミング効果】
- 第6回 政治参加・投票行動(1) 【制度的参加】 【非制度的参加】 【R=PB=C+D】
- 第7回 政治参加・投票行動(2) 【コロンビアモデル】 【ミシガンモデル】 【業績投票】
- 第8回 政治家・政党(1) 【大衆政党】 【包括政党】 【カルテル政党】
- 第9回 政治家・政党(2) 【ダウンズモデル】 【連合理論】
- 第10回 利益集団(1) 【利益集団】 【集合行為論】
- 第11回 利益集団(2) 【権力構造論】 【多元主義】 【エリート主義】 【コーポラティズム】
- 第12回 官僚制 【政治行政二分論】 【政治行政融合論】 【逆機能】
- 第13回 政治システム 【利益表出機能】 【利益集約機能】 【政策実施機能】 【政策裁定機能】
- 第14回 首相・大統領 【リーダーシップ】 【PM理論】
- 第15回 地方政治・ガバナンス 【ガバナンス】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (85%)、日常の授業への取り組み (15%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「政治学」をすでに履修している場合は、本講義の理解がより深いものになります。
「政治過程論」は政治学の理論やモデルの紹介に重点があります。そのため、日本政治への適用や日本の特徴については、「日本政治論」で詳しく講義します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

公共政策論【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにしたい。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えている。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。とりあえず以下のものをあげておく。

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』(有斐閣、2010年)

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』(東京大学出版会、2011年)

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ』(東洋経済新報社、2012年)。

阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』(岩波書店、2008年)

阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』(岩波書店、2014年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命(社会起業家論)
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 ダストレスチョークと障害者
- 5回 子どもの貧困(1)・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 6回 子どもの貧困(2)・・・日本における子どもの貧困を考える
- 7回 子どもの貧困(3)・・・子どもの貧困をどうするか、大学生の状況は?
- 8回 子どもの貧困(4)・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 9回 子どもの貧困(5)・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策
- 10回 循環型社会(1)・・・リサイクルは環境に優しいのか?
- 11回 循環型社会(2)・・・ペットボトルのリサイクル
- 12回 介護保険(1)・・・導入
- 13回 介護保険(2)・・・現状分析
- 14回 介護保険(3)・・・問題点とその検討
- 15回 介護保険(4)・・・介護保険の改革

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50%、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いてもらい成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加すること。

本年度は授業内容を変更(例えば、「循環型社会」を「人口減少社会」の問題に変更)する可能性があるため、第一回目の講義には必ず参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので必ず授業に出席するようにしてください。

公共政策論 【昼】

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、循環型社会、リサイクル、介護保険

地方自治論 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生みなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

山本隆・難波利光・森裕亮『ローカルガバナンスと地方行財政』（2008年）ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治の理念【地方自治とは】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【明治・大正時代の地方自治史】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【機関委任事務のしくみ】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【首長と議会】【二元代表制】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【中央地方関係】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【地方分権改革】【法定受託事務】
- 8回 自治体広域化と地方自治①【自治体の規模論】
- 9回 自治体広域化と地方自治②【市町村合併】
- 10回 自治体広域化と地方自治③【自治体内分権】
- 11回 地方財政と地方自治①【地方財政の基礎編】
- 12回 地方財政と地方自治②【地方債の役割】
- 13回 地方財政と地方自治③【各地の財政改革と住民参加】
- 14回 これからの地方自治【パートナーシップ】【住民自治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権

政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
- ②政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

- ①政策の決定 (Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定： Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ②政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構)とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskanenの官僚利益追求論・ 政府間関係])について理解してもらう。

教科書 /Textbooks

- 『政策過程論』 (早川純一外著 学陽書房 ¥ 2,730)
- 『公共政策学の基礎』 (秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス ¥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代日本の政策過程』 (中野実著 東京大学出版会 ¥2,940)
- 『政治過程論』 (伊藤光利・ 真淵勝・ 田中愛治著 有斐閣 ¥2,625)
- 『日本政治の政策過程』 (中村昭雄著 芦書房 ¥3,568)
- 『政策過程分析入門』 (草野厚著 東京大学出版会 ¥2,625)

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の種類など
- 3回 政策参加者、政策資源 (事例：川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、ビデオ)
- 4回 政策過程の理論 1 (政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc.)
- 5回 政策過程と事例分析 1 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 6回 政策過程の理論 2 (アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓)
- 7回 政策過程の理論 3 (無意思決定論、相互浸透理論など)
- 8回 政策過程と事例分析 2 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 9回 政策事例のポスター発表I
- 10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach)
- 11回 政府間関係と自治体の政策I (政府間関係、利益誘導政治)
- 12回 政府間関係と自治体の政策II (地方の変革・ 事例：名古屋市)
- 13回 本のレポート発表
- 14回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 15回 関心のある政策 (個別事業) を選び、その政策過程を分析、検討

成績評価の方法 /Assessment Method

ポスター発表-30%、本のレポート-20%、 期末試験-50%
(レポートの未提出者・ 発表をしていない学生は期末試験を受けることができない。)

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

政策過程論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生の活動・授業内容については、
ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>
申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>
を参照し、準備する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公私、社会的ディレンマ、
公共政策、政策問題、政策の決定、実施、政策調整、終了、
利益・価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、
ネットワーク。

公共経営論【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に、市場原理・企業的経営手法を取り入れた公共サービス改革の可能性と問題点を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「新公共経営の理論」 NPM (New Public Management)
- 第2回 「新公共経営の理論」 能率と責任、政策手法
- 第3回 「教育編①図書館」 図書館のしくみ
- 第4回 「教育編②図書館」 指定管理者制度
- 第5回 「教育編③図書館」 PFI
- 第6回 「教育編④図書館」 PFIの問題点
- 第7回 「教育編⑤学校」 学校のしくみ
- 第8回 「教育編⑥学校」 学校選択制
- 第9回 「道路編①」 道路のしくみ
- 第10回 「道路編②」 道路公団民営化
- 第11回 「道路編③」 道路の必要性
- 第12回 「道路編④」 入札改革
- 第13回 「公共サービス従事者編①」 非正規職員
- 第14回 「公共サービス従事者編②」 特殊法人、天下りをめぐる議論
- 第15回 「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(筆記試験)・・・100%
 毎回、出席をとります。欠席1回につき、学期末試験の得点から3点程度減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- * 2015年度より、レポートではなく、筆記試験によって成績評価することになりました。
- * 私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

都市経営論 【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

人口減少社会、少子・高齢化の進展、都市間競争の拡大など、都市を取り巻く環境変化は著しい。地方消滅危機が議論される中、漫然とした都市経営はもはや許されず、持続的な都市社会の構築に向けて、効率的な都市運営、地域社会のガバナンス、都市の魅力の向上などの戦略的な都市マネジメントが不可欠となる。

本講座では、都市マネジメントが求められる背景、基礎的な知識、今後の都市経営に求められるポイントに関する理解を深めるとともに、学際的、多角的な思考能力と構造的理解力、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 松下圭一[1991]『政策型思考と政治』東京大学出版会
- ・ 松下啓一[2010]『地方自治はやわかり』学陽書房
- ・ 吉田民雄[2003]『都市政府のマネジメント』中央経済社
- ・ その他、講義の中で、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市のマネジメント
2. 都市の現状と課題
3. 都市経営の変遷と課題
4. 地方自治制度
5. 地方行財政制度
6. 公共領域の市場化・民営化
7. ガバナンスとパートナーシップ
8. 新しい公共とサードセクター
9. 公共空間のリ・デザイン
10. ビジネス手法の活用による地域課題の解決
11. まちづくり事業の特徴と展開
12. まちづくり事業を支える制度
13. 企業と社会の関わり
14. 都市の魅力創出と地域ブランドの形成
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席レポート(原則、毎回実施します)40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語は他の受講生の迷惑になるため厳禁とします
- ・ 授業計画は進捗状況等に応じて、変更する場合があります

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、都銀系経済シンクタンクと地方自治体で政策実務経験を有することから、都市マネジメントのポイントと協働によるまちづくり事業の展開について、わかりやすく解説します。関連講座である都市政策論とあわせて受講されることをお勧めします。

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増している。本講義は、都市の経済的側面に注目し、都市のおかれた現状と課題を検討するが、近年の都市論の動向を踏まえ、地域経済の視点や経済性と社会性との共創性にも注目する。講義では、まず、都市の現状にかかる基礎的な分析を行った後、都市経済の基礎理論に関する理解を深める。さらに、都市の魅力の向上などの課題克服に向けた新しい事業創造の動きを捉え、地域の総合的な活性化への道筋を洞察する。本講義を通して、都市経済に関する基礎的な知識を修得するほか、課題解決に向けた構造的理解や分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

- ・ 藤井正他[2014]『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房（「都市政策論」でも使用します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 中村良平[2014]『まちづくり構造改革』日本加除出版
- ・ 小長谷一之[2005]『都市経済再生のまちづくり』古今書院
- ・ 川端基夫[2008]『立地ウォーズ』新評論
- ・ その他、適宜講義の中で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 都市間競争の激化と地域格差の拡大
3. 都市の現状と都市問題① - 都市経済問題
4. 都市の現状と都市問題② - 都市社会問題
5. 都市はなぜできるのか？
6. 都市空間の形成
7. 都市の成長と衰退
8. 都市化の経済
9. 基盤産業と地域経済循環システム
10. 立地戦略と都市経済
11. 工業都市と地域開発
12. 都市経済と事業創造① - 中心市街地活性化
13. 都市経済と事業創造② - 文化創造
14. 地域資源の戦略的活用による価値創出
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席レポート（不定期に実施します）40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語は他の受講生の迷惑になるため厳禁とします
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

都市と地域に関する経済的な視点から、都市の形成や都市問題に関する理解と、総合的な地域活性化の考え方を、わかりやすく説明します。

キーワード /Keywords

福祉政策論【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks
 教科書は指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業中に指示する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 「社会福祉の意味」
 - 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
 - 第3回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
 - 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
 - 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 自治体間の保険料格差
 - 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
 - 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
 - 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化など）
 - 第9回 「児童福祉」 児童虐待
 - 第10回 「児童福祉」 男女共同参画をめぐる議論
 - 第11回 「障害者福祉」 障害の定義
 - 第12回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
 - 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
 - 第14回 「利用者保護制度」
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末試験・・・100%
 毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点から2点程度減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 特になし。
 私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

都市環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもっていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてほしいのは、環境問題や環境教育の原点とも言われる水俣病です。水俣病の問題がなぜいまだに解決を見ていないのか、歴史を紐解き、その中身をじっくり見る必要があります。また、ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当にうまいと感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」といった環境教育アクティビティを多用します。

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、まず、エコライフチェックを行い、自らの立ち位置を分析、目標を立て授業に臨みます。すなわち、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 多田満『レイチエル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成25年度版』(北九州市役所HP掲載)
- * 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
- * 政野淳子『四大公害病』中公新書、2013年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「都市環境論」の授業内容とねらいの説明【環境意識】
- 第2回 環境目標の設定、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育)
: : 簡単な環境意識度チェック 【ESD】
- 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告と水俣について 【環境学習旅行】
- 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 【水俣病】
- 第5回 日本の環境政策の歴史と課題 【環境政策】
- 第6回 廃棄物管理 その原理と現状～一般廃棄物、産業廃棄物、3R 【廃棄物管理】
- 第7回 食と農～健康の源＝自らの食を見直そう 【食農】
- 第8回 上水道 : : (アクティビティ＝きき水比べ) 【おいしい水】
- 第9回 下水処理をめぐって～下水処理の原理 【水質汚濁】
- 第10回 大気汚染～汚染の原理と現状、PM2.5の正体とは？ 【大気汚染】
- 第11回 大気汚染～身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定 【CO2計測】
- 第12回 北九州市の環境の現状 【北九州市】
- 第13回 途上国の都市環境問題 【途上国】
- 第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々＝ エコツーリズムに関わろう！ 【エコツーリズム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時々的小課題の実施
 授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の「環境都市としての北九州」の同時受講も勧めておきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全は楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

ESD(持続可能な開発のための教育)、各自の環境学習目標、環境教育アクティビティ

福祉環境デザイン論 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義では、成熟社会におけるまちづくりのあり方を、広く福祉・環境の側面から捉え、公共空間、住宅、交通施設などを対象に、バリアフリーや環境に配慮したデザインの背景、意義及びその手法についての基礎的知識を学ぶことを目的とします。建築・土木の専門用語も多数出てきますが、国内外の事例を交えながら分かりやすく概説します。

教科書 /Textbooks

なし（適宜、レジュメや参考資料を配付）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 田中直人編『福祉のまちづくりキーワード事典』学芸出版社
- 土木学会編『日本の交通バリアフリー理解から実践へ』学芸出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（福祉環境デザインとは）【バリアフリー】、【ユニバーサルデザイン】
- 2回 人間の行動能力と空間【障がい者】、【高齢者】
- 3回 公共空間のデザインI（道路、歩道、広場等）【有効幅員】、【段差】、【勾配】
- 4回 公共空間のデザインII（公共施設、商業施設等）【ハートビル法】、【多機能トイレ】
- 5回 北九州市におけるバリアフリーのまちづくり
- 6回 居住空間のデザイン【ライフスタイル】、【バリアフリー住宅】
- 7回 情報機能のデザイン【サイン】、【情報案内】、【色と光】
- 8回 コンパクトシティの実現【コンパクトシティ】、【集約型都市構造】
- 9回 公共交通のデザインI（交通施設）【交通バリアフリー法】、【駅】
- 10回 公共交通のデザインII（車両）【交通バリアフリー法】、【交通システム】、【LRT】
- 11回 公共交通のデザインIII（交通まちづくり）【公共交通分担率】、【P&R】、【TOD】
- 12回 ドイツにおける持続可能なまちづくり【サイクルシェアリング】、【カーシェアリング】
- 13回 住民参加によるまちづくりの合意形成手法【ワークショップ】、【市民参加】
- 14回 地域運営手法による住民自らのまちづくり【まちづくり協議会】、【維持管理】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験及び中間時期に課すレポートで評価します

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的参加を求めます

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論【昼】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義は、これから法学部において広く法学を学んでいく上での基礎となる知識や考え方を身に付けることを目的とする総論科目である。
 1. 社会生活を営む上で、わたしたちは常に様々な「法」に接している。本講義は「法」というものが一体どのような形で存在し、具体的に運用されているか、またそれらはわたしたちの生活においていかなる意味を持っているのかについて理解を深めることを目指す。
 2. こうした学習を通じ、社会に対して常に意識的に関心を寄せて「法」をはじめとした情報を読み解き、みずからの考えをもとに判断する素養を得ることを目指す。これにより、自学自習を行う上でのトレーニングを行うと同時に、高年次の専門科目・演習の受講に向けた基礎体力を養う。

教科書 /Textbooks

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門[第4版]』(有斐閣・2005年)
 笹倉秀夫『法学講義』(東京大学出版会・2014年)
 井上正仁・能見善久編『ポケット六法 平成26年版』(有斐閣・2013年)
 ※ 基本的にレジュメに沿って講義を行い、適宜教科書・六法を参照する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

星野英一『法学入門』(有斐閣・2010年)(図書館蔵書:○)
 ※ このほか、講義中に板書・レジュメ等で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ・ 第1回 ガイダンス
 - ・ 第2回 法とは何か(1)【法の存在形式】
 - ・ 第3回 法とは何か(2)【法と道徳】【法と正義】
 - ・ 第4回 法とは何か(3)【法と強制】【法の機能】
 - ・ 第5回 裁判と法(1)【裁判制度と裁判手続】
 - ・ 第6回 裁判と法(2)【法の解釈】
 - ・ 第7回 裁判と法(3)【国民の司法参加】
 - ・ 第8回 国家と法(1)【憲法とは何か】【近代憲法の原理】
 - ・ 第9回 国家と法(2)【日本国憲法の基本構造】
 - ・ 第10回 刑事法【刑法の基本原則】【犯罪と法】
 - ・ 第11回 民事法(1)【財産と法】【契約の主体と客体】
 - ・ 第12回 民事法(2)【家族関係と法】
 - ・ 第13回 資源配分と法【社会法】【経済法】【環境法】
 - ・ 第14回 国際社会と法【国際法の諸原則】
 - ・ 第15回 講義のまとめ
- ※ 進度等の事情により、実施回・実施内容の調整を行う場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。
 1. 平常の学習状況(進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある)(全体の30%)
 2. 講義全体の内容についての期末テスト(全体の70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本シラバスや講義中に紹介した参考図書を読み解くとともに、新聞・雑誌・各種ニュースなどによって普段から意識的に「法」やそれを巡る社会の問題につきチェックする習慣を身につけられたい。
 ・ 受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
 ・ 質問・相談はオフィスアワー等で随時受け付ける。eメールで問い合わせる場合は、ウェブメール(Hotmailやgmail等)あるいは大学メールアドレス等を利用し、件名欄に用件を簡潔に明記すること(携帯キャリアのメールの利用はこちらからの返信の際にエラーが発生する可能性があるため、使用を控えること)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法の基礎を学ぶ。
憲法分野に関しては、この講義以降、「憲法人権論」「憲法機構論」「憲法訴訟論」とより専門的な講義が用意されているが、それらに共通する基本的な内容を概観することが本講義の目的である。
本講義で日本国憲法の全体像を把握した上で、上記各講義へ進んでいってもらいたい。

教科書 /Textbooks

安藤高行編『エッセンス憲法』（法律文化社、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野中俊彦ほか『憲法I 第5版』『憲法II 第5版』（有斐閣、2012年）
- 芦部信喜『憲法（第5版）』（岩波書店、2011年）
- 長谷部恭男『憲法（第6版）』（新世社、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-近代国家の成立と憲法
- 第3回 憲法とは何か③-日本国憲法の基本原理と立憲主義
- 第4回 日本国憲法制定史①-大日本帝国憲法から新憲法制定へ
- 第5回 日本国憲法制定史②-マッカーサー草案から新憲法公布まで
- 第6回 平和主義①-その歴史性
- 第7回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第8回 平和主義③-日本の安全保障と平和主義
- 第9回 人権総論①-人権の歴史
- 第10回 人権総論②-人権の分類と制約
- 第11回 人権総論③-違憲審査の方法と私人間効力
- 第12回 統治機構総論①-国会
- 第13回 統治機構総論②-内閣
- 第14回 統治機構総論③-裁判所
- 第15回 地方自治制度

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を指定しているので、次回講義の該当箇所を事前に読んでおくことが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 平和主義 基本的人権 統治機構

憲法人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 植木 淳 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における人権理論について概説するとともに、そのことを通じて現代日本社会における問題についても検証する。人間には国家・社会によっても侵してはならない「自分だけの領域」があるはずである。そして、このような「自分だけの領域」の範囲について考えることが「人権論」だと考えている。講義全体のキーワードは【現代日本社会と人権】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 長谷部恭男他編『憲法判例百選I・II(第6版)』(有斐閣・2013年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権総論
- 第2回 人権享有主体
- 第3回 特別権力関係論・私人間効力
- 第4回 幸福追求権
- 第5回 平等原則
- 第6回 精神的自由①(信教の自由)
- 第7回 精神的自由②(表現の自由総論)
- 第8回 精神的自由③(表現の自由各論)
- 第9回 精神的自由④(知る権利)
- 第10回 経済的自由
- 第11回 社会権①(生存権・教育を受ける権利)
- 第12回 社会権②(労働基本権)・受益権
- 第13回 参政権
- 第14回 人身の自由
- 第15回 違憲審査基準論の展開

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に必要なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法総則【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

民法は、最も生活に密着した法律であり、「民法総則」という授業は、法学部における基本中の基本科目です。民法だけでなく、すべての法律科目の基本となる科目であるため、法学部生であれば、極力すべての人が、この民法総則を理解することが望まれます。この講義は、1年生のほとんどが履修することが予想されるため、他の科目では講じられない法令用語についても、なんらかの形で時間を割いて説明します。この科目を学習することで、法的な分析と論理的な思考により課題を解決する判断力を身につけ、法と社会とのつながりを再確認することができるでしょう。

教科書 /Textbooks

一般に書店で売られている書籍は教科書として使用せず、担当で作成のオリジナルな冊子を販売する(900円以下の価格となる予定)。初回の講義のときに教室入り口で販売する予定であるが、詳細は、4月初旬に掲示板に掲示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 1, 民法とは、民法には何が書いてあるか、2, 市民法の基本原理、法令用語
- 2回(週) 3, 【意思能力】、4, 【未成年者】
- 3回(週) 5, 【成年被後見人】他、6, 【無効】と【取消】
- 4回(週) 7, 【法人】概説、8, 法人の理事の行為
- 5回(週) 9, 【物】、10, 【法律行為】概説、慣習
- 6回(週) 11, 法律行為の有効要件、12, 【公序良俗】
- 7回(週) 13, 【心裡留保】、14, 【虚偽表示】
- 8回(週) 15, 【錯誤】、16, 【詐欺・強迫】
- 9回(週) 17, 不動産登記との関係、18, 意思表示の到達
- 10回(週) 19, 【代理】、20, 【無権代理】概説
- 11回(週) 21, 無権代理と相続、22, 【表見代理】
- 12回(週) 23, 【条件】、【期限】、24, 【期間】
- 13回(週) 25, 【時効】概説、26, 【取得時効】
- 14回(週) 27, 取得時効と登記、28, 【消滅時効】
- 15回(週) 29, 【除斥期間】、30, まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 100 % (詳細は6月中に掲示する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

六法(最新版)は必ず持参して下さい。有斐閣の『ポケット六法』が最も信頼でき、お勧め。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

民法総則

社会法総論 【昼】

担当者名 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

現代社会では、大学卒業後あるいは高校卒業後に何らかの仕事に就いて生計を立てることになる人が多く、仕事を取り巻く法規制をどのように考えるかが重要な問題となっています。本講義では、仕事にかかわる法規制（労働法）、失業期間中の所得保障や仕事から引退した後の所得保障に関する法規制（社会保障法）の基本的な仕組みを理解することに主眼を置きつつ、仕事にかかわる法規制がなぜ必要なのか、憲法や民法といった基本法が労働法や社会保障法といった先端法学とどのように関わっているか等を学びます。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 社会法とは—市場、契約、資本主義とSocialism
- 2 社会法とは—雇用、所得、社会保障
- 3 雇用への編入—男女差別、障害差別、年齢差別
- 4 最低限度の労働条件
- 5 労働組合への加入
- 6 キャリアの展開と人事異動
- 7 職務発明
- 8 育児、介護と労働市場
- 9 解雇と失業保険
- 10 雇用関係の脱統合化
- 11 生活保護
- 12 格差社会と社会法の再編
- 13 引退と公的年金
- 14 社会法は必要か？
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【昼】

担当者名 /Instructor 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「刑法総論の体系的展開」(Criminal Law, General Theory)
 この講義が対象とする刑法総論は、すべての犯罪に共通する、犯罪の一般的な成立要件の体系(犯罪論体系)を考察する法領域である。この意味で、犯罪と刑罰に関する法(刑事法)の起点となる科目である。これに対して、刑法各論(刑法犯罪各論I・II)は、殺人罪や窃盗罪といった、個別の具体的な犯罪の成立要件を考察する法領域である。
 具体的事例をもとに講義を展開して、刑法の基本原則・基本概念、犯罪の成否に関する一般的な法理論を体系的に考察するとともに、論理的思考力を習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。
 ①六法(2015年版・平成27年版)
 『法学六法』(信山社出版)、『デイリー六法』(三省堂)、『ポケット六法』(有斐閣)といった「最新の」六法を必携のこと(種類・出版社を問わない。)
 ②刑法総論の基本書(著者を問わない。)
 テキストの選択は受講者の任意に委ねる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『基礎から学ぶ刑事法(有斐閣アルマ)』5版(東京:有斐閣・2013.12)。
- 井田良『入門刑法学・総論(法学教室Library)』(東京:有斐閣・2013.12)。
- 井田良『入門刑法学・各論(法学教室Library)』(東京:有斐閣・2013.12)。
- 佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方』(東京:有斐閣・2013.04)。
- 山中敬一『刑法概説I総論』(東京:成文堂・2008.10)。
- 井田良『講義刑法学・総論』(東京:有斐閣・2008.12)。

刑法犯罪論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) レジユメを配布する。
 (2) テキスト (基本書) の該当箇所を熟読したうえで、疑問点、よく解らない個所にマーキングをし、できれば講義該当箇所の記載内容を要約して広義に臨んでほしい。
 ※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。
- 1 回 ガイダンス・犯罪論の基本構造
 - 2 回 犯罪の本質 (新旧学派の争い)
 - 3 回 刑罰論 (応報刑論、予防刑論、規範的一般予防論)
 - 4 回 罪刑法定主義：意義と根拠
 - 5 回 罪刑法定主義の派生原則
 - 6 回 行為と構成要件
 - 7 回 実行行為と間接正犯
 - 8 回 不作為犯論
 - 9 回 条件関係
 - 10 回 相当因果関係
 - 11 回 法的因果関係
 - 12 回 故意論 (故意の種類、未必の故意)
 - 13 回 過失犯の理論 (過失の意義と種類)
 - 14 回 具体的事実の錯誤
 - 15 回 抽象的事実の錯誤
 - 16 回 違法性の意識と違法性の錯誤
 - 17 回 違法論の基礎・被害者の承諾
 - 18 回 正当防衛 (1) 正当防衛状況
 - 19 回 正当防衛 (2) 正当防衛行為の限界
 - 20 回 緊急避難
 - 21 回 責任論の基礎・責任原理・原因において自由な行為
 - 22 回 正当化事由の錯誤 (誤想防衛)
 - 23 回 未遂罪と予備罪・実行行為と不能犯
 - 24 回 中止犯
 - 25 回 共犯論の基礎 (正犯と共犯)
 - 26 回 共同正犯の意義と処罰根拠
 - 27 回 共同正犯の諸問題 (共謀共同正犯・承継的共同正犯)
 - 28 回 共犯の従属性・共犯の処罰根拠
 - 29 回 教唆犯・幫助犯
 - 30 回 罪数論・科刑論 (犯罪の個数と犯罪の競合)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%
 随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

レジユメを配布する。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習 (基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。) ・復習 (講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。) を十分に行うようにしよう。
 この科目を受講した後に、「刑法犯罪各論I」および「刑法犯罪各論II」を受講することを強く推奨する。また、「刑事訴訟法総論・各論」、「犯罪学」および「刑事司法政策I・II」を、さらに関連する他の刑事法系科目を受講することも勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論 犯罪論

刑法犯罪各論Ⅰ【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「刑法各論の体系的展開」(Criminal Law in Particular Crimes)
この講義が対象とする刑法各論は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域である。刑法犯罪各論においては、個人的法益に対する罪のうち人身に対する罪(財産罪を除く。)と国家的法益に対する罪を取り上げる。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念、および各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、論理的思考力を修得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する(ウェブサイトから各自がダウンロードすること。)
①六法(2015年版・平成27年版)
『法学六法』(信山社出版)、『デイリー六法』(三省堂)、『ポケット六法』(有斐閣)といった「最新の」六法を必携のこと(種類・出版社を問わない。)
②刑法各論の基本書(著者を問わない。)
テキストの選択は受講者の任意に委ねる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

○井田良『基礎から学ぶ刑事法(有斐閣アルマ)』5版(東京:有斐閣・2013.12)。
井田良『入門刑法学・総論(法学教室Library)』(東京:有斐閣・2013.12)。
井田良『入門刑法学・各論(法学教室Library)』(東京:有斐閣・2013.12)。
○山中敬一『刑法概説II各論』(東京:成文堂・2008.10)。
○西田典之『刑法各論(法律学講座双書)』6版(東京:弘文堂・2012.03)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1)レジュメを配布する(ウェブサイトから各自がダウンロードすること。)
(2)テキスト(基本書)の該当箇所を熟読したうえで、疑問点、よく解らない箇所にマーキングをし、できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨んで欲しい。
※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。
1回 ガイダンス・刑法各論の基礎
2回 生命に対する罪(1)殺人罪・墮胎罪(人の始期と終期)
3回 生命に対する罪(2)自殺関与罪
4回 生命に対する罪(3)遺棄罪(遺棄概念と遺棄罪の類型)
5回 身体に対する罪(1)暴行罪と傷害罪①(暴行行為の性質・傷害概念)
6回 身体に対する罪(2)暴行罪と傷害罪②(傷害罪の故意・同時傷害の特例)
7回 自由に対する罪(1)逮捕監禁罪・脅迫罪・略取誘拐罪
8回 自由に対する罪(2)強姦罪・強制わいせつ罪
9回 私生活の平穩に対する罪 住居侵入罪・秘密侵害罪
10回 名誉・信用に対する罪(1)名誉毀損罪と侮辱罪
11回 名誉・信用に対する罪(2)信用毀損罪・業務妨害罪
12回 国家の存立に対する罪 内乱罪・外患誘致罪・私戦予備陰謀罪
13回 国家の作用に対する罪(1)公務執行妨害罪・逃走罪・犯人蔵匿罪・証拠隠滅罪
14回 国家の作用に対する罪(2)偽証罪・虚偽告訴罪・職権濫用罪
15回 国家の作用に対する罪(3)賄賂罪の基礎・収賄罪の諸類型・贈賄罪

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

レジュメを配布する。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習(基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む)・復習(講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。)を十分に行うようにしよう。
この講義では、「刑法総論」を理解していることを前提に講義を行う。そこで、この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」を受講しておくことを強く推奨する。また、この科目を承継する「刑法犯罪各論II」、および関連する他の刑事法系科目を受講することを勧める。

刑法犯罪各論I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのが、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法各論 犯罪論

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「刑法各論の体系的展開」(Criminal Law in Particular Crimes)
 この講義が対象とする刑法各論は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域である。刑法犯罪各論IIにおいては、刑法犯罪各論Iに続けて、個人的法益に対する罪のうち財産罪と社会的法益に対する罪を取り上げる。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念、および各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、論理的思考力を修得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する(ウェブサイトから各自がダウンロードすること。)
 ①六法(2015年版・平成27年版)
 『法学六法』(信山社出版)、『デイリー六法』(三省堂)、『ポケット六法』(有斐閣)といった「最新の」六法を必携のこと(種類・出版社を問わない。)
 ②刑法各論の基本書(著者を問わない。)
 テキストの選択は受講者の任意に委ねる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『基礎から学ぶ刑事法(有斐閣アルマ)』5版(東京:有斐閣・2013.12)。
- 井田良『入門刑法学・総論(法学教室Library)』(東京:有斐閣・2013.12)。
- 井田良『入門刑法学・各論(法学教室Library)』(東京:有斐閣・2013.12)。
- 山中敬一『刑法概説II各論』(東京:成文堂・2008.10)。
- 西田典之『刑法各論(法律学講座双書)』6版(東京:弘文堂・2012.03)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1)レジュメを配布する(ウェブサイトから各自がダウンロードすること。)
 (2)テキスト(基本書)の該当箇所を熟読したうえで、疑問点、よく解らない箇所にマーキングをし、できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨んで欲しい。
 ※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。
- 1回 ガイダンス・財産罪(1)財産罪の基礎と窃盗罪①
 - 2回 財産罪(2)財産罪の基礎と窃盗罪②
 - 3回 財産罪(3)毀棄隠匿罪
 - 4回 財産罪(4)強盗罪
 - 5回 財産罪(5)強盗罪の諸問題(事後強盗・強盗致死傷罪)
 - 6回 財産罪(6)詐欺罪・恐喝罪
 - 7回 財産罪(7)詐欺罪の諸類型
 - 8回 財産罪(8)横領罪・背任罪
 - 9回 財産罪(9)盗品関与罪
 - 10回 公共危険罪(1)騒乱罪・多衆不解散罪・出水罪・水利妨害罪・往来妨害罪
 - 11回 公共危険罪(2)放火罪・失火罪(放火罪の基礎・焼損)
 - 12回 公共危険罪(3)放火罪・失火罪(公共危険の発生とその認識)
 - 13回 公共の信用に対する罪(1)文書偽造罪(文書偽造罪の基礎・文書概念・偽造概念)
 - 14回 公共の信用に対する罪(2)通貨偽造罪・有価証券偽造罪
 - 15回 風俗に対する罪 わいせつ罪・重婚罪・賭博罪・死体損壊遺棄罪

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
 随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

レジュメを配布する。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習(基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む)・復習(講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う)を十分に行うようにしよう。
 この講義では、「刑法総論」を理解していることを前提に講義を行う。そこで、この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」および「刑法犯罪各論I」を受講しておくことを強く推奨する。また、この科目を受講した後に、「刑事訴訟法総論・各論」、「犯罪学」および「刑事司法政策I・II」を、さらに関連する他の刑事法系科目を受講することも勧める。

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのが、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法各論 犯罪論

憲法機構論 【昼】

担当者名 /Instructor 植木 淳 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における統治機構の構造について概説するとともに、そのことを通じて現代日本の政治システムについても検討する。1946年の日本国憲法制定によって、「国民主権」を基調とする政治体制が選択されたとはいえ、「民主主義」あるいは「権力分立」の理想型は一般的なものではない。更には、現実の社会・経済・文化的要素も政治実践の在り方に大きな影響を与えうる。本講義では、日本国憲法における民主主義制度を、理論と実践との関連を意識しながら概説していく。講義全体のキーワードは【民主主義】と【権力分立】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第5版)』(岩波書店・2011年)
- 長谷部恭男『憲法(第5版)』(新世社・2011年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 統治総論① - 民主主義と権力分立
- 第2回 統治総論② - 民主主義の歴史
- 第3回 統治総論③ - 立憲主義の展開
- 第4回 統治総論④ - 日本憲法史
- 第5回 日本の統治構造① - 国民主権・選挙・政党
- 第6回 日本の統治構造② - 国会①(国会の地位・二院制)
- 第7回 日本の統治構造③ - 国会②(国会の権能)
- 第8回 日本の統治構造④ - 国会③(議院の権能・議員の地位)
- 第9回 日本の統治構造⑤ - 内閣①(議院内閣制・内閣の組織)
- 第10回 日本の統治構造⑥ - 内閣②(行政権・内閣の権能)
- 第11回 日本の統治構造⑦ - 裁判所①(司法権の範囲と限界)
- 第12回 日本の統治構造⑧ - 裁判所②(裁判所の組織と権能)
- 第13回 日本の統治構造⑨ - 地方自治①(地方自治の本旨・地方公共団体の組織)
- 第14回 日本の統治構造⑩ - 地方自治②(条例制定権の範囲と限界)
- 第15回 日本政治の動態と統治構造

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法総論【昼】

担当者名 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

〈授業の概要〉

行政法は、国や地方公共団体など、公益を実現する機関がいかなる活動をしうるかの限界を明らかにする学問です。行政法総論では、様々な問題の検討を通して、この目的のために考慮すべき基本的な事柄が何であるかを学びます。

この授業の主な到達目標は、以下の通り。

- ①いくつかの行政法の基礎的な概念を理解し、説明することができる。
- ②習得した知識を用いて事案を検討することができる。
- ③行政法学の基本的な関心事である個人の自由の保障の必要性を理解する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅰ〔第6版〕』(有斐閣)定価2,400円
 宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅱ〔第6版〕』(有斐閣)定価2,400円
 原田尚彦『行政法要論〔全訂第7版補訂2版〕』(学陽書房)定価3,465円
 石川敏行ほか『はじめての行政法〔第2版〕』(有斐閣)
 藤田宙靖『行政法入門〔第5版〕』(有斐閣)
 櫻井敬子=橋本博之『行政法〔第3版〕』(弘文堂)
 塩野宏『行政法Ⅰ〔第5版〕』(有斐閣)
 芝池義一『行政法読本〔第2版〕』(有斐閣)
 宇賀克也『行政法概説Ⅰ〔第4版〕』(有斐閣)
 藤田宙靖『行政法Ⅰ総論〔第4版〕』(青林書院)

行政法総論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政法の基礎概念
 - 第2回 行政の役割
 - 第3回 規制の方法（1）事前規制
 - 第4回 許可と特許
 - 第5回 規制の方法（2）事後規制
 - 第6回 経過規定
 - 第7回 法の種類
 - 第8回 行政組織法概論（1）- 総説、国の行政組織
 - 第9回 行政組織法概論（2）- 地方公共団体の行政組織
 - 第10回 行政の裁量（1）根拠
 - 第11回 行政の裁量（2）裁量統制の技術
 - 第12回 行政の裁量（3）裁量基準
 - 第13回 取消しと撤回
 - 第14回 行政手続（1）基礎理論
 - 第15回 行政手続（2）行政手続法
 - 第16回 行政上の義務履行確保（1）- 概論
 - 第17回 行政上の義務履行確保（2）- 具体的検討
 - 第18回 行政指導の意義
 - 第19回 行政指導の実効性確保
 - 第20回 信頼の保護
 - 第21回 行政立法
 - 第22回 委任立法の限界
 - 第23回 補助金の交付
 - 第24回 行政手続による第三者の保護
 - 第25回 情報公開
 - 第26回 法律の留保
 - 第27回 行政行為の概念と特別な訴訟手続
 - 第28回 取消訴訟と国家賠償法
 - 第29回 無効の行政行為
 - 第30回 行政行為の効力
- ※ただし、授業の進度によって、各回の内容を変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法、行政法総論、行政手続法

行政争訟法 【昼】

担当者名 /Instructor 張 栄紅 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

違法・不当な行政活動により被害を受けた（受けそうな）私人（市民・企業）がいかなる救済手法を使ってその被害を除去（予防）するかを学びます。具体的には、行政機関に対して訴える行政上の不服申立てと、裁判所に対して訴える行政訴訟を扱います。

この授業は、以下の3点を目的とします。

第1は、行政活動に起因する紛争における争い方のルールを理解することです。違法・不当な行政活動によって被害を受けた（受けそうな）私人の立場や、自ら適法と信じて職務を行った公務員の立場のいずれに立つとしても、行政活動に起因する紛争の現状と、その解決のための法的ルールを理解することが必要です。また、それらの法的ルールに対する理解を深めるために、それらに関する基本的な考え方を紹介・検討していきたいと思えます。

第2は、具体的な紛争に直面した場合の問題解決能力を養うことです。何か紛争が起きたときに、当事者の利害を裁判所において法的に主張することが求められます。行政活動に起因する紛争に直面した場合にはどのような訴訟の形式を選択しなければならないのか、当事者の利害を法的に主張するにはどのような知識をどう使わなければならないのか、紛争はどのような形で最終的に解決されるのか、といったことを具体の事例（判例・裁判例）を通じて考えてもらいます。そうした中で、憲法学や行政法総論で学んだ知識をより深く理解するとともに、事例問題を解く能力を高めてほしいです。

第3は、行政活動に起因する紛争の解決をめぐる最新の動向を知ることです。日本においては、行政救済の機能不全が長く続いてきました。これに対して行政事件訴訟法の改正（2004年）と行政不服審査法の改正（2014年）がなされました。また、判例法の展開による行政訴訟の見直しも進みつつあります。この授業では、行政活動に起因する紛争の解決の現状を分析・検討することにしたいと思えます。

教科書 /Textbooks

ガイダンスの時に知らせる
 （2014年の行政不服審査法の改正に伴い、行政争訟法のテキストの改訂作業が行われています。現時点で改訂済みのテキストがまだ出ておりませんので、第1回の授業の時に知らせることにします。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○宇賀克也ほか編『行政判例百選III[第6版]』（有斐閣・2012年）
 その他は、ガイダンスの時に知らせる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政争訟法の概要
- 第2回 行政上の不服申立て制度の概要
- 第3回 行政不服審査法の基本構造（1）種類と要件
- 第4回 行政不服審査法の基本構造（2）審理と裁決
- 第5回 行政訴訟の意義と類型
- 第6回 取消訴訟の利用条件（1）処分性
- 第7回 取消訴訟の利用条件（2）原告適格
- 第8回 取消訴訟の利用条件（3）狭義の訴えの利益等
- 第9回 取消訴訟の審理と判決
- 第10回 無効等確認訴訟・不作為の違法確認訴訟
- 第11回 義務付け訴訟・差止訴訟
- 第12回 仮の権利救済
- 第13回 公法上の当事者訴訟
- 第14回 客観訴訟—民衆訴訟と機関訴訟
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習が必要です。各回のレジュメの末尾には復習課題と次回の予習課題を出します。
 行政法総論を受講したこと（単位取得の有無は問いません）が望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

行政争訟法 【昼】

キーワード /Keywords

物権法 【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法第2編「物権」(民法175条~398条の22)のうち、担保物権を除いた部分(物権総則, 占有権, 所有権, 用益物権)について、判例・学説の解説を中心に講義を行う。全15回の講義を通して、物権法に関する基本的な法解釈の能力を身につけてもらうことが、この授業の目的である。

教科書 /Textbooks

淡路剛久ほか『民法II-物権〔第3版補訂〕』(有斐閣Sシリーズ 平成22年) 本体1900円+税
このほか、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選! 総則・物権〔第7版〕』(有斐閣 平成27年) 本体2100円+税
このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス, 序論(1)【物権の意義と性質】
- 第2回 序論(2)【物権の種類, 物権の客体】, 物権の効力
- 第3回 物権の変動
- 第4回 不動産物権変動における公示(1)【公示方法としての登記, 「対抗」の意義】
- 第5回 不動産物権変動における公示(2)【登記を必要とする物権変動】
- 第6回 不動産物権変動における公示(3)【第三者の範囲, 登記の手続】
- 第7回 動産物権変動における公示
- 第8回 立木等の物権変動と明認方法, 物権の消滅
- 第9回 占有権(1)【意義, 占有の成立と態様】
- 第10回 占有権(2)【占有権の取得, 占有の効果, 占有権の消滅】
- 第11回 所有権(1)【意義, 所有権の内容, 相隣関係, 所有権の取得】
- 第12回 所有権(2)【共有, 建物の区分所有】
- 第13回 地上権, 永小作権
- 第14回 地役権
- 第15回 入会権, まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

民法総則を並行して履修していることが望ましい。
授業中に条文を参照することができるように、必ず六法(ポケット六法等の小型のもので良い)を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業終了前に質問時間を設けるので、分からないことは放置せず、積極的に質問して欲しい。

キーワード /Keywords

民法 物権

家族法 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

民法第四編親族が主な講義の内容です。民法第五編相続の概要も説明します。婚姻、離婚、親子、親権、後見、扶養、相続を規律の対象とする家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思い込みがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的な位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講説親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社 2007年 3,000円
水野紀子他編著『家族法判例百選（第7版）』有斐閣 2008年 2,286円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 泉久雄『親族法』有斐閣 1997年 3,500円
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年 2,625円
- 窪田充見『家族法』有斐閣 2011年 4,000円
- 中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 2000年 6,000円
- 有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 2005年 3,800円
- 二宮周平『家族法（第3版）』新世社 2009年 3,200円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻制度史】【婚約】
- 3回 婚姻制度②【内縁】【婚姻の成立】
- 4回 婚姻制度③【婚姻の効果】
- 5回 離婚制度①【離婚制度史】【協議離婚】
- 6回 離婚制度②【裁判離婚】【裁判離婚】
- 7回 離婚制度③【離婚の一般的效果】【親権者決定】【面会交流】
- 8回 離婚制度④【離婚の財産的效果】【財産分与】
- 9回 親子制度①【実子】【嫡出推定】【認知】
- 10回 親子制度②【養子】
- 11回 親子制度③【親権】【後見】
- 12回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 13回 法定相続制度①【相続人】【相続分】【相続財産】
- 14回 法定相続制度②【単純承認】【相続放棄】【遺産分割】
- 15回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20% 定期試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「法律の読み方」「民法総則」、「物権法」「債権各論」を履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。「債権総論」と併せて受講することを勧めます。講義には必ず六法を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

親族、婚姻、婚約、内縁、協議離婚、裁判離婚、実子、養子、親権、後見、扶養、相続人、相続分、遺産分割、遺言、遺留分

企業取引法I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本年度の講義の対象テーマとなる「企業取引」とは、個人や企業の経済生活に伴う様々な偶然のリスクが現実のものとなった場合において、その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引を取り扱います。
また、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の体系的かつ基本的枠組みを理解することにあります。
火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する「法解釈論上ならびに立法論上」の諸問題や保険犯罪を取り上げながら、保険法体系の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。
また、現在社会において実際に取引されている保険商品の実態、証券投資取引におけるのと同様の説明義務違反をめぐる紛争や保険募集の適正性に関わる問題点についても、できるかぎり言及する予定です。

教科書 /Textbooks

山下友信・竹濱修・洲崎博史・山本哲生『保険法』（第3版）（有斐閣アルマ・2010年）
六法については、最新版であることが望ましいです。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、以下の通りですが、受講生の理解の度合い等により進度順番が変わる可能性につきご了承ください。

(【 】はキーワード)

- 第1回 保険制度の目的と役割 【大数の法則】【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】
- 第2回 保険契約の種類と特徴 【損害保険】【生命保険】【傷害疾病定額保険】【保険契約約款】
- 第3回 保険法改正の概要
- 第4回 保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
- 第5回 保険契約における告知義務(1)告知義務制度の背景・告知者とその相手方
- 第6回 保険契約における告知義務(2)告知義務の内容・告知事項
- 第7回 保険契約における告知義務(3)告知義務違反の効果
- 第8回 保険契約における告知義務(4)事例研究とまとめ
- 第9回 保険契約における事情変更・失効
- 第10回 損害保険契約 【被保険利益】
- 第11回 損害保険契約 【保険代位】
- 第12回 保険者(保険会社)の免責と約款における免責条項の有効性
- 第13回 各種の損害保険契約一個別の問題【火災保険】【自動車賠償責任保険】
- 第14回 生命保険契約・傷害保険に特有の問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80%、授業の理解度を把握するために不定期に実施する小テスト等の結果20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 1, 配布される資料は、以後の講義のために事前に配付されるのが通例です。従って、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領した資料レジュメについても持参の上、講義を受けるようにしてください。
- 2, 欠席した場合、配付済レジュメ等は講義担当者の研究室横の棚にスタックされています。各自の責任において入手するようにしてください(残余部数には限りがあります)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1, 企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」と合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。
- 2, また、私生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるか並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

企業取引法I【昼】

キーワード /Keywords

損害保険、生命保険、傷害疾病定額保険、自賠責保険、火災保険、地震保険、医療保険、

企業取引法II 【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

われわれの日常生活では、モノを購入する場合、現金で支払いをする事が多い。最近では、電子マネーで支払いをする事も増えている。金額の大きいモノを買う場合は、クレジットカードで支払いをする者もいる。しかし、企業が企業活動において取引をする場合、現金を用いることはなく、今日でも手形で支払いをするのが主流である。従って、例えば、就職後、職場で手形を振出したり、あるいは手形を受け取ったりするかもしれない。法(とりわけ私法)は、通常は、常識に従って行動している者の味方である。ところが、企業決済に関わる手形・小切手法の問題は、技術的な側面が強く、単に常識に従って行動してただけでは、思わぬ失敗を犯しかねない。マンガでも「ナニワ金融道」の中で、手形を届けることを頼まれた従業員が、相手方に「受取り署名をしてくれ」と騙されて、手形に裏書署名をして莫大な金額の責任を負う話があった。

本講義を通じて手形・小切手法を学ぶことで、手形・小切手が社会の中でどのように使われているのか、なぜ手形・小切手が企業決済に使われているのかを理解することができる。また、手形・小切手を取り扱う場合の基本的な考え方を理解し、手形・小切手に関係する者たち(振出人、受取人、所持人等)の利害調整に関し法律上のルールを制定法、判例等の具体例を通じて理解することができる。

教科書 /Textbooks

大塚龍児他「商法III - 手形・小切手(第4版)」(有斐閣Sシリーズ・2011年)2100円。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ①体系書：川村正幸「手形・小切手法(第3版)」(新世社・2005年)、関俊彦「金融手形小切手法(新版)」(商事法務研究会・2003年)。
- ②判例：神田秀樹他編「手形小切手判例百選(第7版)」(別冊ジュリスト222号)(有斐閣・2014年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 手形・小切手法を学ぶこと
- 第2回 手形・小切手は社会の中でどのように使われているか【為替手形、約束手形、小切手】
- 第3回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか(1)【有価証券】
- 第4回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか(2)【証拠証券、免責証券、金券】
- 第5回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか(3)【原因関係、商業手形、融通手形】
- 第6回 手形・小切手を振り出してみる(1)【手形署名、手形行為】
- 第7回 手形・小切手を振り出してみる(2)【手形理論、権利外観理論】
- 第8回 手形・小切手を振り出してみる(3)【民法の意思表示の瑕疵に関する条項と手形行為】
- 第9回 手形・小切手を振り出してみる(4)【会社による手形振出、手形の偽造・変造】
- 第10回 手形・小切手を振り出してみる(5)【手形要件】
- 第11回 手形・小切手を振り出してみる(6)【白地手形】
- 第12回 手形を満期前に譲渡する(1)【裏書、裏書の連続】
- 第13回 手形を満期前に譲渡する(2)【人的抗弁の制限】
- 第14回 手形が盗まれてしまった!(1)【善意取得】
- 第15回 手形が盗まれてしまった!(2)【公示催告、除権決定、手形訴訟】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果という観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。この場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%を目安として総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記するのではなく、考えてみること(プロセス)が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあつて、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

予習せずに講義を聞いただけで、手形・小切手の問題を理解することは困難である(手形・小切手法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...)。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。

講義中に、手形法、小切手法、商法、会社法、民法、民事訴訟法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、(できれば最新の)六法(但し、コンパクトなものでよい)を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業取引法II 【昼】

キーワード /Keywords

約束手形 為替手形 小切手 有価証券

知的財産法 【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

これからの取引社会において、営業上の信用を含む知的資産がもたらす価値は更に増大するものと考えられる。「知的財産法」では、当該知的資産の全体像を、思想または感情の創作物に関わるもの・製品等の開発販売過程で創作されるもの・営業上の信用が化体されているものに大別して、権利客体の把握や侵害訴訟における各種権利の基本的機能を概説する。同時に、音楽ソフトのネットワークを利用した配信行為に代表される、情報通信技術の進展に伴う新たな課題についても検討を加え、現代の取引社会で知的財産権が関与する事象を総合的に判断する能力形成をはかる。

教科書 /Textbooks

特許庁編産業財産権標準テキスト「総合編」発明推進協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村善之著「著作権法概説」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 知的財産法の全体像と基本理念～営業上の信用を含む無形の知的財産保護法制の概要説明
2. 情報通信技術の進展と知的財産権制度～ネットワーク等の技術進展がもたらす諸問題を考える
3. 著作権法～著作物と著作者の権利(著作権、著作者人格権)、著作隣接権、出版権、侵害訴訟
4. 著作権法～プログラム等の保護、放送ないしは映画の権利関係、マルチメディア作品の権利関係
5. 特許法・実用新案法～工業所有権四法(特実意商)の基本的枠組み、製品開発と産業財産権四法
特許侵害訴訟の基本、パリ条約及びその他の条約
6. 特許法・実用新案法～特許要件、発明実施概念、特許権、特許発明の同一性判断と侵害訴訟
7. 特許法・実用新案法～、法定通常実施権、特許マッピングの作成、ライセンス契約
8. 意匠法～意匠登録要件、侵害訴訟の基本、意匠権、意匠の類否判断、ライセンス契約
9. 商標法～商標登録要件、侵害訴訟の基本、商標権、商標の類否判断と侵害訴訟、
10. 商標法～法定通常実施権、出願実務とライセンス契約
11. 不正競争防止法～不正競争行為概説、著名周知商品表示の模倣、営業秘密の不正取得等
12. 不正競争防止法～商品形態の模倣、技術的制限手段の解除等(スクランブル解除等)
13. デザイン保護法制～著作権法・意匠法・不正競争防止法の各法域における適用形態と境界領域
14. ソフトウェア保護法制～著作権法・特許法の各法域における適用形態
15. まとめ
16. 学年末定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の比重は約5割(50%程度)、残りはレポート等の最終提出物や授業中の発表、リフレクションカードの記述内容等、日常的学習の成果(50%程度)を参考に総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、ネット上の特許サロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
 パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
 最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>
 単なる教科書の知識だけでなく、ウェブ上の情報も取捨選択しながら、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
 メールアドレス kimlab01@gmail.com
 研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

キーワード /Keywords

知的財産 特許 実用新案 意匠 商標 著作者の権利

情報公開・個人情報保護法【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

情報公開・個人情報保護の法制度は、国の法律と各地方公共団体の条例とにより構成されている。情報公開制度は、国民・住民が国・地方レベルで政治に参画するための手段である。また情報化社会の進展により情報の有用性が高まる中で、個人情報の保護を図ることが重要となっている。情報公開及び個人情報保護の仕組みはどのようになっているのか、それらは現実にもどのように運用されているのか、具体的にどのような法律解釈上の問題が生じているのかということについて、概要を把握することが授業の狙いである。授業では、情報公開制度及び個人情報保護制度について、基本的知識を体系的に理解すること、問題点の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点からの関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『新・情報公開法逐条解説[第6版]』（有斐閣、2014年）
同 『個人情報保護法の逐条解説[第4版]』（有斐閣、2013年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著『情報公開法』（有斐閣、1999年）
園部逸夫編集『個人情報保護法の解説<<改訂版>>』（ぎょうせい、2005年）
行政情報システム研究所編『行政機関等個人情報保護法の解説（増補版）』（ぎょうせい、2005年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 情報公開の意義 情報公開とは何か	第10回 個人情報保護制度の憲法上の基礎 個人の尊厳とプライバシー
第 2回 情報公開制度の憲法上の基礎 知る権利、国民主権者	第11回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（1） 個人情報、個人データ、個人情報取扱事業
第 3回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（1） 情報・行政文書の意義	第12回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（2） 個人情報の収集、管理、利用
第 4回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（2） 個人情報の不開示とプライバシー保護	第13回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（3） 開示請求、非開示情報、訂正等請求
第 5回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（3） 法人等情報及び意思形成過程情報の不開示	第14回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（4） 不服申立て、審査会による審査
第 6回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（4） 事務事業情報、安全・公安情報、外交等情報の不開示	第15回 まとめ
第 7回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（5） 部分開示、応答拒否、裁量的開示	
第 8回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（6） 開示手続、不服申立て、審査会による審査	
第 9回 個人情報保護の意義 個人情報保護とは何か	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

資料を配布するので、事前に読んでおくこと。
憲法学、行政法学について履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門 A 【昼】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

現代の日本経済が抱える問題点について、産業活動を中心として、時系列的に、平易に解説していく。主な学習項目としては、近年の日本経済のトレンド、日本企業（とくに製造業）の国際競争力、規制緩和と制度改革、新規事業展開などを中心にすえ、現代日本経済にかかわる専門分野の知識やスキルを得ることができるようになる。

学生は、日本経済と日本産業が直面しているシステム転換の実相を、企業のレベルまで深く掘り下げながら理解できるようになり、卒業後にも役に立つ生涯学習力が身につく。講義では新しい資料も交えて、昨今の経済事情についても解説を加えることとする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 日本経済のトレンド(1) 【戦後の経済改革】
- 3回 日本経済のトレンド(2) 【高度経済成長】
- 4回 日本経済のトレンド(3) 【安定成長】
- 5回 日本経済のトレンド(4) 【構造改革とIT革命】
- 6回 日本経済のトレンド(5) 【グローバル化】
- 7回 6回目までのまとめ
- 8回 日本企業の国際競争力(1) 【基礎素材産業】
- 9回 日本企業の国際競争力(2) 【加工組立産業】
- 10回 日本企業の国際競争力(3) 【農業、サービス業】
- 11回 日本企業のアジア展開【アジアの経済成長】
- 12回 11回目までのまとめ
- 13回 流通革命と情報化【大規模小売業】
- 14回 規制緩和と企業制度改革【構造改革】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・80%、小テスト・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新聞等で、授業計画・内容に記載されているキーワードに関わる経済記事を、よく読んでおくと理解がしやすくなる。
現代日本経済入門Bにおいて、金融、財政的側面を学習すれば、理解がより深まる。
最新の動向を講義に反映させるため、シラバスとは異なる内容を実施することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際競争力、IT革命、グローバリゼーション、流通革命、情報化、クラスター、規制緩和、企業制度改革

現代日本経済入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 美紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、経済活動の基本を踏まえ、日本経済の現状と日本経済が直面する課題を理解することにあります。
 本講義では、はじめに、客観的なデータに基づいて、日本経済の現状を説明していきます。そのうえで、日本経済が直面する諸問題について解説します。また、これらの諸問題が私たちの生活にどのような影響をもたらすのかについて考えていきます。
 本講義を通じ、昨今の経済動向だけでなく、経済の専門科目への興味と学習のモチベーションを高めることを期待します。

教科書 /Textbooks

指定なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『最新 日本経済入門 第4版』 小峰隆夫・村田啓子著 日本評論社 定価 (2500円 + 税)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本経済と経済の基礎
- 第2回 ストックからみた日本経済
- 第3回 物価の変動と日本経済
- 第4回 日本の財政をめぐる諸問題
- 第5回 財政再建と消費税増税
- 第6回 少子高齢化と社会保障
- 第7回 人口構造の変化と日本経済
- 第8回 金融と日本経済
- 第9回 日本の金融の長期的課題
- 第10回 貿易と国際収支
- 第11回 為替レートと日本経済
- 第12回 TPP参加と日本経済
- 第13回 日本の国債問題
- 第14回 日本経済と地域の振興
- 第15回 日本経済の潜在成長力とこれからの成長戦略

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 60%
 小テスト 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私たちの生活は経済活動なくして営むことはできません。経済がどのように動いていくのかを理解するためには、経済学の基本を押さえておく必要があります。
 また、現代日本経済入門Aでは戦後の日本経済と日本経済の構造変化について学びます。日本経済の諸問題を考えるうえで、日本経済のバックグラウンドを踏まえておくことは不可欠です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の財政、日本の国債、少子高齢化、為替レート、金融のしくみ

経済学入門 A 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

1. 経済学的思考法ができるようになる。
2. メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第3版) 東洋経済新報社、2013年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : イントロダクション
なぜ? 経済学を学ぶのか? 経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回 : グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回 : 経済学の基本原理について (1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回 : 経済学の基本原理について (2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回 : 相互依存と交易について (1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回 : 相互依存と交易について (2) 【絶対優位】 【比較優位】
- 7回 : 相互依存と交易について (3) 【交易からの利益】 【貿易】
- 8回 : 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回 : 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回 : 市場均衡について (1) 【価格】、【均衡】
- 11回 : 市場均衡について (2) 【比較静学】
- 12回 : 弾力性とその応用 (1) 【需要の弾力性】
- 13回 : 弾力性とその応用 (2) 【供給の弾力性】
- 14回 : 弾力性とその応用 (3) 【豊作貧乏】
- 15回 : マトメ

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

1. 経済学的思考法ができるようになる。
2. メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第3版) 東洋経済新報社、2013年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : イン트로ダクション
なぜ? 経済学を学ぶのか? 経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回 : グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回 : 経済学の基本原理について (1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回 : 経済学の基本原理について (2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回 : 相互依存と交易について (1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回 : 相互依存と交易について (2) 【絶対優位】 【比較優位】
- 7回 : 相互依存と交易について (3) 【交易からの利益】 【貿易】
- 8回 : 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回 : 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回 : 市場均衡について (1) 【価格】、【均衡】
- 11回 : 市場均衡について (2) 【比較静学】
- 12回 : 弾力性とその応用 (1) 【需要の弾力性】
- 13回 : 弾力性とその応用 (2) 【供給の弾力性】
- 14回 : 弾力性とその応用 (3) 【豊作貧乏】
- 15回 : マトメ

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。
レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 インTRODクシヨン(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。
レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。
企業経営や社会に関する諸問題を解決していく上で必要とされる、マネジメントの基礎知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社、2003年。○
坂下昭宣『経営学への招待(第3版)』白桃書房、2007年。○

他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドラッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポートの結果(20%)によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

企業論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この講義では、「経営学入門」で学習した内容をさらに発展させ、会社(企業)の基本的な仕組みだけでなく、企業経営に関するトピックも取り上げることで、まだ大学に入学して日が浅いみなさんに、少しでも学問の面白さを伝えたいと思っています。

教科書 /Textbooks

入山章栄, 『世界の経営学者はいま何を考えているのか』, 英治出版, 2012年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

荒井一博, 『ファンダメンタル ミクロ経済学』, 中央経済社, 2008年。
 伊藤秀史, 『ひたすら読むエコノミクス』, 有斐閣, 2012年。
 乙政正太, 『財務諸表分析』, 同文館出版, 2009年。
 掛谷英紀, 『学問とは何か』, 大学教育出版, 2005年。
 G.キング・R.O.コヘイン・S.ヴァーバ, 『社会科学のリサーチ・デザイン - 定性的研究における科学的推論』, 勁草書房, 2004年。
 榊原清則, 『経営学入門 [上]』〈第2版〉, 日本経済新聞社, 2013年。
 榊原清則, 『経営学入門 [下]』〈第2版〉, 日本経済新聞社, 2013年。
 竹内薫, 『99.9%は仮説 思いこみで判断しないための考え方』, 光文社新書, 2006年。
 角田康夫, 『新版行動ファイナンス』, 金融財政事情研究会, 2011年。
 戸田山和久, 『科学的思考のレッスン - 学校で教えてくれないサイエンス』, NHK出版, 2011年。
 古川浩一・蜂谷豊彦・中里宗敬・今井潤一, 『コーポレート・ファイナンスの考え方』, 中央経済社, 2013年。
 H.E.ブレイディ・D.コリアー, 『社会科学の方法論争 - 多様な分析道具と共通の基準』, 勁草書房, 2008年。
 森博嗣, 『科学的とはどういう意味か』, 幻冬舎, 2011年。
 (その他の参考書は講義で紹介します)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【講義の目的と意義, 成績評価の方法】
- 第2回 経営学と企業論【学問・経営学・企業論・コーポレート・ガバナンス】
- 第3回 社会科学としての経営学【経営学・社会科学】
- 第4回 経営学の研究方法①【理論分析・実証分析】
- 第5回 経営学の研究方法②【経済学ディシプリン・認知心理学ディシプリン・社会学ディシプリン】
- 第6回 経営学の研究方法③【経営戦略論, 統計学, 回帰分析】
- 第7回 起業家とベンチャー・ビジネス①【アントレプレナー, 株式会社, 合同会社, 合名会社, 合資会社】
- 第8回 起業家とベンチャー・ビジネス②【シリコンバレー, ITベンチャー】
- 第9回 企業経営とM&A【株式会社, M&A, TOB, コーポレート・ガバナンス】
- 第10回 企業会計と財務諸表①【財務諸表, 粉飾決算, コーポレート・ガバナンス】
- 第11回 企業会計と財務諸表②【公認会計士, 会計監査, コーポレート・ガバナンス】
- 第12回 企業経営のトピック①【ダイバーシティ, CSR, コーポレート・ガバナンス】
- 第13回 企業経営のトピック②【ダイバーシティ, コーポレート・ガバナンス】
- 第14回 証券市場と行動ファイナンス【伝統的ファイナンス理論, 行動ファイナンス理論, 効率的市場仮説 (EMH)】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験70%, レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営情報学科の学生は「経営学入門」・「簿記論I」・「入門経済学A(ミクロ経済学)」を履修済みで、「マネジメント論基礎」・「簿記論II」・「経営統計」を履修中(または履修済み)であることが望ましい。
 毎回、講義資料(「虫食いレジュメ」とパワーポイント)を使用します。講義資料は学習支援フォルダにアップしているので、毎回ダウンロード & プリントアウトしていただくこと(経済学部→松本守→企業論基礎→講義資料)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにある。

教科書 /Textbooks
 白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
 - 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
 - 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
 - 4回 簿記の要素【収益】【費用】
 - 5回 取引と勘定
 - 6回 仕訳と転記【仕訳】
 - 7回 仕訳と転記【転記】
 - 8回 仕訳帳と元帳
 - 9回 試算表
 - 10回 精算表
 - 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
 - 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
 - 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
 - 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにある。

教科書 /Textbooks
 白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
 - 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
 - 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
 - 4回 簿記の要素【収益】【費用】
 - 5回 取引と勘定
 - 6回 仕訳と転記【仕訳】
 - 7回 仕訳と転記【転記】
 - 8回 仕訳帳と元帳
 - 9回 試算表
 - 10回 精算表
 - 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
 - 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
 - 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
 - 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしなが、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。本講義のねらいは、日商簿記検定3級、さらには2級レベルの簿記をマスターすることである。

教科書 /Textbooks
 白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
 - 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
 - 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
 - 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
 - 5回 掛取引の記帳
 - 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
 - 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
 - 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
 - 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
 - 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
 - 11回 費用・収益の繰延と見越
 - 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
 - 13回 記帳の合理化、特殊な取引
 - 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。本講義のねらいは、日商簿記検定3級、さらには2級レベルの簿記をマスターすることである。

教科書 /Textbooks
 白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕巨・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕巨・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
 - 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
 - 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
 - 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
 - 5回 掛取引の記帳
 - 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
 - 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
 - 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
 - 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
 - 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
 - 11回 費用・収益の繰延と見越
 - 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
 - 13回 記帳の合理化、特殊な取引
 - 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 予習・復習は必ずしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学I【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ①統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ②点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③割合の検定、割合の差の検定などを原理的に理解する。
- ④確率分布をヒストグラムから理解する。
- ⑤経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実（2013）『サイコロを振って、統計学！』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔（2011）『コア・テキスト 統計学』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定（準備）
- 10 割合pに関する仮説検定（本体）
- 11 割合pに関する仮説検定（考察）
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題
- 15 統計的推定と検定のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)

。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書の各章を順に講義していく。各章は講義に臨むにあたって、事前に熟読し、演習をしておくこと。講義は予習・演習をしていることを前提に行われる。

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

統計学II 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義は統計学Iの受講を前提として、実際の統計解析の分野で多用される回帰分析を中心にして展開される。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ① 統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ② 点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③ 平均値の検定、平均値の差の検定などを原理的に理解する。
- ④ エクセル、SASを利用したデータ解析ができるようになる。
- ⑤ 経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実 (2013) 『サイコロを振って、統計学!』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔 (2011) 『コア・テキスト 統計学』新世社
 鍋谷清治、丸山文行、河田敬義 『大学演習数理統計』裳華房 (本格的な演習書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 正規確率変数の平均 μ の推定と標本平均
- 2 正規確率変数の標準偏差 σ の推定と標本標準偏差
- 3 連続型確率変数の平均 μ の区間推定(大標本法)
- 4 連続型確率変数の平均 μ の検定(大標本法)
- 5 正規確率変数の平均 μ の区間推定(小標本法)
- 6 正規確率変数の平均 μ の検定(小標本法)
- 7 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 8 回帰分析1 イン트로ダクション
- 9 回帰分析2 標本相関係数、標本共分散
- 10 回帰分析3 最小自乗法
- 11 回帰分析4 決定係数
- 12 回帰分析5 σ^2 の推定、t変量
- 13 回帰分析6 推定量の平均、t変量の分布
- 14 回帰分析7 α 、 β に関する検定
- 15 回帰分析8 回帰分析の実際

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点によって評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書の各章を順に講義していく。各章は講義に臨むにあたって、事前に熟読し、演習をしておくこと。講義は予習・演習をしていることを前提にして行われる

キーワード /Keywords

連続型確率変数、平均、分散、回帰モデル、回帰係数、推定、検定

数学【昼】

担当者名 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解するため、経済学部で使う数学の基礎を身につける。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における問題分析や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解し、数理的計算力を身につける。
2. 関数の性質を基礎から学び、微分と積分に関する基本的な計算スキルを身につける。
3. 数理的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

池辺、厚山、水谷、松本著、「新しい微分積分」培風館、1600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 「経済・経営系 数学概説」新世社、竹之内著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：関数とグラフ 【極限】、【連続関数】
- 2回：関数と微分 【接線】、【導関数】
- 3回：指数関数と対数関数(1) 【指数関数のグラフ】
- 4回：指数関数と対数関数(2) 【逆関数】、【対数関数のグラフ】
- 5回：導関数(1) 【n次関数の微分】
- 6回：導関数(2) 【指数関数の微分】、【対数関数の微分】
- 7回：微分(1) 【関数の和・差の微分】
- 8回：微分(2) 【関数の積・商の微分】
- 9回：微分法(1) 【合成関数の微分】、【対数微分法】
- 10回：微分法(2) 【関数の増減】、【関数の凹凸】
- 11回：不定積分(1) 【n次関数不定積分】
- 12回：不定積分(2) 【指数関数・対数関数の不定積分】
- 13回：定積分(1) 【n次関数の定積分】
- 14回：定積分(2) 【指数関数・対数関数の定積分】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲から毎回レポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目で学んだことは経済・経営・情報などで基礎として活用されます。さらに「経営統計」(MTH150M)を履修すると、確率分布の使いなどがよく分かります。

キーワード /Keywords

関数、微分、積分

経営統計【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的データ表現を理解するため、統計学の基礎を身につける。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における統計学的分析方法や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 経営における数理的データ表現を理解し、統計的処理を身につける。
2. データの整理の仕方や平均・分散・標準偏差などの基礎から学び、推定や仮説検定に関する計算スキルを身につける。
3. 統計的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

P.G.ボーエル著、浅井晃、村上正康訳、「初等統計学」培風館、1700円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○J.C.ミラー著、村上正康訳、「統計学の基礎」培風館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：データの表現 【度数分布表】、【平均】、【分散】、【標準偏差】
- 2回：確率 【確率】、【条件付き確率】
- 3回：確率分布表 【確率分布表】、【期待値】、【平均と分散の性質】
- 4回：確率分布(1) 【独立試行】、【2項分布】
- 5回：確率分布(2) 【一様分布】、【正規分布】
- 6回：標本抽出 【中心極限定理】、【統計学の基礎理論】
- 7回：推定(1) 【大標本法】
- 8回：推定(2) 【小標本法】、【t分布】
- 9回：仮説検定(1) 【大標本法による平均の検定】、【片側・両側検定】
- 10回：仮説検定(2) 【小標本法による検定】、【2つの平均の差の検定】
- 11回：相関 【相関係数】
- 12回：回帰分析 【最小2乗法】
- 13回：カイ2乗検定(1) 【カイ2乗分布】
- 14回：カイ2乗検定(2) 【適合度の検定】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
 期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新しいことを学ぶたびに、例題を計算して解きます。例題を通して、問題解決方法を具体的に学びます。授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲からレポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。必修科目「数学」(MTH100M)を理解していれば、「経営統計」の授業がより深く理解できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

統計学の基本的な考え方や道具立てを学ぶために、この科目を履修することをぜひお勧めします。

キーワード /Keywords

平均、分散、標準偏差、分布、推定、検定

地域経済I【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。経済のグローバル化を基軸として、経済活動の空間的範囲が大幅に見直されていることが原因である。大きな変化に直面した時こそ、事象の体系的理解と長期的な視点とが必要となる。本講義では主に以下の3つの論点を学習する。

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. 今日の地域経済の諸問題を考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報流と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】
- 3回 地域構造の高度化①【産業構造】
- 4回 工業化の進展【重化学工業化】【高加工度化】
- 5回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 6回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 7回 地域構造の高度化②【空間的情報流】
- 8回 企業内分業の進展①【工場立地】【オフィス立地】
- 9回 企業内分業の進展②【都市システム】
- 10回 コンピュータ・ネットワークと市場①【市場の広がり】
- 11回 市場の世界化①【金融市場】【物財市場】
- 12回 市場の世界化②【労働市場】
- 13回 コンピュータ・ネットワークと市場②【市場の深まり】
- 14回 地域経済をめぐる今日の諸問題【地方消滅】【地方創生】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどで「の地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域経済II」「地域政策」の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済II 【昼】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

地域が現在直面している問題について、具体的なテーマをもとにして解説する。そうした問題の背景にあるもの、地域経済に対して与える影響、解決するためにとられている政策などを幅広い観点から理解してもらうことを目的としている。これまでに学んだ経済学の考え方が、地域経済にどのように適用されるかについても検討してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田知弘・鈴木誠・川瀬光義・富樫幸一『国際化時代の地域経済学(第3版)』有斐閣、2007年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済を取り巻く環境の変化(講義の概要)
- 2回 都市計画【まちづくり3法】、【商業集積】
- 3回 中心市街地活性化【中心市街地】、【集客戦略】
- 4回 観光産業の振興とまちづくり(1)【マスツーリズム】、【インバウンド振興】
- 5回 観光産業の振興とまちづくり(2)【新しい観光の形態】、【グリーンツーリズム】
- 6回 1~5回の復習とまとめ
- 7回 地域の環境問題(1)【公害問題】、【地球環境の変化】
- 8回 地域の環境問題(2)【エコタウン政策】
- 9回 産業クラスター戦略(1)【産業集積】、【クラスター】
- 10回 産業クラスター戦略(2)【イノベーション】、【知識と情報】
- 11回 7~10回の復習とまとめ
- 12回 人口減少の影響と地域経済(1)【少子高齢化】
- 13回 人口減少の影響と地域経済(2)【中山間地域】、【限界集落】
- 14回 人口減少の影響と地域経済(3)【コンパクトシティ】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

『地域経済I』、『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域政策』の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方分権、環境政策、観光政策、産業クラスター、人口減少

経営戦略【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています

教科書 /Textbooks

講義はレジユメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)
大瀧精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略〈新版〉- 論理性・創造性・社会性の追求—』有斐閣、1997年。(○)
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 経営戦略論の議論の歴史1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第3回 経営戦略論の議論の歴史2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PPM】、【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第8回 競争の戦略1【5フォースズ】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第9回 競争の戦略2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第11回 ビジネスシステム戦略【ビジネスシステム】、【設計と情報・資源】
- 第12回 経営戦略と組織1【組織形態】、【事業部制組織】、【マトリックス組織】
- 第13回 経営戦略と組織2【組織革新】、【組織学習】、【知識創造】。
- 第14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポートの結果(20%)によります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

産業組織論I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論とその応用の紹介を行う。
経済現象だけでなく、様々な分野の分析を行う予定。

2つの演習を行う。
1つは、道具の操作性を高める演習。
もう1つは、学生自ら、興味のある経済現象を選択し、分析を行う演習。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Joseph E. Harrington, Jr. Games, Strategies, and Decision Making, 2nd, Worth Publishers. 2014.
渡辺隆裕 『ゼミナール・ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論(経済学)とゲーム理論【背景の理解】
- 2回 戦略形【利得表と均衡概念】
- 3回 戦略形【支配戦略と均衡概念と応用】
- 4回 戦略形【逐次削除均衡と応用】
- 5回 オークション
- 6回 戦略形【オークション】
- 7回 戦略形【ナッシュ均衡と応用】
- 8回 戦略形【ナッシュ均衡と応用_数量競争と価格競争】
- 9回 展開形【時間構造】
- 10回 展開形【後方帰納法】
- 11回 展開形【不完全情報】
- 12回 展開形【不完備情報】
- 13回 展開形【不完備情報とその応用】
- 14回 展開形【オークション】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

Industrial Organizationの日本語訳が産業組織論である。
 Industryという言葉は、昔、『市場』や『取引』という意味を持っていたようです。
 現代だと、産業組織論は、市場組織論(Market Organization)と呼ぶ方が相応しいのかもしれませんが。
 講義では、消費者と企業が取引する市場に注目し、効率的な取引を行うことを考えます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Luis Cabral. 2000. Introduction to Industrial Organization. MIT Press.
 Peter Davis and Eliana Garces. 2010. Quantitative Techniques for Competition and Antitrust Analysis. Princeton Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論のコンセプト【背景の理解】
- 2回 取引ゲーム 【基本モデル】
- 3回 取引ゲーム 【余剰分析】
- 4回 取引ゲーム 【コア、誘因両立性】
- 5回 独占【余剰分析】
- 6回 独占【自然独占と特許】
- 7回 独占【価格差別】
- 8回 寡占【余剰】
- 9回 寡占【カルテルの不安定性】
- 10回 寡占【無限繰り返しゲームとカルテルの安定性】
- 11回 寡占【クールノー極限定理と過剰参入定理】と市場構造のまとめ
- 12回 独占禁止法教室 【公正取引委員会】
- 13回 入札
- 14回 入札談合
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

産業組織論I・ミクロ経済学・統計学の知識を前提とする。(他学部受講生も同様)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政学I【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

前期の授業では基本的な財政の仕組みと制度、財政収支の現状そして基本的な経済学のフレームワークを使って財政の基本的な役割である「資源配分機能」、「再分配機能」、「景気安定化機能」について学びます。ミクロ経済学やマクロ経済学で勉強した内容もあると思いますが、財政学とくに政府の役割の観点からもう少し詳しく捉えていきます。経済学を勉強していない人にも教科書をベースに基本的な内容から説明していきます。

教科書 /Textbooks

『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スティグリッツ公共経済学 (上・下)
 ジョセフ・E・スティグリッツ (著) 藪下 史郎 (翻訳)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：財政の役割
- 2 財政の仕組み
- 3 租税の概観と財政収支について
- 4 価格メカニズムと市場均衡
- 5 市場と資源配分の効率性① 【効率性の基準：効用水準とパレート基準の考え方】
- 6 市場と資源配分の効率性② 【純粋交換経済における競争市場】
- 7 社会厚生と再分配政策
- 8 公共財① 【公共財とは何か】
- 9 公共財② 【公共財の自発的供給と非効率性】
- 10 公共財③ 【公共財の最適供給条件とリンダールメカニズムについて】
- 11 景気安定化機能 【「セイの法則」と「ケインズの有効需要」】
- 12 ケインズの45度線モデルと短期的GDPの決定
- 13 財政政策の乗数効果とそのメカニズムについて
- 14 景気循環と財政の自動安定化措置
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

財政学II 【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

後期の授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気安定化対策として行う財政政策とその有効性について学びます。バブルの崩壊やリーマンショックなど国内外の経済ショックによって経済の潜在的な活動水準が低下したときに、景気安定化としての財政政策には経済全体の有効需要を作用し、失業やGDPを潜在的な水準に戻すという重要な役割があります。しかし、この財政政策の有効性について疑問視する考え方もありますのでそれについても議論したいと思います。後半では公債（政府の債務）の償還問題や公的年金制度の問題はといった世代をまたいだ長期の財政問題について基本的な考え方を学びます。少子高齢化社会のなかで国の財政と公的年金制度をどう持続していくのかという問題に対して経済学ではどのように議論されているのかを説明します。

教科書 /Textbooks

『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー マクロ経済学 I入門編 と II応用編
N. グレゴリー・マンキュー(著), 足立英之(翻訳), 地主敏樹(翻訳), 中谷武(翻訳)

マクロ経済学
二神孝一 堀敬一 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨN: マクロ経済政策と財政
- 2 4 5 度線モデルと乗数効果の復習
- 3 乗数効果: 均衡財政と公債発行による財政支出と減税
- 4 IS - LMモデル① 財・サービス市場の均衡
- 5 IS - LMモデル② 貨幣市場の均衡
- 6 財政政策の効果とその有効性
- 7 公債と財政赤字①-新古典派モデルの考え方
- 8 公債と財政赤字②-リカード=バローの中立命題
- 9 公債と財政赤字③-リカード=バローの中立命題の現実性
- 1 0 公債と財政赤字④-財政赤字の持続可能性
- 1 1 経済成長と財政-資金市場の均衡と財政赤字の影響
- 1 2 公的年金制度について
- 1 3 年金制度と資金の移転
- 1 4 人口成長と年金収益率の関係
- 1 5 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

人事管理論 【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

奥林康司・上林憲雄・森田雅也編著(2009)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

岩出 博(2013)『Lecture人事労務管理(増補版)』泉文堂。
八代充史(2014)『人的資源管理論(第2版)』中央経済社。
上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
(上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文眞堂)が公刊されています。) その他、有用な参考書については講義中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、人事管理論へのプロローグ
 - 2回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務と組織の設計【分業】【調整】
 - 5回 人事等級制度【職能資格制度】【職務等級制度】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 キャリア開発・人材育成【キャリア】【OJT】
 - 8回 人事考課制度【人事考課】【目標管理】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】、福利厚生制度【カフェテリア・プラン】
 - 10回 労使関係論【企業別組合】【団体交渉】
 - 11回 非正規従業員と人材ポートフォリオ【非正社員】【雇用形態の多様化】
 - 12回 女性労働者の人的資源管理【男女雇用機会均等法】【ダイバーシティ】
 - 13回 高齢労働者の人的資源管理【定年制】【再雇用制度】
 - 14回 多様化する労働時間と労働場所【ワークライフバランス】
 - 15回 戦略的人的資源管理論、総まとめ【SHRM】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) 「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくといでしょう。
- (2) また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが期待されます。ちなみに教科書を持参しない学生が最近増えていますが、図表などを参照するので必ず持参してください。
- (3) 教科書は昨年度使用した本と同じです。あと教科書は「改訂版」を使用するので、「初版」ではなくこちらを持参してください。くれぐれも買い間違えないよう。
- (4) 大学生には言わなくても分かるとは思いますが、私語はしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないでしょう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずで、本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれませんが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえましょう。

人事管理論 【昼】

キーワード /Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

生産マネジメントA 【昼】

担当者名 /Instructor 鳥取部 真己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義では、現在の製造業の戦略とものづくりマネジメント、そしてそれにいたる歴史を概略的に学び、その理解のうえでグローバル化のなかでの日本のものづくりの課題を展望します。
 本講義の受講を通じて、生産マネジメント分野への関心を高め、生産マネジメントにおける基礎知識と基礎的な分析力を習得し、企業のオペレーション上の問題解決を行う基礎的な能力を身につけることを狙いとします。

教科書 /Textbooks

必要に応じてレジュメ等を配布する予定です。学習を深めたい方は参考書を参照してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤本隆宏『生産マネジメント入門(1)生産システム編』日本経済新聞社,2001.
 藤本隆宏『生産マネジメント入門(2)生産資源・技術管理編』日本経済新聞社,2001.
 藤本隆宏・中沢孝夫『グローバル化と日本のものづくり』放送大学教育振興会,2011.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【生産マネジメント】
- 2回 生産方式の歴史的発展(1) 【産業革命】【科学的管理法】
- 3回 生産方式の歴史的発展(2) 【フォード方式】【ベルトコンベアー】
- 4回 生産方式の歴史的発展(3) 【モダンタイムス】【人間関係論】
- 5回 現代製造企業の戦略と生産活動(1) 【コストリーダーシップ】【差異化】
- 6回 現代製造企業の戦略と生産活動(2) 【JIT】【トヨタ生産方式】
- 7回 生産活動のグローバル化(1) 【グローバル化】【海外生産】
- 8回 生産活動のグローバル化(2) 【中小企業】【ケイレツ】
- 9回 生産活動のグローバル化(3) 【ロジスティクス】【SCM】
- 10回 生産と人材(1) 【ブルーカラー】【派遣・請負】
- 11回 生産と人材(2) 【熟練】【OJT】
- 12回 生産と品質(1) 【TQM】【カイゼン】
- 13回 生産と品質(2) 【QC7つ道具】
- 14回 新たな生産方式 【屋台生産方式】【セル生産方式】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営戦略や組織論など経営学関連科目の復習を行うことで本講義への理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生産マネジメント、経営戦略、オペレーション・マネジメント

生産マネジメントB 【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

経営工学は、日本では生産分野を中心に展開されてきたが、経営への適用にも注目して、その対象範囲の広がりを理解する。経営工学の代表的手法を概説した上で、実際の問題の最適解法を、演習課題を通して論理的に身につける。

教科書 /Textbooks

毎回電子ファイルを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○秋庭雅夫他「経営工学概論」朝倉書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【生産・資源・マネジメント】
- 2回 競争と協調における思考法 【システム】【目標】
- 3回 意思決定と最適化 【様々な状況に応じた意思決定の在り方と最適化手法】
- 4回 ゲーム理論(1) 【目標達成のための純粋戦略】
- 5回 ゲーム理論(2) 【目標達成のための混合戦略】
- 6回 生産計画(1) 【線形計画問題の定式化】
- 7回 生産計画(2) 【解法としてのシンプレックス法】
- 8回 生産計画(3) 【応用問題を考える】
- 9回 生産計画(4) 【動的計画法とその適用】
- 10回 工程管理(1) 【ネットワーク図】【臨界パス】
- 11回 工程管理(2) 【不確定な工期】【工期短縮】
- 12回 在庫管理(1) 【需要が確定している場合の管理法】
- 13回 在庫管理(2) 【需要が不確定な場合の管理法】
- 14回 損益分岐点分析 【変動費】【固定費】【限界利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況：20% 課題：60% 小テスト：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

USBメモリーを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数式を多用します。できるだけ丁寧に説明しますが、数学の心得があると確実に理解は進みます。

キーワード /Keywords

情報マネジメントA 【昼】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 「情報」「知識」に基づくマネジメントやビジネスモデルの展開について考察する。情報行動の本質について関連の文献をレビューした後、経営情報システムやマーケティング情報システム、さらには知識マネジメント支援システムなどを事例にした情報経営、知識経営、Eビジネスの実際を配布資料（DVD含む）をまじえて具体的に検討する。

教科書 /Textbooks
 『情報と知識のマネジメント』（越出著）創成社 2700円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)
 『ナレッジ・クリエイター』（越出著）2200円
 『インタ-ネット・マーケティングの原理と戦略』（ワ-ド・ハンソン）日本経済新聞社 2800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 情報経営の意義	経営学における「情報と知識」
2 情報・知識の本質	情報行動論の視座
3 情報・知識のダイナミズム	動的な意味情報と知識
4 経営情報と意思決定	経営情報システムの発展史
5 情報経営論の整理	企業経営における情報と知識の小括
6 電子市場の生成	情報化社会の流通市場
7 バ-チャル・コミュニティ(C to C)	経済社会のネットワ-クと電子場
8 電子商取引(B to C)	対消費者のネットビジネス
9 電子商取引II(B to B)	対企業のネットビジネス
10 サプライチェーン(SCM)とICTタグ	仮想企業の最適化モデル
11 顧客関係管理のテ-タ-ベ-ス(CRM)	顧客管理システム
12 セ-ルス・フォ-ス・オ-トメ-ション(SFA)	営業支援システム
13 知識共有のグル-プウェア	知識の流通システムと組織能力
14 コ-ルセンタ-	インバウンド/アウトバウンド
15 情報経営のまとめ	ポイントの整理と今後の検討課題

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業中に課す小テスト、レポート・・・40% 学期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 出席を重視する

キーワード /Keywords
 知識社会の情報経営

情報マネジメントB 【昼】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「組織」と「情報」の議論を中心に意味ある情報(=知識)の共有、ならびに創造の意義を明らかにし、個人・集団・組織はもとより消費社会に関わる「知」のマネジメントについて検討する。日常的な経験知をはじめ、科学的知識の生成・発展に不可欠な組織の仕組み、学習プロセスを実際場・電子場の諸問題として展開。

教科書 /Textbooks

『ナレッジ・クリエイター』(越出 著) 創成社 ¥2200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『知識創造企業』(野中&竹中 著) 東洋経済新報社 ¥2100

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1	知識経営の意義	経営における意味的情報(=知識)
2	経営組織の未来	知識社会の展望
3	情報と知識の議論	情報経営のフロンティア
4	知識マネジメント(知識変換メカニズム)	知識マネジメントの「暗黙知」「形式知」
5	知識共有(実際場と電子場)	知識の流通メカニズム
6	知識創造とクリエイター	知識の創発メカニズム
7	知識マネジメントの整理	学習ポイントの確認(小テスト)
8	顧客知の活用システム	関係性のマネジメントと知識共創
9	組織学習と「知」の蓄積	販売部門のスキルアップと学習
10	熟練者と「知」の伝承	暗黙知の共有化
11	専門家の知識マネジメント	ナレッジ・クリエイター
12	失敗の「知」に学ぶ	経験知の有効活用
13	事例研究 I	実際場の知識マネジメント
14	事例研究 II	電子場の知識マネジメント
15	まとめ	ポイントの整理

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に課する小テスト、レポート・・・40% 期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし
 情報マネジメントAとセットで受講することが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席を重視します

キーワード /Keywords

知識社会

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2014年版中小企業白書」日経印刷

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】【問屋制下請】【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 " (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 " II
 - 第14回 " III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取り組み度合・・50% 期末レポート・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

無

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【昼】

担当者名 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】
- 2回 情報管理技術の進展(ファイルの編成法)【順編成】【直接編成】【区分編成】【データベース】
- 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
- 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
- 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
- 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
- 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】
- 8回 問題解決のためのモデル(その2)【クリティカルパス】
- 9回 問題解決のためのモデル(その3)【フローチャート】
- 10回 問題解決のためのモデル(その4)【デシジョンテーブル】
- 11回 モデル化の演習
- 12回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【10進数】【補数】
- 13回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
- 14回 最近の話題【クラウドコンピューティング】【EA】【公的個人認証】
- 15回 まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。
内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

財務会計論I【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >
財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

特になし
『学習支援フォルダ』にレジユメをUPしておくので毎回印刷して持参すること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会计学）とは何か？【経済活動】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計 【売上原価】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】
- 10回 収益・費用の認識・測定 【実現概念】
- 11回 原価と時価【有用性】
- 12回 資産・負債・純資産について【資産・負債概念の変化について】
- 13回 財務諸表分析（その1）【収益性・安全性について】
- 14回 財務諸表分析（その2）【収益性・安全性について】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。

教科書 /Textbooks

特になし

『学習支援フォルダ』にレジユメをUPしておくので毎回印刷して持参すること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計(その1)【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論の講義をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミングI【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。
解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋 麻奈 著『やさしいJava』ソフトバンククリエイティブ
(株)アंक 著『Javaの絵本』翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 基本操作【Java】【Eclipse】
 - 2回 Javaの利用【Eclipse】【コメント】
 - 3回 変数の利用【変数宣言】【データ型】【算術演算子】
 - 4回 繰り返し(forループ)【forループ】【条件式】
 - 5回 繰り返し(whileループ)【whileループ】【do-whileループ】
 - 6回 配列の利用【配列宣言】
 - 7回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
 - 8回 問題演習1【forループ】
 - 9回 値の入力【例外処理】【BufferedReaderクラス】
 - 10回 コマンドライン引数【コマンドライン】【例外処理】
 - 11回 問題演習2【whileループ】
 - 12回 問題演習3【条件分岐】
 - 13回 問題演習4【値の入力】
 - 14回 総合問題演習
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんのプログラムを作成してもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミングII (新JAVA) 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Java(ジャバ)を用いて、プログラミングスキルを体得することを目指します。Javaプログラミングを通じて論理的思考の育成を目指します。また、グループワークを通じてシステムエンジニアとして不可欠なコミュニケーション能力を育成していきます。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩著 『[改訂第2版]Java言語プログラミングレッスン(上)』 2006年、ソフトバンクパブリッシング
 結城浩著 『[改訂第2版]Java言語プログラミングレッスン(下)』 2006年、ソフトバンクパブリッシング

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 Java開発環境Eclipseの使い方について【JDK】【Eclipse】
 - 3回 プログラミングIの復習【オブジェクト】【クラス】【メソッド】
 - 4回 プログラミングIの復習【変数】【配列】
 - 5回 プログラミングIの復習【引数】【戻り値】
 - 6回 インスタンスメソッドとクラスメソッドについて
 - 7回 コンストラクターについて
 - 8回 ファイルの入出力【I/O】
 - 9回 画面の入出力【GUI】【Displayクラス】【Shellクラス】
 - 10回 各種画面部品 1【SWT】
 - 11回 各種画面部品 2【SWT】
 - 12回 グループワーク(設計)
 - 13回 グループワーク(開発)
 - 14回 コンテスト
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...40% 期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

他の科目との関連：必修科目「プログラミングI」取得後に履修すると効果的な学習ができます。

学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生、または、3年次以降に情報分野のゼミを履修することを希望する学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

Java Eclipse オブジェクト指向 SWT アプリケーション開発

データ構造【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現することと、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

この授業主な到達目標は 以下のとおりである。

- 1.データ構造・アルゴリズムを理解する。
- 2.データ構造・アルゴリズムを適用するためのスキルを身につける。
- 3.情報科学を活用して問題を分析し、解決するためのスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索3【二分探索木】
- 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【ヒープ】
- 11回 ソート法2【クイックソート】【シェルソート】【マージソート】
- 12回 グラフ1【グラフ】【隣接行列】
- 13回 グラフ2【ダイクストラ法】
- 14回 応用例【ハノイの塔】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データ解析【昼】

担当者名 /Instructor 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

近年の、所謂情報化社会においては、情報を如何に読み解くかが重要なキーとなっています。特にデータ・数字の情報の読み取りには統計的な知識・技術が欠かせません。また、自ら情報を発信するに際しても、データ・数字を統計的にどう扱うかは重要なテーマとなります。この授業では、データとは何か、どうやって読むかに始まって、実際に統計的手法を用いてデータの情報を記述し、分析して推定を行う段階までを少しずつ丁寧に説明します。

この講義を通して、科学的・論理的な問題解決のために必要な、データを通した客観的な意思決定の能力を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

竹内光悦他著, 実践ワークシヨップExcel徹底活用 統計データ分析基礎編, 秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【Excelの使い方】
- 2回 1変量データの要約【変数】，【尺度】，【度数分布表】，【ヒストグラム】
- 3回 変数の代表値について，2変数の散布図について【平均】，【分散】，【標準偏差】
- 4回 2つの変数の間の関係【散布図】，【相関】
- 5回 確率の考え方【確率分布】，【2項分布】
- 6回 連続的な分布の扱い方I【正規分布】，【確率密度関数】
- 7回 連続的な分布の扱い方II【正規分布】，【累積分布関数】
- 8回 母集団と標本【母数】，【標本】，【推定値】
- 9回 標本平均の安定性についてI【中心極限定理】，【標準誤差】
- 10回 標本平均の安定性についてII【信頼区間】，【比率の標準誤差】
- 11回 母集団の標準偏差が未知の場合の標本平均の評価【t分布】
- 12回 統計的仮説検定の考え方【背理法】，【有意】
- 13回 2つのグループ間での検定による比較【t検定】，【F検定】
- 14回 ある変数で他の変数を予測する【回帰分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...30% 試験...70%
尚、欠席は減点の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、256MB以上のUSBメモリを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データベース【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。

本講義では、データベースの利用方法よりも、基本知識、設計技術を中心に学びます。まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社
根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
- 第2回：データベースシステム【データベースシステム】
- 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
- 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
- 第5回：リレーショナルデータベース
- 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
- 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
- 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
- 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
- 第10回：正規化とは【正規化】
- 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
- 第12回：データベース設計【データベース設計】
- 第13回：データベース設計方法
- 第14回：データベース設計評価
- 第15回：まとめ

(パソコン教室を予定していますが、講義の2/3以上は講義(資料を使った説明、およびノート取り)で、パソコンの演習は多くても1/3程度です。進行状況等により内容の順番、進み方は変更になる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...25% 小テスト・課題...25% 期末試験...50%

詳細は第1回目に説明しますので必ず聞いてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。(この授業向けには100Mb(メガバイト)程度の要領があれば十分だと思います。)

内容はデータベースの利用技術よりも、仕組み、設計技術が中心で、難易度は高めで、しっかりとした予習復習が必要です。

集中して講義を受けてもらうために板書、パワーポイント画面をノートに書き写してもらうことを前提に、講義資料(パワーポイント資料)は配布しません。どこまで細かくメモするかによりますが、ノートを取る量は多いです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎から勉強しますが難易度は少し高めです。データベースに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。

データベース【昼】

キーワード /Keywords

システムデザイン 【昼】

担当者名 佐藤貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

理解しやすい情報や使いやすいシステムをデザインするには、利用者（ユーザ）のを中心に考えることが重要です。本授業では、そのために必要な、利用者のニーズやウォンツを知り、自分たちでアイデアを出し合い、形にまとめていく一連のプロセスをワークを通して体験しながら学習します。最終的には、情報関連分野のみならず、より広い領域で実践に生かせる知識、技術の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『情報デザインの教室』（情報デザインフォーラム編）丸善
- 『UXデザイン入門』（川西裕幸、潮田浩、栗山進 著）日経BP社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション、UIとは何か
- 2回 リサーチの手法
- 3回 ユーザモデリング
- 4回 コンセプトデザイン
- 5回 グループでの発想法
- 6回 ストーリーボード
- 7回 情報の構造化
- 8回 画面設計（スケッチとプロトタイピング）
- 9回 フロー設計
- 10回 ユーザビリティテスト
- 11回 総合課題（1） ユーザモデリング・コンセプトデザイン
- 12回 総合課題（2） ストーリーボードの作成
- 13回 総合課題（3） ペーパープロトタイプの実験
- 14回 総合課題（4） アクティング・アウト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題...50% 積極的な授業参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」や情報関連科目を受講していると、理解しやすくなる場合があります。
 基本的には、毎回ワークを行います（グループワークが中心ですが、個人ワークもあります）。
 授業の時間と内容の都合上、遅刻は厳禁です。
 総合課題のときに欠席されると他のメンバーに迷惑が非常にかかります。
 授業を欠席しないという意思の強い人のみ履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

興味がないとこの授業は苦痛になるだけだと思います。
 授業に対して一生懸命取り組んでくれることを期待しています。

キーワード /Keywords

UI（ユーザインタフェース）、UXD（ユーザ・エクスペリエンス・デザイン）

情報管理【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

ITの進展と共に情報が社会、経済環境に大きな影響を与え、個人、企業問わず情報の効率的に必要なデータを収集し、加工、管理し、戦略的に利用する技術は必要不可欠なものとなってきています。

本講義では、データ収集の目的に利用可能なWebプログラミング中心に学びます。具体的には、データの収集方法としてのCGIを学びます。

CGIとは、Common Gateway Interfaceの略で、入力欄やボタンのあるWebページからデータを取得し、何らかの処理をすることができる仕組みです。たとえば検索ページで検索語を入力欄へ入力して検索ボタンを押すと検索結果が表示されますが、あのようなページをイメージするとわかりやすいかと思います。その他アンケートや掲示板、Webショップの買い物かごなどを作ることもできます。

教科書 /Textbooks

講義資料を配布しますが、必要に応じて参考書など各自で利用してもらいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

古田たかし著、『はじめてのCGI&Perl』ソフトバンクパブリッシング
宮坂雅揮著、『CGI/Perl Handbook 2nd edition』、ソフトバンクパブリッシング
KENT著、『最速攻略 CGI/Perl 作り方入門』、技術評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、CGIとは【CGI】
 - 第2回：CGIに必要なソフトのインストール
 - 第3回：CGIの仕組み
 - 第4回：CGI作成のためのPerl言語入門【Perl言語】【変数、配列】
 - 第5回：CGI作成のためのPerl言語入門【条件分岐】
 - 第6回：CGI作成のためのPerl言語入門【繰り返し】
 - 第7回：CGI作成のためのPerl言語入門【ファイル操作】
 - 第8回：乱数の利用【乱数】
 - 第9回：クリックابلマップの利用【クリックابلマップ】
 - 第10回：クッキーとは【クッキー】
 - 第11回：CGI技術の応用【CGI応用】
 - 第12回：CGIを用いたアンケートWebページ作成方法【アンケート】
 - 第13回：CGIを用いたアンケートWebページ作成方法【買い物かご】
 - 第14回：SSI (Server Side Include)
 - 第15回：まとめ
- (進行速度、受講者の希望等により内容、順番、進み方は変更となる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...25% 課題・小テスト...40% 期末試験...35%

詳細は第1回目に説明するので、必ず聞いてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

情報管理 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この講義ではPerl言語というプログラミング言語によるCGIプログラミングをします。PerlはJAVAに似ていますので、JAVAの文法を復習しておくとう理解し易いと思います。

CGIについては、初歩から中級程度の内容を勉強します。(自分で勉強したことがある人は物足りない可能性があります。)

Windowsの基本的な操作はできることを前提に話をします。

USBフラッシュメモリを持っていない人は準備してください。必要なソフトのコピーをするので、この授業向けには1Gb(メガバイト)程度の容量が必要になると思います。

経営情報学科以外の学生はプログラミング科目の受講後の履修が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

システム設計I【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年SCC

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○
大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニック』、1989年、日科技連-○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
 - 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
 - 3回 システム分析とは
 - 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
 - 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
 - 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
 - 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
 - 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
 - 9回 回帰分析【回帰分析】
 - 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
 - 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】【VBA】
 - 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
 - 13回 グループ演習(データ処理)
 - 14回 グループ演習(発表)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この科目履修後に、「システム設計II」とあわせて受講すれば理解が深まります。

学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義にあたって、テキストを予め読み込んで分からない点を質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

システム設計II 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義は様々なアプリケーションについて考察し、システム設計をおこなうための必要な概念、モデル化技法、プログラミング技法について学習する。スマートフォン向けのアプリケーション開発にも取り組む。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩著『Java言語プログラミングレッスン上・下』1999年、ソフトバンクパブリッシング
 Ed Burnette著『初めてのAndroid第3版』2011年、O'REILLY

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、コンピュータシステムの得意なこと、Android開発環境の設定【Android】
 - 2回 アプリ開発とは？【Eclipse】【Android Developer Kit】【Java】
簡単なAndroidアプリの作成【プロジェクト】【パッケージ】【クラス】【メソッド】
 - 3回 システム設計とは【クラスの継承】【インターフェイスの実装】【インスタンス】
 - 4回 システム設計の方法論について【アクティビティ】【インテント】【レイアウト】【xml】
 - 5回 データ構造とアルゴリズムについて【イベント】【リスナー】【AndroidManifest】
 - 6回 ファイルとシステム設計【IO】【例外処理】【LogCat】【タッチイベント】
 - 7回 データベースとシステム設計【SQLite】【時間の処理】
 - 8回 アルゴリズムとプログラミングについて【グラフィックス】【スレッド】
 - 9～10回 各種部品の取り扱いについて【APIDemo】
 - 11～13回 グループ演習【アプリケーション設計】
 - 14回 コンテスト
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業態度...15% 課題...25% コンテスト結果...30% 期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

他の科目との関連：「プログラミングI・II」「システム分析」を既に履修している場合は、効率的な学習ができます。学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
 講義にあたって、テキストを予め読み込んで分からない点を質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報ネットワーク【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

インターネットを支える基本的な仕組みや、技術について理解し、情報通信ネットワークがどのようにして動いているのかを理解する。

この授業の主な到達目標は以下のとおりである。

1. コンピュータネットワークの運用に用いられる各種の機器やネットワークの論理構造を理解する。
2. コンピュータネットワークの構成を理解するスキルを身につける。
3. コンピュータネットワークを活用して問題を分析し、解決するための基本的なスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波講座『インターネット』全6巻 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IPアドレスとドメインネーム【IPアドレス】と【ドメインネーム】【DNS】
- 2回 インターネット接続【LAN】【WAN】
- 3回 データ交換方式1【回線交換方式】【パケット交換方式】
- 4回 データ交換方式2【プロトコル】【プロトコルの階層化】
- 5回 PDUの処理【プロトコル】【PDU】
- 6回 各層のプロトコル1【トランスポート層】【TCP】【確認応答番号】
- 7回 各層のプロトコル2【フロー制御】【誤り制御】【UDP】
- 8回 各層のプロトコル3【データグラム】【IP】【IPアドレス】
- 9回 各層のプロトコル4【フレーム】
- 10回 各層のプロトコル5【物理層】
- 11回 経路制御1【経路制御】【IPアドレス】
- 12回 経路制御2【プライベートIPアドレス】
- 13回 IPv6【IPv6】【NGN】
- 14回 問題演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

あまり聞いたことがない用語がたくさん出てくるので、それらの意味は、講義中にも説明するが、自分でもきちんと調べて受講してほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

IPアドレス ドメインネーム プロトコル

オペレーションズ・リサーチ【昼】

担当者名 /Instructor 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

組織を運営していく上では、多くの場面で意志決定が必要になります。たとえば、どの順番に仕事を片付ければいいのか、お金を借りるべきか否か、人を増やした方がいいのかなど様々です。この授業では、こういった意志決定が必要な場面で、どうすれば合理的な基準を定めることができるのか、その基準に基づくと、どのように決定はなされるのかについて、実習を交えて実践的に学びます。この授業を通して、問題解決のための客観的な基準を自ら定め、読み解くことのできる能力を身につけてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

岡太彬訓他著、オペレーションズ・リサーチ-経営科学入門、共立出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

齋藤芳正著、はじめてのOR、講談社ブルーバックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、この授業で学ぶこと。
- 2回 評価基準を用いた階層的な意思決定【AHP】
- 3回 【AHP】の実習
- 4回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅰ
- 5回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】Ⅱ
- 6回 【PERT】の実習
- 7回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅰ
- 8回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】Ⅱ
- 9回 【経済性工学】の実習
- 10回 一次式を用いた資源の効率的利用法【線形計画法】
- 11回 【線形計画法】の実習
- 12回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅰ
- 13回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】Ⅱ
- 14回 【待ち行列理論】の実習
- 15回 質問受付・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70%，レポート...30%
ただし、欠席を減点対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、256MB以上のUSBメモリを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 1 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks
 特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 社会福祉とは何か 【憲法25条】【人間の基本的ニーズ】【ウェルビーイング】
 - 3回 生活問題とソーシャルワーク 【社会福祉援助技術】【個人と環境との不適合】
 - 4回 ソーシャルワークの事例 【ソーシャルワーク】
 - 5回 ケースワークの原則 【ラポール】【バイステイック】
 - 6回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
 - 7回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助 【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
 - 8回 生活保護法 【生存権保障】【救貧】
 - 9回 社会福祉の歴史(イギリス) 【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
 - 10回 社会福祉の歴史(日本) 【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】【社会福祉】
 - 11回 社会福祉の歴史(ビデオ) 【日本のセツルメント活動】【賀川豊彦】
 - 12回 福祉改革と日本の動向 【日本型福祉社会論】【規制緩和】【格差社会】
 - 13回 日本と世界の福祉の動向 【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉レジーム】
 - 14回 日本と世界の福祉の動向 【社会的排除】【インクルージョン】【グローバリズム】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の学習状況 10%、レポート・提出物 20%、期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 授業で配布するレジユメを綴じる専用ファイルを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 2 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

- ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks
特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
講義中にその都度紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉とは何か①【オリエンテーションと社会福祉への理解】
- 2回 社会福祉とは何か②【社会福祉の政策・支援・対象】
- 3回 児童福祉政策の主要な論点と課題①【児童虐待の現状と考え方】
- 4回 児童福祉政策の主要な論点と課題②【児童福祉法と児童虐待防止法】
- 5回 児童福祉政策の主要な論点と課題③【児童相談所の役割と機能】
- 6回 児童福祉政策の主要な論点と課題④【子ども・家族・社会のあり方と虐待防止のための課題】③【】
- 7回 障がい福祉政策の主要な論点と課題①【障がいのある人と近・現代社会】
- 8回 障がい福祉政策の主要な論点と課題②【障がいのある人と社会思想】
- 9回 障がい福祉政策の主要な論点と課題③【障害者総合支援法のしくみと課題】
- 10回 障がい福祉政策の主要な論点と課題④【障害者総合支援法のしくみと課題】
- 11回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題①【高齢者の福祉とは何か】
- 12回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題②【介護保険法の成立と課題】
- 13回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題③【介護保険制度のしくみと課題】
- 14回 高齢者福祉政策の主要な論点と課題④【介護保険制度に位置づく専門職者の役割と課題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
事前に配布する講義レジュメ・資料、参考文献の講読

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉国家論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向(どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか?)、②日本の社会保険の特徴(諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか?)。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、B4版のレジユメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題
- 第9回「医療保険」 診療報酬をめぐる問題
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%

原則として、毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点より2点程度減点します。

*ただし、教室定員に対して受講生数が著しく多い場合は、出席による評価を変更する可能性があります。確定された成績評価基準は、第1回目の授業でお知らせします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

年金や医療について関心をもっておいってください。
私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 1 【昼】

担当者名 深谷裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編(2010)『新・社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規
その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セトルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 ゲストスピーカー
- 5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 6回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【ケアマネジメント】
- 10回 行政と民間の協働1【地域福祉計画、社会福祉協議会、社会福祉法人】
- 11回 行政と民間の協働2【ボランティア活動】
- 12回 行政と民間の協働3【保護司】
- 13回 行政と民間の協働4【民生委員】
- 14回 地域福祉の推進と福祉教育【福祉教育、在宅サービス】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題60% 期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の後半は、グループに分かれて、テーマ別にプレゼンテーションをしてもらいます。与えられたテーマについて、資料や文献を通して綿密に下調べをし、専門職の方々や地域の方々からお話を伺ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 2 【昼】

担当者名 /Instructor 渡辺良司、宇都宮慎吾

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 社会保障・社会福祉の変革が進む中で、地域福祉の推進は、生活を支えるうえで、最も重要な課題となっている。
 授業では、地域福祉の実践現場での動向をもとに、推進に関わる機関、団体、人材の状況を把握し、福祉コミュニティ創造に向けて、住民や専門職が実際にどのような役割を果たしているのかを理解する。
 また、生活困窮者自立支援や地域包括システムの動きに着目して、今後どのような関わりが必要かを考察する。

教科書 /Textbooks
 新・社会福祉士養成講座『地域福祉の理論と方法-地域福祉論』 中央法規出版、2009年3月、2,730円(出版当時)
 (必要に応じてプリント)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 『誰もが安心して生きられる 地域福祉システムを創造する』 ミネルヴァ書房
 『北九州市発21世紀の地域づくり』 中央法規出版
 『岐路にたつ大都市生涯学習』 北樹出版
 『地域を拓いた人たち』 北九州市社会福祉協議会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】 内はキーワード)
 第 1 回 地域福祉と社会福祉協議会【社会福祉協議会】【地域福祉活動】
 第 2 回 社会福祉協議会の機能と役割【社会福祉法】【社会福祉法人】
 第 3 回 地域福祉の推進方法【ネットワーク】【住民参加】【サロン活動】
 第 4 回 地域福祉の活動事例【福祉協力員】【ニーズ対応チーム】
 第 5 回 都市における孤立死防止対策【孤立死】【管理組合】
 第 6 回 地域福祉の人材1【自治会】【ボランティア】【民生委員】【保護司】
 第 7 回 地域福祉の人材2【住民参加型サービス】【NPO】【コミュニティビジネス】
 第 8 回 地域福祉の人材3【コーディネーター】【ソーシャルワーカー】
 第 9 回 ニーズ把握とコミュニティワーク【ニーズ】【コミュニティワーク】
 第 10 回 コミュニティソーシャルワークの方法【相談援助】【日常生活自立支援事業】
 第 11 回 当事者の組織化と自立生活支援【当事者参加】【介護予防】【認知症支援】
 第 12 回 地域福祉計画の実際【地域福祉計画】【地域福祉活動計画】
 第 13 回 福祉教育の考え方と推進方法【社会福祉協力校】【体験学習】
 第 14 回 地域福祉の財源【共同募金】【地域福祉基金】
 第 15 回 事例研究

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の授業への取り組み... 30%、 課題... 20%、 期末試験(レポート)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 受講にあたっては必ず、自分の暮らしてきた町や北九州市の地域福祉の状況について、情報収集して授業にのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「高齢者に対する支援と介護保険制度1」の内容は授業内容に示した通りである。これにより学生は高齢化の現状、高齢者の生活実態、高齢者福祉の発展過程、介護概念などを理解することができる。

教科書 /Textbooks

高齢者に対する支援と介護保険制度(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2013年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
- 第2回 高齢者の福祉需要
- 第3回 高齢者の介護需要
- 第4回 高齢者福祉制度の発展過程1【高齢者保健福祉十ヶ年戦略まで】
- 第5回 高齢者福祉制度の発展過程2【介護保険制度】
- 第6回 介護の概念や対象【介護の概念と範囲】
- 第7回 介護の概念や対象【介護の理念】
- 第8回 介護の概念や対象【介護の対象】
- 第9回 介護予防【介護予防の必要性】
- 第10回 介護予防【介護予防プランの実際】
- 第11回 介護過程
- 第12回 認知症ケア【認知症ケアの基本的考え方】
- 第13回 認知症ケア【認知症ケアの実際】
- 第14回 終末期ケア2【終末期ケア】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 授業への参加(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「高齢者に対する支援と介護保険制度2」の内容は下記の授業内容に示した通りである。これにより学生は介護保険制度の法、組織、専門職等及び福祉・介護に係る他の法制度について理解することができる。

教科書 /Textbooks

高齢者に対する支援と介護保険制度(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2013年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」 明石書店
 その他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、介護保険制度成立の経緯
- 第2回 介護保険法の概要
- 第3回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【国、都道府県、市町村の役割】
- 第4回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会等の役割】
- 第5回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【介護保険制度における公私の役割関係】
- 第6回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護支援専門員の役割】
- 第7回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護職員、訪問介護員等の役割】
- 第8回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護認定審査会の委員、認定審査員の役割】
- 第9回 介護保険法におけるネットワークと実際
- 第10回 地域包括支援センターの役割1【地域包括支援センターの組織体系】
- 第11回 地域包括支援センターの役割2【地域包括支援センターの活動の実際】
- 第12回 高齢者福祉制度と関連法1【老人福祉法、高齢者の居住の安定確保に関する法律】
- 第13回 高齢者福祉制度と関連法2【高齢者虐待防止法、高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律等】
- 第14回 高齢者福祉制度と関連法3【高齢者の医療の確保に関する法律】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 課題の提出(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童福祉論 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

今日の児童福祉問題と子どもを取り巻く社会環境について理解する。子どもとは何か、子どもの特性や子どもを理解する視点を踏まえ、子どものニーズに対応する社会システムについて考察する。
児童福祉の理念としての子どもの権利条約について学ぶ。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「子どもたちは今」北九州版・子どもの人権レポート編集委員会
○社会福祉士養成講座「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 子どものニーズと社会システム 【ヒューマンニーズの階層】
- 3回 子どもの成長・発達 【発達課題】 【発達観】 【ソーシャルスキル】
- 4回 子どもを理解する視点 【児童観の変遷】 【近代家族と子育て】 【母性神話】
- 5回 関係性に生きる存在、主体的存在としての子どもの事例
- 6回 歴史的存在としての子どもの事例
- 7回 児童福祉の理念と子どもの権利 【能動的権利】 【受動的権利】 【子どもの意見表明権】
- 8回 児童虐待 【児童虐待防止法】 【マルトリートメント】 【親権】 【バタナリズム】
- 9回 子どもの権利条約と課題 【子どもオンブズパーソン】 【子どもの権利条例】 【国連子どもの権利委員会最終所見】
- 10回 子どもの権利をめぐる状況 【子どもの貧困】
- 11回 子どもの権利をめぐる状況 【所在不明の子どもたち】
- 12回 子どもの権利をめぐる状況 【被虐待児】
- 13回 子どもの権利をめぐる状況 【不登校・ひきこもり】
- 14回 子どもの権利をめぐる状況 【生きづらさを抱えた子どもたち】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加状況50%、 提出課題50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で配布するレジュメを閉じる専用ファイルを準備すること。
単元ごとに配布する復習のプリントで自己学習をしておくこと。

社会福祉士関連科目「児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度」と合わせて学習すると総合的理解が得られる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度【昼】

専門科目

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

今日、児童と家庭の支援に関する法律・制度が著しく変化している。児童福祉施策では、子どもの福祉を支える家庭や親への支援などの重要性が認識され、社会福祉士養成のための教育課程においても、それらが強調された。本講義では、現代社会における児童家庭福祉問題に対応する児童家庭福祉に関する法制度、サービスについて理解する。また、主な児童福祉施設の活動については視聴覚教材などを用いることで、その実際が理解できるようにしたい。

教科書 /Textbooks

特になし
プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成テキストブック『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 児童福祉に関する法律、施設・機関 【児童福祉六法】【児童相談所】【福祉事務所】【児童家庭支援センター】
- 第3回 ひとり親家庭と母子生活支援施設 【母子及び寡婦福祉法】【父子家庭】【母子自立支援員】
- 第4回 DV防止法 【ドメスティック・バイオレンス】【配偶者暴力相談支援センター】
- 第5回 乳児院と児童養護施設 【グループホーム】【ファミリーホーム】
- 第6回 里親制度 【養育里親】【専門里親】【自立援助ホーム】
- 第7回 児童自立支援施設と少年非行 【家庭裁判所】【児童相談所】
- 第8回 少年犯罪と厳罰化 【少年院】【少年法】【少年鑑別所】
- 第9回 児童虐待防止法 【虐待の早期発見】【通告】【マルトリートメント】
- 第10回 障害児の福祉 【重症心身障害】【発達障害】
- 第11回 母子保健 【リプロダクティブ・ヘルス/ライツ】【母体保護法】【出生前診断】
- 第12回 保育所と幼稚園 【幼児二元化】【認定子ども園】【多様な保育ニーズ】【待機児童】【夜間保育所】
- 第13回 児童健全育成と児童厚生施設 【児童遊園】【児童館】【学童保育】
- 第14回 婦人保護施設・売春防止法 【婦人相談員】【要保護女子】【性暴力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業への参加度、提出物など)...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業において配布するプリントなどを整理するファイルを準備しておくこと。児童福祉論と合わせて受講すればわかりやすい。単元ごとに配布する復習のプリントで自己学習しておくこと。

参考文献『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』と合わせて学習すると総合的理解が得られる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められている。障害者総合支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、地域生活、施設利用などでの問題を取り上げながら、以下の点について吟味する。

- ①障害者総合支援法の成立過程と法の具体的内容の解説する。
- ②障害者の権利保障とは何かについての検討する。
- ③また障害のある人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。
- ④さらにはこれまでタブー視されてきた障害者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない性と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の諸注意と総論
- 2回 障害者施策の現状と課題① 【自立とは何か】
- 3回 障害者施策の現状と課題② 【障害者総合支援法の概要と課題】
- 4回 障害者施策の現状と課題③ 【地域生活】
- 5回 障害者施策の現状と課題③ 【ケアマネージメント】
- 6回 権利擁護システム① 【成年後見制度】 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
- 7回 権利擁護システム② 【虐待・不適切な行為とオンブズ活動】
- 8回 障害者福祉実践の到達点と課題① 【就労支援】
- 9回 障害者福祉実践の到達点と課題② 【生活支援】
- 10回 障害者福祉実践の到達点と課題③ 【家族支援】
- 11回 障害者福祉のこれから① 【障害者介護】
- 12回 障害者福祉のこれから② 【施設解体】
- 13回 障害者福祉のこれから③ 【地域生活支援】
- 14回 障害者福祉のこれから④ 【恋愛・性の支援】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 1 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓/地域創生学群

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
- 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
- 3回 相談援助の定義と構成要素1【ソーシャルワークの概念】
- 4回 相談援助の定義と構成要素2【ソーシャルワークの構成要素】
- 5回 相談援助の形成過程I1【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
- 6回 相談援助の形成過程I2【ソーシャルワークの発展期】
- 7回 相談援助の形成過程I3【ソーシャルワークの展開期】
- 8回 相談援助の形成過程I4【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 9回 相談援助の理念I1【ソーシャルワーカーと価値】
- 10回 相談援助の理念I2【ソーシャルワーク実践と価値】
- 11回 相談援助の理念I3【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
- 12回 相談援助の理念I4【ソーシャルワーカー倫理綱領】
- 13回 相談援助の理念II1【クライアントの尊厳と自己決定】
- 14回 相談援助の理念II2【ノーマライゼーションと社会的包摂】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。
社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門、社会福祉

相談援助の基盤と専門職 2 【昼】

担当者名 坂本毅啓/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するという点について、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

教科書 /Textbooks
 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義時に随時紹介

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ1【専門職倫理】、【倫理綱領】
 - 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ2【倫理的ジレンマ】
 - 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像1【総合的かつ包括的な相談援助】
 - 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像2【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
 - 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論1【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
 - 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論2【GSの特質】、【基礎理論】
 - 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲1【相談援助専門職の概念】
 - 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲2【相談援助専門職の範囲】
 - 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能1【予防機能】
 - 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能2【新しいニーズへの対応機能】
 - 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能3【総合的支援機能】
 - 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能4【権利擁護機能】
 - 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能5【社会資源開発機能】
 - 14回 地域創生とソーシャルワーカー【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の~1」での学習内容を復習して臨むこと。
 本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の~1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の~1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords
 相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

低所得者に対する支援と生活保護制度 【昼】

担当者名 /Instructor 藤藪 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

- 1) 現代日本では「貧困」が大きな社会問題となっている。しかし「貧困」問題は、近年発生したものではなく、昔から日本社会に存在していた。「貧困」は見ようとしなければ「見えない」のである。
 本講義ではまず、「貧困」とは何か。「貧困」の実態を見つめ、その原因を探ることから始める。
- 2) 日本において、人々を「貧困」から救うのは各低所得者に対する支援制度と生活保護法である。
 特に生活保護法は社会保障、社会福祉の最後のセーフティネットである以上、福祉事務所のケースワーカーのみならず、福祉施設職員や、病院ソーシャルワーカー、ケアマネージャーなど社会福祉に携わるすべての職種が理解すべき重要な法である。
 本講義では、「貧困」の実態を受けて、低所得者に対する支援制度と生活保護法の仕組みを具体的なケースを通じて学ぶ。
 その際には、「生活保護運用の矛盾」も検討し、「貧困」問題を解決する責任はだれにあるのか、自己責任なのかそれとも国や社会の責任なのかを掘り下げながら検討する。
- 3) さらに生活保護法の条文の検討を通じて、社会福祉に関する法律の読み方も学ぶ。

教科書 /Textbooks

低所得者に対する支援と生活保護制度 (久美出版)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉六法、格差・貧困と生活保護 (明石書店)、よくわかる公的扶助 (ミネルバ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 貧困・低所得者問題とは
- 2 見えない貧困を見る
- 3 現代貧困の諸相
- 4 福祉国家と公的扶助
- 5 公的扶助の歴史 (イギリス)
- 6 公的扶助の歴史 (日本)
- 7 生活保護制度の原理と種類
- 8 生活保護基準
- 9 保護の機関と費用、被保護者の権利義務、不服申し立てと行政訴訟
- 10 生活保護の実施体制
- 11 生活保護における援助活動
- 12 被保護者の動向と課題
- 13 低所得・貧困層への他の政策
- 14 自立支援プログラム他
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% 期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

その他詳しい日程は講義中に知らせる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

保健医療サービス【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

保健医療サービスについて学習しながら、これらのサービスを活用してクライアントの生活の再構築を支援する医療ソーシャルワーカーの役割を理解する。さらに支援に欠かさない権利擁護や専門職との連携などについても学ぶ。
 授業を通じて、保健医療サービスへの疑問や課題、医療ソーシャルワーカーのジレンマに言及することで、各々の学生が「クライアントへの支援はどうあるべきか」という視点で、保健医療サービスを理解できることを目指す。そのためにも、学生自らが「患者」または「患者の家族」という立場になったらという意識を持ってこの授業に臨んでほしい。
 現認の医療ソーシャルワーカーが担当するため、より具体的な事例を提示し、学生とのディスカッションを交えて授業を展開する。

教科書 /Textbooks

教科書は特に定めない。必要に応じて参考書・資料・事例を提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成のためのテキストを適宜参考にする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 保健医療サービスの概要
- 第2回 医療保険制度
- 第3回 医療施設の機能・類型
- 第4回 保健医療サービスの専門職とその役割
- 第5回 保健医療サービスと社会福祉士(医療ソーシャルワーカー)
- 第6回 医療ソーシャルワーカーの歴史・現状・課題
- 第7回 保健医療サービスにおける連携
- 第8回 患者の権利とその擁護
- 第9回 介護保険制度・障害者総合支援法
- 第10回 地域包括ケアシステムと在宅支援
- 第11回 職業リハビリテーション関連施策と就労支援
- 第12回 事例から学ぶ
- 第13回 よい面接をする
- 第14回 患者の立場・家族の立場になって考える
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習した内容を通じて、自らが感じたこと、理解したことをまとめたレポートを提出する。提出時期やテーマは、レポートを求める際に指示する。また日常の授業への取り組みを重視する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

これまでに経験した、学生自身、または家族など身近な人の病気や怪我といった事態を思い起こし、その場合の感情・対処・結果などを自分なりの言葉で話せるようにしておく。大切な体験として、必要に応じて授業の中で話題にしながら進めていく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一方的な講義ではなく、意見に耳を傾け、また発言しあって授業をともに作っていきましょう。

キーワード /Keywords

権利擁護と成年後見制度 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

- ・ 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。
- ・ 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む）について理解する。
- ・ 成年後見制度の実際について理解する。
- ・ 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しないので、講義資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【講義の主な柱】

- ① 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり
- ② 成年後見制度
- ③ 日常生活自立支援事業
- ④ 成年後見制度利用支援事業
- ⑤ 権利擁護に係る専門職者、組織、団体の役割と実際
- ⑥ 権利擁護活動の実際

【講義テーマ・内容】

- 第1回目
オリエンテーション 全体を通しての講義内容の説明、講義の進め方など（小賀）
- 第2回目
権利擁護とは何か（小賀）
- 第3回目
権利擁護と社会保障（弁護士）
- 第4回目
成年後見制度とは何か - 根拠法・仕組み・関係機関・団体など（弁護士）
- 第5回目
成年後見制度と弁護士の役割、活動（弁護士）
- 第6回目
権利擁護活動と自治体支援（自治体職員）
- 第7回目
権利擁護活動と社会福祉士の役割、活動（社会福祉士）
- 第8回目
権利擁護と社会福祉協議会の役割（社協職員）
- 第9回目
成年後見制度と医師の役割、活動（医師）
- 第10回目
地域包括支援センターにおける社会福祉士の役割と権利擁護（社会福祉士）
- 第11回目
事例（成年後見制度と後見人、保佐人、補助人①）（弁護士）
- 第12回目
事例（成年後見制度と後見人、保佐人、補助人②）（社会福祉士）
- 第13回目
事例（法人後見と日常生活自立支援事業③）（社協職員）
- 第14回目
事例（精神障害のある人への権利擁護活動）（PSW）
- 第15回目
講義のまとめ（小賀）

権利擁護と成年後見制度 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

コーディネーターの責任においてレポート(30%)および筆記試験(70%)を実施する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

多様な専門職者によって講義を構成するので、授業計画の内容に沿って事前学習をすること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学概論【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 社会心理学、発達心理学、及び臨床心理学の基礎的内容が主要テーマである。まず、人間の社会的行動を、集団における人間関係、自己意識と社会システムの関係などから考察する。次に、ヒトの発達現象における心理学的な捉え方、生涯発達と発達課題、発達における障害について考察する。最後に、心理臨床の観点からパーソナリティ、ストレスと不応、心理的援助を考察する。

教科書 /Textbooks
 適宜、レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回オリエンテーション：本講義の概要について
 第2回 心理学の研究方法について【実証主義】【仮説】【有意性】
 第3回社会心理学の基礎理論【原因帰属】【認知的不協和】
 第4回集団における人間関係【リーダーシップ】【集団凝集性】
 第5回自己と社会の関係【大衆社会化】【自分探し】
 第6回発達現象の心理学的な捉え方【遺伝と環境】
 第7回乳児期から児童期の発達理論【共同注意】【言語発達】【学習理論】
 第8回生涯発達と発達課題【発達段階】【アイデンティティ】
 第9回発達における障害①【肢体不自由】【知的障害】【発達障害】
 第10回 発達における障害②【アセスメントと発達支援】
 第11回パーソナリティに関する心理学研究の歴史【類型論】【特性論】
 第12回パーソナリティの形成に関する心理学研究の歴史【愛着理論】
 第13回不応の理解と援助①【防衛機制】【不応】
 第14回不応の理解と援助②【心理アセスメント】【心理的支援】
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平素の学習状況 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 1学期開講の「基礎心理学」と併せて受講されることを薦めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

観光社会学【昼】

担当者名 /Instructor 須藤 廣 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

2013年、日本を訪れる外国人の数が1000万人を超え、観光は日本の重要な産業の一つとなろうとしている。しかしながら現在、観光が目目されているのは産業としてだけではない。観光は私たちのプライドの問題とも大きく関わっている。世界的なグローバリゼーションの進展は、ローカルの価値を活性化させる役割も果たしてきた。現在、観光はグローバルなまなごしによってローカルの価値を再発見する「メディア」になろうとしている。人間は、他者に見られることによって自分とは何かを確認する。観光者に見られることによって、私たちは社会的アイデンティティを獲得している。

このように産業の問題、プライドの問題が関わる日本の観光化は全てが順調なわけではない。観光化による自然破壊、文化破壊、社会的分裂等、観光は社会に矛盾ももたらす。この授業では観光を社会科学の一分野として客観的に捉え、観光をよりサステイナブルなものにするにはどのようにしたらよいかを考える。

本年は特に、「イメージの政治」としての北九州市の観光の歴史と問題点にも焦点を当てる。

教科書 /Textbooks

須藤廣『観光化する社会』（ナカニシヤ出版）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○須藤廣『ツーリズムとポスト・モダン社会』（明石書店）
 その他、授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 観光とは何か（オリエンテーション）
- 2回目 消費社会と観光 1－観光と非日常消費
- 3回目 消費社会と観光 2－観光と自己承認
- 4回目 観光とメディア－バックパッカーとメディアを中心に
- 5回目 観光の歴史－前近代（巡礼、湯治）
- 6回目 観光の歴史－前期近代（大衆観光、ナショナリズム）
- 8回目 観光の歴史－後期近代（特化する観光、オタク観光）
- 9回目 北九州市の観光の歴史
- 10回目 観光化と観光の理論－ブーアスティン、マキアーネル、リッツアー
- 11回目 観光地と社会分裂－観光者と観光地住民
- 12回目 映画『ザ・ビーチ』からみる観光者と観光地住民
- 13回目 温泉観光地、由布院について考える－NHKの番組（プロジェクトX）を批判する
- 14回目 観光地と社会分裂－少数民族
- 15回目 観光地と共同性の再編成（門司港レトロ開発をどう評価するか）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度30%、レポート70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

観光（旅が好きでもよい）や観光まちづくりに興味があること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

観光、観光地、観光客、自己承認、ポストモダニズム、メディア、イメージの政治

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著
『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』
ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第 2 回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第 3 回 ヒトの発達的特徴とは【発達のメカニズム】
- 第 4 回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第 5 回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第 6 回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第 7 回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第 8 回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第 9 回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第 10 回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第 11 回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第 12 回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第 13 回 児童生徒の心理と理解①【発達障害の基本的理解】
- 第 14 回 児童生徒の心理と理解②【発達障害と思春期】
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老年心理学【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

主として老年期の捉え方、知能、記憶・学習・情報処理、パーソナリティと社会的適応について、老年期特有の変化の有無とその要因を社会的影響も視野に入れて説明する。また、精神疾患や社会問題等を通して、老年期の理解と認識を促すことをねらいとする。これにより学生は、老年期の捉え方の多様性や知能・記憶・パーソナリティの変化、老年期特有の精神疾患について理解することができる。

教科書 /Textbooks

資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 老年期とは - 多様性と共通性【個人差、文化・社会的老年期の捉え方】
- 第2回 老年期の心理学的捉え方
- 第3回 老年期の社会学的捉え方
- 第4回 老年期の認知機能の変化 - 知能1【横断的方法、縦断的方法、系列法】
- 第5回 老年期の認知機能の変化 - 知能2【言語性能力、動作性能力】
- 第6回 老年期の認知機能の変化 - 知能3【変化に影響する要因】
- 第7回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理1【記憶のモデル】
- 第8回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理2【再認と再生】
- 第9回 老年期の認知機能の変化 - 記憶・学習・情報処理3【日常生活における記憶、記憶機能の変化の要因】
- 第10回 老年期のパーソナリティと適応1【社会通念・時代背景・社会環境】
- 第11回 老年期のパーソナリティと適応2【OldestOldと社会関係】
- 第12回 老年期のパーソナリティと適応3【成熟した人格、パーソナリティ変容の要因】
- 第13回 老年期の精神疾患【うつ、認知症】
- 第14回 適応と生きがい【個人と社会】
- 第15回 まとめとして - 社会問題としての扱われ方

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 70% 授業態度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 五十嵐 亮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育現場や地域社会、家庭における子どもの「学び」と、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）の在り様に関して、主に心理学的側面に注目しながら理解を深めていく。
 本講義では、子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して、上記の問題に関して、「心理学的視点から自分の考えを持てるようになること」を目標とする。
 講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を毎回設けていく。

教科書 /Textbooks

指定せず（毎回配布資料を用いる）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時情報を提供する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回オリエンテーション
- 2回教育心理学の理論と方法
- 3回子どもの「学力」(1) 【関心・意欲】
- 4回子どもの「学力」(2) 【知識・理解】
- 5回子どもの「学力」(3) 【思考・判断】
- 6回子どもの「学力」(4) 【表現・技能】
- 7回教育測定・評価(1) 【測定学力、目標学力】
- 8回教育測定・評価(2) 【評価基準、テスト作成】
- 9回教師と授業づくり(1) 【教師の思考様式、教師の信念体系】
- 10回教師と授業づくり(2) 【学びの共同体、グラウンド・ルール】
- 11回学習環境と教育方法(1) 【学習集団編成、集団力学】
- 12回学習環境と教育方法(2) 【習熟度別学習、協働学習理論】
- 13回カリキュラムと学習材
- 14回発達障害
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況（学習態度、ミニレポート等）...30%
 レポート...20%
 学期末試験...50%
 （ミニレポートは、毎回講義時間内（10分）に記述する）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ心理学【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

さまざまなスポーツ活動について心理学的な観点から理解を深め、スポーツ指導やスポーツ実践に活かせるようになることを目的とする。スポーツコーチングの心理、メンタルトレーニング、スポーツにおける動機づけ、スポーツの社会心理、スポーツとメンタルヘルスなどの内容について、講義と簡単な実習などにより説明する。

教科書 /Textbooks

授業時に適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

杉原隆他編著『スポーツ心理学の世界』福村出版
調枝孝治監訳『運動学習とパフォーマンス』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツ心理学とは
- 2回 コーチングの心理1 【スポーツスキルの分類】【スキルの指導】
- 3回 コーチングの心理2 【スキルの獲得】【運動の心理的メカニズム】
- 4回 コーチングの心理3 【運動と注意集中】【運動の記憶】
- 5回 コーチングの心理4 【合理的な練習方法】【学習の過程】【練習の計画】
- 6回 メンタルトレーニング1【イメージトレーニング】【リラクゼーション】【あがりの対処】
- 7回 メンタルトレーニング2【心理的スキルの評価】【集中力】【目標設定】
- 8回 スポーツの社会心理1【スポーツと攻撃性】【他者の存在とスポーツ行動】【みるスポーツの心理】
- 9回 スポーツの社会心理2【スポーツ集団の特徴】【チームワーク】【リーダーシップの機能・役割】
- 10回 スポーツの社会心理3【スポーツの楽しさ】【コミットメント】【バーンアウト】
- 11回 スポーツの動機づけ1【動機づけ理論】【内発的動機づけ】【運動嫌い】
- 12回 スポーツの動機づけ2【動機づけの高め方】【目標設定の理論】【目標志向性】
- 13回 スポーツと心1【パーソナリティ】【心の発達段階】【自己概念】【ボディイメージ】
- 14回 スポーツと心2【メンタルヘルス】【運動の心理的効果】【心理的障害】
- 15回 まとめ(スポーツ心理学の指導・実践への応用)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 30 % 授業中の課題 ... 20 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

心理学関係の授業や、スポーツ科学関係の授業を受講した場合は、本講義の理解がより深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

対人心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

教科書 /Textbooks
 『社会心理学のストーリー』ナカニシヤ出版 1600円 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	オリエンテーション
第2回	対人認知
第3回	ステレオタイプ
第4回	帰属過程
第5回	社会的態度
第6回	対人魅力
第7回	対人関係の発展と崩壊
第8回	達成動機、親和動機
第9回	家族、性役割
第10回	組織行動、リーダーシップ
第11回	友人関係と孤独感
第12回	対人葛藤の効果
第13回	攻撃と援助
第14回	現代社会における対人心理の諸問題
第15回	まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況 (小テスト4回程度) ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

カウンセリング論【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

近年、心に関わる様々なアプローチが話題にされる。心理療法，セラピー，心の健康法などである。ここでは様々な社会場面で必要とされてきた「カウンセリング」についてを学ぶ。ここでいうカウンセリングとは「一人の人間が悩みや問題を抱えている。そしてその解決や整理の枠組みを望んでいる時に援助すること」ととらえて、福祉や教育などの場面での利用を想定して、カウンセリングの目的方法についての理論を学ぶ。同時に実際に現場で実践できるように実践的なスキルについても体験的に理解と体得を深めていく。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使わない。随時配布のプリント資料。紹介する参考書などを元にして学習をすすめる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業のねらい、計画…… 受講上の注意、[]キーワード
- 第2回 カウンセリングとは…… カウンセリングの定義・最近の推移・受講上の注意[定義]
- 第3回 カウンセリングの過程
- 第4回 カウンセリングの過程……事例とは[事例性]
- 第5回 人格(パーソナリティ)理論・発達理論の基礎を学ぶ[発達理論その他の理論]
- 第6回 ~11回 カウンセラーの基本的態度について[無条件的積極的関心・共感・純粋など]
- 第12回 ~14回様々な場所でのカウンセリング(応答を中心に)
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

随時提出のミニレポートと授業への取り組みの態度...40%、授業終了時のレポート60%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自分の抱える問題や自分のこれからの実践で予想される悩みを明確にする努力をして授業に臨んでもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション論【昼】

担当者名 /Instructor 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションは、自分の意図を相手（人，モノ，機械）に理解してもらうことである。つまり、「わかる」ということがコミュニケーションの本質である。どうわかってもらうかは、対面の場合、メディアを介したコミュニケーション、機械とのコミュニケーションの場合でそれぞれに異なっている。この講義では、「わかる」という問題についてまず考え、メディアによるコミュニケーション、機械とのコミュニケーションについて心理学的に考察する。

1. 松尾太加志「コミュニケーションの心理学-認知心理学・社会心理学・認知工学からのアプローチ」の理解。
2. 実験心理学の枠組みと、統計基礎の理解。
3. 基礎から臨床まで、心理学が分断されたものではなく、一続きだというイメージを持つ。
4. 心理学が生活や社会問題に活用できることの理解。

教科書 /Textbooks

松尾太加志「コミュニケーションの心理学-認知心理学・社会心理学・認知工学からのアプローチ」ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 比留間 太白・山本 博樹(編集)『説明の心理学-説明社会への理論・実践的アプローチ』ナカニシヤ出版
- 海保 博之(編)『わかりやすさとコミュニケーションの心理学(朝倉実践心理学講座)』朝倉書店
- 海保博之・松尾太加志『キャリアアップのための発想支援の心理学』培風館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 コミュニケーションとは
- 3回 メンタルモデル
- 4回 わかりやすい文章
- 5回 実験計画の理解と表やグラフの読み方
- 6回 スキーマによる対人認知
- 7回 ノンバーバルコミュニケーション
- 8回 対人距離
- 9回 メディアコミュニケーション
- 10回 Computer Mediated Communication
- 11回 ヒューマンインタフェース
- 12回 人と機械とのコミュニケーション
- 13回 医療事事故を心理学の視点から紐解く
- 14回 言いたいことをうまく伝えるコミュニケーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。
 評価は、試験の結果のみで行います。
 試験は、全て持ち込み可とします。
 講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)
 欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。
 その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。

コミュニケーション論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ☆過去受講生の皆さんからの、受講生の皆さんへのアドバイスを紹介しますので参考にさせていただきます。
- 「しっかり勉強したいという人には有益な講義。逆に単位が欲しいだけの方は【絶対に受講しない方が良い】」
 - 「理論がかなり専門的なので、はっきり言って初めはわけが分からないけれど、そこを越えれば、分かった瞬間の快感を味わうことができるし、講義のテーマである『わかるとは何か』を身を持って理解できる」
 - 「習った専門用語を使って話をすると頭が良くなったような気分になれる。でも一般の人には使い過ぎると変人扱いされるので注意」
 - 「心理学が生活に関連していることがわかる」
 - 「心理学が役に立つものだとわかる」
 - 「就活に使えるネタが集まる」
 - 「実験に基づく科学的な話なので、コミュニケーションという言葉から『心の交流』などをイメージして選択するのはやめた方が良い」
 - 「数字やグラフへの苦手意識が和らぐ」
 - 「出席を取らないけど、一回でも休んだらついていけないので覚悟すべし」
 - 「何となく講義を聞いている人と『しっかり勉強するぞ』と思っている人とで、講義の価値がかなり変わる。内容は難しいけれどくじけずに質問すれば対応してもらえるので、とにかくわからなかったら質問すること。わからないままにしておくと、どんどん講義が辛くなる」
 - 「どんどん進むので少しでも良いから予習しておいた方が良い」
 - 「甘く見ていたら試験の時にひどい目にあう」

キーワード /Keywords

臨床心理学【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズム、発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か
- 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
- 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編①【発達障害】
- 第4回 乳児期の発達課題と不適応：事例編②【関係性障害】【親・乳幼児心理療法】
- 第5回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
- 第6回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
- 第7回 児童期の発達課題と不適応：理論編【勤勉性】【箱庭療法】
- 第8回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】【自尊心】
- 第9回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
- 第10回 青年期の発達課題と不適応：事例編【過食症】【同一性拡散】
- 第11回 壮年期の発達課題と不適応：理論編【生殖性】【中年期心性】
- 第12回 壮年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
- 第13回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
- 第14回 老年期の発達課題と不適応：事例編【心気症】【不定愁訴】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(5回) ... 50% 試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことを薦めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理療法論 【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

心理療法は学ぶことも教えることも難しい領域であるとされる。それは学ぶ者と教える者それ自身の人間性が大きく問われるからである。それ故、「心理療法に従事する人間は、いつも深い羞恥心と、へり下った態度をとること...これこそ心理療法の真の成功の秘密なのである」(霧山徳爾)といわれるのである。本講義は、心理療法に関する主要な各学派を概観しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、森田療法を中心に学習を進める。独創的な学説にふれることにより心理療法全般への展望と理解が広がり同時に自己のメンタルヘルスにも興味を持ってもらいたい。キーワードは【森田療法】である。

教科書 /Textbooks

テキスト 「森田療法のすべてがわかる本」北西憲二 著 講談社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「神経質の本態と療法」森田正馬著 白揚社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 心理療法の基礎問題
心理療法を囲む問題 ・ 心理療法を学ぶ目的【傷つけざること第一なり】
- 2回 心理療法家としての心構え ・ 心理療法と発達理論 【発達理論】
- 3回 心理療法の歴史 【フロイト】
- 4回 心理療法の技法論 精神分析, ユング心理学【東洋の人間観】
- 5回 ヒューマニスティック・セラピー他 【全体観】
- 6回 森田療法とその主要理論 【あるがまま】【生の欲望】
- 7回から10回 森田療法とその基礎理論 【感情の法則】【目的本位】
- 11回から13回 森田療法の実際 (不安とうつを治す)【とらわれ】
- 14回 認知行動療法について 【森田との違い】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験及び課題提出の内容...50% 授業と勉学への熱意...30% 毎回の授業態度...20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

森田療法以外の心理療法として、現在ひろくおこなわれている「認知行動療法」についても学ぶ予定である、自分でも事前に調べて概略をつかんでいること。また人間理解を深めるための基本的理論書を自主的に読んでほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人体の構造と機能及び疾病 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 二六一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 医学一般を理解するため、人体の基礎的な解剖、生理を学び臨床医学へと講義を進めてゆく。最後に超高齢化社会に伴い医療と介護、福祉の連携や医事法制や保健医療などを理解してもらう。

教科書 /Textbooks
 黒田研二、住居広士著 人体の構造と機能及び疾病、ミネルバア書房 ￥2600
 プリントも配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特になし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1 . 人の成長、発達と加齢、老化
 - 2 . 器官と臓器：呼吸と循環、身体の仕組み、人体構造
 - 3 . 消化器
 - 4 . 肝臓、胆嚢、膵臓
 - 5 . 皮膚、泌尿器、骨筋肉、内分泌など
 - 6 . 生活習慣病：悪性腫瘍、癌など
 - 7 . 循環器疾患
 - 8 . 脳血管疾患
 - 9 . 糖尿病、高脂血症、痛風、メタボリック
 - 10 . 感染症
 - 11 . 精神障害
 - 12 . 神経疾患
 - 13 . 骨関節、結合組織
 - 14 . 先天性疾患
 - 15 . 医療と介護

成績評価の方法 /Assessment Method
 1 . 出席があること。全欠席での試験のみは認めない。
 2 . 期末試験に持ち込みはなし。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ボランティア活動論【昼】

担当者名 /Instructor 藤原 典明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

ボランティア活動の現状と概念を整理・確認し、地域社会での位置づけや活動の意義について考えます。ボランティア活動を狭義ではなく、広義に捉えたNPO(公益団体)として課題を定義することにより、組織運営の課題を理解・分析するとともに、地域・社会における生活の質を高める多様な課題(子育て支援・対策、高齢者支援・対策、雇用対策、環境保全・対策、新エネルギー・省エネルギー促進方策、商店街活性化対策、自治会加入促進対策等)の解決に結びつくことを考えてみたいと思います。地域・社会の多様な課題の解決に向きあうには組織の自立した持続的な運営と、代表者としての取り組む姿勢・資質が不可欠であり、その要素の実現に必要な条件について考えます。住みよい地域・社会の実現には、ボランティア活動を慈善的な活動から発展的な発想により、持続的な自立したボランティア活動へと成長し、継続的に地域・社会と関わることで、人の意識変革を促し、人間力を高め、地域力を高める必要があります。さらに、組織運営における発想の拡大により、地域・社会の課題を解決する新しい社会ビジネス手法「コミュニティビジネス(市民事業)」「ソーシャルビジネス(社会起業)」の概要を理解することにより、生活の質を高めることを目的とする公共サービスの担い手としての社会的意義について考えてみたいと思います。

この講義での到達目標の具体的な内容は以下の通りです。

- ①. ボランティア活動の全体理解を得て、社会での位置づけや意義を学ぶと共に、組織運営の課題を分析する。
- ②. ボランティア活動・NPO・NPO法人の社会的な役割を理解し、組織運営の違いを理解する。
- ③. 地域・社会の課題を分析することにより、ボランティア活動に求められる社会的な意義を理解する。
- ④. 人間力・地域力を高める目的を担う、コミュニティビジネス(市民事業)・ソーシャルビジネス(社会起業)の概論を理解し、地域・社会との関係性を考察することにより、社会性と経済性との調和による新しい地域・社会環境をイメージする。
- ⑤. 新しい生活支援サービス形態と称される「公共サービス」としての関係性を理解する。
- ⑥. 対話授業を取り入れることにより、授業での主体性を高め、協調性を基本とする「ボランティア活動に取り組む姿勢」を高める。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ボランティア活動の現状理解と、社会的な意義
- 2回 ボランティア活動とNPO(任意団体)・NPO法人の概念整理
- 3回 ボランティア活動とNPO(任意団体)の組織運営の課題分析
- 4回 特定非営利活動法人(NPO法人)の組織運営の課題分析
- 5回 ボランティア活動の自立化によるコミュニティビジネス(市民事業)への成長
- 6回 地域・社会の課題発見 その1
- 7回 地域・社会の課題発見 その2
- 8回 人間力(教育的影響)の現状理解と課題分析
- 9回 地域力(社会的影響)の現状理解と課題分析
- 10回 コミュニティビジネス(市民事業)と、人間力との関係性 その1
- 11回 コミュニティビジネス(市民事業)と、人間力との関係性 その2
- 12回 コミュニティビジネス(市民事業)と、地域力との関係性 その1
- 13回 コミュニティビジネス(市民事業)と、地域力との関係性 その2
- 14回 地域での雇用創出を目的とする、ソーシャルビジネス(社会起業)概要の理解
- 15回 ボランティア活動からコミュニティビジネス(市民事業)・ソーシャルビジネス(社会起業)への発展的可能性と、地域・社会からの期待(まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(80%)、授業レポート(5%)、対話討議を含む授業での積極性(15%)を評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1. 受講にあたっては、毎回出席することが前提である。
2. 新聞、テレビ、ラジオ、北九州市の市政だより、福岡県NPO・ボランティアセンターの関連情報等を積極的に把握し、地域・社会の課題や社会の変化について考察すること。
3. 身近なボランティア活動に関心を持ち、その活動の全体の把握に努めること。

ボランティア活動論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ指導論【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 スポーツの考え方を明らかにし、スポーツを文化としてとらえることの重要性について理解を深め、スポーツ指導者として求められる役割などを学習する。初めてスポーツに出会う子供をはじめ、どの年代からでも生涯を通じて楽しむ方法や機会を提供するとともに、人間としてのマナーやエチケットなどを学習する。

教科書 /Textbooks
 必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 スポーツ技術・戦術以外のスポーツ文化的内容(ルール、マナー、エチケット)
 - 2回 21世紀のスポーツ指導者像とは
 - 3回 スポーツ指導の心構え(法的知見を含む)
 - 4回 世界の舞台をめざすアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割
 - 5回 救急処置
 - 6回 指導計画の立て方
 - 7回 スポーツ活動と安全管理
 - 8回 指導者の法的責任
 - 9回 スポーツと人権
 - 10回 スポーツ活動中に多いけがや病気
 - 11回 新たなスポーツ環境とスポーツ指導者
 - 12回 これからのスポーツ振興の方向性
 - 13回 部活動とスポーツ指導者
 - 14回 日本武道の必要性
 - 15回 地域スポーツクラブとスポーツ指導

成績評価の方法 /Assessment Method
 受講態度...70% レポート...30%
 (遅刻は認めない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 必要があればその都度連絡する

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ指導論【昼】

担当者名 /Instructor 小手川 郁人 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

障害者スポーツは、最近ようやく社会に認められハンディキャップを持つ人々の意識も高まりスポーツやレクリエーションを通して社会参加することができるようになってきたが、反面それを支える支援者の数が不足しているのも事実である。本講義では「障害とは何か」、「様々な障害状況に対しどのようにアプローチすればいいのか」などを考えその意義や指導論を学習していく。さらにこの講義では、障害者スポーツの現場で活用できる内容を重点的に取り入れ自分の考える課題や他者との意見交換を行い発表するという体験的要素を導入する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 障害者スポーツセンターの役割
- 3 障害者スポーツの意義と理念
- 4 障害者スポーツの発展の歴史
- 5 障害者福祉施策の具体的恩恵
- 6 障害者スポーツ指導者制度
- 7 障害状況に応じた車いすの種類
- 8 常用車いすの介助・体験
- 9 肢体障害とスポーツ 脊髄損傷・頸椎損傷
- 10 肢体障害とスポーツ 脳血管障害
- 11 肢体障害とスポーツ 脳性麻痺・切断
- 12 視覚・聴覚障害とスポーツ
- 13 知的障害・精神障害とスポーツ
- 14 障害者スポーツ指導員の心得
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・ 60% 試験・・・ 30% レポート・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回配布する資料をよく読み込んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中に障害者スポーツ教室や大会、地域住民と一緒にいる行事等紹介するので、積極的に参加し体験してほしい。国際大会などの情報を知りたければ遠慮なく聞いてほしい。

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア指導論【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

スポーツ活動や身体運動を通して、子供から高齢者まで様々な活動を支援していく。スポーツ教室とスポーツ大会の目的の違いなどを理解すると同時に、スポーツ参加や選考など学生自身がスポーツ種目の企画、立案、実施を通して学んでいく。

例えば、開会式から閉会式までを考え実施していくことや同時に人間的な幅広さをも学んでいく。また、総合型スポーツクラブである北九州スポーツクラブACEの取り組み行事などに積極的に参加し、市民のスポーツ活動の未来を考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツボランティアとは
- 2回 スポーツボランティアの目的
- 3回 地域スポーツを考える(1)
- 4回 地域スポーツを考える(2)
- 5回 スポーツイベントの運営(1)
- 6回 スポーツイベントの運営(2)
- 7回 スポーツイベントの計画と実践(1)
- 8回 スポーツイベントの計画と実践(2)
- 9回 中高年者とスポーツ(1)
- 10回 中高年者とスポーツ(2)
- 11回 女性とスポーツ(セクシャルハラスメント等を含む)
- 12回 小学生のスポーツ活動
- 13回 小学生のスポーツ実践
- 14回 障がい者スポーツの支援(1)
- 15回 障がい者スポーツの支援(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度...70% レポート...30%
(遅刻は認めない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡する

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア各論【昼】

担当者名 /Instructor 上村 英樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

平成23年8月に「スポーツ基本法」が施行され、地域スポーツの活性化はトップアスリートへの支援とともにスポーツ振興の両輪に位置付けられました。また、地域ではスポーツによる健康増進や地域コミュニティの形成促進への期待も高まっています。しかし、地域スポーツを取り巻く社会背景は「超高齢社会の到来」「子どもたちの体力の低下」や「地域の希薄化」などの課題も多く抱えており、地域で活躍するスポーツ・ボランティアには指導力のみならず、コミュニケーションスキルやリーダーシップなど人間力も求められます。この授業では、スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会を実現するために、スポーツで地域コミュニティを支えるスポーツ・ボランティアが、子供から高齢者までのスポーツ活動を支援していくうえで必要となる様々な知識や指導法を学んでいきます。特に、スポーツを支える力を育成するために個々の知識や指導力・企画力を高めるとともに、事故防止や安全対策などの管理能力を育成していきます。さらに、指導カリキュラムや企画提案書作成に取り組み、模擬的な指導体験を通して実践力を身につけていきます。

教科書 /Textbooks

特に使用しません。授業時に随時資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 スポーツ・ボランティアのタイプ、現状と事例、公的役割【分類】【現状把握】【社会的役割】
- 3回 地域コミュニティと総合型地域スポーツクラブの現状と課題【総合型地域スポーツクラブ】【地域コミュニティ】
- 4回 スポーツ指導者の役割【コーチング】【ハラスメント】
- 5回 各世代(ジュニア～シニア)がスポーツに求めるもの【各世代の特性】【ニーズとシーズ】
- 6回 スポーツ指導時のリスクとその対応【リスク管理】【CPR】
- 7回 スポーツイベントの企画提案書、指導カリキュラムの書き方【企画提案書】【カリキュラム】
- 8回 ジュニアスポーツ指導カリキュラムの作成【ジュニアスポーツ】【コアディネーション運動】
- 9回 ジュニアスポーツ指導カリキュラムに基づく模擬指導【ジュニアスポーツ】【模擬指導】
- 10回 健康づくり事業の事例、指導ポイント【シニア】【介護予防】
- 11回 シニア向け事業カリキュラムの作成【シニア】【介護予防】
- 12回 シニア向け事業カリキュラムに基づく模擬指導【シニア】【模擬指導】
- 13回 市民参加型のスポーツイベント計画の作成①【市民参加】
- 14回 市民参加型のスポーツイベント計画の作成②、発表【市民参加】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み度... 60% レポート... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必要があればその都度連絡します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して、スポーツ・ボランティアとしての実践力をしっかり身につけ、地域活動を充実したいという意欲を持って参加してください。

キーワード /Keywords

スポーツ基本法、総合型地域スポーツクラブ、スポーツコミュニティ、介護予防、心肺蘇生法(CPR)

障害者スポーツ各論【昼】

担当者名 /Instructor 小手川 郁人 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

障害者スポーツ指導員とは、障害者が身体を鍛えたり、スポーツやレクリエーションを楽しむ支援を行ったりするために、障害に応じた適切な指導をすることができる専門家である。本講義では、障害者スポーツ指導員に必要な各論について論じる。特に全国障害者スポーツ大会の概要や競技規則、競技種目や障害状況によって判定される障害区分、競技に使用される用具と基礎知識など幅広く学習する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 肢体不自由
- 3 視覚障害・聴覚障害
- 4 内部障害
- 5 知的・発達障害
- 6 精神障害
- 7 アダプテッド・スポーツの理解 競技規則
- 8 障害者スポーツ特有の用器具
- 9 補装具の理解 構造とメンテナンス
- 10 全国障害者スポーツ大会の概要 歴史と目的
- 11 全国障害者スポーツ大会 選手団とコーチのあり方
- 12 全国障害者スポーツ大会 競技内容と障害区分
- 13 トップアスリートの大会パラリンピックとは
- 14 世界の動向と日本の立場 今後の国際大会
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・60% 試験・・・30% レポート・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回に配布する資料をよく読み込んでおくこと。
応用的内容が多いため、基礎的内容を扱う「障害者スポーツ指導論」を受講済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中に障害者スポーツ教室や大会、地域住民と一緒に実施している行事等紹介するので、積極的に参加し体験してほしい。
国際大会などの情報など知りたければ遠慮なく聞いてほしい。

キーワード /Keywords

身体適応論 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。

本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 運動と肥満
- 3回 運動とエネルギー代謝
- 4回 バイオメカニクス
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 運動と神経系
- 7回 運動と呼吸
- 8回 運動と血圧
- 9回 運動と骨粗鬆症
- 10回 運動と疲労
- 11回 疲労と休養
- 12回 運動と暑熱環境(熱中症の予防)
- 13回 運動への行動変容(1)【メリット、デメリットについて考える】
- 14回 運動への行動変容(2)【運動習慣の獲得について考える】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

身体スポーツ論【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持、増進、あるいは競技力を高めるために、ある程度の体力向上は必要である。ただ単にジョギングをしたり、筋力トレーニングをすれば十分であるというわけにはいかない。逆に過度になり過ぎ障害を起こすケースも少なくない。ここでは、身体発達や運動神経・運動機能の過程を調べ、幼児期からの成長段階に合わせた遊び環境や競技成績を上げるための練習やトレーニング、食事法、スポーツ指導法、メンタル面などについて勉強する。

教科書 /Textbooks

授業中にプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 体力の考え方について【身体的要素・精神的要素】、【運動の必要性】
 - 3回 体力の加齢変化について、自己体力の認識と今後の運動【ケガや疾病】
 - 4回 スポーツ成績を上げるための要因【体力の三次元】、【生理的限界・心理的限界】
 - 5回 運動神経について【運動センス】
 - 6回 " 【遺伝】
 - 7回 運動発達の段階について【幼児期】、【児童期】
 - 8回 " 【運動軸】、【調整能力】
 - 9回 " 【思春期】、【成熟期】
 - 10回 発達段階におけるトレーニング【ジュニア期のトレーニング】、【スポーツ障害】
 - 11回 筋線維の種類と特性
 - 12回 平衡性の相関について(多目的ホールで実施)
 - 13回 スポーツ栄養について【グリコーゲン】
 - 14回 スポーツ指導【コーチング】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃からスポーツに興味をもって、特集番組やニュース、新聞や雑誌など、意識的にスポーツに関わりを持つことをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容は、運動やスポーツ活動からの視点だが、スポーツ経験のない学生は日常生活行動と重ねたり結びつけたりしながら受講すると理解しやすい。
現在、部活動で頑張っている学生については、授業の中で一つでも普段の練習に役に立つものが見つければ嬉しいです。

キーワード /Keywords

講義全体のキーワード
【運動神経】、【幼児期から児童期の遊び環境】
【アスリート】、【競技スポーツ】

トレーニング論【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「体力を向上させたい、パワーをつけたい」などという言葉をよく耳にする。しかし、体力という言葉にはおおくのようそがふくまれて、病気に耐えることや冷静に行動することなども広い意味での体力といえよう。

この講義では特に「筋力・持久力・瞬発力・柔軟性・調整力」の5つの要素をバランスよくレベルを高めていく行くことを目的としている。今や健康をお金を払っていじする時代になり、週に1回と言う頻度では十分ではないが各自の体力に合わせて行っていく。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な資料は配布します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ウォーミングアップとは
- 2回 クールダウンとは
- 3回 携帯測定と体脂肪を計測してみよう
- 4回 柔軟性とストレッチ
- 5回 フリーウエイトと筋力アップ(1上体)
- 6回 フリーウエイトと筋力アップ(2下腿)
- 7回 フリーウエイトと筋力アップ(3体幹)
- 8回 マシントレーニングの安全性とは
- 9回 マシントレーニングの弱点とは
- 10回 マシントレーニングの利点とは
- 11回 神経系のトレーニング(1ラダーを使ってみよう)
- 12回 神経系のトレーニング(2ミニハードルを使ってみよう)
- 13回 ポールトレーニング(1腰椎体操を兼ねて)
- 14回 ポールトレーニング(2体幹を鍛えよう)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度50% まとめ50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康科学【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことのひとつである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康の概念
- 3回 日本と世界の健康指標
- 4回 日本の健康施策と健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 エクササイズガイド
- 9回 休養・こころの健康づくり
- 10回 ストレスとメンタルヘルス
- 11回 睡眠と健康
- 12回 タバコ・アルコールと健康
- 13回 産業保健 (VDT作業)
- 14回 ヘルスプロモーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

社会調査の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 阪井 俊文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 社会科学の諸分野では、社会に生きる人々の意識や行動を「社会調査」によって明らかにすることが中心的な活動となっている。しかし、その「社会調査」は、方法論を習得したうえで適切に行われなければ意味をなさない。
 本講義では、社会調査の基礎・方法論について解説する。主に調査票調査（いわゆるアンケート）について、実践例を多く取り入れながら、調査の一連の流れをイメージできるように講義を進める。

教科書 /Textbooks
 大谷信介ほか（編）『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法-』ミネルヴァ書房 2013年 2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義の中で適宜紹介する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 イン트로ダクション 社会調査とは何か？
 - 2回 調査の「目的」を決める
 - 3回 「先行研究」の重要性
 - 4回 調査票（アンケート用紙）の作成
 - 5回 ワーディングを精査する
 - 6回 サンプリングの方法
 - 7回 調査の実施
 - 8回 回収した調査票のデータ化
 - 9回 データの集計（1） 「代表値」とは何か？
 - 10回 データの集計（2） 分散 クロス集計
 - 11回 統計分析の必要性
 - 12回 報告書・論文の執筆
 - 13回 質的調査 フィールドワーク 言説分析
 - 14回 社会調査の倫理問題
 - 15回 まとめ レポート課題の説明

成績評価の方法 /Assessment Method
 期末レポート・・・70% 小レポート・・・20% 日常の授業への取り組み・・・10%
 3分の2以上の出席を条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 社会学・教育学・心理学などのゼミで卒論研究を行う上での基礎的な方法論を習得するための科目である。
 初歩的な内容の科目であり、統計分析については紹介程度なので数学的な予備知識は必要としない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 社会調査を自ら実践する場合だけでなく、他の研究者が行った社会調査論文を読み解く上でも必要な知識であるので、社会科学に属する分野を専攻する予定の人は履修しておくことが望ましいと思います。

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 1 【昼】

担当者名 藤藪 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

みなさんが目指す社会福祉の仕事としては、生活保護のケースワーカー、児童福祉司、児童養護施設職員、高齢者福祉施設職員、ケアマネジャー、病院ソーシャルワーカーなどが考えられる。
 そこで実践される社会福祉援助技術のほとんどが、個別援助技術であるケースワークである。
 しかし、ケースワークとは「人々とその環境との間に、個々別々に意識的にもたらされる調整を通じて、人格の発達をはかる諸過程（リッチモンド）」と定義されるように、漠然としていてイメージを掴みにくい。社会福祉関連法の学習と比べても、相談援助を書籍に記載される理論だけで把握するのは困難である。
 そこで、本講座では、生活保護のケースワークを中心に、具体的な事例演習を行うことにより、ケースワーク、個別援助の進め方を考えていく。

教科書 /Textbooks

福祉事務所ソーシャルワーカー必携-生活保護における社会福祉実践（全国社会福祉協議会）を予定していますが、正式には初回の授業でお伝えします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業で伝達します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ケースワークとは何か
- 2 ケースワークの原則
- 3 ケースワークを必要とする人々とは
- 4 ケースワークの実践モデル
- 5 ケースワークのアプローチ
- 6 ケースワークの諸過程01 【ケースワークの原則】
- 7 ケースワークの諸過程02 【アセスメント・プランニング】
- 8 ケースワークの諸過程03 【インターベンション・エバリュエーション】
- 9 面接技法01 【面接の目的等】
- 10 面接技法02 【インテーク等】
- 11 事例演習01 【アルコール依存症者世帯への援助】
- 12 事例演習02 【ひとり親世帯への援助】
- 13 事例演習03 【児童虐待事例での援助】
- 14 事例演習04 【高齢者世帯への援助】
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% 期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

その他具体的な日程は、講義中に知らせる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【昼】

担当者名 /Instructor 工藤 歩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 ソーシャルワークにおける支援の流れ、および支援計画やネットワークの重要性について学ぶ。
 また社会資源の活用やソーシャルアクションの意義についての理解を深める。
 さらにはそれらを活用し、スーパービジョンやコンサルテーションがおこなえる技術や知識を養う。。

教科書 /Textbooks
 新・社会福祉士養成講座「相談援助の理論と方法II」第3版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義内にて適宜提示する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 オリエンテーション 相談援助について
 - 第2回 ケア(ケース)マネジメント ケアマネジメントの概念と援助過程
 - 第3回 ケアプラン(援助計画)の策定
 - 第4回 コーディネート
 - 第5回 グループワーク グループワークの概念と相互作用
 - 第6回 ネットワーキング ネットワークの概念と地域ネットワーク
 - 第7回 社会資源 社会資源の活用
 - 第8回 ソーシャルアクション ソーシャルワークとソーシャルアクション
 - 第9回 さまざまな実践モデル・アプローチ さまざまな実践モデル
 - 第10回 スーパービジョン
 - 第11回 コンサルテーション
 - 第12回 ケースカンファレンス(事例検討) 模擬ケース検討①
 - 第13回 ケースカンファレンス(事例検討) 模擬ケース検討②
 - 第14回 ケースカンファレンス(事例検討) 模擬ケース検討③
 - 第15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method
 期末試験・・・50%、日常の取り組み・・・20%、課題・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords
 ケアマネジメント、ケアプラン、ネットワーク、スーパービジョン

相談援助の理論と方法 3 【昼】

担当者名 藤田 博久 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

1. 講義の主なねらいは、次のとおりです。
 - (1) 地域福祉実践を検証する原理・原則、枠組み・指標について学ぶ。
 - (2) 地域福祉の問題や課題を構造的・総合的に把握する方法について学ぶ。
 - (3) 地域福祉実践を幅広い視野と多面的な角度から捉えることを学ぶ。
 - (4) 地域福祉の実践的援助技術について学ぶ。
 - (5) ソーシャルワーク・アプローチ(実践モデル)の多様性について学ぶ。
 - (6) 理論と技術の社会的背景について学ぶ。
2. 次の6つのテーマに重点を置いて授業内容を構成します。
 - (1) 社会的背景を踏まえながら、コミュニティについての基礎理論、地域福祉を進める援助技術の系譜への理解を促す。
 - (2) 構造改革、貧困と格差の拡大、分権改革を軸とする関連政策動向(大状況)の分析を行い、地域福祉実践の今日的立場・役割や課題についての認識を深める。
 - (3) 住民の流儀による地域福祉推進の考え方や手法について学ぶ。
 - (4) 社会問題、政策主体、社会運動の視座から、技術論の前提となる地域社会・地域福祉の現状と課題についての認識を深める。
 - (5) コミュニティワーク(コミュニティ・オーガニゼーション)の全体像について理解を深める。
 - (6) 実践事例を通して、コミュニティ・ソーシャルワーカーの役割と機能を学ぶ。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。講義資料として、数回に分けてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は使用しません。
 参考文献として、調査報告書、計画書、実践報告書等の資料を必要に応じて配布・紹介します。
 参考書、補助教材ではありませんが、講義の理解度を高めるためには、次の図書が有効です。①三塚武男「生活問題と地域福祉」・「住民自治と地域福祉」、②井岡勉・成清義治「地域福祉論」、③高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘「ソーシャル・ワークを考える」、④久保紘章・副田あけみ「ソーシャルワークの実践モデル」、⑤大橋謙策「ケアとコミュニティ」、⑥小野達也「対話行為を基礎とした地域福祉の実践」、⑦真田是著作集第4巻。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 地域福祉のパラダイム【社会福祉の3元構造論、社会福祉の主体論】
 - 2回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(1)自治型地域福祉論、新しい公共、協働を考える
 - 3回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(2)住民自治、社会関係資本を考える
 - 4回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(3)地域自治を考える【自治基本条例、地域自治区制度】
 - 5回 地域福祉とまちづくり【地域の福祉力、地域力】
 - 6回 住民参加の手法【中間支援組織、プラットフォーム型活動戦略】
 - 7回 地域福祉を進める社会福祉援助技術の系譜【制度改革と社会福祉援助技術の考え方】
 - 8回 地域福祉を進める社会福祉援助技術を有効に機能させるための諸要件【地域住民の主体形成】
 - 9回 ソーシャルワークの定義と実践モデルの発展【対象認識、背景としての社会運動と実践モデルの変遷】
 - 10回 コミュニティ・ソーシャルワークの基本的視座と機能【総合的・包括的援助、ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
 - 11回 コミュニティ・ソーシャルワーカー実践事例の解説(1)【無縁社会の克服、課題抽出ネットワークの構築、住民の流儀】
 - 12回 コミュニティ・ソーシャルワーカー実践事例の解説(2)【地域包括ケアと生活支援サービスの創出、認知症ケア】
 - 13回 コミュニティ・オーガニゼーション(1)原理、原則と理論の問題点を考える
 - 14回 コミュニティ・オーガニゼーション(2)過程を考える【地域診断、地域福祉計画、実施、評価】
 - 15回 コミュニティ・オーガニゼーション(3)合意戦術と専門ワーカーの役割を考える

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

相談援助の理論と方法3 【昼】

履修上の注意 /Remarks

プリントを事前に読むこと（全体像を把握することが重要）。
講義のメモを丹念にとること。
毎回、講義の始めに前回の講義のポイントについて解説するので、重点的な学習を行うこと。
授業中の私語は禁止します。
講義の途中で構わないので、不明な点などについてはその都度質問してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の一方的押し付けに終わらないよう、講義内容に関する履修者の希望や意見をできるだけ取り入れた授業にしていきたいと、いつも考えています。どうぞ、注文をつけてください。努力します。

キーワード /Keywords

- 地域福祉理念の真髄は・・・社会運動、住民自治、地域分権、主体形成
- 援助技術の核心は・・・コミュニティ・ソーシャルワーク、ソーシャルアクション、エンパワーメント
- 地域福祉実践の重点は・・・無縁社会の克服、自然災害への備え、ネットワーク、権利擁護、地域包括ケアと生活支援
- 学習のポイントは・・・原理・原則、パラダイム、指標

福祉行財政と福祉計画【昼】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向たて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks
 広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書 2011年7月 903円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規 2009年3月 2,200円
 坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版 2009年4月 2,940円
 野口定久・外山義・武川正吾編『居住福祉学』有斐閣 2011年12月 2,500円

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 社会福祉と社会保障機能 1【社会福祉の動向】
 - 2回 社会福祉と社会保障機能 2【社会保障機能】
 - 3回 社会福祉と社会保障機能 3【参加型社会保障】
 - 4回 社会保障と税制 1【財政理論】【公共財】
 - 5回 社会保障と税制 2【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
 - 6回 社会保障と税制 3【地方自治体の財政と民生費の動向】
 - 7回 社会保障と就労形態【国の雇用政策と企業の雇用戦略】
 - 8回 福祉行財政まとめ
 - 9回 社会的セーフティネット【コミュニティというセーフティネット】
 - 10回 コミュニティ空間【つながり・ゆっくりの社会】
 - 11回 都市型コミュニティ【コミュニティとしての都市】
 - 12回 経済の地域内循環【地域の豊かさ】
 - 13回 地域における社会モデル【地域の自立・持続可能性】
 - 14回 ケア・コミュニティ【人間社会の起源】
 - 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況(小テスト・中間まとめ含む) ... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【昼】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

これまで日本の福祉サービスの提供は手厚い施設整備費補助と措置費による裁量の余地のない小さな規模の施設の運営がモデルとなっていた。しかし、特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付総額の拡大や多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者の増加等、規制改革とともに新たな福祉経営に転換すべき時代となった。福祉施設は、人生のリスクに対するセーフティーネットである。利用者の自立を運営の基礎に置き、わかりやすく丁寧で信頼が築ける施設が求められている。よって地域住民の福祉ニーズにこたえるべき経営は何かを学習する。また本科目では公的介護保険の動向や地域包括ケアシステムも視野に入れながら21世紀型の福祉経営について学ぶ。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第4版」

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。福祉サービスの変遷
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人(NPO)の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論(組織構造)
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情など対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題(レポート) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営のベースである理念・使命を理解しながら、地域に密着した自立支援の施設等とは何かを学習します。福祉ニーズをポジティブに捉えるアセスメント理論も学習しておくこと、より理解が深まります。社会保障改革の動向にも注目しておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉経営における利益とは何か、を根底に21世紀の経営論(自立支援、法令順守、人権擁護、運営持続)を学習します。経済的成長も見込まれる社会福祉を経営の立場(施設長)から論じます。

キーワード /Keywords

社会保障【昼】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス-①現代社会における社会保障制度の課題、②社会保障の概念や対象、理念についての理解、③社会保障の歴史的展開、④社会保障制度の体系、⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、⑥諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。
 国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。

教科書 /Textbooks

成清美治・真鍋顕久編著『イントロダクションシリーズ⑦ 社会保障』学文社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障の歴史的展開
- 第5回 社会保障の財源と費用
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1-年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2-雇用、社会福祉、
- 第10回 社会保障制度の体系3-生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度 【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度 【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時の課題(20点) + 期末試験(80点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現在において自分が加入している、もしくは家族が加入している社会保険(年金、医療、介護、雇用)について、ホームページや区役所の資料、入門解説書等で調べておくこと。
 社会福祉士国家試験受験資格取得のシラバスに基づいていますが、教養として受講される学生も大歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会状況が不安定になるほど、社会保障の役割は大きくなります。現代だからこそ、社会保障はどうあるべきなのか、そして社会福祉学の立場から見て社会保障の望ましい姿について、考えてみたいと思います。そのために、まずは身近な社会保険から知ってみましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、社会保障、社会政策、年金、医療、介護、雇用

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正義『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。
(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。毎回最後の10-15分は指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。
本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

- 第I部 文化の基礎としての家族
- 第2回 家族は普遍的な概念か？
 - 第3回 生殖医療の時代に至るまでの家族・親族関係の変容
 - 第4回 伝統的社会における親族関係
 - 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
 - 第6回 ジェンダーと伝統文化
 - 第7回 伝統文化について：構築主義と本質主義
 - 第8回 文化相対主義の考え方
 - 第9回 中間テスト

- 第II部 文化と世界観
- 第10回 儀礼にもとづく時間・空間認識
 - 第11回 宗教紛争と日常の中の宗教
 - 第12回 不幸への対処としての呪術
 - 第13回 中間テストの解説
 - 第14回 現代社会のなかの呪術
 - 第15回 政教分離と世俗化

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストまたはレポート 40%、期末レポート 60% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。
※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 評価方法などは第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点(人間関係)【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- E・フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の変容(1)【高度産業社会】
- 5回 生活世界の変容(2)【美とテクネー】
- 6回 生活世界の変容(3)【複製技術と政治】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界の変容(4)【全体主義と思考能力・前半】
- 9回 生活世界の変容(5)【全体主義と思考能力・後半】
- 10回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説・前半】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャ概説・後半】
- 13回 公私の区別とその起源(3)【古代ギリシャの公と私】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(1)【寛容の概念】
- 15回 宗教の私事性と公的領域(2)【衝突と共生】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1. 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2. 現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3. 卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）

- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
- 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
- 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
- 4回 児童期の心の健康を知る 【勤労性と劣等感】
- 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
- 6回 ライフスタイルの心理学【ライフスタイル】
- 7回 青年前期の心理【葛藤と感情】
- 8回 青年後期の同一性（アイデンティティ）の確立【こころの病】
- 9回 適応と社会参加の心理学【組織的メンタルヘルス】【こころの健康管理】
- 10回 こころと健康1【うつ病・神経症など】
- 11回 こころと健康2【自己受容・自己開示・あるがまま】
- 12回 成人期の心理【生きがい】【職場の人間関係】
- 13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガ -】
- 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
- 15回 まとめと今後の課題について【環境と心の健康】

メンタル・ヘルスI【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (実習) テーピングによる簡単な予防法
- 9回 運動の効果(身体的側面)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ①(ベタンク・インディアカ)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ②(風船バレー)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ③(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる(得意)、できない(不得意)などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

社会調査【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、（１）意味のある「問い」をたてること、（２）その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、（３）論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、（４）データを統計的に処理すること、（５）データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
 - 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（１）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（２）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（３）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施
- 第10回 データファイルの作成（実習）1
- 第11回 データファイルの作成（実習）2
- 第12回 分布と統計量
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末レポート... 60%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題をきちんと提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
田近英一著『地球環境46億年の大変動史』(化学同人), 1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と地球環境】
- 15回目: まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 90%, ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ, 地球史, 生命と地球の共進化

思想と現代【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

今年度は、サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に着けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、精神分析・音楽・文学・映画・倫理等のジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通してユダヤ性の広がりや豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
 - 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点(1)【概説】
- 3回 ユダヤ人の原点(2)【トーラーの宗教】
- 4回 ユダヤ人の歴史(1)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(2)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(3)【近代から現代へ】
- 7回 中間総括(確認テストの実施)
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 精神分析の思想(3)【補足回】
- 11回 音楽の思想【シェーンベルク】
- 12回 文学の思想【カフカ】
- 13回 倫理の思想【ヨナス】
- 14回 映画の思想【ハリウッドの亡命ユダヤ人・前半】
- 15回 映画の思想【ハリウッドの亡命ユダヤ人・後半】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 40% 期末テスト... 60%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ユダヤ人問題の原点ともいえるべき「ユダヤ教」について、その基本的教義や古代史の側面から一層の知識を身につけたい場合には、同じ担当者によるテーマ科目「ヨーロッパ道徳思想史」(2学期開講/2013年度以降の入学者のみ対象)の受講を推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

第7回に確認テスト(第3回~第6回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名
/Instructor

大澤 津 / 政策科学科, 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
					○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

20世紀は「民主主義の世紀」と呼ばれたように、私たちには民主主義が当たり前のルールになっているかもしれませんが。しかし、民主主義に対する評価は分かれ、人々はより良い統治のあり方をめぐって、古来より様々な思索、実験を重ねてきました。

このように、民主主義という概念はその歴史も長く、様々な概念から構成されます。そのため、本講義では民主主義を構成する思想、制度を理解するとともに、民主主義の型と作動様式を学びます。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜、紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション

第2回 古代ギリシアの民主制

第3回 近代デモクラシーの基礎① 【秩序か権利か：ホブズとロック】

第4回 近代デモクラシーの基礎② 【一般意志と同調圧力：ルソーとトクヴィル】

第5回 近代デモクラシーの基礎③ 【日本への輸入：福澤諭吉と中江兆民】

第6回 現代の民主主義理論 【討議デモクラシー】 【ラディカル・デモクラシー】

第7回 現代日本の民主主義理論① 【集合行為問題・境界線の政治学】

第8回 現代日本の民主主義理論② 【〈私〉時代のデモクラシー】

第9回 民主政治の形成と崩壊① 【自由民主主義体制】 【権威主義体制】 【全体主義体制】

第10回 民主政治の形成と崩壊② 【共存理論】 【対立理論】 【ポピュリストモデル】

第11回 民主政治の形成と崩壊③ 【調和理論】 【民主化支援】

第12回 民主主義と有権者① 【政治参加】 【エリート民主主義】 【参加民主主義】

第13回 民主主義と有権者② 【政治的有効性感覚】

第14回 民主主義と有権者③ 【シティズンシップ教育】

第15回 民主主義と議会【代表・立法・審議・行政監視機能】 【二院制】 【ねじれ国会】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 (80%)、講義への参加態度 (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

人権論【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害していることがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50%
期末テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

私語は厳禁

出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【夜】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振られるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を身につける。さまざまな現象や表象されたものを対象に分析を実践する。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2 回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3 回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4 回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5 回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6 回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7 回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8 回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9 回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10 回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11 回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12 回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13 回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14 回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ジェンダー論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身につけておく。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第4回：自閉症とは①【自閉症観の変遷】
- 第5回：自閉症とは②【自閉症】
- 第6回：医療モデル的作品DVDの視聴①【医療モデル的作品】
- 第7回：医療モデル的作品DVDの視聴②【医療モデル的作品】
- 第8回：医療モデル的作品の解説・評価【3つのモデルとの関連で】
- 第9回：文化モデル的作品DVDの視聴①【文化モデル的作品】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴②【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第12回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワンとも賞賛された。こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク＝破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年さらには20年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（lifetime commitmentの日本語訳、広義には職場共同体という意識）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波（マーケット中心主義）にさらされている。日く、ワーキングプア（働いていても生活がいよいよ苦しい）・ネットカフェ難民（帰るべく家がない）・格差から貧困（経済的格差・貧困から意欲の格差が目される）・99%対1%、そしてついにはブラック企業の台頭、等々である。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義路線。すなわち「市場＝マーケット」万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである（例えば、退場をしたサッカー選手には、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない。さらには、待ち構えている企業そのものがブラック企業でもある）。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される（社会統合機能）。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである（社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機）。

そうすると行き着くところ、社会（資本制経済あるいは資本家的生産社会）というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないかのように振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。
また、レジュメも配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書等の最新の文献、②『私たちは“99%”だ』(岩波書店、2012)』(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義の経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。ブラック企業関連の最新の文献。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバーマスとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002、その他、この論争を紹介している最近の資料を紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品に表された労働の二重性(現代社会の二重性)～「誠の恋は、何故、みのらない」?
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語 【資本主義】【市民社会】【ブルジョア社会】
- 3回 市場とは～[私達]の振る舞いである「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」
- 4回 市場とは～[資本家]の振る舞いたる「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」
- 5回 商品流通の次元と平等～何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか 【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出～本源的蓄積過程 【本源的蓄積過程】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生・英国のケース 【本源的蓄積過程】【ゼントルマン資本主義】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉 【剰余価値】【利潤】【公表利益】(【公開】【開示】)
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生そしてブラック企業 【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】【労働組合】
- 10回 ブラック企業の台頭～日本という社会そのものの脆弱性 【衰退する既存の労働組合】【台頭する新たな労働組合】
- 11回 資本主義と危機＝福祉国家(混合経済)の登場 【恐慌と危機】【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機＝赤字財政というシステム統合危機・市場回帰の新自由主義の台頭 【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食・システム統合危機から社会統合危機へ 【危機】【社会統合】
- 14回 システム統合と社会統合・マーケットとその外側(生活世界) 【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ～このかけがえのない個体としての私

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業と社会【夜】

履修上の注意 /Remarks

①、テキストを用意すること。②、レジユメだけにしがみつかない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻繁に聞きます(ホワイト企業という言葉もあります。それはともかく、白と黒という二重性にまず注目しましょう)。ブラック企業の台頭は就活にとって無視できません。私たちは、次々とした魔物(私達の社会的産物)にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも同時に、観察対象そのものであることを常に意識してもらいたい。それというのも、私達の社会的産物そのものが、私達自身に刃向かってくるのだから。

キーワード /Keywords

【商品流通】 【資本家】 【労働者】 【市民社会】 【資本制経済】 【市民法】 【本源的蓄積過程】 【剰余価値】 【賃労働関係】 【ブラック企業】
【福祉国家】 【ケインズ政策】 【新自由主義】 【システム統合】 【社会統合】 【生活世界】

現代の国際情勢【夜】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 久木 尚志 / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 堀地 明 / 中国学科
尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、複数の教員および招聘講師が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

- 第1回 山本 オリエンテーション
- 第2回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国の海洋進出、南シナ海・東シナ海、シーレーン、アジア・リバランシング戦略
- 第3回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 開発協力大綱、防衛装備移転三原則
- 第4回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(1) 概論
- 第5回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(2) ミュージカル
- 第6回 吉川 アメリカのミュージカル演劇(3) 演劇
- 第7回 三浦 国境を越える放送文化
- 第8回 下野 中国と民主化
- 第9回 白石 中国の持続的発展の可能性：経済成長・SNA・投資
- 第10回 久木 2010年代のイギリス(1) 2010年総選挙
- 第11回 久木 2010年代のイギリス(2) 2015年総選挙
- 第12回 堀地 北京探索 - 悠久の歴史と再開発の現在 -
- 第13回 尹 東アジアの経済事情(1) 東アジアとは何か、日本との経済関係
- 第14回 尹 東アジアの経済事情(2) 東アジアの地域統合、九州との経済交流
- 第15回 山本 ヨーロッパの多国間主義と国際情勢

都合により、講義の順番を変えることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(8回) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類 (Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界(改訂版)』(三修社・2007)○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る 【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 紛争を知る 【難民】【発生日】【受入国】
- 第5回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第6回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第7回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第8回 国連による平和の創出③：司法的解決 【国際司法裁判所 (ICJ)】【法の支配】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動 (PKO) の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動 (PKO) の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(協治)」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて探ります。

以上の概要を通して、開発されている社会の中でのガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度必要資料の配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「開発と統治」をはじめるとあたって		担当：三宅
第2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回 理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回 理論と現実～開発の陰でのガバナンスの変化		担当：伊野
第6回 韓国セウォル号沈没事件に見るガバナンス		担当：ソンミンホ・三宅
第7回 セウォル号沈没事件を引き起こさないために～危機管理の在り方		担当：ソンミンホ・三宅
第8回 韓国版水俣病の発現～その歴史と事実		担当：ソンミンホ・三宅
第9回 水俣病を繰り返さないための対策～ガバナンスとの関連で		担当：ソンミンホ・三宅
第10回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第11回 米国におけるガバナンスと環境	【米国】	担当：申
第12回 エネルギー問題にみるガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第13回 日本の食品ロス削減運動に見るガバナンスのあり方	【食品ロス削減運動】	担当：三宅
第14回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第15回 まとめ～ガバナンスについてのグループ・ワーク	【グループワーク】	担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから世界や日本の地域社会の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 米国 子ども会 食品ロス削減運動 グループワーク

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名
/Instructor

山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
					○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。

なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

二人の教員が、イギリス・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。

まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

次に山崎は、スコットランドを紹介したのち、日本の近代化に貢献したスコットランド人のトーマス・グラバーと雇われ外国人の果たした役割について述べる。次にスコットランドが生んだ偉大な経済学者であるアダム・スミスの『国富論』について述べる。市場原理と自由競争を唱えたアダム・スミスの考えはグローバル化時代の今日でも十分有効であると考えられるからである。

第2に私が二年間在籍したことのあるケンブリッジ大学を案内する。その後「ケインズ革命」で有名なメーヤード・ケインズその人物と理論を紹介する。世界恐慌に苦しんだ世界経済を救済するために考え出したケインズ政策について解説し、安倍首相までもがアベノミクスで活用している実態を明らかにする。

第3にロンドンの大英博物館を紹介した後、『資本論』を大英博物館で書き上げカール・マルクスを紹介する。グローバル化の結果世界中で格差問題が起こっているが、140年前にすでに資本主義の発達と窮乏化に取り組んだマルクスの眼には狂いがなかったと言えよう。今日の資本主義のアキレス腱をマルクス理論で解明する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)
口述講義(山崎)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書

新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)

○藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)

○中村彰彦『保科正之』(中公新書)

山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』(ミネルヴァ書房、2008年)

人物と時代の歴史【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本,イギリスの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。

(新村)

- 第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
- 第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と 儒教的経営
- 第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り越えたり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
- 第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】(1)
- 第5回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】(2)
- 第6回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】(1)
- 第7回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】(2)

(山崎)

- 第8回 イギリスとはどんな国か
- 第9回 薩長の討幕運動を後ろから支援したトーマス・グラバー
- 第10回 明治維新後のトーマスグラバーと岩崎弥太郎
- 第11回 なぜスコットランド民謡が「蛍の光」になったのか一雇われ外国人たちを中心に
- 第12回 経済学の父、アダム・スミス『国富論』とはどんな本か
- 第13回 ケンブリッジ大学とメーヤードケインズの『一般理論』
- 第14回 大英博物館とカール・マルクスの『資本論』
- 第15回 まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明-

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ

データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 1学期未修得者再履・夜間主コース

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2013/2010対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

ビジネス英語I (群 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

This course will introduce Business English by looking at some famous companies and influential people. Students will practice reading, listening, speaking and critical thinking.

教科書 /Textbooks

Andrew Bennett, Business Sense, Nan'un-Do

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回International Deliveries
- 2 回Internet Search and Business
- 3 回Emotional Intelligence
- 4 回Research and Development
- 5 回Management Experts
- 6 回Famous Old Companies
- 7 回Sports and Business
- 8 回Women in Business
- 9 回Fighting Poverty in Africa
- 1 0 回Creative Vision
- 1 1 回Rising India
- 1 2 回Big Banks, Big Problems
- 1 3 回The Super Rich
- 1 4 回Comics
- 1 5 回The Business of Food

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 学期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

business; innovation; leadership

ビジネス英語II (群 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 群 1 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

Students will practice listening and communication skills of use in a business environment. Students will be expected to participate in all class activities, complete all homework assignments, and actively engage with their peers in a collegial learning environment. Students will also be expected to demonstrate fundamental critical thinking skills in classroom discussions.

教科書 /Textbooks

Get Ready for International Business 1, Andrew Vaughan / Dorothy E. Zemach, Macmillan Education

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introducing yourself
- Week 2 Describing routines / schedules
- Week 3 Giving and receiving information
- Week 4 Making suggestions
- Week 5 Telephone language
- Week 6 Describing and comparing
- Week 7 Making an appointment
- Week 8 Getting directions
- Week 9 Describing a process
- Week 10 Sequencing
- Week 11 Checking an confirming information
- Week 12 Talking about data
- Week 13 Talking about graphs
- Week 14 Conducting a survey
- Week 15 Preparing for a presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Further instructions will be given in class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域学入門【夜】

担当者名 真鍋和博 他/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 地域創生学群専任教員が、それぞれの専門分野から見た地域課題等について講義を行います。「地域」という概念の捉え方、地域に存在する様々な課題等について学び、実習や演習等での活動にもつなげていきます。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定はしませんが、各自必要な書籍を読んで授業の参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第01回地域創生学群とは(目的、設立経緯、学部の仕組み等々)
 第02回社会人としてのマナー
 第03回図書館の利用方法
 第04回各教員の専門分野に関するもの
 第05回各教員の専門分野に関するもの
 第06回各教員の専門分野に関するもの
 第07回各教員の専門分野に関するもの
 第08回各教員の専門分野に関するもの
 第09回各教員の専門分野に関するもの
 第10回各教員の専門分野に関するもの
 第11回会議の行い方
 第12回各教員の専門分野に関するもの
 第13回各教員の専門分野に関するもの
 第14回各教員の専門分野に関するもの
 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業中の課題に対する成果・・・50%
 出席等の授業への取り組み姿勢・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 各自適宜準備をおこなってください。
 なお、状況により授業予定を変更することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニティ論【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

コミュニティとは、今日では単に特定の場所や集団と同一視することができず、一つの理念で説明もできない用語といえる。社会学的視点による伝統的なコミュニティ(血縁・地縁に基づく近隣集団、小規模な町、空間的に限定される地域社会や職業に基づく特定の小規模集団を基礎にした社会組織)以外にも、文化的に規定される集団やイデオロギーの視点からのコミュニティ論も存在する。また、社会・文化・政治・テクノロジー等や、ポストモダン、グローバリゼーション、インターネット等の社会情勢の変化も加味する社会理論的立場もありうる。そのため伝統的コミュニティ及び、今日的解釈を通じたコミュニティでの人間関係を理解することをねらいとする。一方で、学生はコミュニティの曖昧さと今日の社会関係の多様性と匿名性を理解することができる。

教科書 /Textbooks

資料配布による

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに：社会、地域社会、コミュニティについて
- 第2回 伝統的コミュニティの概念
- 第3回 コミュニティの概念の多様性
- 第4回 今日のコミュニティの基本的な捉え方
- 第5回 地域社会の変化と今日の地域生活①社会環境的研究と精神的健康
- 第6回 地域社会の変化と今日の地域生活②地域における人間関係
- 第7回 社会関係資本としてのコミュニティ
- 第8回 コミュニティ調査研究①【地域活動】
- 第9回 コミュニティ調査研究②【地域の互酬性】
- 第10回 調査結果に見る地域における関係性の多様化
- 第11回 関係性の変化と地域における教育
- 第12回 孤独とつながり【ネットワークコミュニティ、バーチャル・コミュニティ】
- 第13回 文化的・イデオロギーの視点からのコミュニティ
- 第14回 コミュニティ再生への希求と郷愁
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加(課題・レポート提出等) 50% 試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北九州社会論 【夜】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
この講義は、北九州地域の社会状況について幅広く学び地域理解を深めるとともに、地域が抱えるさまざまな問題点について、発生の背景や取り組みについて共に考えていきます。
具体的には、北九州市の生い立ち、都市環境や産業の姿、行政施策の今と昔について学び、また市民生活に関する諸調査やまちづくり事例研究などについても紹介、解説します。

教科書 /Textbooks
特に指定しません。必要に応じて、授業の中で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
必要に応じて参考文献を紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 はじめに 都市とはなにか、そして北九州市の紹介
 - 2回 北九州市の生い立ち 【時代の節目に登場する北九州】 【市勢要覧】
 - 3回 北九州市の地域政策の歴史① 【マスタープラン】
 - 4回 北九州市の地域政策の歴史② 【ルネッサンス構想】 【「元気発信！北九州」プラン】
 - 5回 統計でみる産業構造と北九州 【事業所統計】
 - 6回 統計でみる北九州社会の姿 【社会生活指標】
 - 7回 北九州の産業と人物、今と昔① 【北九州の4k】
 - 8回 北九州の産業と人物、今と昔② 【北九州の企業家たち】
 - 9回 北九州の産業、今日と明日 【北九州発のイノベーション】
 - 10回 北九州市（行政）のまちづくり事例
 - 11回 北九州市の市民力
 - 12回 北九州市の住みよさ評価① 【相対性、フルセット都市】
 - 13回 北九州市の住みよさ評価② 【比較の意義、ソーシャル・キャピタル】
 - 14回 北九州市政と市民意識の動向
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
日常の授業への取り組み... 30% 期末レポート(ミニレポート含む)ト... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
主として、「北九州を知らない、だから詳しく知りたい」学生を対象としています。日頃から北九州情報に注目しておいてください。それが皆さん自身の予習となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア形成論【夜】

担当者名 眞鍋和博/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

現代の社会で仕事をするということは、単にマニュアル化されたタスクをこなすのではなく、課題を発見し解決していくような仕事求められています。その手順は以下になります。

- ①様々な利害が複雑に絡み合う中で、課題や問題点を正確に把握する。
- ②その課題や問題点を引き起こしている原因を突き止める。
- ③その原因を取り除くために最適な解決策を考える。
- ④解決策を実践する。
- ⑤実践した解決策が効果があったかどうかを振り返り、評価する。

このようなプロセスを踏まない、単なる「思いつき」では課題や問題点が解決されないことが多いです。この授業では、課題や問題点を正確に把握するための思考法や、解決策を導き出すための手法について学びます。

学生の皆さんの中には、何かのイベントを企画したり、多くの人と協働することも多いと思います。また、社会人学生の皆さんは、普段の仕事で課題や問題点を抱えていらっしゃると思います。そのような皆さんに、即実践できるようなスキルを身につけていただきたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ロジカルシンキングのノウハウ・ドウハウ』野口吉昭編 PHP 研究所
- 『知的複眼思考法』荻谷剛彦著 講談社文庫
- 『MBAクリティカルシンキング』GMI 著 ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 ロジカルシンキング(1)【論理的思考とは】
- 3回 ロジカルシンキング(2)【演繹法】
- 4回 ロジカルシンキング(3)【帰納法】
- 5回 フレームワークシンキング(1)【フレームワーク】
- 6回 フレームワークシンキング(2)【ロジックツリー】
- 7回 フレームワークシンキング(3)【マトリックス】
- 8回 フレームワークシンキング(4)【フレームワークシンキング演習】
- 9回 クリティカルシンキング(1)【批判的思考とは】
- 10回 クリティカルシンキング(2)【複眼的にみる】
- 11回 クリティカルシンキング(3)【データの見方】
- 12回 クリティカルシンキング(4)【クリティカルシンキング演習】
- 13回 ディスカッションの方法(1)【ブレーンストーミング】
- 14回 ディスカッションの方法(2)【KJ法・ブレインライティング】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業の成果物...20% レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

解決策が分からない、どのように課題や問題点を考えていいか分からない、などの自分自身問題を想定して授業に参加してください。グループワークを随所に交えながら進めていきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業で活用したことは、実習や実際の仕事で使ってみることをお勧めします。そうすることで、知識やノウハウが自分のものになります。

キャリア形成論【夜】

キーワード /Keywords

ロジカルシンキング、演繹法、帰納法、フレームワークシンキング、ロジックツリー、マトリックス、クリティカルシンキング、ブレインストーミング、KJ法、ブレインライティング

相談援助演習 2 【夜】

担当者名 深谷裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行います。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点
 - 2回 「クライアント理解（アセスメント）」その1（アウトリーチを含む）
 - 3回 「クライアント理解（アセスメント）」その2 医学モデルとストレングス視点
 - 4回 「クライアント理解（アセスメント）」その3 エコロジカル視点
 - 5回 「プランニング」その1 プランの作成（チームアプローチ、社会資源の活用）
 - 6回 「プランニング」その2 プランのねらいと効果予測の明確化
 - 7回 「インターベンション（介入）」その1 クライアントへの働きかけ（ネットワーキング）
 - 8回 「インターベンション（介入）」その2 クライアントの環境への働きかけ
 - 9回 「インターベンション（介入）」SSTを学ぶ
 - 10回 「モニタリング」その1
 - 11回 「モニタリング」その2
 - 12回 「効果測定」その1
 - 13回 「効果測定」その2
 - 14回 支援の終結
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 3 【夜】

担当者名 深谷裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行います。とくにグループワークとコミュニティ・ワークについて中心に学びます。
 なお、ゼミ合宿を通して、特定課題についての理解を深めます。

教科書 /Textbooks
 とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
 - 2回 グループワーク① - 準備期
 - 3回 グループワーク② - 開始期
 - 4回 グループワーク③ - 作業期
 - 5回 グループワーク④ - 終結期
 - 6回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（地域の問題に気づく）
 - 7回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（地域調査・分析①）
 - 8回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（地域調査・分析②）
 - 9回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（地域福祉の計画と実施）
 - 10回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（ネットワーキング）
 - 11回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（社会資源の調整と開発）
 - 12回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（活動の評価）
 - 13回 実践事例検討①
 - 14回 実践事例検討②
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 4 【夜】

担当者名 深谷裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

実習中の個別的な体験を一般化し、相談援助に係る実践的な知識と技術として習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション；授業の進め方および注意点の説明
- 2～14回 事例検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

実習中に自分がかかわった事例や取り組みについて、ディスカッションの中で発言できるよう、各自振り返り作業をきちんと行っただけのこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 5 【夜】

担当者名 深谷裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 社会福祉関連テーマについて個別的に深めるとともに学びを共有し、相談援助に係る実践的な知識や技術として理解を深めることがねらいです。また、専門的援助技術として 概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 オリエンテーション：授業の進め方の説明、注意点
 2 - 14回 課題発表（高齢者、児童、障害児者、ホームレス、社会的排除、コミュニティワーク、貧困、施設福祉、少年非行など）
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度・・・ 50%
 積極的な演習への参加・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 発表担当者は、レジュメを作成すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助実習指導 1 【夜】

担当者名 坂本毅啓/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育カリキュラムによって、内容が構成される科目である。したがって、以下の3点をねらいとする。
 ①相談援助実習の意義について理解する。
 ②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。
 ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.相談援助実習の意義
- 2.相談援助実習先の理解① 【相談援助実習が可能な機関施設の紹介・説明】
- 3.相談援助実習先の理解② 【高齢者保健福祉分野①】
- 4.相談援助実習先の理解③ 【高齢者保健福祉分野②】
- 5.相談援助実習先の理解④ 【障害福祉分野】
- 6.相談援助実習先の理解⑤ 【福祉事務所・社会福祉協議会等】
- 7.相談援助実習先の理解⑥ 【独立型社会福祉士事務所・医療機関】
- 8.相談援助実習先の決定① 【希望聴取と実習配属】
- 9.相談援助実習先の決定② 【希望聴取と実習配属】
- 10.相談援助実習先の決定③ 【希望聴取と実習配属】
- 11.相談援助実習先の決定④ 【契約書・個人調書(履歴書)等書類の作成】
- 12.相談援助実習先の理解⑦ 【配属先実習分野・機関施設の利用者理解】
- 13.相談援助実習先の理解⑧ 【配属先の根拠・関連法令、運営・経営に関する理解】
- 14.相談援助実習先の理解⑨ 【配属先実習機関施設のある地域に関する理解】
- 15.相談援助実習先の理解⑩ 【配属先実習分野・機関施設の業務理解】
- 16.相談援助実習に向けて 【実習に向けての不安・課題についての話し合い、自己学習計画】
- 17.相談援助実習先の理解⑪ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解①】
- 18.相談援助実習先の理解⑫ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解②】
- 19.相談援助実習先の理解⑬ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解③】
- 20.実習計画の作成① 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 21.実習計画の作成② 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 22.実習計画の作成③ 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 23.実習先事前訪問① 【事前訪問の目的、方法、内容等についての説明】
- 24.実習先事前訪問② 【事前訪問の内容確認】
- 25.実習記録ノートの理解① 【ノートの意義、書き方、取り扱い等に関する説明】
- 26.実習記録ノートの理解② 【ノートの書き方演習】
- 27.巡回指導の理解 【巡回指導の目的と内容・担当教員面接】
- 28.倫理・守秘義務等の理解 【倫理綱領・義務規定・個人情報保護法】
- 29.相談援助実習に向けて最終確認 【事故/緊急時対応など】
- 30.実習知識・能力評価 【学習した内容に関する評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題・・・50%、期末レポート・・・50%
 なお、なお、本科目は「相談援助実習」及び「相談援助実習指導2」との連携科目であり、いずれかのみでの単位認定は行わない。そのため、本科目の評価が合格点に達していても、連携科目のいずれかが1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。詳細については講義時に説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

相談援助実習指導 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のための重要な科目です。あらかじめ、「現代社会と福祉」、「相談援助の基盤と専門職」については必ず履修済みであること。それ以外にも、希望する実習分野に関する科目（高齢者保健福祉分野であれば「高齢者に対する支援と介護保険制度」）を履修しておくこと。

本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。

- ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
- ②同年度に「相談援助実習」及び「相談援助実習指導2」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現場実習に向けた準備科目です。実習で困らないように、しっかりとサポートしていきます。一緒にがんばって行きましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助

相談援助実習指導 2 【夜】

担当者名 坂本毅啓/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育カリキュラムによって、内容が構成される科目である。したがって、以下の2点をねらいとする。
 ①社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
 ②具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.相談援助実習を終えて
- 2.相談援助実習の振り返り① 【グループワーク、個別面談】
- 3.相談援助実習の振り返り② 【 " " 】
- 4.相談援助実習の振り返り③ 【 " " 】
- 5.相談援助実習の振り返り④ 【 " " 】
- 6.相談援助実習の振り返り⑤ 【 " " 】
- 7.相談援助実習の振り返り⑥ 【実習報告会に向けての準備、実習総括レポートの作成】
- 8.相談援助実習の振り返り⑦ 【 " " 】
- 9.相談援助実習の振り返り⑧ 【 " " 】
- 10.相談援助実習の振り返り⑨ 【 " " 】
- 11.相談援助実習の振り返り⑩ 【 " " 】
- 12.相談援助実習の振り返り⑪ 【 " " 】
- 13.相談援助実習の振り返り⑫ 【 " " 】
- 14.相談援助実習の振り返り⑬ 【 " " 】
- 15.実習報告会の開催 【実習報告、全体総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題・・・50%、期末レポート・・・50%
 なお、なお、本科目は「相談援助実習」及び「相談援助実習指導 1」との連携科目であり、いずれかのみでの単位認定は行わない。そのため、本科目の評価が合格点に達していても、連携科目のいずれか1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。詳細については講義時に説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のための重要な科目です。あらかじめ、「現代社会と福祉」、「相談援助の基盤と専門職」については必ず履修済みであること。それ以外にも、希望する実習分野に関する科目（例えば高齢者保健福祉分野を希望する場合は「高齢者に対する支援と介護保険制度」）を履修しておくこと。
 本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。
 ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
 ②同年度に「相談援助実習」及び「相談援助実習指導 1」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現場実習を終えて、学んだことをふりかえる仕上げの科目です。実習で学んだことを磨き、自分の宝物にしてください。一緒にがんばって行きましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助

地域創生演習 A 【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

これまで地域福祉のコースでは、地域における様々な問題に対して関心を払い、個人がより健康で幸福に生きていけるような「福祉の価値」の実現に貢献できる人材の養成を目指してきた。地域創生演習 A においては、このための実践的理論をさらに補強、会得することをねらいとする。具体的には「共同体」（アドラー心理学）という心理学的概念について学ぶ。

教科書 /Textbooks

「アドラー心理学トーキングセミナー 第二部 共同体」野田俊作著，アニマ21

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

地域創生演習 A 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(分担当めetc.)
- 2回 ウォーミングアップ(自己課題の開示。メンバーそれぞれの関心事を知る。)
- 3回 共同体について(学ぶ意義の理解と共有。)
- 4回 担当個所発表と討議①(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 5回 担当個所発表と討議②(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 6回 担当個所発表と討議③(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 7回 担当個所発表と討議④(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 8回 担当個所発表と討議⑤(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 9回 担当個所発表と討議⑥(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 10回 担当個所発表と討議⑦(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 11回 担当個所発表と討議⑧(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 12回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 13回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 14回 演習Bに向けての議論と展望を得る
- 15回 まとめ

上記に示すように担当個所発表と討議が重要である。テキストだけにとどまらず、関連した文献や自己の体験を踏まえて議論に参加してもらいたい。広くそして興味のあるところは深く掘り下げて自己の学び方の基礎を構築してもらいたいと思う。

3年次以降に地域創生実習IIを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に実習に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に卒業研究を目指しての個別の学習テーマが与えられることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A (夜間特別枠) 【夜】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

結局のところ、マネジメントとは、人間の「選択と意思決定」の方法論ともいえる。
このゼミでは、行動経済学の知見を拠り所としてさまざまな人間行動について考察する。
次年度の卒論作成に向けた実践的な学習を展開することとなる。
テキストの輪読、パワーポイントによる輪番制の発表を特に充実させていく。

教科書 /Textbooks

経済は感情で動く
図解雑学 行動経済学
ファスト&スロー(上・下巻)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

行動経済学の教室
行動経済学～経済は「感情」で動いている～

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) イントロダクション
- (2) から (14) は、輪読と討議を全員参加で行う。ゼミ生が率先垂範して運営するゼミ方式。
- (15) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

理解度を確認するレポート・・・ 50%

日常の授業への取り組み・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席重視です。
しっかり予習しましょう。

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【夜】

担当者名 片岡寛之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この演習の基本的なテーマは、「地域の特色や課題を整理してみる」「様々な要素間の因果関係について考える」ことです。4年次の卒業論文もしくは卒業実践報告に向けた第一歩として、様々な統計データを収集したり、フィールドワークによる調査結果をまとめたりするなど、地域について様々な側面からアプローチして、地域の課題や特色について、各自が主体的に考えることがこの演習の目的です。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2回 テーマの設定【問題意識の明確化】
- 3～4回 実習活動に関する報告【振り返り】
- 5～8回 各自が設定したテーマに関する報告1【調査分析】【発表】
- 9回 特別講師【ディスカッション】
- 10～14回 各自が設定したテーマに関する報告2【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

2年次までの演習や実習の内容を振り返った上で、4年次の卒業論文もしくは卒業実践報告において、どんなことをテーマとして取り組んでいきたいか、各自が事前にしっかりと考えておいて下さい。(その内容について、第2回のテーマ設定で発表してもらいます。)
正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【夜】

担当者名 /Instructor 西田心平/地域創生学群

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

北九州市の課題の発見をテーマに学生中心の議論（グループワーク）を発展させていく。各自の問題意識を深めながら、応用的な文献・資料調べの力を身につける。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要な資料は配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション
 2回～14回 発表とディスカッション
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の達成度や協力する姿勢 50%
 積極的な参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【夜】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

テキスト（教科書）の輪読を行う。
また、「文章修業」を行う。
文章修業とは、各自、卒業論文の執筆に向けて、テーマ設定をした後、そのテーマに沿った学術書1冊を自ら探してきて読み、解説・論評することを言う。文書作成能力の向上とより質の高い論文の作成に必要な構成力を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

藻谷 浩介・NHK広島取材班（2013）『里山資本主義 日本経済は「安心の原理」で動く』角川書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：テキストの輪読①
- 第3回：テキストの輪読②
- 第4回：文章修業①
- 第5回：テキストの輪読③
- 第6回：テキストの輪読④
- 第7回：文章修業②
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：文章修業③
- 第11回：テキストの輪読⑦
- 第12回：テキストの輪読⑧
- 第13回：文章修業④
- 第14回：テキストの輪読⑨
- 第15回：テキストの輪読⑩

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的参加・報告資料の丹念さ）：50%
文章修業の出来：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業時間外に課外授業を課すこともあるため注意願いたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

心理・メンタルヘルスに関する理論の一つをより深めて学ぶ。地域において個人がより健康で幸福に生きていけるような「福祉の価値」の実現に貢献するには自分もとより他者を支援して地域のメンタルをより健康にする方法と内容について学ばねばならない。地域創生演習Bにおいては、このための実践的理論の一つを会得することをねらいとする。具体的には森田療法をより深く学ぶ。同時に地域で活動する自助グループのゲストを適宜招き学習を深めたい。

教科書 /Textbooks

「森田療法入門」田代信維著 創元社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「神経質の本態と療法」森田正馬著 白掲社

地域創生演習B 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(分担当めetc.)
- 2回 ウォーミングアップ(メンタル面での自己課題の開示。メンバーそれぞれの課題を知る。)
- 3回 森田療法について(学ぶ意義の理解と共有。)
- 4回 担当個所発表と討議①(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 5回 担当個所発表と討議②(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 6回 担当個所発表と討議③(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 7回 担当個所発表と討議④(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 8回 担当個所発表と討議⑤(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 9回 担当個所発表と討議⑥(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 10回 担当個所発表と討議⑦(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 11回 担当個所発表と討議⑧(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 12回 「生活の発表会」(森田理論の自助学習グループ)の方を招いて議論する。
- 13回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 14回 演習Bに向けての議論と展望を得る
- 15回 まとめ

上記に示すように担当個所発表と討議が重要である。テキストだけにとどまらず、関連した文献や自己の体験を踏まえて議論に参加してもらいたい。広くそして興味のあるところはさらに深く掘り下げてもらいたいと思う。

3年次以降に地域創生実習IIを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に実習に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に卒業研究を目指しての個別の学習テーマが与えられることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
- 積極的な演習への参加(実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前の予習を行うこと。必ず当日の予定学習箇所は一読して自分の疑問点や課題を把握しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 B (夜間特別枠) 【夜】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

マネジメントとは、人間の「選択と意思決定」の方法論ともいえる。
このゼミでは、行動経済学の知見を拠り所としてさまざまな人間行動について考察する。
次年度の卒論作成に向けた実践的な学習を展開する。

2学期は、1学期の地域創生演習Aの内容を継続的に学習する。1学期に比べ、より実践的な行動経済学の習得に臨む。
テキストの輪読、パワーポイントによる輪番制での発表は、前期同様にスタイルは変えないが一層、深化・充実させる。

教科書 /Textbooks

図解雑学 行動経済学
ファスト&スロー(上・下巻)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

行動経済学の教室
行動経済学～経済は「感情」で動いている～

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) インTRODクシヨN
- (2) から (1 4) は輪読と討議を全員参加で行う。ゼミ生が率先垂範して運営する。
- (1 5) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

理解度確認レポート・・・ 50%

日常の授業への取り組み・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【夜】

担当者名 片岡寛之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
この演習の基本的なテーマは、「地域の特色や課題を整理してみる」「様々な要素間の因果関係について考える」ことです。4年次の卒業論文もしくは卒業実践報告に向けて、自分なりの地域に対する問題意識をもとに、関連する様々な要素について調べることでその要因を探るとともに、その解決方法について各自が考えることがこの演習の目的です。

教科書 /Textbooks
特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～4回 実習活動に関する報告【振り返り】
- 5～8回 各自が設定したテーマに関する報告1【調査分析】【発表】
- 9回 特別講師【ディスカッション】
- 10～14回 各自が設定したテーマに関する報告2【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【夜】

担当者名 西田心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
北九州の課題とその取り組みの研究をとおして各自の研究テーマを発見（仮論題を設定）していく。応用的な資料・文献調べの力やフィールドワークの力を高めていく。

教科書 /Textbooks
特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜必要な資料は配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 オリエンテーション
2回～14回 発表とディスカッション
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中の達成度や協力する姿勢 50%
積極的な参加 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【夜】

担当者名 廣川祐司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この演習は、「地域創生演習A」の文章修業において各自の設定した課題やテーマに対し、より深めて学習することを目的とする。受講生が設定した課題に対し、その克服方法を模索する際、最も有用な分析手法（経済学・社会学・法学・政治学・倫理学・民俗学等）は何かを発見し、資料を集め自主的に学習できるようになることを目指す。これは地域創成学群が非常に学際的な分野であるために必要な作業である。

この作業は卒業論文執筆を見据えた、論文執筆のための知識とスキルの向上を目的としている。

教科書 /Textbooks

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の設定する課題を鑑み、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回～第14回：各自の設定したテーマに基づいた報告と議論
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への貢献度（積極的発言・報告準備の丹念さ）：50%
- 演習中に取り組む課題の達成度：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

問題意識を持って演習に参加することが必要となる。環境問題、コミュニティ問題など現代社会が抱える様々な問題に対して情報収集を積極的に行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各自設定したテーマについて、文献研究だけでなく、実際にまちや地域社会に出ていき知識や情報を収集することが望ましい。

キーワード /Keywords

地域創生演習C【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

4年次においては、卒業研究論文及び実践報告書の作成を視野に入れた学習が期待される。これまで心理・メンタルヘルスに関する理論の一つである「森田理論」を基礎から応用までを学んできたが、これが実践できる、あるいは人に説明、講義できる段階までには当然至っていない。演習Cにおいては、これらの力を学ぶために努力したい。

教科書 /Textbooks

「森田療法のすべてがわかる本」北西憲二監修，講談社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「我執の病理」北西憲二著，白揚社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(分担当めetc.)
 - 2回 ウォーミングアップ(メンタル面での自己課題の開示。メンバーそれぞれの課題を知る。)
 - 3回 メンタル講師としての自覚と役割について(学ぶ意義の理解と共有。)
 - 4回 担当個所発表と討議①(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 5回 担当個所発表と討議②(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 6回 担当個所発表と討議③(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 7回 担当個所発表と討議④(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 8回 担当個所発表と討議⑤(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 9回 担当個所発表と討議⑥(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 10回 担当個所発表と討議⑦(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 11回 担当個所発表と討議⑧(自分の担当個所を発表する。議論する)
 - 12回 全体討議を通して考えたこと，気づいたことについて議論する。
 - 13回 全体討議を通して考えたこと，気づいたことについて議論する。
 - 14回 演習Dに向けての議論と展望を得る
 - 15回 まとめ
- 上記に示すように担当個所をみんなの前で講義する力をつけることが求められる。テキストだけにとどまらず、関連した文献や自己の体験を踏まえてプレゼン・講義を進めてもらいたい。将来、自分が講師をする際の模擬講義のつもりで行ってもらいたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地域創生演習C【夜】

履修上の注意 /Remarks

学習箇所を自分で講義できるために、板書計画（パワーポイントに頼らずに板書の基礎から学ぶ）等を考えて授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【夜】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 地域創生演習A・Bの進捗をふまえ、引き続き、受講生の決めた主体的なテーマに関し、その調査および研究成果を皆で議論する。いよいよ最終年次となるため、卒論等へ受け、より具体的な成果をあげることを目指す。
 ゼミ生の一層真摯な取り組みを期待する。

教科書 /Textbooks
 適宜紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介し、補足資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 地域創生演習A・Bの振り返り
 2回～14回 論文等テーマの設定と逐次報告 【行動経済学】 【まちづくり調査】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 受講生の自主的・積極的な運営を期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【夜】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 この演習の基本的なテーマは、「都市に関する様々な事象を観察し、そこから法則性を見いだす」ことです。卒業論文として、地域の課題解決に向けた仮説を立てた上で、どのようにして仮説を立証するかを検討し、そのために必要な情報を収集・整理・分析することがこの演習の目的です。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2回 これまでの演習の振り返り【振り返り】
- 3～4回 取り組んだプロジェクトに関する報告【振り返り】
- 5～14回 各自が設定したテーマに関する報告1【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習C 【夜】

担当者名 西田心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

地域創生演習A・Bの進捗をふまえ、引き続き、受講生の決めた主体的なテーマに関し、その調査および研究成果を皆で議論する。いよいよ最終年次となるため、卒論等へ受け、より具体的な成果をあげることを目指す。
ゼミ生の一層真摯な取り組みを期待する。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介し、補足資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 地域創生演習A・Bの振り返り
2回～14回 論文等テーマの設定と逐次報告
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の自主的・積極的な運営を期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

4年次においては、卒業研究論文及び実践報告書の作成を視野に入れた学習が期待される。これまで心理・メンタルヘルスに関する理論あるいは、実習で得た体験、また社会人学生は、日々の社会体験の中での体験を新しい知識で統合して獲得した知恵、それらを互いに交換し深めるのが大事である。演習Dにおいては、これらの力を学ぶために努力したい。

教科書 /Textbooks

別に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

これまで演習で使用したテキスト類また紹介した図書を参考にする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ウォーミングアップ(自己の卒業までの解決課題や抱える問題の開示。メンバーそれぞれの課題を知る。)
- 3回 討議して深める、互いに学ぶ意義の理解と共有。
- 4回 課題発表と討議①(自分の課題を発表する。議論する)
- 5回 課題発表と討議②(自分の課題を発表する。議論する)
- 6回 課題発表と討議③(自分の課題を発表する。議論する)
- 7回 課題発表と討議④(自分の課題を発表する。議論する)
- 8回 課題発表と討議⑤(自分の課題を発表する。議論する)
- 9回 課題発表と討議⑥(自分の課題を発表する。議論する)
- 10回 課題発表と討議⑦(自分の課題を発表する。議論する)
- 11回 課題発表と討議⑧(自分の課題を発表する。議論する)
- 12回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 13回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 14回 学習後に向けての議論と展望を得る
- 15回 まとめ

上記に示すように自己の課題をみんなの前で表現しそれを皆の力で解決に導く力をつけることが求められる。問題に関連した文献や自己の体験を踏まえ整理して授業に臨んでもらいたい。

地域創生演習D 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自分の課題をきちんと他人に説明するための資料収集や言葉の力を得る普段の努力が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【夜】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
引き続き、受講生の決めた具体的なテーマに関し、その調査研究成果を皆で議論する。いよいよ最終年次となるため、卒論等へ受け、より具体的な成果をあげることを目指す。真摯な取り組みを期待する。

教科書 /Textbooks
適宜紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜紹介し、補足資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 これまでの総括と振り返り
2回～14回 各自の論文等の題目設定と作成指導 【行動経済学】 【まちづくり調査】
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
受講生の自主的・積極的な運営を期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【夜】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 この演習の基本的なテーマは、「都市に関する様々な事象を観察し、そこから法則性を見いだす」ことです。卒業論文として、地域の課題解決に向けた仮説を立てた上で、どのようにして仮説を立証するかを検討し、そのために必要な情報を収集・整理・分析することがこの演習の目的です。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2回 これまでの演習の振り返り【振り返り】
- 3～4回 取り組んだプロジェクトに関する報告【振り返り】
- 5～14回 各自が設定したテーマに関する報告2【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【夜】

担当者名 西田心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
引き続き、受講生の決めた具体的なテーマに関し、その調査研究成果を皆で議論する。いよいよ最終年次となるため、卒論等へ受け、より具体的な成果をあげることを目指す。真摯な取り組みを期待する。

教科書 /Textbooks
適宜紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜紹介し、補足資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 これまでの総括と振り返り
2回～14回 各自の論文等の題目設定と作成指導
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
受講生の自主的・積極的な運営を期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習D 【夜】

担当者名 深谷裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 社会福祉関連テーマについて個別的に深めた学びを、発表およびディスカッションを通して、卒業論文・卒業実践報告としてまとめていきます。社会福祉の専門性を深めるとともに、関連領域についての幅広い知識や技術を理解していくことがねらいです。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 オリエンテーション：授業の進め方の説明、注意点
 2 - 14回 卒業論文・卒業実践報告についての発表およびディスカッション
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
 積極的な演習への参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 発表担当者は必ずレジユメを作成してくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(ベ ア) 授業形態 演習 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告 1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告 2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告 3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告 4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告 5回目
- 第29回：最終報告会
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行つてのぞむこと。
 随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文・卒業実践報告【夜】

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者名 神山和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

各自設定のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告 1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告 2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告 3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告 4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告 5回目
- 第29回：最終決定
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとりアドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告 1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告 2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告 3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告 4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告 5回目
- 第29回：最終報告会
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者名 /Instructor 西田心平/地域創生学群

履修年次 /Year 4年次
 単位 /Credits 4単位
 学期 /Semester 1・2学期(バ
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を執筆する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : オリエンテーション
- 2回～29回 : 卒業論文・卒業実践報告書の執筆指導
- 30回 : 最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文・卒業実践報告書 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、各自の計画に基づいて進めていくため、積極的な報告、連絡、相談が必要になる。自ら進んでその機会を作ってほしい。また、受講生の発表準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容を変更することがある。その際には、演習中に説明する。

キーワード /Keywords

卒業論文・卒業実践報告【夜】

担当者名 深谷裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 4年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

各自のテーマに従い、卒業論文・卒業実践報告書を作成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2・3回：論文・報告書の書き方指導
- 第4～8回：研究途中経過報告 1回目
- 第9～13回：研究途中経過報告 2回目
- 第14回：中間報告会
- 第15～19回：研究途中経過報告 3回目
- 第20～24回：研究途中経過報告 4回目
- 第25～28回：研究途中経過報告 5回目
- 第29回：最終報告会
- 第30回：総評

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・実践報告書100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習は、報告・議論の場であるので、事前準備を十分に行ってのぞむこと。
随時、教員とコンタクトをとり、アドバイスを受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域コーディネート論【夜】

担当者名 /Instructor 西田心平/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 地域を舞台とした人と人との様々な関わり合いを、「コーディネート」という視点からとらえ直す。分かりやすい事例を1つ1つ授業の中で検討していきながら、「コーディネートする」とはどういうことが、みんなで考える。講義の前半では「地域社会」の変化を人間関係の視点から議論する。後半では「コーディネート」の中身や意義について議論する。

教科書 /Textbooks
 とくに使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業の中で適宜紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「コーディネート」という視座について
- 2回 地域社会の変化について①
- 3回 地域社会の変化について②
- 4回 地域社会の変化について③
- 5回 地域社会の変化について④
- 6回 中間まとめと課題提起
- 7回 北九州の横顔
- 8回 北九州の産業とコーディネート
- 9回 地域コーディネーターに必要な資質
- 10回 市民力を引き出すアプローチ
- 11回 事例から学ぶ - 地域づくりの取り組みから①
- 12回 事例から学ぶ - 地域づくりの取り組みから②
- 13回 事例から学ぶ - 地域づくりの取り組みから③
- 14回 事例から学ぶ - 地域づくりの取り組みから④
- 15回 全体まとめ

※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method
 課題提出...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 講義では、テーマに即してレジュメや資料を配布する。受講にあたっては、毎回出席することが前提である。レジュメを読みながら、講師の話をしっかりメモすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域調査論【夜】

担当者名 /Instructor 神山和久/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この講義は、地域で起こる社会経済事象を対象として、地域の課題と解決のために実施されるさまざまな調査について、より実践的な知識を習得することがねらいです。
 講義では、まず、まちを知るため各種公的統計の見方・調べ方について解説します。次に世論調査の方法と実際について学習します。さらに、その調査結果がどのように活用されるのかについても具体的に解説します。主な内容は、「まちづくり」をメインテーマとし、継続的に実施される行政の世論調査や市民の意識と行動調査などを題材とします。
 地域の課題解決策をいかに調査に反映させればよいのでしょうか。結果から何がわかるのでしょうか。授業を通じてしっかり身につけましょう。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業の中で資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考文献を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに -地域調査はなぜ必要か
- 2回 北九州市、その地域社会のプロフィール①
- 3回 北九州市、その地域社会のプロフィール②
- 4回 統計資料から読めること-データを見て考えよう【官庁統計】
- 5回 データ読み取りに際しての注意事項① 【基準値のあやまり】【少数の法則】
- 5回 データ読み取りに際しての注意事項② 【人間的なあやまり】【ヒューリスティクス】
- 6回 世論調査について① - 質問文作成の要領と注意点 【ステレオタイプ】
- 7回 世論調査について② - 質問文作成ルールの復習
- 8回 世論調査について③ - 質問文のあやまりと完全性の限界
- 9回 世論調査について④ - 調査実施手順
- 10回 地域調査事例とその読み方 ① 【まちづくり調査事例】
- 11回 地域調査事例とその読み方 ② 【分析の実際】
- 12回 地域調査事例とその読み方 ③
- 13回 地域調査事例とその読み方 ④ 【検定】【順位法】
- 14回 地域調査事例とその読み方 ⑤ 【多変量解析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 期末レポート(ミニレポート含む)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業のなかで小テストを行います。また、実際にデータ分析してもらうこともあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【夜】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科
森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会(2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

* 本年から『北九州NPOハンドブック』第6版の作成を始めますので、興味のある方はぜひご参加ください。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック [第5版] 』(2010年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(1)
- 11回 第5回講演会
- 12回 環境NPO(2)
- 13回 第6回講演会
- 14回 NPOと政治(1)【利益団体】【政治過程と参加】
- 15回 NPOと政治(2)【アドボカシーの意義と課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。
第1回の講義で授業の進行について説明しますので必ずご参加ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシーNPO、ミッション、寄付

地方自治論【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生みなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

山本隆・難波利光・森裕亮『ローカルガバナンスと地方行財政』（2008年）ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治の理念【地方自治とは】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【明治・大正時代の地方自治史】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【機関委任事務のしくみ】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【首長と議会】【二元代表制】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【中央地方関係】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【地方分権改革】【法定受託事務】
- 8回 自治体広域化と地方自治①【自治体の規模論】
- 9回 自治体広域化と地方自治②【市町村合併】
- 10回 自治体広域化と地方自治③【自治体内分権】
- 11回 地方財政と地方自治①【地方財政の基礎編】
- 12回 地方財政と地方自治②【地方債の役割】
- 13回 地方財政と地方自治③【各地の財政改革と住民参加】
- 14回 これからの地方自治【パートナーシップ】【住民自治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権

福祉政策論【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks
 教科書は指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業中に指示する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 「社会福祉の意味」
 - 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
 - 第3回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
 - 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
 - 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 自治体間の保険料格差
 - 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
 - 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
 - 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化など）
 - 第9回 「児童福祉」 児童虐待
 - 第10回 「児童福祉」 男女共同参画をめぐる議論
 - 第11回 「障害者福祉」 障害の定義
 - 第12回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
 - 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
 - 第14回 「利用者保護制度」
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末試験・・・100%
 毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点から2点程度減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 特になし。
 私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

景観まちづくり論【夜】

担当者名 /Instructor 片岡寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 この講義の基本的なテーマは、「景観」と「まちづくり」です。景観まちづくりの思想や法制度について様々な視点から学び、各地の事例についてレビューすることで、景観を通じたまちづくりのあり方、景観まちづくりの本質について考えることが、この講義の目的です。

教科書 /Textbooks
 使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 日本建築学会 著『まちづくり教科書 第8巻 景観まちづくり』
 日本建築学会 編『景観法活用ガイド 市民と自治体による実践的景観づくりのために』
 日本建築学会 著『まちづくりデザインのプロセス』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 都市の景観について【景観】【調査指標】
- 3回 都市デザインのプロセス①【都市】【デザイン】
- 4回 都市デザインのプロセス②【都市】【デザイン】
- 5回 都市デザインのプロセス③【都市】【デザイン】
- 6回 景観法について①【景観】【法制度】
- 7回 景観法について②【景観】【法制度】
- 8回 景観法について③【景観】【法制度】
- 9回 特別講師による講義【設計】【都市美】
- 10回 事例紹介①【景観まちづくり】
- 11回 事例紹介②【景観まちづくり】
- 12回 意見発表会①【プレゼン】
- 13回 意見発表会②【プレゼン】
- 14回 事例紹介③【景観まちづくり】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 講義中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 期末試験もしくはレポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

まちづくり実践論【夜】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

これからの日本社会においては、市民、コミュニティ、各種団体、企業、行政・議会など、地域の多様な主体がそれぞれの役割を担ってまちづくりに参画する新しい地域経営の仕組みづくりと、その仕組みに基づいたまちづくりの実践が必要です。

一方、地域経営の仕組みやまちづくりは「最初から最適なものを作り上げる」とは現実的ではなく、動かし始めた仕組みを、より良いものになるように随時的に評価し、柔軟に改善していくことが求められます。

本授業では、現在のまちづくりを取り巻く諸状況や課題を踏まえた上で、今後の地域経営のあり方や、地域の各主体が果たすべき役割等について、実際の政策や事例に学びながら考えていきます。

このことを通じ、履修者が今後、まちづくりを実践していくに際し必要となる多様な視点と専門的知識を得るとともに、諸課題の解決策を考察していく上で求められる柔軟な応用力を涵養することを目指します。

※注意： 「まちづくり」という用語は、学問分野あるいは使用する人によって多様な使い方が行われています。本授業では、都市・地域において、多様な主体が関わるハード・ソフト両面の幅広い政策や行動を「まちづくり」と位置づけます。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。
 授業で紹介する各種概念・事例の出典等は授業中に明示しますので、各自、より深く学びたい場合は参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ~本授業における「まちづくり」の考え方
- 2回 新しいまちづくりを巡る動き(1)【協働】
- 3回 新しいまちづくりを巡る動き(2)【新しい公共、PPP(官民連携)】
- 4回 まちづくりにおける「現状把握」(1)【取材する】
- 5回 まちづくりにおける「現状把握」(2)【人々の意見を聞き、分析する】
- 6回 まちづくりにおける「合意形成」(1)【合意形成の重要性】
- 7回 まちづくりにおける「合意形成」(2)【防災を事例に考える】
- 8回 まちづくりにおける「専門家の活用」
- 9回 まちづくりにおける「コーディネート」(1)【概念解説】
- 10回 まちづくりにおける「コーディネート」(2)【事例から考える】
- 11回 まちづくりとコミュニティビジネス、ソーシャルビジネス(1)【概念解説】
- 12回 まちづくりとコミュニティビジネス、ソーシャルビジネス(2)【事例から考える】
- 13回 まちづくりに関する取り組みの評価と改善のサイクル
- 14回 北九州のまちづくりを考える ~にぎわいづくりを事例に
- 15回 今後のまちづくりの実践に向けて

※ 可能な限り、各回の授業時点で社会的に話題となっているトピックや最新の政策動向を取り入れた授業を心がけます。そのため、授業の構成については変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への積極的参加 30%
- ・ 期末レポート 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から、まちづくりへ幅広い関心を持ち、自分なりに書籍、報道等を通じ情報収集を行うよう意識してください。

キーワード /Keywords

地域経営、協働、合意形成、地域活性化

ものづくりマネジメント論【夜】

担当者名 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
					○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

工業先進国であるわが国の「ものづくりの現場」が、どのようなしくみで、どのようなことを行い、利益を産み出しているのか、ものづくりの基本を「工場管理の視点」から学びます。

また、新興国の台頭や工場の海外移転、地域経済統合など、ビジネス環境が目まぐるしく変化する中で、わが国のものづくりがどのように変貌していこうとしているのか、新聞記事などを用いて一緒に考えます。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメ及びプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ものづくりとは【製造業の機能と経営環境】
- 2回 生産システム【生産形態】
- 3回 生産管理【生産方式】
- 4回 生産管理【生産計画】
- 5回 生産管理【生産統制】
- 6回 品質管理【品質管理手法】
- 7回 品質管理【標準化】【ISO9000s】
- 8回 原価管理【原価計算】
- 9回 原価管理【コストダウン】
- 10回 外注管理、購買管理、在庫管理
- 11回 設備管理、レイアウト管理
- 12回 組織間連携【販売vs.生産】【製品設計vs.生産】
- 13回 グローバル化と情報化【SCM：サプライチェーンマネジメント】
- 14回 環境マネジメント【CSR：企業の社会的責任】【ISO14000s】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平時の学習状況... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃からものづくりに関心を持って下さい。
(例、身近な製品がどうやって作られているのか、興味を持って考えてみる)
(例、新聞・雑誌・TVなどのメディアを通じて、ものづくり企業に関する情報を収集する)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

技術立国「日本」の繁栄を牽引してきたものづくりの現場が大きく変わろうとしています。円高を契機に、ものづくりの現場が海外へ移転しつつあります。このことは雇用を喪失させ、ひいては技術・技能を弱体化させ、その結果、日本の国力が衰退の一途を辿ることになります。この機会にもものづくりについて考えてみませんか？

ものづくりマネジメント論 【夜】

キーワード /Keywords

法学総論【夜】

担当者名 梁田 史郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
意識するかどうかは別として、日本社会で生活していく以上、法の問題は誰もが関わりを持たざるを得ない。身近な例を題材として、自分たちと法の関わりを確認しつつ、日本の法体系、法原則を学ぶ。

教科書 /Textbooks
池田真朗ほか著『法の世界へ』（有斐閣アルマ）
『学習六法』（日本評論社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
○五十嵐清著『法学入門』（悠々社）
○石田喜久夫著『消費者民法のすすめ』（法律文化社）
南野森編『ブリッジブック法学入門』（信山社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.ガイダンス
- 2.法とは何か
- 3.日常生活と法
- 4.法の歴史
- 5.日本の法体系
- 6.近代私法の三大原則
- 7.法の世界における「能力」
- 8.契約とは何か
- 9.契約の効力
- 10.不動産取引と住まいの法律知識
- 11.犯罪と不法行為
- 12.交通事故の法律関係
- 13.家族と法
- 14.相続
- 15.まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
定期試験100%で評価するが、欠席は評価に影響する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
テキストを使用して講義を進めるので、必ずテキストを持参してください。
「六法」は指定のものでなくてもかまいません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
黒板に書かれたことを写すだけではなく、講師の話を聞いたうえで、自分の頭で考え、整理してノートをとることを心がけてください。

キーワード /Keywords

憲法人権論【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における人権理論について概説するとともに、そのことを通じて現代日本社会における問題についても検証する。人間には国家・社会によっても侵してはならない「自分だけの領域」があるはずである。そして、このような「自分だけの領域」の範囲について考えることが「人権論」だと考えている。講義全体のキーワードは【現代日本社会と人権】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 長谷部恭男他編『憲法判例百選I・II(第6版)』(有斐閣・2013年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権総論
- 第2回 人権享有主体
- 第3回 特別権力関係論・私人間効力
- 第4回 幸福追求権
- 第5回 平等原則
- 第6回 精神的自由①(信教の自由)
- 第7回 精神的自由②(表現の自由総論)
- 第8回 精神的自由③(表現の自由各論)
- 第9回 精神的自由④(知る権利)
- 第10回 経済的自由
- 第11回 社会権①(生存権・教育を受ける権利)
- 第12回 社会権②(労働基本権)・受益権
- 第13回 参政権
- 第14回 人身の自由
- 第15回 違憲審査基準論の展開

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に必要なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法総論【夜】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

私たちが生きていくためには、「社会」との関係は切り離すことはできない。「社会」という概念は広範にわたるものであるため、「社会法」というと、法と呼ばれるもの全部が社会法ということもできるかもしれない。しかし、法学分野で「社会法」と捉えられているものは、主として労働法及び社会保障法である。本講義では、2年次生から専門的に学ぶことになるこれら2領域の基本的な問題について理解を深める。

一般に「社会人」と呼ばれる人々はどういう人々だろうか？ 皆さんは「学生」で「社会人」とは呼ばれない（むろん、中には「社会人」の方々もおられるが）。つまり、一般には、「社会人」とは、働いている＝労働している人々を指していると考えられる。この講義では、雇用労働に就いた労働者の職業活動をめぐる様々な問題（労働法領域）や、我々が生活を送っていく上で遭遇する諸問題（社会保障法領域）に対し、法がどのように関わっていくのかについて、できる限り具体的な例を提示しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜レジュメを配布し、これに従って進行する。
ただし、法律科目であるので、講義中（試験も含め）関係する法律の条文を引くことになるため、関係諸法律が掲載されている六法を用意してもらうことになる。詳細は、初回講義時に説明するので、受講者は必ず出席すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

労働法、社会保障法領域における基礎的な知識の修得を目的とする。具体的には、雇用労働の場において労働者と使用者との間を規律するルールにはどのようなものがあるのか、それはどのような考え方に基づくものであるのか、労働と緊密な関係にある各種社会保険制度（特に労働保険領域）では、労働者の生活を守るためにどのような仕組みが作られているのか、そこではどのような個別具体的な問題が生じているのか、などについて講義する。

おおよその予定は以下の通りであるが、受講生の反応・希望により変更する可能性もある。

- 第1回 イントロダクション～「社会法」とは？
- 第2回 労働法の世界①～労働法の主要アクターと労働条件の決定
- 第3回 労働法の世界②～採用プロセスの規制と平等原則【採用内定】【試用】
- 第4回 労働法の世界③～賃金・労働時間の規制
- 第5回 労働法の世界④～休憩・休日等の規制【時間外労働】【三六協定】
- 第6回 労働法の世界⑤～休業等の規制【年次有給休暇】
- 第7回 労働法の世界⑥～解雇に関する規制【解雇権濫用法理】
- 第8回 社会保障法の世界①～労災保険って？
- 第9回 社会保障法の世界②～業務災害【業務起因性】、通勤災害
- 第10回 社会保障法の世界③～労災を起こした使用者の責任【労災民訴】
- 第11回 社会保障法の世界④～雇用保険って？
- 第12回 社会保障法の世界⑤～基本手当①【支給要件】
- 第13回 社会保障法の世界⑥～基本手当②【給付内容】
- 第14回 労働法・社会保障法領域における近年の動向
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験により評価する。
* 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講した後、「雇用関係法」「労使関係法」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講すると、社会法領域の知識をまんべんなく修得できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会法総論 【夜】

キーワード /Keywords

法と犯罪I【夜】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「法と犯罪I・II」においては、犯罪の発生から、捜査、公判（裁判）を経て、刑の執行（刑務所への収容など）に至る刑事司法過程の全体を概観することを目的としている。この意味で、この科目を、刑事法、すなわち法学の専門科目である刑法（刑法総論・刑法各論）、刑事訴訟法、犯罪者処遇法、犯罪学（本学法学部での提供科目名は、これと異なることに注意されたい。）などの入門科目と位置づけている。

「法と犯罪I」においては、犯罪と刑罰に関する法である「刑法」を概説する。刑法学の課題は、どのような行為が犯罪として刑罰という重大な不利益を科されるのか、あるいはどのような行為であれば犯罪とはされないのかという、犯罪の根拠と限界とを明らかにし、犯罪の成否に関する判断基準（規範）を定立することにある。具体的事例をもとにして、刑法解釈論における基本的テーマを取り上げて考察していく。

教科書 /Textbooks

- ①六法（2015年版・平成27年版）
『法学六法』（信山社出版）、『デイリー六法』（三省堂）、『ポケット六法』（有斐閣）といった「最新の」六法を必携のこと（種類・出版社を問わない。）。
- ②テキスト
○井田良『基礎から学ぶ刑事法』5版（東京：有斐閣・2013.12）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『入門刑法学・総論』（東京：有斐閣・2013.12）。
- 井田良『入門刑法学・各論』（東京：有斐閣・2013.12）。
- 山中敬一『刑法概説I総論』（成文堂・2008.10）
- 山中敬一『刑法概説II各論』（成文堂・2008.10）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。

- 1回 ガイダンス、犯罪論の基本構造
- 2回 刑罰論
- 3回 人の生命・身体に対する罪
- 4回 財産罪(1)
- 5回 財産罪(2)
- 6回 社会的法益に対する罪
- 7回 国家的法益に対する罪
- 8回 罪刑法定主義、構成要件論
- 9回 違法論・責任論
- 10回 実行行為と未遂罪、不作為犯
- 11回 因果関係論
- 12回 緊急行為（正当防衛・緊急避難）
- 13回 故意・過失、錯誤
- 14回 正犯と共犯
- 15回 間接正犯と共同正犯

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート...100%
随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストの該当箇所を熟読して講義に臨むこと。
この講義を受講した後に、「刑法犯罪論」、「刑法犯罪各論I・II」、「刑事訴訟法総論・各論」、「犯罪学」、「刑事司法政策I・II」を受講することを勧める。また、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧める。

法と犯罪I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゆっくり、丁寧に、しかし着実に学んでいきましょう。

キーワード /Keywords

刑事法入門 刑法 刑法総論 刑法各論

法と犯罪II【夜】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「法と犯罪II」は、犯罪の発生から、捜査、公判（裁判）を経て、刑の執行（刑務所への収容など）に至る刑事司法過程の全体を概観することを目的としている。この科目を、刑事法、すなわち法学の専門科目である刑法（刑法総論・刑法各論）、刑事訴訟法、犯罪者処遇法、犯罪学（本学法学部での提供科目名は、これと異なることに注意されたい。）などの入門科目と位置づけている。

「法と犯罪II」においては、捜査と公判（裁判）に関する法である「刑事訴訟法」と、刑の執行に関わる問題を扱う「犯罪者処遇法」を概説する。逮捕・勾留、捜索・押収といった、被疑者・被告人の身柄の確保及び証拠の収集・保全という捜査活動を規律する手続と、検察官の主張が証拠により立証されているのかを確認する公判（裁判）を規律する手続を概説することが、刑事訴訟法の課題である。そして、有罪が確定した者に対して、どのようにして刑罰という不利益を科していくことになるのかを検討するのが犯罪者処遇法の課題である。具体的事例をもとにして、基本的テーマを取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

- 六法（2015年版・平成27年版）
『法学六法』（信山社出版）や『デイリー六法』（三省堂）、『ポケット六法』（有斐閣）といった最新の六法を必携すること（種類・出版社を問わない。）。
- 井田良『基礎から学ぶ刑事法（有斐閣アルマ）』5版（東京：有斐閣・2013.12）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 田口守一『刑事訴訟法』6版（弘文堂・2012.3）
- 守山正 / 安部哲夫（編著）『ピギナーズ刑事政策』2版（成文堂・2011.06）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。

- 1回 ガイダンス、刑事司法過程の全体構造（犯罪の発生から刑罰の執行まで）
- 2回 刑事訴訟法の基礎（刑事訴訟の2つのタイプ、刑法と刑事訴訟法の関係）
- 3回 刑事訴訟法を規律する基本原理（プライバシー原理、弾劾主義、無罪推定の原則、当事者主義とか）
- 4回 捜査の基礎(1)逮捕・勾留、取調
- 5回 捜査の基礎(2)捜索・押収、鑑定
- 6回 捜査の基礎(3)新しい捜査方法
- 7回 公訴の提起、訴追裁量の規律
- 8回 証拠調手続と証拠法則
- 9回 自白法則
- 10回 裁判と上訴・再審
- 11回 犯罪者処遇の基礎
- 12回 犯罪予防と刑事制裁（刑罰と保安処分）
- 13回 施設内処遇・社会内処遇
- 14回 犯罪被害者の支援
- 15回 修復的司法

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート...100%
随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストの該当箇所を熟読して講義に臨むこと。また、この講義を受講した後に、「刑法犯罪論」、「刑法犯罪各論I・II」、「刑事訴訟法総論・各論」、「犯罪学」、「刑事司法政策I・II」を受講することを勧める。さらに、関連する他の刑事法系科目を受講するとなお良い。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事法入門 刑事訴訟法 刑事政策 犯罪者処遇法 犯罪学 刑事学

行政法総論【夜】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

行政法とは、主として、国や地方自治体が行う活動を法的にコントロールする様々な法律の総称です。現代社会において行政は、様々な場面で市民生活に介入しており、それに伴って行政法も我々の日常生活に密接に関連しています。本講義では、このような行政法について、基礎理論、行政の行為形式、行政手続や情報公開といった諸制度を学習し、行政の法的仕組みを検討します。そのうえで受講者が、行政活動についての基本概念および判例を理解し、具体的な事例にそれらを活用することができるようになることを目的とします。

教科書 /Textbooks

北村和生 = 佐伯彰洋 = 佐藤英世 = 高橋明男『行政法の基本(第5版)』(法律文化社・2014年); 定価(本体2,600円+税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政法とは
- 第2回 行政法の基本原理(1)【法律による行政の原理】
- 第3回 行政法の基本原理(2)【行政法の一般原則】
- 第4回 行政組織(1)【行政組織の概念、国の行政組織】
- 第5回 行政組織(2)【地方の行政組織、公務員】
- 第6回 行政の規範定立(1)【法規命令と行政規則】
- 第7回 行政の規範定立(2)【委任命令の限界】
- 第8回 行政行為(1)【行政行為の概念、類型】
- 第9回 行政行為(2)【行政行為の効力】
- 第10回 行政行為(3)【瑕疵ある行政行為と無効の行政行為】
- 第11回 行政行為(4)【職権取消しと撤回】
- 第12回 行政行為(5)【瑕疵の治癒・転換、違法性の承継、行政行為の附款】
- 第13回 行政契約
- 第14回 行政指導
- 第15回 行政計画
- 第16回 行政の実効性確保手段(1)【行政上の強制執行】
- 第17回 行政の実効性確保手段(2)【行政制裁】
- 第18回 即時強制と行政調査
- 第19回 行政裁量(1)【行政裁量の概念・根拠、羈束裁量と自由裁量】
- 第20回 行政裁量(2)【裁量の所在、実体的判断基準】
- 第21回 行政裁量(3)【裁量統制手法と審査密度】
- 第22回 行政手続(1)【行政手続の意義、行政手続法の制定】
- 第23回 行政手続(2)【申請処分手続、不利益処分手続】
- 第24回 行政手続(3)【その他の行政手続、手続の瑕疵と行政処分の効力】
- 第25回 行政情報(1)【情報公開の概念、不開示情報】
- 第26回 行政情報(2)【不服申立てと公開請求訴訟】
- 第27回 行政情報(3)【個人情報保護制度】
- 第28回 公法と私法
- 第29回 行政過程における市民の法的地位
- 第30回 まとめ(これまでの講義を振り返り、要点を復習します)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

最新の小型六法(種類は問いません)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

行政法総論 【夜】

キーワード /Keywords

会社法I【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督、経営者の義務・責任等に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の設立
- 6回 株式と株主の権利
- 7回 株式会社の機関(1)【株主総会】
- 8回 株式会社の機関(2)【取締役】【取締役会】
- 9回 株式会社の機関(3)【代表取締役】
- 10回 株式会社の機関(4)【監査役】【会計監査人】【社外取締役】
- 11回 株式会社の機関(5)【指名委員会等設置会社】【監査等委員会設置会社】
- 12回 株式会社の機関(6)【善管注意義務と忠実義務】【役員報酬】
- 13回 株式会社の機関(7)【役員等の会社に対する責任】【株主代表訴訟】
- 14回 株式会社の機関(8)【役員等の第三者に対する責任】
- 15回 まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法II【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法IIでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の発行】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【株式発行の瑕疵】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【株式の譲渡】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【自己株式】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【新株予約権発行の瑕疵】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】【資本金・準備金の減少】
- 11回 株式会社の解散・清算
- 12回 株式会社の組織再編(1)【概要】【合併】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【会社分割】【事業譲渡】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【株式交換】【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、まず会社法Iから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【夜】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【夜】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎 【夜】

担当者名 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

マネジメントをめぐる様々な側面を取り上げ、解説します。企業の中で人間らしく働くことの問題点を明確にして、働くことにとって何が重要であるか、そのためにはどのようなマネジメントが必要であるのか、考えていきます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しないが、毎回、資料を配布し、それを素材にして、講義を行い、ともに考えていく。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 授業の概要、勉強することの意義について考える
- 2 私たちのくらしと企業、マネジメント
- 3 企業とマネジメントと社会
- 4 誰が企業を動かし、マネジメントしているのか
- 5 社長と経営者はどのようにマネジメントしているのか
- 6 日本の誇りにしたい企業と良いマネジメント
- 7 日本のブラック企業、失敗したマネジメント
- 8 企業の理念とそれを実現するマネジメント
- 9 マネジメントの仕組みと組織
- 10 企業はどのように製品をつくるのか
- 11 マネジメントと人間らしい働き方
- 12 社員の賃金と労働時間
- 13 人の採用から定年まで
- 14 マネジメントによる社員の人材育成
- 15 企業に入るためには何をすればよいのか

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中での発言内容(加点部分)と定期試験 100%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞を読み、ニュースを見聞すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント、誇りにしたい企業、ブラック企業、人間らしい働き方

企業論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 中間 信博 / Nobuhiro Nakama / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業の仕組みや役割、社会との関係などをできるだけ平易に説明します。

本講義の目的は、現代企業を理解するために必要な基礎的知識を獲得することです。

本講義の具体的な到達目標は次の通りです。

- ① 企業とはどういうものか、ということについてイメージすることができる。
- ② 企業の種類やその特徴について説明できる。
- ③ 株式会社の制度的特徴について説明できる。
- ④ 株式会社の所有と支配の問題について説明できる。
- ⑤ 日本の株式会社の実態について説明できる。
- ⑥ CSR (企業の社会的責任) の概念と基本的な考え方について説明できる。
- ⑦ 企業の目的や存在意義について自分の意見を述べることができる。
- ⑧ CSRの意義について自分の意見を述べるすることができる。

教科書 /Textbooks

『よくわかる企業論』(佐久間信夫編著 ミネルヴァ書房 ¥2,600+税)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「なし」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(講義の概要や目的、評価方法等の説明)
- 2回 企業とは何か(1) 【企業の定義】 【企業の目的】
- 3回 企業とは何か(2) 【企業の役割】 【企業の存在意義】
- 4回 企業とは何か(3) 【企業は誰のものか】
- 5回 企業形態(1) 【企業の法的形態と経済的形態】
- 6回 企業形態(2) 【合名会社】 【合資会社】 【合同会社】 【株式会社】
- 7回 企業形態(3) 【非営利組織】
- 8回 株式会社の制度的特徴(1) 【会社機関】
- 9回 株式会社の制度的特徴(2) 【資本の証券化】
- 10回 株式会社の制度的特徴(3) 【株式会社と証券市場】
- 11回 株式会社における所有と支配 【専門経営者】 【所有と支配の分離】
- 12回 日本の株式会社の実態と企業統治改革(1) 【株式所有構造の変化と株主総会】
- 13回 日本の株式会社の実態と企業統治改革(2) 【取締役会改革と委員会設置会社】
- 14回 企業に求められる21世紀型CSR 【CSR(企業の社会的責任)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...20% 学期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営学や会社法関連の科目を受講しておくこと、本講義の理解が一層深まるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は大学における「企業論」の入門的科目です。この講義を端緒として企業の分析に本格的に取り組んでくれることを期待します。

キーワード /Keywords

企業形態(企業の種類) 株式会社 企業統治(コーポレート・ガバナンス) CSR(企業の社会的責任)

簿記論I【夜】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

企業簿記は、企業の資産と資本の変動を一定の理法と組織によって秩序的に記録・計算・整理し、その結果を適正・明瞭に表示する特殊な技術である。

本講義ではその理法と組織がいかなるものであるかを考察し、併せてその原理が実務でどのように応用されているかを研究する。簿記は実務学科である。したがって、簿記を修得するためには普段の努力が必要である。受講生は努力を惜しまないで欲しい。

教科書 /Textbooks

入門簿記講義 早稲田大学会計学研究室編 中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中央経済社編 会計法規集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 簿記とは何か
- 第2回 簿記の目的
- 第3回 簿記の必要性
- 第4回 計算項目(1) 資産・負債・資本
- 第5回 計算項目(2) 収益・費用
- 第6回 会計取引とは何か
- 第7回 会計取引と帳簿記入(1) 仕訳の法則
- 第8回 会計取引と帳簿記入(2) 元帳転記
- 第9回 仕訳及び元帳の記入練習(1)
- 第10回 仕訳及び元帳の記入練習(2)
- 第11回 試算表の作成
- 第12回 精算表の作成
- 第13回 決算手続(1) 帳簿の修正
- 第14回 決算手続(2) 帳簿の締切
- 第15回 Accounting Cycle

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

簿記は極めて簡単な原理から成り立っている。その原理を確実に理解するためには練習が必要である。筆記具と紙を用いて何度も練習してほしい。

ただし、基礎知識が習得できたら次はできるだけ難しい問題に取り組むことが肝要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学I【夜】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

この授業の主な到達目標は、以下の通りである。

- ①統計的推定および検定の考え方を理解する。
- ②点推定および区間推定の原理を理解する。
- ③割合の検定、割合の差の検定などを原理的に理解する。
- ④確率分布をヒストグラムから理解する。
- ⑤経済・社会の問題解決に必要な統計解析や情報処理一般の基礎を作る。

教科書 /Textbooks

林田実（2013）『サイコロを振って、統計学！』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大屋幸輔（2011）『コア・テキスト 統計学』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定（準備）
- 10 割合pに関する仮説検定（本体）
- 11 割合pに関する仮説検定（考察）
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題 1
- 15 推定と検定に関する標準問題 2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書の各章を順に講義していく。各章は講義に臨むにあたって、事前に熟読し、演習をしておくこと。講義は予習・演習をしていることを前提にして行われる

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

地域経済I【夜】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。経済のグローバル化を基軸として、経済活動の空間的範囲が大幅に見直されていることが原因である。大きな変化に直面した時こそ、事象の体系的理解と長期的な視点とが必要となる。本講義では主に以下の3つの論点を学習する。

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. 今日の地域経済の諸問題を考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報流と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】
- 3回 地域構造の高度化①【産業構造】
- 4回 工業化の進展【重化学工業化】【高加工度化】
- 5回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 6回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 7回 地域構造の高度化②【空間的情報流】
- 8回 企業内分業の進展①【工場立地】【オフィス立地】
- 9回 企業内分業の進展②【都市システム】
- 10回 コンピュータ・ネットワークと市場①【市場の広がり】
- 11回 市場の世界化①【金融市場】【物財市場】
- 12回 市場の世界化②【労働市場】
- 13回 コンピュータ・ネットワークと市場②【市場の深まり】
- 14回 地域経済をめぐる今日の諸問題【地方消滅】【地方創生】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域経済II」「地域政策」の基礎となっている。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論I【夜】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本の金融に関する基礎知識を習得する。
- ②金融制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③習得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 プルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。
レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【夜】

担当者名 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際経済論を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、海外との経済取引（貿易や資本取引-国際金融&国際投資-）と日本経済について分析していくことが重要となる。ここでは、国際経済論を日本経済を軸にして考察する。

また講義では、「国際経済の動きと今後の展望」について、具体的な統計データを示しながら分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「国際経済の動き」を日本経済の視点から理解することができ、また「日本経済が抱える課題」を国際経済の動向と結び付けて解明することが出来るようになるだろう。

< 本講義の到達目標 >

1. 国際経済の動向と諸課題を理解するための「基礎概念」と「基本理論」を身につける。
 2. 国際経済の新しい動きと日本経済の課題について、解説できること。
 3. 国際資本の流れ-国際金融の視点-から日本経済を分析できること。
- * 日本経済新聞を読めるようになればなお良い。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション-経済のグローバル化と日本経済の動向-
- 第2回 国際経済の現状 (I) : 国際経済の新潮流-グローバル経済化と新興経済諸国 (BRICs) -
【東西冷戦の終焉】 【資源大国】 【国際資本】
- 第3回 国際経済の現状 (II) : アメリカ経済の動向と今後-その変遷と戦略-
【レーガノミクス】 【クリントノミクス】 【IT革命】 【ニュー・エコノミー】 【ドル基軸通貨】 【双子の赤字】
- 第4回 国際経済の現状 (III) : 欧州連合 (EU)と通貨統合 (統一通貨ユーロ) 【欧州連合】 【ユーロ】
- 第5回 国際経済と日本経済 (I) : 戦後の日本経済の変遷とその特徴
【経済の民主化政策】 【政府主導の成長政策】 【高度経済成長】 【オイルショック】 【バブル崩壊と低成長】
- 第6回 国際経済と日本経済 (II) : 外需 (輸出) 主導型の経済成長と円高デフレ - ション
【ブラザ合意】 【円高不況】 【経常収支の黒字】 【外貨準備高】
- 第7回 国際経済と日本経済 (III) : 国際金融市場の動きと日本経済
【ジャパン・マネー】 【オイル・マネー】 【国際資本】
- 第8回 国際貿易の基礎理論 (I) -基本構造 (メカニズム) と基本理念- 【国際分業】 【交易条件】
- 第9回 国際貿易の基礎理論 (II) -自由貿易と比較優位 (生産費) の理論-
【リカード】 【比較生産費】 【ヘクシャー=オーリンの理論】 【国際競争力】
- 第10回 貿易政策の基礎分析 (I) : 貿易摩擦と保護政策 【日米貿易摩擦】 【市場開放】 【非関税障壁】
- 第11回 貿易政策の基礎分析 (II) : 保護政策の具体的手段とその効果 【関税政策】 【数量割当政策】
- 第12回 戦後の国際貿易制度: GATT&WTO、及びFTA (EPA)
- 第13回 TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) と日本経済 【関税撤廃】 【市場開放】 【高コスト構造の是正】
- 第14回 グローバル経済化と直接投資-日本経済の問題点: 対外直接投資と対内直接投資-
【対外純資産】 【産業の空洞化】 【産業構造の変化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・ 80%
- (2) 日常の授業への取り組み・・・ 20%

国際経済論I 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料etcをよく読んでおいて下さい。

キーワード /Keywords

グローバル経済 BRICs 資源大国 国際資本 基軸通貨 ドル ユーロ 円高 経常収支 資本収支
 外貨準備 国際分業 比較優位 交易条件 国際競争力 関税障壁 市場開放
 対外債権 対外債務 対外純資産 対外直接投資 対内直接投資 産業の空洞化

人事管理論【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

人間は日々働いています。この「働くこと」を管理するのが人事管理もしくは人的資源管理です。人間が「働くこと」の意味は多面的です。まず組織（企業）にとっては個々の働きが財・サービスを生み、利益を生み、その企業の存続を可能にします。他方、個人にとって自分が働くことは、生きていく糧としてお金を得ることであり、いろいろな人と触れ合うことであり、社会における自己の存在意義を確認することでありえます。本講義では、こうした多面性をもつ「働くこと」に対して、人事管理・人的資源管理の諸策がどのような意味をもっているかを考えます。

この授業の主な到達目標は以下の通りです。

- ①人事管理・人的資源管理の専門知識を修得する。
- ②日本の人事システムとその変化について理解する。
- ③人事管理・人的資源管理をめぐる、個人と企業それぞれにどのような問題があるのかを理解する。

教科書 /Textbooks

奥林康司・上林憲雄・平野光俊編『入門 人的資源管理 [第2版]』中央経済社、2010年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『マテリアル 人事労務管理(新版)』有斐閣、2006年。(○)
 岩出博『新・これからの人事労務[改訂版]』泉文堂、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【人的資源】【働くことの管理】
- 第2回 日本的人事システム 【企業と個人の関係】【日本企業における諸現象】
- 第3回 雇用管理① 【雇用形態】【終身雇用】
- 第4回 雇用管理② 【柔軟な雇用】【非正規社員】
- 第5回 報酬管理① 【賃金体系】【職能資格制度】
- 第6回 報酬管理② 【職務等級制度】【賃金制度の新動向】
- 第7回 報酬管理③ 【退職金】【福利厚生】
- 第8回 第2回～7回までのまとめとキャリア開発① 【異動の種類】【昇進と昇格】【制度の変化】
- 第9回 キャリア開発② 【人事考課制度】【目標による管理】【コンピテンシー】
- 第10回 キャリア開発③ 【専門職制度】
- 第11回 労使関係 【労働組合】【団体交渉】【労使協議制】
- 第12回 女性労働者 【女性の職場進出】【女性労働者をめぐる諸問題】【ダイバーシティ・マネジメント】
- 第13回 高齢労働者 【高齢化問題】【退職管理の改革】【作業現場における環境改善】【技能伝承問題】
- 第14回 海外派遣者と国際人的資源管理 【国際経営】【本国従業員】【現地従業員】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...80% 小レポート・レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容が変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

日本的人事システム、個人と企業の関係性

中小企業論 【夜】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2014年版中小企業白書」日経印刷

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】 【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】 【問屋制下請】 【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 " (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】 【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 " II
 - 第14回 " III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取り組み度合・・ 50% 期末レポート・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

無

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学【夜】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 環境問題の原因を経済学的視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木、『環境経済学をつかむ』有斐閣(2008)
 時政・薮田・今泉・有吉編、『環境と資源の経済学』勁草書房(2007)○
 日引 聡、有村俊秀、『入門 環境経済学』、中公新書(2002)○
 マンキュー、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版)東洋経済新報社(2005)○
 R. K.ターナー他、『環境経済学入門』、東洋経済新報社(2001)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN : 環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか?(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか?(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネット曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。
 ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。
 経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【夜】

担当者名 /Instructor 泉 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
 また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
 そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】
 - 2回 情報管理技術の進展(ファイルの編成法)【順編成】【直接編成】【区分編成】【データベース】
 - 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 - 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 - 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 - 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
 - 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】
 - 8回 問題解決のためのモデル(その2)【クリティカルパス】
 - 9回 問題解決のためのモデル(その3)【フローチャート】
 - 10回 問題解決のためのモデル(その4)【ディジョンテーブル】
 - 11回 モデル化の演習
 - 12回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【10進数】【補数】
 - 13回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
 - 14回 最近の話題【クラウドコンピューティング】【EA】【公的個人認証】
 - 15回 まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

システム設計I【夜】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年SCC

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○
大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニック』、1989年、日科技連-○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
 - 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
 - 3回 システム分析とは
 - 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
 - 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
 - 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
 - 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
 - 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
 - 9回 回帰分析【回帰分析】
 - 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
 - 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】【VBA】
 - 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
 - 13回 グループ演習(データ処理)
 - 14回 グループ演習(発表)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この科目履修後に、「システム設計II」とあわせて受講すれば理解が深まります。

学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義にあたって、テキストを予め読み込んで分からない点を質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

現代社会と福祉 1 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks
 特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 社会福祉とは何か 【憲法25条】【人間の基本的ニーズ】【ウェルビーイング】
 - 3回 生活問題とソーシャルワーク 【社会福祉援助技術】【個人と環境との不適合】
 - 4回 ソーシャルワークの事例 【ソーシャルワーク】
 - 5回 ケースワークの原則 【ラポール】【バイステイック】
 - 6回 社会福祉の理念と思想 【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
 - 7回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助 【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
 - 8回 生活保護法 【生存権保障】【救貧】
 - 9回 社会福祉の歴史(イギリス) 【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
 - 10回 社会福祉の歴史(日本) 【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】 【社会福祉】
 - 11回 社会福祉の歴史(ビデオ) 【日本のセツルメント活動】【賀川豊彦】
 - 12回 福祉改革と日本の動向 【日本型福祉社会論】【規制緩和】【格差社会】
 - 13回 日本と世界の福祉の動向 【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉レジーム】
 - 14回 日本と世界の福祉の動向 【社会的排除】【インクルージョン】【グローバリズム】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の学習状況 10%、レポート・提出物 20%、期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 授業で配布するレジュメを綴じる専用ファイルを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 2 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

- ①福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。
- ②福祉政策と関連関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- ③相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

児島亜紀子・伊藤文人・坂本毅啓 / 編集『現代社会と福祉』東山書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会福祉の動向編集委員会編『社会福祉の動向 2014』中央法規出版
- ※その他、講義時に随時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の概要【現代社会と社会福祉政策】
- 2回 福祉政策と社会問題・現代的課題【社会問題】
- 3回 福祉政策における必要と資源【ニーズ、福祉政策】
- 4回 福祉政策の理念・主体・手法【理念、資源配分システム、政策決定過程・評価】
- 5回 福祉政策の関連領域①【人権擁護】
- 6回 福祉政策の関連領域②【保健医療】
- 7回 福祉政策の関連領域③【所得政策】
- 8回 福祉政策の関連領域④【雇用】
- 9回 福祉政策の関連領域⑤【教育、住宅、震災】
- 10回 社会福祉制度の体系【制度の構造、制度とサービス】
- 11回 福祉サービスの提供【利用、運営管理】
- 12回 福祉サービスと援助活動【相談援助の原則・視点・考え方と方法】
- 13回 福祉サービスと援助活動【地域福祉への展開】
- 14回 福祉政策の課題と展望
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題提出（20点）+ 期末テスト（80点）= 100点満点で採点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第1学期開講の「現代社会と福祉1」を受講していることを望みます。もし受講されていない場合は、あらかじめ『新・社会福祉士養成講座 現代社会の福祉』（中央法規）を自分で学んでおくようにしてください。
社会福祉士養成課程の指定科目としても開講されますので、社会福祉士を取得することを前提とした内容になります。ただし、社会福祉士を取得しない学生でも分かるように配慮をしますので、教養としても是非学んで欲しいと考えています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代社会における社会福祉の必要性について、政策を中心に学ばせて学びます。社会福祉分野だけではなく、法学、経済学といった社会科学への理解も求められます。講義の際には参考文献をご紹介しますので、積極的に学ぶことを期待します。

キーワード /Keywords

社会福祉士、現代社会、福祉政策

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【夜】

担当者名 /Instructor 高崎 陽子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」では、障害の概念や福祉理念の変化の歴史とともに変遷をたどってきた障害者施策を概観することと併せて、「障害の有無によって分け隔てられることなく、国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら安心して暮らせる地域社会の実現」を目的とした障害者総合支援法の内容を読み解くことによって、障害のある人の置かれている現状と課題を理解する。さらにその理解をもとに障害のある人が自らの力を発揮し可能性を広げて主体的に生きること、「こうありたい」という思いを実現するために支援する援助者に求められる視点とアプローチについて理解を深める。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じて適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会編 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」第4版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」で何を学ぶのか。成績評価の方法。
- 第2回 障害のある人を取り巻く社会情勢と生活実態
- 第3回 「障害」とはなにか。 「障害の概念と構造的理解」
- 第4回 障害福祉施策の変遷 「障害者権利条約に至るまでの歴史」
- 第5回 障害福祉に関する諸制度について 「法律における定義と制度利用との関連」
- 第6回 障害者総合支援法の理念と概要 「理念と目的、支給決定プロセス」
- 第7回 障害者総合支援法に定められた障害福祉サービスの内容
- 第8回 障害者総合支援法における相談支援の意義と生活支援
- 第9回 障害児に対する支援 「障害児福祉施策の経過と現状」
- 第10回 障害のある人の「働きたい」を支える 「就労支援」
- 第11回 障害のある人の権利を守るということ① 「障害者虐待防止法に関連して」
- 第12回 障害のある人の権利を守るということ② 「障害者差別解消法に関連して」
- 第13回 障害のある人が安心して地域で暮らせるための多職種との連携・ネットワーク
- 第14回 障害のある人への支援に必要な視点 「アドボカシーとエンパワメント」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験：70% 提出課題 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 1 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓/地域創生学群

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

教科書 /Textbooks
 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義時に指示

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
 - 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
 - 3回 相談援助の定義と構成要素1【ソーシャルワークの概念】
 - 4回 相談援助の定義と構成要素2【ソーシャルワークの構成要素】
 - 5回 相談援助の形成過程I1【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
 - 6回 相談援助の形成過程I2【ソーシャルワークの発展期】
 - 7回 相談援助の形成過程I3【ソーシャルワークの展開期】
 - 8回 相談援助の形成過程I4【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
 - 9回 相談援助の理念I1【ソーシャルワーカーと価値】
 - 10回 相談援助の理念I2【ソーシャルワーク実践と価値】
 - 11回 相談援助の理念I3【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
 - 12回 相談援助の理念I4【ソーシャルワーカー倫理綱領】
 - 13回 相談援助の理念II1【クライアントの尊厳と自己決定】
 - 14回 相談援助の理念II2【ノーマライゼーションと社会的包摂】
 - 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。
 社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords
 相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門、社会福祉

相談援助の基盤と専門職 2 【夜】

担当者名 坂本毅啓/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するということについて、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

教科書 /Textbooks
 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義時に随時紹介

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ1【専門職倫理】、【倫理綱領】
 - 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ2【倫理的ジレンマ】
 - 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像1【総合的かつ包括的な相談援助】
 - 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像2【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
 - 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論1【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
 - 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論2【GSの特質】、【基礎理論】
 - 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲1【相談援助専門職の概念】
 - 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲2【相談援助専門職の範囲】
 - 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能1【予防機能】
 - 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能2【新しいニーズへの対応機能】
 - 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能3【総合的支援機能】
 - 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能4【権利擁護機能】
 - 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能5【社会資源開発機能】
 - 14回 地域創生とソーシャルワーカー【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の~1」での学習内容を復習して臨むこと。
 本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の~1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の~1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords
 相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

低所得者に対する支援と生活保護制度 【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

近年の貧困と格差の拡大傾向を背景として、生活保護被保護者数は史上最多に達し、また、ワーキングプア、ネットカフェ難民、孤立・孤独死、DVなど、貧困に伴う問題状況も多様化しています。公的扶助に対する需要が拡大・変容する中で、生活保護と他の所得保障制度との連携や被保護世帯に対する社会福祉的援助の強化が求められています。

この講義では、貧困対策の歴史、現代的貧困の動向、社会保障における公的扶助の役割、生活保護制度の仕組みと現況、海外の低所得者施策の改革動向についての基礎的・専門的知識を修得することを通して、低所得者支援策を導く能力を修得すること、および、貧困問題解決の方途を自ら探ろうとする態度を形成することを目的として、講義を行います。

具体的には以下の学習到達目標に従って講義を行います。

- 1.低所得者層の生活実態と福祉需要について説明できること
- 2.福祉需要を有する者に対する相談援助において必要となる生活保護制度について説明できること
- 3.生活保護と関連する他の低所得者支援制度について説明できること
- 4.低所得者に対する自立支援の意義と課題について説明できること
- 5.公的扶助制度の歴史と近年における世界の公的扶助制度の改革動向について説明できること

教科書 /Textbooks

「公的扶助論-低所得者に対する支援と生活保護制度【第2版】」 岩田正美監修・著 MINERVA社会福祉士養成テキストブック14 ¥2,600

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田正美「現代の貧困」筑摩書房(格差社会やワーキングプアなど、現代の貧困に迫るものです。)
小山進次郎「改訂増補 生活保護法の解釈と運用」全国社会福祉協議会(立案者による生活保護法の逐条解説です)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15回の講義について、以下の計画に従って授業を行います。

- 第1回.講義案内 現代の貧困I 貧困の概念、相対的貧困率
- 第2回.現代の貧困II 貧困に伴う問題、低所得層の福祉需要
- 第3回.福祉国家と公的扶助I 福祉国家の意義と変容
- 第4回.福祉国家と公的扶助II 社会保険の定型性と公的扶助の補正性
- 第5回.貧困対策の歴史 救貧制度、生活保護法の成立
- 第6回.生活保護I 生活保護法の基本原理(1)
- 第7回.生活保護II 生活保護法の基本原理(2)
- 第8回.生活保護III 保護の実施(1)実施上の原則と保護の内容・方法
- 第9回.生活保護IV 保護の実施(2)最低生活費の算定と収入認定
- 第10回.生活保護V 保護行政と被保護者の権利義務、生活保護訴訟
- 第11回.生活保護VI 援助活動、生活困窮者自立支援法、自立支援プログラムの意義と課題
- 第12回.被保護層の動向と公的扶助の課題
- 第13回.海外の公的扶助制度との比較に見る我が国の制度の特徴
- 第14回.関連施策I 社会保険の改革動向、母子福祉と児童扶養手当制度
- 第15回.関連施策II ホームレス自立支援政策の概要、生活福祉資金貸付制度、公営住宅

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(30%)、定期試験(70%)により、評価を行います。
定期試験では、上記の学習到達目標に属する事項について、その知識の正確さないし説明の適切性について筆記試験を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

低所得者に対する支援と生活保護制度【夜】

履修上の注意 /Remarks

以下の点に留意して履修してください。

- ・ 疑問点は積極的に質問するよう心がけること
- ・ テキストによって予習に心がけること
- ・ 講義では要点をまとめたパワーポイント資料を配布するので、事後の学習に心がけること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代の貧困問題は複雑化・多様化しつつ、拡大する傾向にあるといえます。貧困に関するいろいろな問題のうち、興味を持てるテーマを選択して自分なりの問題関心を持って授業に臨んでほしいと思います。自由かつ積極的に質問や意見交換がおこなわれることを期待します。

キーワード /Keywords

相対的貧困、絶対的貧困、「見えない貧困」、「貧困の連鎖」、社会的排除
エリザベス救貧法、恤救規則、社会保険の定型性、公的扶助の補足性、生存権
生活保護基準、資産調査、福祉事務所、自立支援プログラム、第二のセーフティネット

権利擁護と成年後見制度【夜】

担当者名 /Instructor 小鉢 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

知的障害や精神疾患あるいは認知症等のため判断能力に問題がある人の日常生活を支える仕組みの現状と課題を学びます。介護保険法・障害者総合支援法により提供される、本人の権利擁護のための福祉サービスや、本人に対する権利侵害から本人の生活を守る日常生活支援事業、本人の財産管理能力を補完するための成年後見制度等、福祉職にとって不可欠な法的問題について知識を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「権利擁護と成年後見制度」(弘文堂)～社会福祉士シリーズ～

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エピローグ(基本的人権と権利擁護)
- 2回 民法1(権利能力と行為能力)
- 3回 民法2(契約の自由とその修正)
- 4回 民法3(親族と扶養)
- 5回 民法4(相続)
- 6回 福祉サービス～措置から契約へ
- 7回 介護保険法の仕組み
- 8回 総合支援法の仕組み
- 9回 成年後見制度1(法定後見)
- 10回 成年後見制度2(任意後見)
- 11回 後見人の仕事とその限界
- 12回 日常生活自立支援事業
- 13回 虐待防止(高齢者虐待防止法・障害者虐待防止法)
- 14回 あるべき権利擁護
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・30%
 期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

社会福祉小六法は、毎回持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学概論【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 社会心理学、発達心理学、及び臨床心理学の基礎的内容が主要テーマである。まず、人間の社会的行動を、集団における人間関係、自己意識と社会システムの関係などから考察する。次に、ヒトの発達現象における心理学的な捉え方、生涯発達と発達課題、発達における障害について考察する。最後に、心理臨床の観点からパーソナリティ、ストレスと不応、心理的援助を考察する。

教科書 /Textbooks
 適宜、レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回オリエンテーション：本講義の概要について
 第2回 心理学の研究方法について【実証主義】【仮説】【有意性】
 第3回社会心理学の基礎理論【原因帰属】【認知的不協和】
 第4回集団における人間関係【リーダーシップ】【集団凝集性】
 第5回自己と社会の関係【大衆社会化】【自分探し】
 第6回発達現象の心理学的な捉え方【遺伝と環境】
 第7回乳児期から児童期の発達理論【共同注意】【言語発達】【学習理論】
 第8回生涯発達と発達課題【発達段階】【アイデンティティ】
 第9回発達における障害①【肢体不自由】【知的障害】【発達障害】
 第10回 発達における障害②【アセスメントと発達支援】
 第11回パーソナリティに関する心理学研究の歴史【類型論】【特性論】
 第12回パーソナリティの形成に関する心理学研究の歴史【愛着理論】
 第13回不応の理解と援助①【防衛機制】【不応】
 第14回不応の理解と援助②【心理アセスメント】【心理的支援】
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平素の学習状況 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 1学期開講の「基礎心理学」と併せて受講されることを薦めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著
『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』
ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解①【発達障害の基本的理解】
- 第14回 児童生徒の心理と理解②【発達障害と思春期】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

カウンセリング論【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

近年、心に関わる様々なアプローチが話題にされる。心理療法、セラピー、心の健康法などである。ここでは様々な社会場面で必要とされてきた「カウンセリング」についてを学ぶ。ここでいうカウンセリングとは「一人の人間が悩みや問題を抱えている。そしてその解決や整理の枠組みを望んでいる時に援助すること」ととらえて、福祉や教育などの場面での利用を想定して、カウンセリングの目的方法についての理論を学ぶ。同時に実際に現場で実践できるように実践的なスキルについても体験的に理解と体得を深めていく。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使わない。随時配布のプリント資料。紹介する参考書などを元にして学習をすすめる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業のねらい、計画……… 受講上の注意、[]キーワード
- 第2回 カウンセリングとは……… カウンセリングの定義・最近の推移・受講上の注意[定義]
- 第3回 カウンセリングの過程
- 第4回 カウンセリングの過程………事例とは[事例性]
- 第5回 人格(パーソナリティ)理論・発達理論の基礎を学ぶ[発達理論その他の理論]
- 第6回 ~11回 カウンセラーの基本的態度について[無条件的積極的関心・共感・純粋など]
- 第12回 ~14回様々な場所でのカウンセリング(応答を中心に)
- 第15回 講義のまとめ………講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

随時提出のミニレポートと授業への取り組みの態度...40%、授業終了時のレポート60%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自分の抱える問題や自分のこれからの実践で予想される悩みを明確にする努力をして授業に臨んでもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズム、発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か
- 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
- 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編①【発達障害】
- 第4回 乳児期の発達課題と不適応：事例編②【関係性障害】【親・乳幼児心理療法】
- 第5回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
- 第6回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
- 第7回 児童期の発達課題と不適応：理論編【勤勉性】【箱庭療法】
- 第8回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】【自尊心】
- 第9回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
- 第10回 青年期の発達課題と不適応：事例編【過食症】【同一性拡散】
- 第11回 壮年期の発達課題と不適応：理論編【生殖性】【中年期心性】
- 第12回 壮年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
- 第13回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
- 第14回 老年期の発達課題と不適応：事例編【心気症】【不定愁訴】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(5回) ... 50% 試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことを薦めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理療法論 【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

心理療法は学ぶことも教えることも難しい領域であるとされる。それは学ぶ者と教える者それ自身の人間性が大きく問われるからである。それ故、「心理療法に従事する人間は、いつも深い羞恥心と、へり下った態度をとること...これこそ心理療法の真の成功の秘密なのである」(霧山徳爾)といわれるのである。本講義は、心理療法に関する主要な各学派を概観しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、森田療法を中心に学習を進める。独創的な学説にふれることにより心理療法全般への展望と理解が広がり同時に自己のメンタルヘルスにも興味を持ってもらいたい。キーワードは【森田療法】である。

教科書 /Textbooks

テキスト 「森田療法のすべてがわかる本」北西憲二 著 講談社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「神経質の本態と療法」森田正馬著 白揚社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 心理療法の基礎問題
心理療法を囲む問題 ・ 心理療法を学ぶ目的【傷つけざること第一なり】
- 2回 心理療法家としての心構え ・ 心理療法と発達理論 【発達理論】
- 3回 心理療法の歴史 【フロイト】
- 4回 心理療法の技法論 精神分析, ユング心理学【東洋の人間観】
- 5回 ヒューマニスティック・セラピー他 【全体観】
- 6回 森田療法とその主要理論 【あるがまま】【生の欲望】
- 7回から10回 森田療法とその基礎理論 【感情の法則】【目的本位】
- 11回から13回 森田療法の実際 (不安とうつを治す)【とらわれ】
- 14回 認知行動療法について 【森田との違い】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験及び課題提出の内容...50% 授業と勉学への熱意...30% 毎回の授業態度...20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

森田療法以外の心理療法として、現在ひろくおこなわれている「認知行動療法」についても学ぶ予定である、自分でも事前に調べて概略をつかんでいること。また人間理解を深めるための基本的理論書を自主的に読んでほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リハビリテーション論【夜】

担当者名 山本浩二/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

リハビリテーション論では、リハビリテーションの歴史や理念を理解した上で、障がい者や高齢者、スポーツ選手の怪我など、さまざまな場面における実践方法を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リハビリテーションの基本理念
- 3回 リハビリテーションの歴史の変遷
- 4回 疾病と障害①身体障害
- 5回 疾病と障害②知的障害
- 6回 疾病と障害③精神障害
- 7回 障がい者のリハビリテーションの概要
- 8回 障がい者のリハビリテーションの実践
- 9回 高齢者のリハビリテーションの概要
- 10回 高齢者のリハビリテーションの実践
- 11回 アスレティックリハビリテーションの概要
- 12回 アスレティックリハビリテーションの実践①
- 13回 アスレティックリハビリテーションの実践②
- 14回 地域リハビリテーションの実際と課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常授業への取り組み(ミニレポートを含む)・・・50%、 小テスト・・・20%、 期末レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎時間課すミニレポートや、適宜行う小テストに関しては、第一回目のガイダンスで説明しますので、第一回目から出席してください。また、基本的には講義形式で行いますが、実践法を身につける際には、実技形式で行うこともあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人体の構造と機能及び疾病 【夜】

担当者名 /Instructor 島 京子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

講義形式が主体であるが、適時、事例などの資料を活用しGWや演習を行う。主体的参加を促す。
食・活動・排せつ・休養・睡眠などの生活行動を司る人体構造と機能についての概要、生活機能を低下させる主な疾病・障害についての概要、機能低下の回復過程としてのリハビリテーションについての概要が学ぶ内容の主な柱となる。

教科書 /Textbooks

新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病 中央法規出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時、授業内で紹介する。事前準備は不要。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 人の成長・発達と老化①・・・身体の成長・発達 精神の成長・発達について学ぶ
2. 人の成長・発達と老化②・・・老化について学ぶ
3. 身体構造と心身の機能①・・・人体の部位の名称について 水分と脱水 血液の成分 心臓の構造について学ぶ
4. 身体構造と心身の機能②・・・循環器・呼吸器・消化器・泌尿器・運動支持器官の構造と機能について学ぶ
5. 身体構造と心身の機能③・・・内分泌器官・神経系・感覚器・皮膚・生殖器・その他の構造と機能について学ぶ
6. 国際生活機能(ICF)の基本的な考え方と概要・・・国際障害分類(ICDH)から国際生活機能分類(ICF)への変遷について学ぶ
7. 健康の捉え方・・・健康の概念について、WHO憲章による健康の定義、その他の定義について学ぶ
8. 疾病の概要①・・・生活習慣病の病態・診断治療法について学ぶ
9. 疾病の概要②・・・神経精神疾患・先天性精神疾患の病態・診断・治療法について学ぶ
10. 疾病の概要③・・・悪性腫瘍・難病の病態、その他高齢者に多い疾患 終末期医療と緩和ケアについて学ぶ
11. 障害の概要①・・・視覚障害・聴覚障害、平行機能障害、肢体不自由について学ぶ
12. 障害の概要②・・・内部障害・発達障害・認知症について学ぶ
13. 障害の概要③・・・高次脳機能障害、精神障害について学ぶ
14. 障害の概要④・・・精神疾患の診断・統計マニュアルの概要 その他について学ぶ
15. リハビリテーションの概要・・・リハビリテーションの定義、対象、リハビリテーションの障害評価、諸段階、4つの側面について学ぶ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 課題レポート20% 出席・授業参加度10%の割合で評価する。

課題レポートのテーマは授業内で提示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニティスポーツ論【夜】

担当者名 /Instructor 山本浩二/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

望ましいスポーツ文化の創造と地域の活性化のため、総合型地域スポーツクラブなどによる地域スポーツが注目を集めている。本講義では、スポーツによるコミュニティの創造や形成に視座を置き、現在のスポーツ環境の実態を理解し、今後の展開について検討する。また総合型地域スポーツクラブなどの地域スポーツ振興のための具体的方法を、先進事例を紹介しながら検討し、その意義と成果、問題点等を学習する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 スポーツの歴史と概念
- 3回 スポーツを取り巻く環境理解
- 4回 わが国における地域スポーツの現状
- 5回 スポーツ基本計画の概要
- 6回 総合型地域スポーツクラブの機能と役割①育成と展開
- 7回 総合型地域スポーツクラブの機能と役割②事例報告
- 8回 スポーツ組織のマネジメントと事業マーケティング
- 9回 スポーツ事業のプロモーション
- 10回 スポーツイベントがもたらす効果
- 11回 地域におけるスポーツ指導者の役割と現状
- 12回 学校部活動と総合型地域スポーツクラブの関係
- 13回 地域スポーツの将来像
- 14回 スポーツと社会
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(ミニレポートを含む)・・・50%、小テスト・・・20%、期末レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎時間課すミニレポートや、適宜行う小テストに関しては、第一回目のガイダンスで説明を行いますので、第一回目から出席してください。

キーワード /Keywords

身体適応論 【夜】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。

本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 運動と肥満
- 3回 運動とエネルギー代謝
- 4回 バイオメカニクス
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 運動と神経系
- 7回 運動と呼吸
- 8回 運動と血圧
- 9回 運動と骨粗鬆症
- 10回 運動と疲労
- 11回 疲労と休養
- 12回 運動と暑熱環境(熱中症の予防)
- 13回 運動への行動変容(1)【メリット、デメリットについて考える】
- 14回 運動への行動変容(2)【運動習慣の獲得について考える】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

トレーニング論【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

「体力を向上させたい、パワーをつけたい」などという言葉をよく耳にする。しかし、体力という言葉にはおおくのようそがふくまれて、病気に耐えることや冷静に行動することなども広い意味での体力といえよう。

この講義では特に「筋力・持久力・瞬発力・柔軟性・調整力」の5つの要素をバランスよくレベルを高めていく行くことを目的としている。今や健康をお金を払っていじする時代になり、週に1回と言う頻度では十分ではないが各自の体力に合わせて行っていく。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な資料は配布します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ウォーミングアップとは
- 2回 クールダウンとは
- 3回 携帯測定と体脂肪を計測してみよう
- 4回 柔軟性とストレッチ
- 5回 フリーウエイトと筋力アップ(1上体)
- 6回 フリーウエイトと筋力アップ(2下腿)
- 7回 フリーウエイトと筋力アップ(3体幹)
- 8回 マシントレーニングの安全性とは
- 9回 マシントレーニングの弱点とは
- 10回 マシントレーニングの利点とは
- 11回 神経系のトレーニング(1ラダーを使ってみよう)
- 12回 神経系のトレーニング(2ミニハードルを使ってみよう)
- 13回 ポールトレーニング(1腰椎体操を兼ねて)
- 14回 ポールトレーニング(2体幹を鍛えよう)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度50% まとめ50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 阪井 俊文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

社会科学の諸分野では、社会に生きる人々の意識や行動を「社会調査」によって明らかにすることが中心的な活動となっている。しかし、その「社会調査」は、方法論を習得したうえで適切に行われなければ意味をなさない。本講義では、社会調査の基礎・方法論について解説する。主に調査票調査（いわゆるアンケート）について、実践例を多く取り入れながら、調査の一連の流れをイメージできるように講義を進める。

教科書 /Textbooks

大谷信介ほか（編）『新・社会調査へのアプローチ-論理と方法-』ミネルヴァ書房 2013年 2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション 社会調査とは何か？
- 2回 調査の「目的」を決める
- 3回 「先行研究」の重要性
- 4回 調査票（アンケート用紙）の作成
- 5回 ワーディングを精査する
- 6回 サンプリングの方法
- 7回 調査の実施
- 8回 回収した調査票のデータ化
- 9回 データの集計（1） 「代表値」とは何か？
- 10回 データの集計（2） 分散 クロス集計
- 11回 統計分析の必要性
- 12回 報告書・論文の執筆
- 13回 質的調査 フィールドワーク 言説分析
- 14回 社会調査の倫理問題
- 15回 まとめ レポート課題の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・・・70% 小レポート・・・20% 日常の授業への取り組み・・・10%
3分の2以上の出席を条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

社会学・教育学・心理学などのゼミで卒論研究を行う上での基礎的な方法論を習得するための科目である。初歩的な内容の科目であり、統計分析については紹介程度なので数学的な予備知識は必要としない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会調査を自ら実践する場合だけでなく、他の研究者が行った社会調査論文を読み解く上でも必要な知識であるので、社会科学に属する分野を専攻する予定の人は履修しておくことが望ましいと思います。

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 1 【夜】

担当者名 藤藪 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

みなさんが目指す社会福祉の仕事としては、生活保護のケースワーカー、児童福祉司、児童養護施設職員、高齢者福祉施設職員、ケアマネジャー、病院ソーシャルワーカーなどが考えられる。
 そこで実践される社会福祉援助技術のほとんどが、個別援助技術であるケースワークである。
 しかし、ケースワークとは「人々とその環境との間に、個々別々に意識的にもたらされる調整を通じて、人格の発達をはかる諸過程（リッチモンド）」と定義されるように、漠然としていてイメージを掴みにくい。社会福祉関連法の学習と比べても、相談援助を書籍に記載される理論だけで把握するのは困難である。
 そこで、本講座では、生活保護のケースワークを中心に、具体的な事例演習を行うことにより、ケースワーク、個別援助の進め方を考えていく。

教科書 /Textbooks

福祉事務所ソーシャルワーカー必携-生活保護における社会福祉実践（全国社会福祉協議会）を予定していますが、正式には初回の授業でお伝えします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業で伝達します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ケースワークとは何か
- 2 ケースワークの原則
- 3 ケースワークを必要とする人々とは
- 4 ケースワークの実践モデル
- 5 ケースワークのアプローチ
- 6 ケースワークの諸過程01 【ケースワークの原則】
- 7 ケースワークの諸過程02 【アセスメント・プランニング】
- 8 ケースワークの諸過程03 【インターベンション・エバリュエーション】
- 9 面接技法01 【面接の目的等】
- 10 面接技法02 【インテーク等】
- 11 事例演習01 【アルコール依存症者世帯への援助】
- 12 事例演習02 【ひとり親世帯への援助】
- 13 事例演習03 【児童虐待事例での援助】
- 14 事例演習04 【高齢者世帯への援助】
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% 期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

その他具体的な日程は、講義中に知らせる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【夜】

担当者名 /Instructor 工藤 歩 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description
 ソーシャルワークにおける支援の流れ、および支援計画やネットワークの重要性について学ぶ。また社会資源の活用やソーシャルアクションの意義についての理解を深める。さらにはそれらを活用し、スーパービジョンやコンサルテーションがおこなえる技術や知識を養う。

教科書 /Textbooks
 新・社会福祉士養成講座「相談援助の理論と方法II」第3版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義内にて適宜提示する

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 オリエンテーション 相談援助について
 - 第2回 ケア(ケース)マネジメント ケアマネジメントの概念と援助過程
 - 第3回 ケアプラン(援助計画)の策定
 - 第4回 コーディネート
 - 第5回 グループワーク グループワークの概念と相互作用
 - 第6回 ネットワーキング ネットワークの概念と地域ネットワーク
 - 第7回 社会資源 社会資源の活用
 - 第8回 ソーシャルアクション ソーシャルワークとソーシャルアクション
 - 第9回 さまざまな実践モデル・アプローチ さまざまな実践モデル
 - 第10回 スーパービジョン
 - 第11回 コンサルテーション
 - 第12回 ケースカンファレンス(事例検討) 模擬ケース検討①
 - 第13回 ケースカンファレンス(事例検討) 模擬ケース検討②
 - 第14回 ケースカンファレンス(事例検討) 模擬ケース検討③
 - 第15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method
 期末試験・・・50%、日常の取り組み・・・20%、課題・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords
 ケアマネジメント、ケアプラン、ネットワーク、スーパービジョン

福祉行財政と福祉計画【夜】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向たて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks

広井良典『創造的福祉社会』ちくま新書 2011年7月 903円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規 2009年3月 2,200円
 坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版 2009年4月 2,940円
 野口定久・外山義・武川正吾編『居住福祉学』有斐閣 2011年12月 2,500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉と社会保障機能 1【社会福祉の動向】
- 2回 社会福祉と社会保障機能 2【社会保障機能】
- 3回 社会福祉と社会保障機能 3【参加型社会保障】
- 4回 社会保障と税制 1【財政理論】【公共財】
- 5回 社会保障と税制 2【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
- 6回 社会保障と税制 3【地方自治体の財政と民生費の動向】
- 7回 社会保障と就労形態【国の雇用政策と企業の雇用戦略】
- 8回 福祉行財政まとめ
- 9回 社会的セーフティネット【コミュニティというセーフティネット】
- 10回 コミュニティ空間【つながり・ゆっくりの社会】
- 11回 都市型コミュニティ【コミュニティとしての都市】
- 12回 経済の地域内循環【地域の豊かさ】
- 13回 地域における社会モデル【地域の自立・持続可能性】
- 14回 ケア・コミュニティ【人間社会の起源】
- 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・中間まとめ含む) ... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【夜】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

これまで日本の福祉サービスの提供は手厚い施設整備費補助と措置費による裁量の余地のない小さな規模の施設の運営がモデルとなっていた。しかし、特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付総額の拡大や多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者の増加等、規制改革とともに新たな福祉経営に転換すべき時代となった。福祉施設は、人生のリスクに対するセーフティーネットである。利用者の自立を運営の基礎に置き、わかりやすく丁寧で信頼が築ける施設が求められている。よって地域住民の福祉ニーズにこたえるべき経営は何かを学習する。また本科目では公的介護保険の動向や地域包括ケアシステムも視野に入れながら21世紀型の福祉経営について学ぶ。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第4版」

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。福祉サービスの変遷
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人(NPO)の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論(組織構造)
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情など対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題(レポート) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経営のベースである理念・使命を理解しながら、地域に密着した自立支援の施設等とは何かを学習します。福祉ニーズをポジティブに捉えるアセスメント理論も学習しておくこと、より理解が深まります。社会保障改革の動向にも注目しておきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

福祉経営における利益とは何か、を根底に21世紀の経営論(自立支援、法令順守、人権擁護、運営持続)を学習します。経済的成長も見込まれる社会福祉を経営の立場(施設長)から論じます。

キーワード /Keywords

社会保障【夜】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓/地域創生学群

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
						○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス-①現代社会における社会保障制度の課題、②社会保障の概念や対象、理念についての理解、③社会保障の歴史的展開、④社会保障制度の体系、⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、⑥諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。
国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。

教科書 /Textbooks

成清美治・真鍋顕久編著『イントロダクションシリーズ⑦ 社会保障』学文社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障の歴史的展開
- 第5回 社会保障の財源と費用
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1-年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2-雇用、社会福祉、
- 第10回 社会保障制度の体系3-生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度 【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度 【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時の課題・・・20%、期末試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現在において自分が加入している、もしくは家族が加入している社会保険(年金、医療、介護、雇用)について、ホームページや区役所の資料、入門解説書等で調べておくこと。
社会福祉士国家試験受験資格取得のシラバスに基づいていますが、教養として受講される学生も大歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会状況が不安定になるほど、社会保障の役割は大きくなります。現代だからこそ、社会保障はどうあるべきなのか、そして社会福祉学の立場から見て社会保障の望ましい姿について、考えてみたいと思います。そのために、まずは身近な社会保険から知ってみましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、社会保障、社会政策、年金、医療、介護、雇用